

アース





「静まれ、黙れ」 デル・パーソン画

「〔救い主〕は起きあがって風をしかり、海にもかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。」(マルコ4:39)

リアホナ

2 第173回年次総大会大会概要

●土曜午前の部会

4 教会の現状

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

7 祈りがもたらす穏やかな力

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン

10 赦しは苦しみを愛に変えるであろう

七十人会長会 デビッド・E・ソレンセン

13 「生ける水」による祝福

中央扶助協会第一副会長

キャスリーン・H・ヒューズ

15 苦難の中で信仰により得る平安と喜び

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ

19 宝を探して

第一副管長 トーマス・S・モンソン

●土曜午後の部会

23 教会役員への支持

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

24 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター

ウェスリー・L・ジョーンズ

25 2002年度統計報告

大管長秘書 F・マイケル・ワトソン

26 言い尽くせない賜物

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン

29 子供および弟子として

十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング

33 求めよ、そうすれば、与えられるであろう。

七十人 クレーグ・C・クリステンセン

35 命の糧となる言葉

七十人 ジェームズ・M・ダン

37 会員伝道のきわめて重要な役割

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

40 家族の大切さ

十二使徒定員会 L・トム・ベリール

●神権部会

43 神権者として一歩ずつ成長する

十二使徒定員会会員

デビッド・B・ヘイト

46 伝道の業に備える

七十人 ダリル・H・ガーン

48 まさにそのとおりです

管理監督 H・デビッド・バートン

51 悪魔のど

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

54 任命された職にしっかりと立つ

第一副管長 トーマス・S・モンソン

58 忠誠を尽くす

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午前の部会

61 「荒野にさまよう一つの羊」

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

68 「霊の命……を心にかけて下さい」

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル

71 聖なる場所

七十人会長会

デニス・B・ノイエッシュバンダー

73 「わたしはあなたに話したでしょうか……」

中央若い女性会長 スーザン・W・タナー

75 不確かで困難な時代に支えとなる信仰の力

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

78 戦争と平和

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午後の部会

82 齢を重ねた男女

十二使徒定員会会長代理

ボイド・K・バックナー

85 子供たちのための祈り

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド

88 罪の放つ悪臭を消し去る

七十人 スペンサー・V・ジョーンズ

90 指示に従う

七十人 D・レックス・ジエレット

92 永遠の結婚

七十人 F・バートン・ハワード

95 すべてについて感謝をささげる

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス

99 閉会に当たり

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●中央若い女性集會

100 聖約を確固として守る

中央若い女性会長 スーザン・W・タナー

103 明るき希望あり

中央若い女性第一副会長

ジュリー・B・ベック

105 確固として力強く進む

中央若い女性第二副会長

イレイン・S・ダルトン

108 義になかった神の娘の持つ徳

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

●初等協会のための特別衛星放送

111 天父の愛の光

中央初等協会第二副会長

ゲール・M・クレッグ

113 いつでも、どこにいても天父に

いのちすることができます

中央初等協会第一副会長

シドニー・S・レイノルズ

115 主に従う方法を知っていることを示す

中央初等協会会長

コリーン・K・メンラブ

117 みなさんは神の子です

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

120 指導者の言葉

121 指導用資料

125 中央補助組織会長会

125 チャーチ・ニュース



第173回年次総大会大会概要

2003年4月5日土曜日午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——J・ケント・ジョリー長老。閉会の祈り——ジェラルド・N・ランド長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——ジョン・ロングハースト。「山の上に」(『賛美歌』2番)；「愛あるところ」(『子供の歌集』76-77)；「たたえよ、主の召したまいし」(『賛美歌』16番)；“Our Prayer to Thee” (ラッセル・M・ネルソン作詞、ジョセフ・パリー作曲)；「いざ救いの日を楽しまん」(『賛美歌』5番)；“Come unto Him” (『賛美歌』[英文]114番)；“Arise, O God, and Shine” (『賛美歌』[英文]265番)

2003年4月5日土曜日午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——ドナルド・L・ステアリー長老。閉会の祈り——デュエイン・B・ジェラード長老。音楽——ブリガム・ヤング大学合同聖歌隊；指揮——ロナルド・ステアリー、ローザリンド・ホール；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ。“If You Could Hie to Kolob” (『賛美歌』[英文, 1948年]257番)；「主イエスの愛に」(『賛美歌』109番)；「導きたまえよ」(『賛美歌』41番)；「主よ、われと共に」(『賛美歌』94番)



2003年4月5日土曜日夜、神権部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——リン・G・ロビンズ長老。閉会の祈り——スペンサー・J・コンディー長老。音楽——ユタ州ブラフデール、リバートン、ヘリマン各ステークのメルキゼデク神権者による聖歌隊；指揮——トーマス・ワルドロン；オルガニスト——リチャード・エリオット。「天よりの声聞け」(『賛美歌』166番)；「世はよく働く人を求む」(『賛美歌』161番)；「わが神、わが王」(『賛美歌』87番)；「さらに聖くなお努めん」(『賛美歌』74番)

2003年4月6日土曜日午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——ウィリアム・R・ワカ長老。閉会の祈り——デール・E・ミラー長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ；オルガニスト——クレグ・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「何を天に見しか」(『賛美歌』9番)；「麗しき朝よ」(『賛美歌』18番)；「主はみ子をつかわし」(『子供の歌集』20-21)；「主のみ言葉は」(『賛美歌』46番)；「来たれ、喜べや」(『賛美歌』8番)；「夜明けだ、朝明けだ」(『賛美歌』1番)；“He, Watching Over Israel” (フェリックス・メンデルスゾーン作曲、「エリヤ」より)

2003年4月6日土曜日午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——チャールズ・ディディエ長老。閉会の祈り——ジョン・H・グロバーグ長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ、ボニー・グッドリッフェ。「国を造りたる」(『賛美歌』24番)；「主はわが飼い手」(『賛美歌』63番)；「感謝を神に捧げん」(『賛美歌』11番)；“Come, Ye Children of the Lord” (『賛美歌』[英文]58番)；「わが予言者に祝福あれ」(『賛美歌』14番)

2003年3月29日土曜日夜、中央若い女性集会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——スーザン・W・タナー。開会の祈り——スー・J・グロースベック。閉会の祈り——サラ・ウダ。音楽——ユタ州ホラデイ、ソルトレーク・シティーの各ステークの若い女性による聖歌隊；指揮——キャシー・ジョリー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。“Press Forward,

Saints” (『賛美歌』[英文]81番)；「主はみ子をつかわし」(『子供の歌集』20-21)；“Come unto Him” (『賛美歌』[英文]114番)；「山のごとく強く」(『賛美歌』167番)

2003年2月8日土曜日午後、子供たちのための特別衛星放送

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——コリーン・K・メンラブ。開会の祈り——ビッキー・F・マツモリ。閉会の祈り——アン・ホーキンス。音楽——ユタ州グレンジャー、ジョーダン、ウェストバレー各ステークの初等協会による聖歌隊；指揮——キャサリン・スペンサー；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ。「イエスキリストの教会」(『子供の歌集』48)；「信仰持って、主に従おう」(『リアホナ』2003年2月号,フレンド16)；初等協会のメドレー(「主の計画にしたがう」〔『子供の歌集』86-87〕；「イエス様のように」〔『子供の歌集』40-41〕；“Holding Hands around the World”〔『リアホナ』2003年10月号,フレンド12-13〕)；「神の子です」(『子供の歌集』2-3)；「救い主の愛」(『子供の歌集』42-43)

話者リスト(50音順)

アイリング, ヘンリー・B	29
オークス, ダリン・H	95
ガン, ダリル・H	46
クリステンセン, クレグ・C	33
クレグ, ゲール・M	111
ジェラット, D・レックス	90
ジョーンズ, スペンサー・V	88
スコット, リチャード・G	75
ソレンセン, デビッド・E	10
タナー, スーザン・W	73, 100
ダルトン, イレイン・S	105
ダン, ジェームズ・M	35
ネルソン, ラッセル・M	7
ノイエンシュバンダー, デニス・B	71
バートン, H・デビッド	48
バックナー, ボイド・K	82
バラード, M・ラッセル	37
ハワード, F・バートン	92
ヒューズ, キャスリーン・H	13
ヒンクレー, ゴードン・B	4, 58, 78, 99, 117
ファウスト, ジェームズ・E	23, 51, 61, 108
ヘイト, デビッド・B	43
ヘイルズ, ロバート・D	15
ベック, ジュリー・B	103
ベリー, L・トム	40
ホランド, ジェフリー・R	85
マックスウェル, ニール・A	68
メンラブ, コリーン・K	115
モンソン, トーマス・S	19, 54
レイノルズ, シドニー・S	113
ワースリン, ジョセフ・B	26

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュバンダー

顧問:J・ケント・ジョリー, W・ロルフ・カー, スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニコト

編集ディレクター:ピクター・D・ケープ

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・パレット, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーバー, ラリーン・ポーター・ガートン, シャン・ガスナビ, ジェニファー・L・グリーンウッド, リサ・アン・ジャクソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, メリン・ミンソン, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ジョナサン・H・ステューブソン, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェブ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン, スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:フェイス・P・アンドラス, C・キンボール・ポット, ハワード・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, プレント・クリスティンソン, ジャッキー・クック, ケリー・リン・C・ヘリン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, マーク・W・ロビンソン, フラッド, ティアー, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

「リアホナ」への投稿および質問は、下記の連絡先にお送りください。Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA Eメール:cur-liahona-imag@lds church.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2003 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷所:日本

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月 原題—International Magazines May 2003. Japanese. 23985 300

For Readers in the United States and Canada: April 2003 no. 4 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したテープ類は、教会管理本部配送センターから、通常、大会後2か月以内に多くの言語で入手できるようになっています。

インターネット上での大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。——

www.lds.org

ホームティーチングおよび

家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要性に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

表紙の説明

表紙——写真/ウェルデン・C・アンダーセン,

裏表紙——写真/タムラ・H・ラティエタ

大会の写真

本号に掲載された総大会の写真の撮影者は、以下のとおりです。——クレグ・ダイモンド, ジェド・A・クラーク, ウェルデン・C・アンダーセン, ジョン・ルーク, ロバート・ケーシー, デレク・イスラエルセン, ケリー・ラーセン, タムラ・H・ラティエタ, マシュー・ライアー, クリスティーナ・スミス

テーマ別索引

あ 愛 ……29, 37, 61, 73, 92, 111
証 ……29, 43, 85, 113
贖い ……88, 103
安息日 ……40
イエス・キリスト 13, 15, 33, 95
怒り ……10
祈り ……7, 29, 33, 37, 75, 90, 99, 113, 117
戒め ……48
癒し ……13
教え ……61, 95
恐れ ……29
親の務め ……61, 73, 85
か 改宗, 改心 ……19, 68
家族 ……10, 40, 73, 82, 99
活発化 ……54
家庭 ……40, 71, 73
感謝 ……95
義 ……35, 68, 115
犠牲 ……71
希望 ……19, 100, 103, 105
逆境 ……15, 19, 75, 95, 100
教会機関誌 ……40
聖さ ……71
キリストの光 ……26, 88
悔い改め ……61, 88
結婚 ……58, 92
高潔さ ……19, 68
子供たち ……61, 73, 85, 111, 113, 115, 117
さ 従順 ……7, 48, 51, 75, 90, 99
什分の一 ……4
熟考 ……33
準備 ……46
初等協会 ……115, 117
人格 ……75, 108
神権 ……43, 54, 58

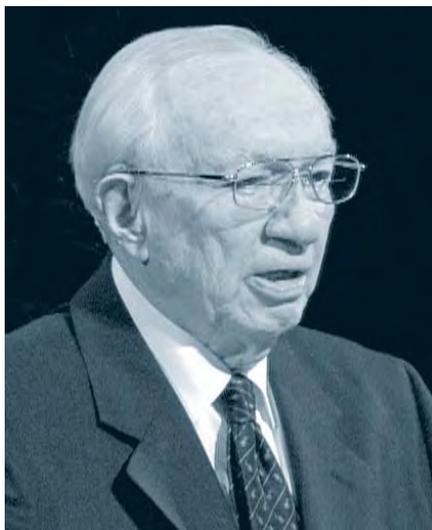
信仰 ……7, 15, 26, 75, 78, 85, 99, 108
神殿 ……71, 92
救いの計画 ……35, 95
聖文研究 ……90
聖約 ……19, 92, 100
聖霊 ……13, 26, 51, 105
戦争 ……78
選択の自由 ……51, 90
祖父母 ……82
た 知恵 ……82
忠誠心 ……58
罪 ……88
定着 ……4
伝道活動 ……29, 37, 46, 54
天の御父 ……117
道徳 ……19, 58, 68, 108
な 忍耐 ……100, 103, 105
年輩者 ……82
は 光 ……111
皮肉 ……85
批判 ……10
標準 ……115
ふさわしさ ……37, 46, 48
復活 ……103
平安 ……13, 15, 26, 75, 78, 99
奉仕 ……4, 43
ホームティーチング ……54
ポルノグラフィ ……58
ま 恵み ……108
模範 ……43, 82, 85, 108, 115
や 誘惑 ……51
赦し ……10
預言者 ……90
喜び ……26
ら 靈感 ……26
霊性 ……68
わ 若人 ……4

●土曜午前の部会
2003年4月5日

教会の現状

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

イエス・キリストの福音は平和への道です。福音に従い、福音を生活に取り入れるかぎり、その程度に応じて、わたしたちは祝福を受け、繁栄を手に入れます。



愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの話が全世界に伝えられていることを考えると、それはまさに奇跡としか思えません。わたしたちはここソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターでお話しています。それも自国語で話しています。しかし、各地の教会の施設には実に大勢の人が集まっていて、56か国語で話を聞いているのです。

わたしたちは再び、主の御心と指示に従って教会の大いなる世界大会に集っています。

一方、世界は混乱に陥っています。戦争と闘争が繰り広げられています。不安が高まっています。教会という大家族に属している人たちは、様々な国の国民でもあります。大きな論争の両側に隔てられています。このことについては明朝お話するつもりです。

このように大きな問題に直面していますが、教会の業が前進しているご報告できることにわたしは満足を覚えています。わたしたちは全世界で成長を続けています。伝道活動は、重大な支障もなく進んでいます。引き続き改宗者が教会に加わり、会員数は着実に増加しています。この伝道活動と並行して、改宗者としてバプテスマを受けたすべての人が確実に教会に活発に集い続けてくださるようする必要があります。新しく改宗した人々に手を差し伸べ、肩に腕を回して、緊張を解いてくださるよう、すべての教会員をお願いします。あなたの友情で彼らを祝福してください。あなたの信仰で励ましてください。失われる人が一人もないようにしてください。バプテスマを受けるにふさわしいすべての男女と子供は、安心して友情をはぐくめる環境を与えられる資格があります。そして教会と教会の多くの活動を通して成長するのです。

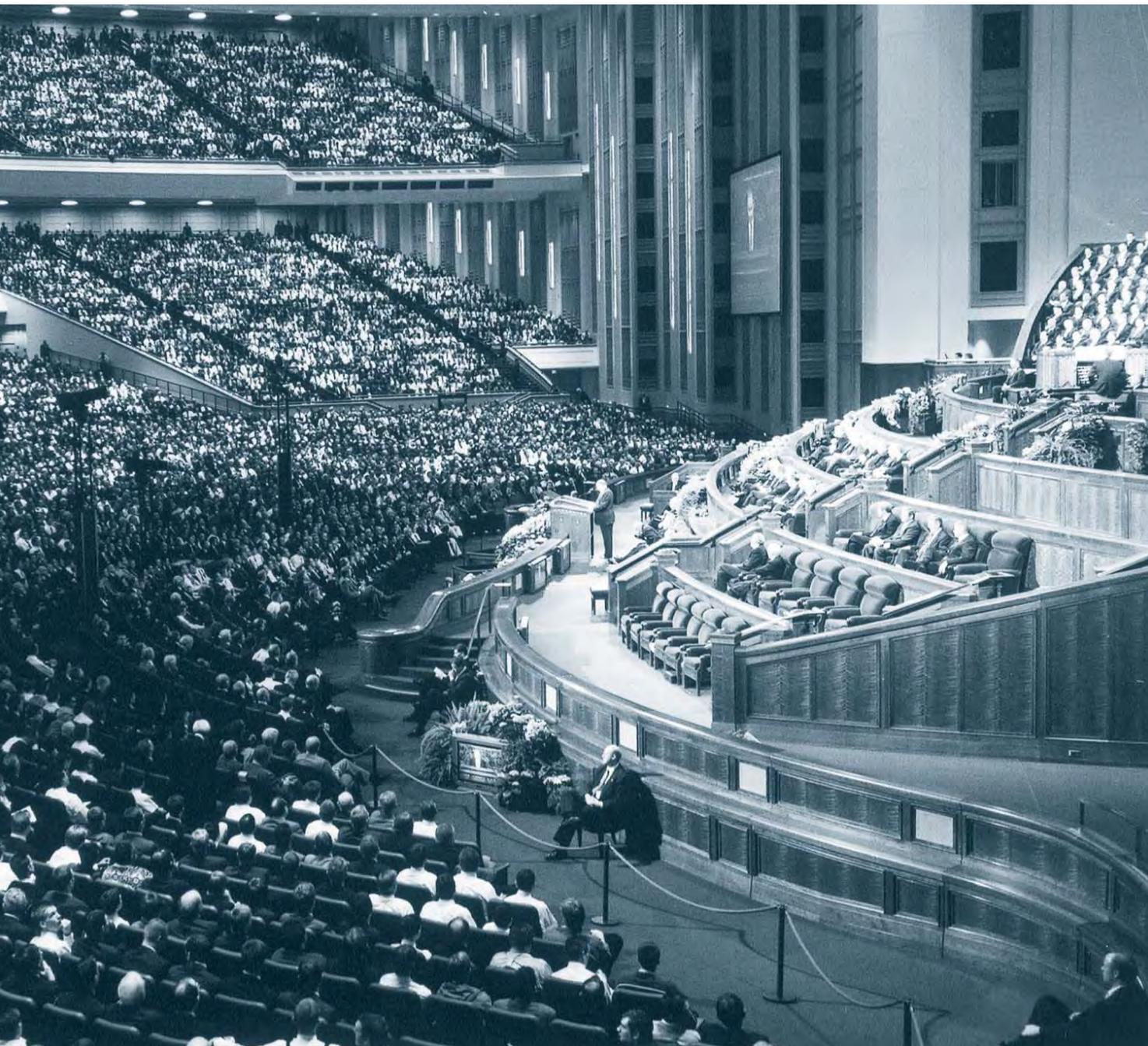
聖餐会せいさんの出席者数は緩やかに上昇しています。改善の余地があります。このために絶えず努力してくださるよう皆さんをお願いします。とはいえ、集会にこれほど高い出席率を維持している教会を、わたしはほかに知りません。

わたしは教会の若人の力に心から感謝しています。悲しむべきことに、見過ごされたまま、道から迷い出ている若人もいます。けれども、四六時中あらゆる種類の卑しい誘惑に取り囲まれている中で、若い人たちが力強く歩んでいる姿を目にすることができます。それは奇跡で



す。ポルノグラフィーの引き起こす低俗さと道徳的腐敗、薬物への誘惑、性的な行為への規制を取り払おうとする刺激的な誘惑、若人はこのような誘惑を常に受けているのです。自分たちの住む世界特有の吸引力にさらされていますが、そうした中で父祖から受け継いだ信仰と、自分の愛する福音を忠実に守っています。このすばらしい若人にふさわしい称賛の言葉が、わたしには思い浮かびません。

現在の緊迫した経済環境にもかかわらず



第173回年次総大会の部会で満席となったカンファレンスセンター内の様子。

ず、^{じゅうぶん}什分の一と献金の納入に対する信仰は高まっています。集会所と神殿の建築プログラムや大きな規模で展開されている教育プログラム、そのほか多くの活動は教会の什分の一収入によって賄われています。教会の財政が赤字になるようなことを決して行わないと皆さんに約束します。什分の一収入の範囲内でプログラムを実施し、主が定められた目的のためにこの神聖な基金を使います。

地元の報道機関から大きな注目を浴び

ている事柄についてお話しします。それはわたしたちがテンプルスクウェアの南隣にあるショッピングモールの不動産購入を決定したことです。

ソルトレーク神殿付近の環境を守ることに、わたしたちは大きな責任を感じています。ショッピングモールが建っている敷地のほとんどは教会が所有しており、ビルの所有者たちは売却する意向を示しました。この場所は非常に規模が大きく、巨額の費用のかかる改修を要

します。わたしたちは、この地域を活性化するために、何かをしなければと考えました。けれども、この不動産を購入するに当たって皆さんの什分の一基金は使わなかったこと、また今後も使わないことを全教会員の皆さんにはっきりと申し上げておきたいと思います。商業目的にこの不動産を開発するに当たって、什分の一基金が使われることもありません。

この資金は、教会が所有する独立した収益部門から拠出されました。また今後



部会の前に、トーマス・S・モンソン第一副管長(左)、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長と談笑するゴードン・B・ヒンクレー大管長(中央)。

も同じ方法が取られます。これらの財源と合わせて、投資資本による収益がこのプログラムに充てられることとなります。

教会は、今後も礼拝堂の建設を進められる状況にあります。これはうれしい報告です。教会員の増加に対応するため、年間に約400の新しい礼拝堂を建設しています。これは意義深く、素晴らしいことです。心から感謝しています。地の至る所に神殿を建て続けています。神殿の活動が盛んになっていることを、喜びをもって報告します。生者と死者にとってきわめて大切なこの業は、イエス・キリストの福音の根幹を成しています。

わたしたちの民の間で家族の備えが浸透しつつあることに満足しています。60年以上前から提唱されているこのプログラムは、末日聖徒の安全と満足すべき生活状態を確保するために計り知れないほど貢献しています。すべての家族は可能なかぎり、自分たちの必要を自分たちで満たす責任があります。不必要な負債を避け、出費を控えめに、緊急に必要とするときのために現金を蓄えておくよう、もう一度強く勧告します。短期間で「金持ちになる」話や、危険な話に巻き込まれないよう、会員の皆さんに警告します。そういう話は必ずと言ってよいほど、だまされやすい人たちをわなにかけ

て、抜け出せなくしてしまうのです。

わたしがいつも驚くのは、わたしたちの民がボランティア活動にささげている膨大な時間です。ボランティア活動は主の業を成し遂げる主の方法であると、わたしは確信しています。ワード、ステーク、定員会の運営、補助組織の働きはすべて、ボランティアによって働く人々の指示の下で進められています。巨大な宣教師プログラムもボランティア活動によって成り立っています。

さらに、教会奉仕宣教師として奉仕している年配の会員たちが大勢います。1万8,000人以上の人々が全時間あるいは大半の時間をこの業にささげています。彼らの献身的な働きに感謝しています。

永代教育基金が設立されてから、今大会でちょうど2年になります。このプログラムは現在、着実に進められています。このことを報告でき、うれしく思います。技術を伸ばし雇用の機会を増やすことを目的として、約8,000人の若い男女が現在訓練を受けています。これまで2年間の教育によって、平均すると、彼らの収入は約4.5倍に上昇しています。これは奇跡です。

お伝えたいことはまだまだありますが、教会は健全な状態にある、と申し上げるだけで十分です。教会の諸事は賢明に処理されています。主を信じる信仰、

主に対する愛、主の教えに従うことにおいて民は成長しています。

現在わたしたちは難しい時を迎えています。経済状況は苦境に立たされており、世界で闘争が繰り広げられています。しかし、全能者は、神の御前に信仰と義をもって歩む者たちを祝福するという約束を守ってくださいます。

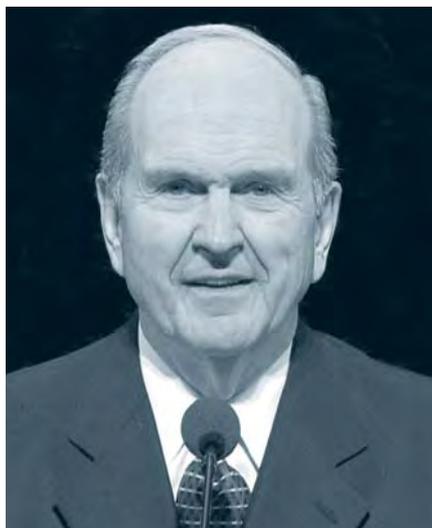
イエス・キリストの福音は平和への道です。福音に従い、福音を生活に取り入れるかぎり、その程度に応じて、わたしたちは祝福を受け、繁栄を手に入れます。この栄えある業に携わることは何とすばらしいことでしょうか。わたしたちに与えられている偉大な機会を喜びとしようではありませんか。喜びをもって奉仕しようではありませんか。

愛する同胞である兄弟姉妹、天の最も豊かな祝福が皆さんに注がれますように。皆さんの心にある信仰がはぐくまれますように。家庭に愛と平安がありますように。食卓に食べ物十分あり、衣服に不自由することがありませんように。天のほほえみが試練のときに皆さんの心にぬくもりを与え、慰めをもたらしますように。今朝この大いなる大会を開会するに当たって、これらのことをイエス・キリストの聖なる御名によってお祈りします。アーメン。

祈りがもたらす 穏やかな力

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン

祈りは、天の御父の御心と一致するものでなければなりません。御父はわたしたちを試し、強め、可能性を存分に発揮できるよう助けたいと望んでおられます。



コンピューター、電話、ポケットベルの時代とも呼べる今日では、かつてなかったほどコミュニケーションが盛んになっています。それでも、互いを十分に理解し合えないことも頻繁にあります。最近、老人養護ホームへ行ったとき、ある女性とご家族について話しました。この女性には息子が3人いて、そのうちの2人がよく来てくれるとのことでした。

わたしはこう尋ねました。「もう一人の息子さんは来ないのですか。」

女性は涙を浮かべて答えました。「どこにいるのか分からないの。もう何年も使れないわ。孫の人数さえ分からないんですよ。」

祈る理由

このように母親が息子たちの様子を知りたいと強く望んでいるとすれば、愛にあふれる天の御父がなぜひ子たちの様子を知りたいと望んでおられるのか、容易に想像することができます。1 祈りを通して、神に愛を表すことができます。神は祈りをごく簡単なものとしてくださいました。いつでも神に祈ることができます。特別な装置は要りません。電池を充電する必要すらなく、毎月使用料を払うわけでもありません。

中には自分の問題で困ったときだけ祈る人もいます。あるいは全然祈らない人もいます。聖文にはこうあります。「あなたがたは、主なる神が授けてくださったものについて、主を思い起こさない。あなたがたはいつも富のことを心にかけつけていて、主……に富のことを感謝するのを忘れてる。」2

預言者たちは長年にわたって、謙虚に、しばしば祈るよう勧めてきました。3

祈る方法

イエスは祈る方法を教えてくださいました。4 祈りは天の御父に対して、5 イエス・キリストの御名を通して、6 聖霊の力7によってささげます。これこそ「正しい祈りの方式」8です。「くどくどと祈〔ったり〕」、9 暗唱したりして「人に見せようと」10 する祈りとは対照的です。

イエスは、わたしたちが祈りをささげる賢

明な御父は、求めない先から必要なものを御存じであることを明らかにされました。11

モルモンが息子のモロナイに教えたところによれば、わたしたちは「熱意を込めて」12 祈らなければなりません。ニーファイはこう述べています。「わたしは昼は絶えず民のために祈り、夜は……涙で枕をぬらしている。そしてわたしは、信仰をもって神に叫び求めている。わたしは、神がわたしの嘆願を聞き届けてくださることを知っている。」13

祈りがもたらす穏やかな力は、特別な必要があるとき、断食によっていっそう確かなものになります。14

祈りは声を出さずにささげることできます。心の中で祈ることができます。特に、言葉が考えの妨げとなってしまうときはそうです。15 祈るときにはしばしばひざまずきますが、立っていても座っていてもかまいません。16 体の姿勢よりも、霊的に神に服従することの方が重要なのです。

祈りを終えるときには、「イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」と言います。17 ほかの人が祈るのを聞いているときには、「わたしもそのようにお祈りします」という意味で、声に出して「アーメン」と言います。18

祈るとき

いつ祈るべきでしょうか。主はこう述べておられます。「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。……万事があなたがたの益となるようにともに働くであらう。」19

アルマはこう言っています。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださるように、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。」20

わたしたちはひそかに祈ります。また家族と一緒に定期的に祈ります。食事のとき、また日々の様々な活動を行うときに祈ります。一言で言えば、わたしたちは祈る民なのです。



祈りに関する個人的な経験

たいていの人は祈りがもたらす穏やかな力を味わった経験があります。わたしはユタ州南部出身のステーキ祝福師のおかげで、そういう経験をしました。初めて診察室で彼に会ったのは40年以上前のことで、当時、心臓外科手術はまだ始まったばかりでした。聖徒と呼ぶにふさわしいこの男性は心臓の障害で大変苦しんでおり、助けを懇願していました。心臓の弁さえ治療すればよくなると考えていたのです。

精密検査の結果、障害のある弁が二つあることが分かりました。外科手術で片方は治せますが、もう一方は無理でした。それで、手術はしない方がよいということになり、この知らせを聞いて彼は大いに落胆しました。

その後もこの祝福師は何度かやって来ましたが、同じ結論を伝えることしかできませんでした。ついに彼はわらにもすがらない思いで、感情を高ぶらせながら言いました。「ネルソン先生。わたしは助けを祈り求め、あなたのもとへ導かれて来ました。主はどうやってその弁を治せばよいかわたしには示してくださらないでしょう。しかしあなたにならお示しになれるはずです。あなたなら理解できるからです。もし手術してくださるなら、主はあなたにどうすればよいか教えてください。どうかわたしに必要な手術をしてください。そしてあなたに必要な助けを祈り求めてください。」²¹

この兄弟の強い信仰はわたしの心を大きく揺さぶりました。その願いをまた拒むことなどでできませんでした。二人で熱心に祈った後、わたしは手術を行うことに同意しました。一生を決める重要な日^{さん}に備えて何度も何度も祈りました。しかし三尖弁の逆流をどう処置すればよいのか答えは出ませんでした。手術が始まってからでさえ、^{さべん}助手に「どうするつもりですか」と聞かれました。

「分かりません。」そう答えました。

手術が始まりました。一つ目の弁^{さべん}の狭窄を取り除いてから、二つ目の弁を調べました。弁膜自体に傷はありませんが、拡張して正常に機能していませんでした。よく調べているうちに、一つのメッセージが心にはっきりと聞こえてきました。「リングを縮小しなさい。」わたしはそのメッセージを助手に伝えました。「リングをうまく縮小して正常な大きさにできれば、弁膜組織は十分残ります。」

でも、どうすればいいのでしょうか。ウエストの大きいズボンやベルトで調節するような具合にはいきませんし、馬に鞍を着けて腹帯で締めるようにもいきません。そのときです。鮮明なイメージが心に浮かび上がってきて、どのように縫い合わせればよいか、プリーツやタックをどこにつければよいか、どのように仕上げればよいか分かったのです。そのとき心に浮かんだイメージを今でも思い出すことができます。どこを縫い合わせるべきかを示す

点線まで完全に覚えています。手術は心に描いたとおりに終了しました。弁の調子を試してみましたが、血液の漏れは驚くほど減少していました。助手は言いました。「奇跡です。」

わたしは答えました。「祈りに対する答えです。」

患者の快復は速く、満足のいくものでした。この出来事は、ただこの兄弟が奇跡的に助かっただけではなく、同じような症状を抱える人々にも手術で助かる道が開かれたことを意味しました。わたしには何の功績もありません。信仰深い祝福師と、祈りにこたえてくださった神こそたたえられなければなりません。信仰深いこの男性はその後何年も生き、それから永遠の栄光を受ける場所へ召されました。

主に問いかける

祈るときには主に助言しようとするべきではありません。そうではなく、主に問いかけ、²⁴ 主の助言に耳を傾けるべきです。²⁵ ジョセフ・スミスの最初の祈りは福音の回復の先駆けとなりました。²⁶ 1833年、主の勧告を求めた結果、知恵の言葉が授けられました。²⁷ 1978年にスペンサー・W・キンボール大管長が受けた神権に関する示現は、懸命な問いかけの後に与えられました。²⁸ 小規模神殿の建設に関する霊感^{きんかん}は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が熟慮した末に与えられたのです。²⁹

祈りへの答え

すべての祈りに対して、望みどおりの答えが返って来るわけではありません。時には否定的な答えもあります。驚くことはありません。地上の愛ある親たちも、子供のすべての願いを聞き入れているわけではないのです。³⁰

最近、子供や孫たちを呼んで大きな家庭の夕べを開いたところ、孫たちは大喜びでした。6歳になる孫は、父親から家に帰る時間だと言われて、ひどく悲しみました。それで、この男の子はどうしたと思いますか。わたしのところに来てこう言ったのです。「おじいちゃん、お父さんの言うことを聞かなくてもいいって言って。」

わたしは答えました。「だめだよ。あのね、この世でいちばん大切なのは、従順な人は幸せになることを知ることなんだ。³¹ みんなと一緒に家に帰りなさい。そうすれば、幸せでいられるよ。」孫はがっかりしましたが、忠実に従いました。

祈りは天の御父の御心と一致するものでなければなりません。³² 御父はわたしたちを試し、強め、可能性を存分に発揮できるように助けたいと望んでおられます。預言者ジョセフ・スミスはリバティーの監獄に^{とら}囚われていたとき、解放されることを懇願しました。ジョセフの祈りはこたえられましたが、次のような言葉が伴っていたのです。「これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」³³

祈りの歌

わたしは祈りに関するこのメッセージを祈りで、つまり祈りの賛美歌で締めくくりたいと感じています。主はこう言われました。「義人の歌はわたしへの祈りである。」³⁴ これはある賛美歌³⁵のメロディーにわたしが新たに詞を付けたものです。クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク、そのほかタバナクル合唱団の友人たちのおかげで、これからその祈りの歌を聴くことができます。ではジェソップ兄弟、お願いします。〔タバナクル合唱団が「御父への祈り」を歌う。〕

イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 数多くの聖句が「主……を思い起こすのが遅かった」人々について述べている（モーサヤ9：3；13：29；ヒラマン12：5参照）。
2. ヒラマン13：22
3. 例えば、エレミヤ29：11-13；ヨエル2：32；ピリピ4：6；1ニーファイ15：8-11；アルマ37：37参照
4. 贖罪を成し遂げる際、主はゲツセマネにおいても（ルカ22：39-44参照）、カルバリの十字架上でも（ルカ23：33-34，46参照）、祈りを通して御父と交わり続けられた。
5. マタイ6：9；ジョセフ・スミス訳マタイ6：10〔英文〕；ルカ11：2；3ニーファイ13：9参照
6. モルモン書ヤコブ4：4-5；3ニーファイ20：31；27：9；モーセ5：8参照
7. モロナイ6：9；10：4-5参照
8. ブルース・R・マッコスキー、*A New Witness for the Articles of Faith*（1985年）、380
9. マタイ6：7
10. マタイ6：5
11. マタイ6：8参照
12. モロナイ7：48
13. 2ニーファイ33：3。モルモン書ヤコブ3：1；アルマ31：38；教義と聖約37：2も参照
14. マタイ17：21；マルコ9：29；1コリント7：5；モーサヤ27：22-23；アルマ5：46；3ニーファイ27：1；教義と聖約88：76参照
15. ある賛美歌には次のように詳しく書かれています。「祈りは魂の見えぬ望み、述べても述べずも、……仰ぎ見る眼には、神は近し」（『賛美歌』83番）
16. その場の状況によりふさわしい姿勢を選ぶ。
17. そのほかの有益な教えとして、ダリン・H・オクス「祈りの言葉」『聖徒の道』1993年7月号、15-18参照
18. *The American Heritage Dictionary of the English Language*、第4版（2000年）、57参照。「アーメン……祈りや声明の終わりに使われ、同意または承認を表す言葉。〔中期英語、古期英語に由来、後期ラテン語*amen*に由来、ギリシャ語に由来、ヘブライ語*amen*に由来、確かに、まことに、*'aman*、確固としている。〕」
19. 教義と聖約90：24、強調付加
20. アルマ37：37、強調付加。モーサヤ26：39；アルマ26：22も参照。パウロによる類似の教えは、1テサロニケ5：17参照
21. これは彼の言葉を文字どおり引用したものではないが、その発言内容を正確に表している。
22. この手術は1960年5月24日に行われた。
23. 彼は若いころのリウマチ熱が原因で、僧帽弁狭^{そうぼうべんきょうさく}窄症になっていた（訳注——僧帽弁狭窄症とは、心臓の左心房と左心室の境界にある弁が狭くなり、左心房から左心室に血液が流れにくい状態）。
24. 主は言われた。「あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受け……するであろう。」（教義と聖約42：61）例えば、教義と聖約第9章を参照すると、主は次のように説明しておられる。「あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならぬ。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。しかし、もしそれが正しくなければ、あなたはこのような感じを少しも受けず、思いが鈍くな……る。」（8-9節）モルモン書ヤコブ4：10も参照
25. 出エジプト15：26；申命13：17-18；サムエル上15：22；エレミヤ26：4-6；オムナイ1：13；教義と聖約41：1；133：16参照
26. ジョセフ・スミス—歴史1：15-20参照
27. 教義と聖約89章参照
28. 公式の宣言2参照
29. *Church News*、1998年8月1日付、3，12；1999年3月13日付、9；2000年3月4日付、7；2000年6月24日付、9参照
30. 神の御子でさえそのような苦しみを経験し、こう言われた。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」（ルカ22：42）御父も御子も、何をしなければならぬか御存じであった。
31. 神の律法への従順については、アブラハム3：25参照。愛にあふれた親からの賢明な助言に従うことについては、エペソ6：1；コロサイ3：20参照
32. ヒラマン10：4-5参照
33. 教義と聖約122：7
34. 教義と聖約25：12
35. 『賛美歌』（英文）337番。ジョセフ・パリー作曲、旋律スワンシー。

ゆる 赦しは苦しみを 愛に変えるであろう

七十人会長会
デビッド・E・ソレンセン

赦しとは、もう過去の問題に自分の行く末を決定されることなく、心に神の愛を抱きながら未来に焦点を合わせることができるという意味なのです。



主がネルソン長老にお与えになった御霊の賜物は何かと驚くべきものでしょうか。ネルソン長老の賜物は、教会だけでなく、全世界に祝福をもたらしています。

わたしは今日、赦しについてお話ししたいと思います。

わたしは小さな農業の町で育ちましたが、そこでは水こそが共通の命の源でした。町の人々は絶えず、雨、灌漑の権利、そして水全般のことを気にかけ、心配し、祈っていました。時々わたしは子供たちから次のようにかかわれます。「こんなに雨のことはっきり考えている人は見たことがない。」わたしは、確かにそうだね、と答えます。わたしの育った所では、雨は最大の関心事だったからです。それは

死活問題だったのです！

天候によるストレスや緊張の下で、人々は本来執るべき態度を執れないことがありました。時々近所の人々は、ある農夫の用水路の使用時間が長すぎると口論をしました。近くの山間にある牧場の近くに住んでいた二人の男性の場合も、これがきっかけでした。チェットとウォルトと呼ぶことにしましょう。この二人の隣人は、共用していた用水路の水のことで口論を始めました。初めは無邪気なものでしたが、年々、意見の衝突は恨みへ、そして次に論争へ、さらには脅迫にまで至ってしまいました。

7月のある朝、二人はともにまた水が不足していると感じました。それぞれ何が起こったのかを見に水路に行きましたが、二人とも心の中で相手が自分の水を横取りしたと考えていました。二人は同時に取水門に着きました。怒りの言葉が飛び交い、取っ組み合いになりました。ウォルトは大柄で力がありました。チェットは小柄でやせているものの、粘り強い男でした。取っ組み合いは激しくなり、二人は持っていたシャベルを武器に使いました。ウォルトは誤ってシャベルをチェットの片目にぶつけてしまい、その目を失明させてしまいました。

長い年月がたちました。しかしチェットは忘れることも赦すこともできませんでした。視力を失ったことに対する怒りは彼の中で高まり続け、憎しみは激しさを増

しました。ある日、チェットは納屋に行き、棚から銃を取り、馬に乗って水路の取水門に行きました。彼は水路をせき止めて、水がウォルトの農場に行かないようにしました。ウォルトがすぐに事の次第を確かめに来ることを知っていました。そして、茂みに隠れて待ちました。ウォルトが現れると、チェットは彼を射殺してしまいました。そして馬に乗って家に戻ると、保安官に電話をかけ、たった今ウォルトを撃ったことを知らせました。

わたしの父はチェットを殺人容疑で裁判する陪審員となるように要請を受けました。しかし父は、自分は両者とその家族と長年の友人であるので、自分にはその資格はないと判断し、陪審員になるのを辞退しました。チェットは裁判を受けて殺人罪を宣告され、無期懲役の判決を受けました。

何年もたった後、チェットの妻が父のところへやって来て、知事への嘆願書に署名をしてくれないかと尋ねました。長い間州刑務所に服役して今では健康をひどく損ねている夫への、寛大な処置を求めるものでした。父は嘆願書に署名しました。数日後の夜、もう大人になっていたウォルトの息子二人が玄関先に現れました。彼らは非常に怒り、憤慨していました。父が嘆願書に署名したせいで、ほかにも大勢の人が署名したというのです。彼らは父に嘆願書の署名を撤回するように求めました。父は断りました。父は、チェットはすっかり衰弱した病人であると感じていました。彼は長い歳月にわたって、あの激情による恐ろしい犯罪のために刑務所で苦しんできました。父は、チェットが家族のそばで人並みに死を迎え埋葬されることを望んだのです。

ウォルトの息子たちは瞬時に怒って言いました。「もしやつが出所したら、やつとやつの家族はひどい目に遭うだろう。」

結局チェットは出所し、家へ戻って家族とともに最期を迎えることができました。幸いにも、両家族の間にそれ以上の暴力はありませんでした。父はよく、隣人であり少年時代からの友人であるチェットとウォルトが、怒りのとりことなって、自



分たちの人生を滅ぼすに任せたことの悲劇を嘆きました。わずかな用水路の水の取り分を巡って互いを救い合うことができなかつただけの理由で、一時的な激情が、コントロールできないほどに激しさを増すまで放置され、ついに両者の命を奪うほどになってしまったとは、何という悲劇でしょうか。

救い主は「あなたを訴える者と一緒に道を行く時には、その途中で早く仲直りをしなさい¹」と言われました。一時的な激情が激しさを増して肉体的あるいは情緒的な残酷行為に至り、わたしたちが自らの怒りに縛られてしまうことのないよう、主は争いを早い時期に解決するように命じておられます。

この原則はとりわけ家族の中で当てはまります。皆さんが具体的に心配しているものは水ではないかもしれませんが、この星の栄えの天候によるストレスや緊張の下で生活しているわたしたちはだれでも、実体のあるものであろうとなかろうと、腹の立つ状況に出遭います。わたし

たちはどのような反応を示すでしょうか。腹を立てるでしょうか。あら探しをするでしょうか。一時的な激情に分別を失ってしまうでしょうか。

かつてプリガム・ヤング大管長は、腹を立てることを毒蛇にかまれることにたとえて、次のように語りました。「ガラガラヘビにかまれたときに取ることでできる行動が二つあります。一つは、怒りと、恐れと、復讐心^{ふくしゅう}のうちに、蛇を追いかけて殺すことです。あるいは、大急ぎで自分の体から毒を取り除くことです。もし後者の行動を取るならば一命を取り留められると思われませんが、前者を試みるならば、それを成し遂げるまで生きてはいられないかもしれません。」²

さてここで、わたしたちはまず家族の中で霊的または情緒的な蛇にかまれるように注意する必要があることを申し上げておきましょう。今日ほとんどの大衆文化で、赦しや優しさという徳は軽視され、一方であざけり、怒り、厳しい批判が奨励されています。注意を払っていなければ、

わたしたちは家庭や家族の中でこれらの習慣のとりことなり、やがて伴侶^{はんりよ}や子供、親戚^{しんせき}を批判している自分に気づくでしょう。自分の最も愛する人々を、利己的な批判で傷つけることのないようにしましょう！ 家族の中で、もしささいな口論やわずかな批判が放っておかれるなら、それらは関係を破壊し、激しさを増して仲たがいや、さらには虐待や離婚に至ることさえあるのです。そうではなく、毒についての話と同様に、わたしたちは「大急ぎで」口論を鎮め、あざけりを取り除き、批判をなくし、恨みや怒りを取り去らなければなりません。一日たりとも、そのような危険な感情^{はんぐう}を反芻^{はんすう}してはいけません。

ウォルトとチェットの悲劇を、エジプトのヨセフの模範と比較してみましょう。ヨセフの兄弟たちは、嫉妬^{しつと}から彼を憎みました。殺害をたくらみ、最終的には彼を奴隷として売りました。ヨセフはエジプトに連れて行かれ、何年も苦しんで奴隷から出世しました。この苦難の期間に、ヨセフは兄弟たちを非難して復讐を誓うこと



もできました。いつの日か仕返しをしようと企てることによって自らの痛みを和らげることでもできました。しかし彼はそうしませんでした。

やがてヨセフは、パロ以外には自分の上に立つ者のない、エジプト全土の統治者となりました。壊滅的な飢饉の間に、ヨセフの兄弟たちが食物を求めてエジプトへやって来ました。それがヨセフであると分からずに、彼らは高い地位にあったヨセフの前で地にひれ伏しました。この瞬間、間違いなくヨセフには復讐を行う力がありました。兄弟たちを牢に入れることも、死刑を宣告することもできました。しかしそうはせず、彼は赦すことを確認し、こう言いました。「わたしはあなたがたの弟ヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともありません。……神は、あなたがたのすえを……残すため、また大いなる救いをもってあなたがたの命を助けるために、わたしをあなたがたよりさきにつかわされたのです。それゆえわたしをここにつかわしたのはあなたがたではなく、神です。」³

赦そうというヨセフの意志が、苦しみを愛に変えました。

罪の赦しを悪の容認と混同するべきで

ないことを明確にしておきたいと思います。事実ジョセフ・スミス訳聖書の中で、主は「義にかなった裁きをしなさい」⁴とっておられます。救い主はわたしたちにあらゆる形の悪を捨ててそれらと戦うように求めておられます。わたしたちは自分を傷つける隣人を赦さなければなりません、それでもなおそのような傷が繰り返されるのを防ぐために前向きに働かなければなりません。虐待を受けている女性は復讐を求めるときではありませんが、さらなる虐待を防ぐための行動を起こせないと感じるべきでもありません。取り引きで不当な扱いを受けたビジネスマンは不正直であった人物を憎んではいけません、不正を正すための適切な手段を取ることができます。赦しは悪を受け入れたり容認したりするように求めるものではありません。周囲の世の中や自身の生活の中に見られる悪事を無視するように求めるものではありません。しかしわたしたちは罪と戦うときに、憎しみや怒りに思いや行いを支配させてはいけません。

救い主はこう言われました。「それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残

るからである。」⁵

赦しが容易であると言っているわけはありません。自分や自分の気にかけている人々が傷つけられたとき、その痛みは計り知れないものであることがあります。まるでその痛みあるいは不当な行為こそ世の中で最も重要なことであって、復讐を企てる以外に選択肢がないかのように感じられることがあります。しかし平和の君であるキリストは、より良い方法を教えてくださいます。自分に加えられた危害についてだれかを赦すことは非常に難しいことがあります、そうするときに、わたしたちにはもっとすばらしい未来が開かれるのです。もうほかのだれかの不当な行いに自分の進路を左右されることはありません。人を赦すことによって、わたしたちは自分自身の人生の生き方を自由に選べるようになるのです。赦しとは、もう過去の問題に自分の行く末を決定されることなく、心に神の愛を抱きながら未来に焦点を合わせることができるという意味なのです。

わたしの隣人を悩ました「人を赦せない心」という種が、わたしたちの家庭に根を下ろすままに放置されることが決してありませんように。愚かなプライドや恨み、つまらないことを克服する助けを天の御父に祈ることができますように。赦し愛することによって、わたしたちが救い主と人々と自分自身にとって親しき友となれるよう、主が助けてくださいますように。「主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。」⁶ イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. マタイ5:25
2. マリオン・D・ハンクス "Forgiveness: The Ultimate Form of Love," *Ensign*, 1974年1月号, 21で引用
3. 創世45:4-5, 7-8
4. ジョセフ・スミス訳マタイ7:1-2
5. 教義と聖約64:9
6. コロサイ3:13

「生ける水」による祝福

中央扶助協会第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ

生ける水は心を癒し、養い、支えてくれます。そして、平安と喜びをもたらします。



地 上での務めをお始めになったころ、キリストはエルサレムから、少年時代を過ごしたガリラヤのナザレへ向かわれました。旅の途中、サマリヤを通り、疲れをいやすためにヤコブの井戸でお休みになりました。近くの町へ食物を買いに行った弟子たちの帰りを待っておられると、サマリヤの女が井戸へやって来ました。この話は皆さん御存じでしょう。イエスが水を飲ませてほしいとおっしゃると、女はユダヤ人からのように求められたことに驚きました。何世紀もの間、ユダヤ人とサマリヤ人は互いに敵対していたからです。しかし、イエスは女に言われました。自分に話しかけているのがだれだか分かったら、自分の方から生ける水、すなわち永遠に渴きをいやす水を求めるだろうと。もちろん、女はその意味が分かりませんでした。そこでイエスはこう説明されました。

「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。

しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネ4:13-14)

サマリヤの女は、二度と水を飲まなくてもいいという話が気に入りました。毎日、井戸から家まで重い水瓶を運ぶという骨の折れる務めから解放されるのは、願ってもないことでしょう。しかし、キリストが、御自分はメシヤであると証されると、女はその言葉が真実であるという確認を御霊から受けました。そして女は、イエスがさらに偉大な真理について語っておられるのだと理解し始めたのです。女は井戸を後にし、イエスの話を聞きに来る人を急いで探しに行きました。ただ、少なくともその時点では、心の中に生ける水の泉を持つという意味をサマリヤの女が十分に理解していたか、あるいはわたしたちが理解しているかどうかは疑問です。

生ける水は心を癒し、養い、支えてくれます。そして、平安と喜びをもたらします。

わたしの知っているある女性は、自分と家族を傷つけた人に対する怒りに苦しんでいました。子供たちには、恨んだり腹を立てたりしてはいけなさいと言いましたが、自分の心の中ではそのような思いと闘っていました。何週間も天の御父に嘆願した後、ついに心の変化を感じました。彼女はこのように語りました。「わたしはほとんど絶えず祈っていましたが、そのようなある日、癒されたという感覚が

体中に広がるのを感じました。そして、安心し、平安に満たされました。何が起ころうと、自分と家族は大丈夫だと感じました。怒りが去り、復讐したいという気持ちもなくなりました。」

生ける水はイエス・キリストの福音です。福音を理解するのを助けてくださるのは聖霊です。友人は何が正しいかを知っていました。家族に正しいことを語りましたが、生ける水を飲み、聖霊を感じるほど十分謙遜になったときに初めて、癒されるようになったのです。

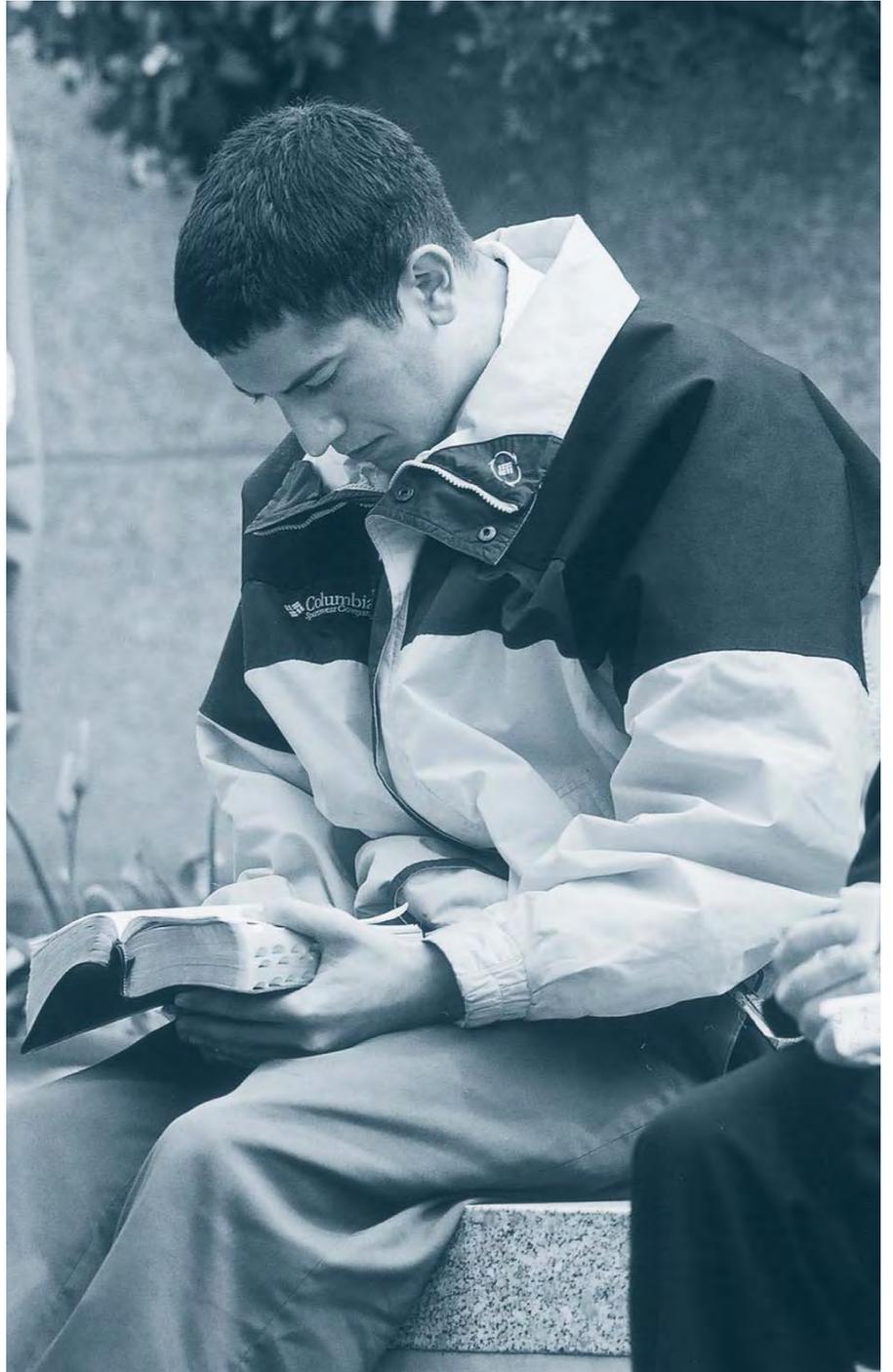
昨年、わたしは多くの女性に、またその神権指導者に会い、キリストの癒しの力についての話をたくさん聞きました。この世の生活には多くの悩みがあり、苦痛の原因がたくさんあります。息子や娘を危険な所へ送り、戦いの中にある子供たちの無事を日々祈っている人々がいます。子供たちが誘惑に直面しているのを知って、恐れおののいている親もいます。化学療法の恐ろしい副作用に苦しんでいる親しい友達もいます。配偶者に去られ、独りで子供を養育している親もいます。わたし自身も絶望感と戦ったことがあります。しかし、わたしたちは決して独りで戦うのではないということ、自分自身の経験や、会った人々から学びました。わたしたちは決して見捨てられてはいません。心の中には善と力と自信がわき出る泉があり、信頼して耳を傾けるなら、勇気づけられ、癒されるのです。生きる力だけでなく、人生を愛する力がわいてきます。笑いと言語が生まれ、信仰をもって前進することができます。

また、生ける水はわたしたちを養ってくれます。主が約束されたように、キリストは重荷を負うすべての人を訪れ、休ませてくださることを証します(マタイ11:28参照)。疲れたとき、わたしたちを支えてくださいます。命の泉からは水がわき出っていて、わたしたちが飲もうとするなら、絶えず新たな活力を得させてくれます。高慢になると生ける泉は力を失います。御霊のささやきに耳を傾けない場合も同じです。しかし、生ける水をたっぷり飲む人は、自分が癒されるだけでなく、ほかの人にとっての泉になることができるの

です。一つの霊が別の霊を養い育てるようなことです。

昨年、わたしたち家族の愛する友人が亡くなりました。ルシルは89歳で、20年以上も前に夫を亡くしていました。金持ちでも有名でもなく、彼女の死を知る人はそれほど多くいませんでした。でも、彼女の家族と隣人と、ワードの会員たちは知っていました。ルシルの愛を感じていた人は皆、大きな喪失感を覚えました。夫を亡くしてからルシルは、愛する孫の死や老齢による身体の衰えなど、いろいろな苦難に耐えてきました。それでもルシルは、周囲の人すべてを励ますために、いつも心を配り、手作りの料理やキルトや編み物をプレゼントし、ユーモアや善意を振りまいていました。また、神殿で働くことが好きでした。1981年のある春の日、ルシルは日記にこう書いています。「今朝3時半に、神殿へ向かって歩いていると、そよ風に旗がひらめいているのが見えた。美しい空を見ながら、わたしは何て幸せなのだろうと思った。まだ眠っていて、美しい日の目覚めを見ることができない人が気の毒だと思った。」

わたしたちのほとんどは、朝3時半に世界が「目覚める」とは思ってもみないでしょうし、その時間はベッドの中にあることこそまさしく幸せであり、ルシルに気の毒だと思われてもいっこうに差し支えないことでしょう。しかし、ルシルは何とすばらしい心を持っているのでしょうか。まさに、心の中から善意があふれていると言えるでしょう。このような清い心を、彼女は15歳のときに持っていたのでしょうか。25歳、それとも55歳で持てたのでしょうか。わたしには分かりません。たいていの場合、恐らく一生涯、聖霊に耳を傾け続けなければ、神の御声を十分よく理解できるようにはなれないのではないのでしょうか。生ける水に十分頼り、一日中、特に朝3時半から始まる一日中ずっと、その水を味わうようにはなれないのではないのでしょうか。しかし、生ける水は、自己憐憫に屈していかかもしれないルシルの長い年月を支えてくれたのです。生ける水のおかげで、彼女の人生は、彼女の心は、周りのすべての人を養ったのです。



生ける水は、心の中の泉が涸れそうになったときでさえ、平安と喜びをもたらします。最近わたしは、情緒的な病に苦しむ息子を突然亡くした姉妹の話を知りました。その家族は絶望の淵に沈み、この姉妹は幸福が訪れることはもう二度とないと思いました。しかし、一人の若い姉妹から祝福を受けました。以前ローレルで教えた少女が今では扶助協会の一員となり、彼女の訪問教師になっていたの

す。この若い姉妹は言いました。「姉妹はわたしの助けになってくれました。今度はわたしが助けになる番です。一緒に乗り越えていきましょう。」この姉妹は再び平安を、喜びさえも感じるようになりました。

わたしたちの霊を十分清めるには、一生涯、あるいはそれ以上かかるかもしれません。しかし、生ける水はすべての人に、若人にも与えられているのです。教会の若い女性が、子供のときから霊的な

訓練を受けた後、扶助協会に移行してすぐに、より経験を積んだ姉妹たちに力を添えるのを目にするときに、わたしは感動します。また、若い姉妹たちが年上の姉妹から、いかに多くのことを学べるかに気づく様子を見て、とてもうれしく感じます。平安は主から与えられますが、わたしたちは互いに苦労と幸福を分かち合うときに、主の平安を感じられるように助け合うことができます。

キリストの約束は簡潔で崇高です。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27) 兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの周りには困難や問題があふれています。経済は低迷しています。家族は苦しんでいます。ヒンクレー大管長が言ったように、わたしたちは「危険な時代」に生きています(「わたしたちが生きている時代」『リアホナ』2002年1月号, 83)。しかし、生ける水はそれでも平安と喜びを与えてくれます。義にかなった生活を送り、できる限りのことを行うなら、わたしたちは自信という賜物(たまもの)を受けることができます。主はこう言われています。「安らかにしていて、わたしが神であることを知りなさい。」(教義と聖約101:16) 混迷(まよ)の最中(なか)にあってしばし立ち止まり、ちょうど初期の聖徒たちがしたように、「すべてはよし」と告げる御霊の声に耳を傾けなくてはなりません(「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番)。心配の種はありますが、平安を得るさらに大きな理由があるのです。

サマリヤの女はキリストの御顔を見詰め、その御声に耳を傾け、たいいていの人(ひと)がその教えを拒んでも、イエスがキリストであられると認めました。わたしたちもキリストを知っています。あるいは知ることができるのです。ただ、主の癒しの力、主の養いの力、主の平安と喜びがわたしたちの中で「泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがる」ようにすればよいのです。そうすることができますように、イエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

苦難の中で信仰により 得る平安と喜び

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

この世界がどれほど暗黒に包まれているとしても、……どのよう^{あらし}な嵐が吹き荒れていようと、わたしたちは……喜びを手にすることができます。



イエスは群衆を教えられた後、弟子たちとともに舟に乗ってガリラヤの海の東岸に向かわれました。すでに日が暮れていたため、救い主は舢(せん)の方(かた)で枕(まくら)をして安らかに眠(ね)っておられました。すると、「激(げき)しい突風(つむじかぜ)が起(おこ)り、波(なみ)が舟(ふね)の中に打ち込んできたのです。恐(おそ)ろしくなった弟子(しし)たちはイエスを起(おこ)して言(い)いました。「先生(せんせい)、わたしどもがおぼれ死(し)んでも、おかまいにならないのですか。」¹ イエスはいつものように穏(おだ)やかに答(こた)えられました。「なぜこわがるのか、信仰(しんぎょう)の薄(うす)い者(もの)たちよ。」² 「イエスは起(おこ)きあがって風(かぜ)をしかり、海(うみ)にむかって、『静(しず)まれ、黙(もく)れ』と言(い)われると、風(かぜ)はやんで、大(おほ)きになった。」³

地球(ちきゅう)を創造(そうぞう)された御方(みかた)は、再び元素(もと)に

お命(いのち)じになったのです。⁴ 驚(おどろ)いた弟子(しし)たちは互(たが)いにこう言(い)いました。「いったい、この方(かた)はだれだろう。風(かぜ)も海(うみ)も従(したが)わせるとは。」⁵

わたしたちは騒然(そうぜん)とした時代(じだい)に生きています。大きな災(わざ)いの嵐(あらし)が地球(ちきゅう)を襲(襲)っているのです。邪悪(じあく)の風(かぜ)はうなりを上げ、戦争(せんそう)の波(なみ)がわたしたちの舟(ふね)に打ちつけています。パウロ(パウロ)がテモテ(テモテ)にあてて書(か)いたように、「終(おわり)の時(とき)には、苦難(くるなん)の時代(じだい)が来(き)る。その時(とき)、人々(ひと)は自分(おのれ)を愛(あい)する者(もの)、金(かね)を愛(あい)する者(もの)、大言(おほいごと)壮語(じやうご)する者(もの)、高慢(こうまん)な者(もの)、神(かみ)をそしめる者(もの)、親(おや)に逆(さか)らう者(もの)、恩(おん)を知らぬ者(もの)、神聖(かみ)を汚(よご)す者(もの)、……信心(しんしん)深い様子(ようす)をしながらその実(み)を捨(す)てる者(もの)となるであろう。」⁶

周囲(まわり)に険悪(けんあく)な雲(くも)が押し寄(よ)せてきているのは確(たしか)かです。しかし、救(きう)い主(ぬし)の御言(みことば)葉(は)は、舟(ふね)に乗(の)っていた使徒(しと)たちに平安(へいあん)を与(たま)えたように、今日(こんにち)のわたしたちにも平安(へいあん)をもたらしませう。「また、戦争(せんそう)と戦争(せんそう)のうわさを聞(き)くときにも、あわてるな。それは起(おこ)らねばならないが、まだ終(おわり)りではない。」⁷ 「備(ひ)えていれば恐(おそ)れることはない。」⁸

エホバはエリヤに言(い)われました。「出(い)で、山(やま)の上(うへ)で主(ぬし)の前(まへ)に、立(た)ちなさい。」エリヤはそのとおりにしました。そして大きな強(つよ)い風(かぜ)と地震(じしん)と火(ひ)の後に、「静(しず)かな細(こ)い声(こゑ)」による訪(まも)れを受けたのです。洞穴(ほら)に隠(かく)れていたエリヤに主(ぬし)は言(い)われました。「エリヤよ、あなた(あなた)はここで何(なに)をしているのか。」エリヤは答(こた)えました。「イスラエル(イスラエル)の人々(ひと)



はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀であなたの預言者たちを殺したからです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています。」しかし、主はエリヤが行うべき大切な務めを用意し、こう言われました。「あなたの道を帰って行[きなさい。]」⁹そしてエリヤは出て行きました。

わたしたちも安全な洞穴から出る必要があります。なすべき大切な務めがあるからです。主は御霊の静かな細い声を通して守り、助け、導いてくださいます。

主がヤレドの兄弟に、船を造る方法を教えられたことを思い出してください。家族が安全に大海を渡り、風や波から守られ、約束の地へたどり着くための船です。

船は不思議な形をしていましたが、こ

の上なく安全でした。「さて、彼らの船は深みに沈められても、……彼らは少しも水による害を受けなかった。……海の怪物も彼らの船を裂くことができず、鯨も彼らの船を害することができなかつた。」¹⁰

しかし、船には光がありませんでした。ヤレドの兄弟はそのことを心配しました。家族を暗闇の中に閉じ込めたまま旅を進めたくはなかったのです。そこで、命じられるのを待つのでなく、気がかりだったこのことを主に打ち明けました。「主はヤレドの兄弟に言われた。『あなたがたは、船の中に光があるようにするために、わたしに何をしてもらいたいのか。』」¹¹

この質問に対してヤレドの兄弟が出した答えは、彼自身の懸命な努力を要するものでした。ヤレドの兄弟はシーレム山

に登って、「一つの岩から16個の小さな石を溶かし出し」ました。¹²そして光を放つものとするために、石に触れてくださるよう主に願い出たのです。

親として、また指導者として、「[主]がすべてのことを[お命じになる]のは適切ではない」ことを忘れてはなりません。¹³ヤレドの兄弟のように、家族の必要について注意深く考える必要があるのです。そして、それらの必要を満たす計画を立て、祈りによってその計画を主の御前に提示しなければなりません。信仰と努力を必要としますが、主の助けを求め、御心を行うときに、主は助けくださいます。

主との間でこのような経験をした後も、ヤレドの兄弟は熱心に旅の準備を続けました。¹⁴同じように、わたしたちも預言者の教えに耳を傾けなければなりません。生ける預言者は、生活を整えるよう繰り返し勧告してきました。すなわち、負債を避け、食料や生活必需品を貯蔵し、什分の一を納め、適切な教育を受け、戒めに従って生活するのです。これらのきわめて大切な指示に従ってきたでしょうか。

子供や孫たちの目には、現代の疑念と恐れが映っています。この大切な子供たちは、行く先々で、失業や貧困、戦争、不道德、そして犯罪について耳にするのです。そして、どうしたらこれらの問題に立ち向かえるのだろうかと途方に暮れています。

彼らは答えを見つけようとして、わたしたちの目をのぞき込み、わたしたちの言葉に耳を傾けるのです。この悩み多い時代に、子供たちは誠実で希望を与える言葉を聞いているのでしょうか。

子供たちは、絶えず家族とともに祈り、聖文を研究し、家庭の夕べや家族評議会を開き、教会の召しを忠実に果たし、定期的に神殿に参入し、聖約を忠実に守っているわたしたちの姿を見る必要があります。戒めを確固として守っている姿を見るならば、子供たちの恐れは和らいで、主への信頼が高められることでしょう。

また、苦難の間も信仰を示し続けることによって、敵対する者の怒りが破滅をもたらすものではないと知らせることがで

きます。イエスはわたしたちのために「彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さる」よう御父に祈ってくださいました。¹⁵ 信仰を持ち続けるならば、この祈りは天の御父の時と季節にかなうときにこたえられます。

ところで、この世のチャレンジには意味と目的があります。預言者ジョセフ・スミスについて考えてみてください。ジョセフは生涯を通じて、希望を打ち砕かれるような逆境に遭いました。病気、事故、貧困、誤解、偽りの告発、そして迫害さえ受けたのです。こう尋ねたくなるかもしれません。主はなぜ、預言者をそのような障害から守り、無限の助けを与え、非難する者たちの口を封じられなかったのだろうか。その答えはこうです。すなわち、さらに救い主のようになるには、各人が一定の経験を得なければならないのです。現世という学校の訓練はしばしば苦痛と試練を伴います。けれどもその教訓は、不純物を取り除いて人に祝福を与え、強めることを目的としており、決して滅ぼすことを意図しているではありません。誠実に務めを果たしてきたジョセフに主はこのように言われました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。」¹⁶

「また、たとえあなたが穴の中に投げ込まれたり、……たとえ寄せて来る大波があなたを巻き込もうとしても、たとえ暴風があなたの敵となっても、たとえ天が暗黒を集め、すべての元素が結束して道をふさいでも、……息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」¹⁷

預言者ジョセフはその生涯で多くの試練を受けたにもかかわらず、この末日に福音を回復するためにすばらしい働きをしました。ジョセフはある理解に達し、それをわたしたちに教えています。すなわち試練の中にあっても、主は自分が滅ぼされることをお許しにならないという事実です。同じように、信仰の試しは、主がどれほどわたしたちの幸福を願い最後まで

堪え忍べるように助けてくださるかを悟る、またとない機会となるのです。

今日、主はわたしたちを支えるために、聖なる神殿の儀式を通して手を差し伸べておられます。預言者ジョセフは、初期のノーブーの聖徒たちにこう語りました。「兄弟たち、皆さんが備えられ、すべてのものに打ち勝つためにはエンダウメントが必要です。」¹⁸ 何と当を得た言葉でしょうか。神殿の聖約を通して祝福を受け、力を授けられることによって、末日聖徒は信仰をもって試練を堪え忍べるのです。サラ・リッチは、開拓の旅を終えるに当たってこのように記しました。「かの神殿で授けられた信仰と知識がなかったとしたら、……この旅はまったく向こう見ずな試みでしかなかったことでしょう。」¹⁹

救い主が経験された試練の大きさに、わたしは心を動かされています。御父の独り子であられたにもかかわらず、救い主はずっと狡猾な人々に命をつけねられました。主は生涯を通じて、うわさと偽りの言葉と迫害に付きまわられたのです。

特に強い印象を受けるのは、亡くなる前の1週間です。祭司長たちは主の権能に挑み、わなにかけ、2度暗殺を試みました。ゲツセマネで弟子たちが眠っている間、主は全人類の罪をお受けになり、あらゆる毛穴から血を流されました。主は裏切られ、捕らえられ、尋問を受け、殴られ、平手で打たれ、そして棒でたたかれました。議会から尋問を受けた後、主はヘロデにあざけられ、最終的にピラトの前に引き出されました。そこで怒り狂う暴徒の面前に立たされたのです。鞭打たれ、いばらの冠をかぶせられたイエスは、十字架を背負ってゴルゴタへの道を歩かされました。両手両足に釘が打ち込まれ、イエスは二人の犯罪人に挟まれ十字架にかけ合うくじを引き、イエスの渴きをいやすために差し出されたのは酔いぶどう酒でした。午後3時が過ぎたころ、²⁰ 主は御自分の霊を御父の御手にゆだね、息を引き取られました。

この世的な見地から救い主の最後の週をとらえた場合、最初の印象は苦しみと

滅亡です。救い主の母親が人々に交じって十字架の傍らで涙を流し、兵士たちが恐れおののき、地球は大変動を起こし、岩石が砕け、神殿の幕が真っ二つに裂け、3時間にわたって暗闇が地を支配した光景が目に見えただけかもしれません。新世界でも同じような光景が繰り返されました。一言で言えば、身の毛もよだつような大混乱が起きたのです。

しかし、もう一度目を注いでみましょう。今度は信仰の目によって見るのです。

生涯の最も苦悩に満ちた最後の週に、イエスは周りにいた人々に教え、証を述べ、励まし、祝福し、力をお授けになったのです。ラザロを死人の中からよみがえらせ、御父について教え、神殿の秩序を回復し、幾つかのたとえを語り、レプタをささげたやもめの証人となりました。また、主の再臨のしるしについて弟子たちに教え、らい病を患っていたシモンの家を訪れ、聖餐を定め、使徒たちの足を洗い、互いを愛するよう弟子たちに教えられました。イエスは御自分が神の御子として神性を備えていることを証し、慰め主すなわち聖霊について教えられました。偉大な執り成しの祈りの中で、イエスは使徒たちとその言葉を信じるすべての人のために「わたしの喜びが彼らの中に満ちあふれる」よう御父に祈られたのです。²¹

暗黒に支配されたときにも平安と喜びの光は消えませんでした。むしろ、その輝きは増したのです。イエスは亡くなった後に、マグダラのマリヤに御姿を現されました。主は「よみがえられた」²² との知らせが広まったその朝、人々はどれほど大きな喜びに包まれたことでしょうか。やがて、主は道で女に、クレオパヤ、エマオに向かっていた弟子に、また屋上の間で使徒と弟子たちに、そして疑念を抱いたトマスやほかの者たちに御姿を現されました。贖罪と復活を喜ぶ声が再び響いたのです。²³

しかしこれだけではありませんでした。預言者、聖見者、啓示者であったジョセフ・F・スミス大管長は、示現の中で霊界を訪れられた救い主を目にしました。



「非常に多くの正しい者の霊が、一つの場所に集まっていた。彼らは死すべき世に住んでいた間、イエスの証に忠実であった者たちであり……

これらの者は皆、……栄光ある復活の望みを確固として持って死すべき世を去ったのである。……

〔そして〕喜びと楽しみに満たされ、解放の日が近づいたので、ともに喜んでい[た]。

彼らは集まって、神の御子が霊界に来て死の縄目からの贖いを宣言されるのを待っていた。」

これらの忠実であった霊は、間もなく次のことを知りました。すなわち「彼らの眠れるちりは、骨が本来の骨と連なり、その上を筋と肉が覆って、その完全な造りに回復されるのであった。彼らが満ちみちる喜びを受けるために、霊と体が決して再び分離することのないように結び合わされるのである。

〔そして〕この大群衆が死の鎖からの解放の時を喜び、語り合いながら待っていると、神の御子が現れて、忠実であった

とら
囚われ人に自由を宣言された。」²⁴

兄弟姉妹、この世界がどれほど暗黒に包まれているとしても、個人や家庭、そして家族にどのような嵐が吹き荒れていようとも、わたしたちはこの喜びを手にすることができます。時折、死や病気、精神や肉体の障害、個人を襲う悲劇、戦争、そのほかの対立が起きる理由を理解できないことがあります。その幾つかは人の試しの生涯にとって必要なものです。エノクが予見したように、救い主の再臨の備えとなるものもあります。そのとき「天は暗くなり、暗黒の幕が地を覆うであろう。天が震え、地も震えるであろう。そして、ひどい艱難が人の子らの中にある……。」しかし主は言われました。「わたしは自分の民を守ろう。」そしてエノクはこれらすべてを見たとき、「喜びに満たされた」のです。²⁵

救い主の降誕と復活の季節を迎えるこの朝に、わたしは特別な証人として、救い主は確かにこの世に来られて、わたしたちの罪のために苦しみを受けられたこと、そして再び戻って来られることを、喜

びをもって証します。主を信じる信仰を持ち、戒めに従うならば、「完全な希望の輝き」²⁶が与えられます。そして、この不安な時代にはびこる暗黒と絶望の闇を追い払うことができます。地の元素を鎮める力を持っておられた御方は、嵐からの避け所を与えるために「静まれ、黙れ」²⁷と、わたしたちの心を鎮める力を持っておられます。

イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. マルコ4:37-38
2. マタイ8:26
3. マルコ4:39
4. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』303-304参照
5. マルコ4:41
6. 2テモテ3:1-2, 5
7. マルコ13:7
8. 教義と聖約38:30
9. 列王上19:11-15参照
10. エテル6:7, 10
11. エテル2:23
12. エテル3:1
13. 教義と聖約58:26
14. エテル6:4参照
15. ヨハネ17:15
16. 教義と聖約121:7
17. 教義と聖約122:7
18. *History of the Church*, 第2巻, 309
19. サラ、デアーモン・ピー・リッチ "Autobiography, 1885-1893," 家族・教会歴史部保管庫, 末日聖徒イエス・キリスト教会, 67
20. 『キリスト・イエス』641参照
21. ヨハネ17:13
22. マタイ28:6
23. 「新約聖書の時代を概観する イエス・キリストの生涯——最後の週」『リアホナ』2003年4月号, 26-29参照
24. 教義と聖約138:12, 14-18, 強調付加
25. モーセ7:61, 67
26. 2ニーファイ31:20
27. マルコ4:39

宝を探して

第一副管長

トーマス・S・モンソン

過去から学び、将来に備え、今を生きてください。



わたしは子供のころ、ロバート・ルイス・ステーブンスンの『宝島』を読むのが好きでした。また冒険映画も見ました。そういう映画の筋書は、引き裂かれたぼろぼろの地図の切れ端を何人かがそれぞれ1枚ずつ持っていて、もし全部の切れ端が見つかり、合わされば、埋められた宝への道を示す地図になるというものでした。

毎日午後になるとラジオの15分番組を聴いていたことを思い出します。それは「理想のアメリカ少年、ジャック・アームストロング」という番組でした。「全米一おいしい朝食、『ウィーティー』をお試しになりましたか」というコマーシャルソングで番組は始まりました。そしてラジオからなぞめいた声でメッセージが聞こえてくるのです。「それではジャックとベティーと一緒に、宝が隠されている象の墓場に続く、秘密の入り口に近づきましょう。でも待って。この

先には危険が待ち構えています。」

わたしはこの番組に釘付けになっていました。わたしは隠された貴重な象牙の宝を探しに行く人になりきっていたのです。

時も場所も変わりますが、救い主も宝について語っていらっしゃいます。主は山上の垂訓でこう宣言されました。

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

あなたの宝のある所には、心もあるからである。」¹

約束された報いは象牙や金銀の宝ではありません。広大な土地や株券でもありません。主はすべての人が手に入れることのできる富について語られたのです。すなわち、地上の言葉では言い表せないほどの喜び、そして来世における永遠の幸福についてです。

今日わたしは皆さんが永遠の幸福に導かれるように、宝の地図の切れ端を3枚差し上げることになりました。それは、

1. 過去から学ぶ。
2. 将来に備える。
3. 今を生きる、です。

地図の切れ端について一つ一つ考えてみましょう。

まず、「過去から学ぶ」についてです。

わたしたち一人一人には受け継いでいるものがあります。それが開拓者の先祖からであろうと、改宗者からであろうと、人生

を方向づける手助けをしてくれた人からであろうとかまいません。この受け継ぎは犠牲や信仰によって築かれた基礎を据えてくれます。わたしたちにはそのような堅固で安定した土台の上にさらなる受け継ぎを築いていく特権と責任があります。

1974年の『ニュー・エラ』(“New Era”)には、カレン・ノーレンの著したベンジャミン・ランダートの物語が紹介されました。1888年、15歳のベンジャミンはバイオリンの名手でした。ユタ州北部の農場に母親と7人のきょうだいと住んでいたベンジャミンにとって時折難しかったのは、思うほどバイオリンを弾く時間が取れないことでした。バイオリンを弾きたいという衝動が強かったため、母親は、ベンジャミンが農場での仕事を終えるまでバイオリンを弾けないように、ケースに入れて鍵をかけてしまうこともありました。

1892年の終わりにベンジャミンは、ソルトレークへ行って準州オーケストラと共演するためのオーディションを受けてみないか、と誘いを受けました。彼にとって、これは夢の実現でした。数週間練習し、祈った彼は、1893年3月、待ちに待ったオーディションを受けるためにソルトレークへ行きました。指揮者のディーン氏はベンジャミンの演奏を聞くと、彼はデンバー以西では最も優秀なバイオリン奏者であると言いました。そして、ベンジャミンは秋のリハーサルに備えてデンバーに引っ越すように言われ、自活するに十分で、なおかつ家に仕送りができるほどの給料が支払われることも知らされました。

しかし良い知らせを受けて1週間後、監督はベンジャミンを監督室に呼び、オーケストラに入るのを2、3年延期できないものかと尋ねました。そしてお金を稼ぐ前に、主に借りを返さなくてはならないと言いました。そして、伝道の召しを受けるように告げたのです。

オーケストラに入る機会をあきらめるのは、ベンジャミンには耐え切れないことのように思えました。しかし同時にどう決心すべきか分かっていました。そして伝道に出るためのお金を集めることができたなら、伝道の召しを受けます、と監督に伝



十二使徒定員会会員のヘンリー・B・アイリング長老(左)とあいさつを交わすゴードン・B・ヒンクレー大管長。その傍らで、トーマス・S・モンソン副管長(右)が、十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老(中央)およびリチャード・G・スコット長老とあいさつしている。

えました。

ベンジャミンが母親にその召しについて話すと、母親は大喜びでした。母親が言うには、ベンジャミンの父親は生前いつも伝道に行きたいと言っていたのに、とうとうその機会が来る前に亡くなったのだそうです。けれども、伝道資金の話になると、母親の顔は曇りました。ベンジャミンは母親に、もうこれ以上、家の土地を売ってはいけなと言いました。しばらく母親はベンジャミンの顔をまじまじと眺め、言いました。「ベンジャミン、お金を得る方法が一つあるわ。この家には、おまえの伝道資金になるくらいのもものが一つあるのよ。おまえのバイオリンを売りなさい。」

10日後の1893年3月23日、ベンジャミンは日記にこう記しています。「朝起きて、バイオリンをケースから出した。一日中、大好きな曲を弾いた。夕方になり、薄暗くなって、楽譜が見えなくなるまで弾き続けた。それからバイオリンをケースに戻した。もう十分だろう。明日、わたしは〔伝道へ〕行く。」

45年後の1938年6月23日、ベンジャミンは日記にこう記しています。「これまでの人生で最も大きな決断を下したのは、わたしが心から愛するものを、それ以上に愛する神のために、あきらめたことだ。そ

の点で、神はわたしのことを決してお忘れにはならないだろう。」²

過去から学んでください。

2番目は、「将来に備える」ということです。わたしたちは目まぐるしく変化する世界に生きています。技術革新は生活をほとんどすべての点で変えてしまいました。このような大変動とも言える進歩に対処せざるを得ないのです。わたしたちの先祖は、世界がこのように進歩することなど夢にも思いませんでした。

主の約束を覚えておきましょう。「備えていれば恐れることは」³ありません。恐れは進歩の強力な敵です。

準備と計画が必要です。準備と計画をするならば、人生を無駄に過ごすことはありません。目標がないところにほんとうの成功はありません。わたしがこれまでに聞いた中で、成功の定義として最もふさわしいものをご紹介します。「成功とは、立派な理想の実現に向かって着実に前進し続けることである。」次のように言った人もいます。「目標を持たずにいることの弊害は、フットボールの試合にたとえると、フィールド内を前や後ろに必死に走り回った挙げ句、結局ゴールにたどり着けないようなものだ。」

何年も前、夢のような歌が流行しました。

このような歌詞です。「願っていればかなえられる。だから、願い続けよう。ほら、心配事も消えていく。」⁴わたしは今ここで、はっきり申し上げますが、人生で出遭う苦難に対処したければ、願いだけではなく、周知な準備が必要なのです。準備は骨の折れるものですが、進歩するには絶対に欠かせないものです。

未来へのわたしたちの旅路は、永遠の世界につながる平坦な大通りではないのです。むしろ、路上には幾つもの分岐点や曲がり角があるでしょうし、予期せぬ段差も当然あるはずですよ。ですから毎日、愛にあふれ、わたしたち一人一人の人生での成功を望んでおられる天の御父に祈らなければならないのです。

将来に備えてください。

3番目は、「今を生きる」です。

時々、わたしたちはあまりに多くの時間を将来のことを考えながら過ごしてしまうことがあります。過去の思い出に浸ったり、将来を待ち焦がれたりするのは心地よいことかもしれませんが、もっと大切なのは、今を生きることです。今日という日は、二度とない機会であり、逃してはならないのです。

メレディス・ウィルソンのミュージカル劇「ザ・ミュージック・マン」(The Music Man)

に登場するハロルド・ヒル教授は、こう警告しています。「明日のことばかり考えていると、気づいたときには、空っぽの昨日ばかりがたまっていた、ということになりますよ。」

今何かしておかなければ、明日になって今日のことを思い出そうとしても、思い出すことがありません。今を精いっぱい生きるには、いちばん大切なことをするに限ります。いちばん大切なことを、ぐずぐず後回しにしないようにしましょう。

最近、ある男性の話を読みました。この男性は、奥さんが亡くなるとすぐに、奥さんのたんすの引き出しを開け、9年前にアメリカ東部に行ったときに奥さんが買った洋服を見つけました。奥さんはそれに一度も袖を通さず、特別な時のために取っておいたのです。けれども、亡くなってしまっただけでは、その機会は二度と訪れないのです。

夫はそのことを友人の女性に話しました。そしてこう言ったのです。「特別な時のために何かを取っておくなんて、しちゃだめだよ。人生に特別じゃない日なんてないんだから。」

その友人は後に、この言葉が人生を変えたと言いました。この言葉のおかげで、彼女は大事なことを後回しにしなくなったのです。彼女はこう言っています。「今では、もっと多くの時間を家族と過ごすようになりました。毎日クリスタルのグラスを使っています。スーパーに行くのだって、着たいと思えば新品の洋服で行きますよ。『またいつか』とか『そのうちに』という言葉は、わたしの辞書から消えつつあります。親戚や親友と電話で話すのが普通になっています。昔の友人に電話して、口げんかの仲直りをしました。いつも家族に、どれだけ愛しているか伝えていきます。生活に笑顔や喜びをもたらすものは、後回しにしないようにしています。そして毎朝、今日はきっと特別な日になると自分に言うのです。毎日、毎時間、毎分が、特別なのです。」

この考え方を具現化したある話が、何年も前にアーサー・ゴードンによって大衆誌に掲載されました。アーサー・ゴードン



は次のように記しています。

「わたしが13歳、弟が10歳のころ、父はわたしたちをサーカスに連れて行ってくると約束しました。しかし昼どきになって電話が入り、急な仕事のために町まで行く必要が生じたのです。わたしたちは、サーカスに行けなくなったときのために、心の準備をしました。けれども父は電話越しにこう言ったのです。『町へは行きません。待っていただきますよ。』

父がテーブルに戻って来たとき、母はこう言ってほほえみかけました。『サーカスはまたやって来るでしょう?』

父はこう言いました。『ああ、でも私たちの少年期は二度は来ないからね。』⁵

七十人第一委員会会のモンティ・J・ブラフ長老は、子供のころにユタ州ランドルフの家で夏を過ごしたときの経験について話してくれました。ブラフ長老は弟のマックスと一緒に、裏庭の大木に小屋を作ることにしたのです。二人は、今までにない最高の小屋を作る計画を立てました。そして近隣をくまなく探して、小屋に必要な材料を集め、木の上に運びました。そこは2本の大きな枝が伸びる、小屋作り

には絶好の場所でした。作業は大変でしたが、出来上がりが待ち遠しくてたまりませんでした。出来上がった小屋を思い浮かべることによって、完成への意欲がとてつもなくかき立てられました。

二人は夏の間ずっと小屋作りに励み、新学期が始まる直前の秋には完成しました。ブラフ長老は、やっとの思いで完成した小屋を見たときの喜びと満足感を決して忘れないだろうと語りました。二人は木の上の小屋に腰かけ、辺りを少し見回して木から降りました。そして二度と小屋には戻りませんでした。小屋は上出来でしたが、二人は1日もたたないうちに小屋への関心をなくしてしまったのです。言葉を変えれば、計画し、集め、作業すること、それらは完成されたものよりも長続きする満足感と喜びを二人にもたらしたのです。

ブラフ長老と弟のマックスがしたように、日々の生活の中で、人生を楽しみましょう。人生の旅に喜びを見いだすのです。

古い格言にある「今日できることを明日に引き延ばしてはならない」という言葉は、家族や友人に、愛や感情を、言葉や行いで伝えるときにさらに重要になってきます。作家のハリエット・ビーチャー・ストウはこう言いました。「墓に向けられた哀絶の涙には、伝えられなかった言葉や、やり残した行いが込められている。」⁶

機会を永遠に逸してしまうことの悲しさを、ある詩人はこうつぶっています。一部を引用したいと思います。

「果てしないこの大きな町にも、
角を曲がったすぐそこに友達がいる。
日は過ぎ、月は走り去る。
知らぬ間に1年が過ぎる。
旧友の顔を一度も見ぬまま。
人生は恐ろしく速く、
矢のように過ぎていく。
そして明日が来て、
またその日が過ぎていく。
二人を隔てる溝はますます広がる。
曲がり角のすぐそばなのに、
まるで遠くの人ようだ。
そこへ1通の電報が舞い込んだ。
『ジム死す』と。」



これが二人の最後に得たもの。
曲がり角の向こうのあの友達は、
もう二度と戻って来ない。⁷

1年余り前のことですが、何年も会っていない愛する友人を訪問しようと決心しました。これ以上先送りにしたくなかったのです。友人の住むカリフォルニアに何度も足を運ぼうとしましたが、訪問できずにいました。

ボブ・ビガーズとわたしは、サンディエゴにある合衆国海軍訓練センターの総務課に勤務していたときに知り合いました。第二次世界大戦も終わりに近づいていたころです。知り合った当初から意気投合し、ボブは結婚する前にソルトレークを訪れてくれました。1946年にわたしが海軍を除隊して以来、わたしたちは手紙のや

り取りをしてきました。毎年クリスマスには、妻のフランシスとともに、ボブと奥さんのグレースにカードを送ってきました。

そしてついに、2002年1月初旬、カリフォルニア州ウィットチアーのステーキ大会に訪問する予定を立てました。ビガーズ夫妻が住んでいる所です。わたしは、もう80歳になる友人のボブに電話し、妻のフランシスとともに夫妻に会うことになりました。昔のことを語り合うのです。

すばらしい時間を過ごしました。55年前に海軍にいたときの写真を持って行き、共通の知人の近況について知っている限りのことを伝え合いました。ボブは教会員ではありませんが、サンディエゴ駐在中にとともに集った聖餐会^{せいさん}について覚えていました。

フランシスとともにボブとグレースに別

れを告げてから、わたしはたとえようのない平安と喜びを感じました。何年も愛し続けてきた遠方の友人にもう一度会うために、やっと努力することができたのです。

いつの日か、わたしたちは生涯を閉じる時を迎えます。最も重要なことを先送りしないようにしましょう。

今を生きてください。

皆さんにとっての宝の地図はこれでそろいました。それは、過去から学び、将来に備え、今を生きることです。

冒頭にお伝えしたように、主である救い主はこのように言われています。

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

あなたの宝のある所には、心もあるからである。⁸

兄弟姉妹の皆さん、心の底からわたしの証^{あかし}を述べます。神はわたしたちの御父です。御子は救い主であり、贖^{あがな}い主です。わたしたちは現代の預言者、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長によって導かれています。

イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

注

1. マタイ6:19-21
2. "Benjamin: Son of the Right Hand," *New Era*, 1974年5月号, 34-37参照
3. 教義と聖約38:30
4. "Wishing Will Make It So," 作詞: B・G・デシルバ
5. *A Touch of Wonder* (1974年), 77-78
6. ゴートン・カラス, ユージン・アーリック編, *The Harper Book of American Quotations* (1988年), 173で引用
7. チャールズ・ハンソン・タウン, "Around the Corner," *Poems That Live Forever*, ハイゼル・フェルマン編 (1965年), 128で引用
8. マタイ6:19-21

教会役員の支持

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域幹部七十人、ならびに中央補助組織会長の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと思ひます。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持してください、また、大管長会第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二副管長としてジェームズ・エドラス・ファウストを支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいればその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーク

ス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

大管長会の副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

ブリガム・ヤング大学の学長に任命されたことを考慮し、わたしたちはセシル・O・サミュエルソン・ジュニアを、七十人会長会会員および中央日曜学校会長から解任するよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

わたしたちは、J・デブリン・コーニッシュを、伝道部長の召しに伴い地域幹部七十人より解任いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。

わたしたちは、メリル・J・ベイトマン長老を七十人会長会会員および中央日曜学校会長として支持するよう、またジョン・H・グローバークおよびバル・R・クリステンセンを引き続き副会長として支持するよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

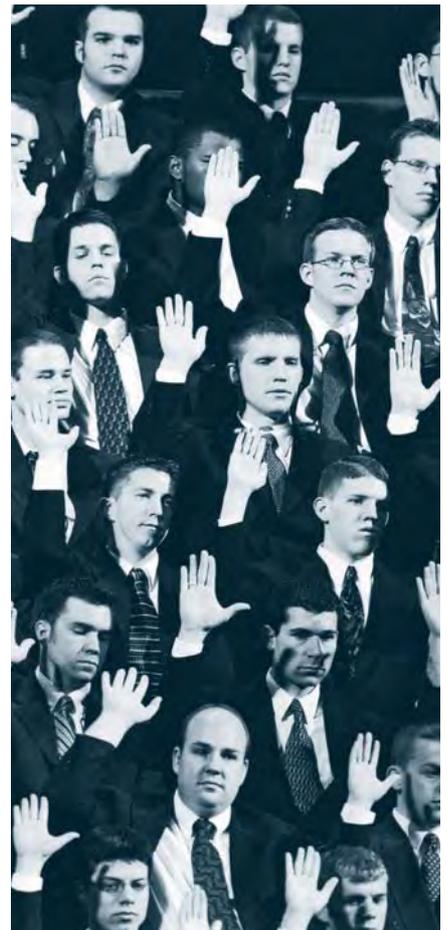
わたしたちは、ブルース・D・ポーター長老を七十人第一定員会会員として、またマービン・B・アーノルド、シャーリー・D・クリステンセン、クレート・W・マスク

ジュニア、ウィリアム・W・パームリー、W・ダグラス・シャムウェイを七十人第二定員会会員として支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

以下の人々を地域幹部七十人として支持してくださいよう提議いたします。D・フレーザー・バロック、ルイス・G・シャベリ、ロナルド・ダ・コスタ、スタンレー・G・エリス、ランディー・D・ファンク、ホセ・A・ガルシア、ロバート・H・ガーフ、ユリオ・G・ガビオラ、フランシスコ・I・ギメネス、カルロス・A・ゴドイ、S・オラシオ・グズマン、^{ユー・チン・ホ}何於振、ビーバー・T・ホー・チン、ロバート・コー、G・ステイブ・レーニー、^{クエンリン}バリー・リー、ミグエル・A・リー、^{クエンリン}凌權、ラモント・W・ムーン、アレクサンダ



土曜午後の部会で、教会役員を支持する聖歌隊の男性隊員。

ー・A・オデメ、アデシナ・J・オルカニ、フェルナンド・D・オルテガ、アントニオ・R・オヨラ、アディルソン・デ・パウラ・パレラ、ルイーシ・S・ペローニ、ラファエル・E・ピノ、ジェルソン・ピッツィラーニ、ジェロルド・ロス、A・キム・スミス、W・ブレイク・ソネ、ロナルド・A・ストーン、スバンドリヨ、ジェフリー・C・スウィントン、ドナルド・P・テニー、ホセ・L・トルレス、ピタ・R・バマンラ、ペリー・M・ウェップ。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方は同様にその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域幹部七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

提議は、全員一致で賛意の表明が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さんの変わらぬ信仰と祈りに感謝いたします。

新たに召された七十人第二定員会員の兄弟たちは、壇上の席に着いてください。

教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター

ウェスリー・L・ジョーンズ提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

愛する大管長会の皆様。末日聖徒イエス・キリスト教会は、監査部を運営しています。この監査部は、教会のほかのあらゆる部署や運営組織から独立して業務を遂行しています。教会監査部の実務運営ディレクターは定期的に、大管長会に直接報告します。教会監査部の職員は、認可を受けた公認会計監査員、認可を受けた内部会計役、認可を受けた情報システム監査員、そのほかの有資格の、認可を受けた専門家によって構成されています。

大管長会の指示の下に、教会監査部は世界全体にわたる教会のすべての部署、運営組織の監査を行う権限を保持してい

ます。教会監査部には、教会の収支、資料の監査を行うために必要なあらゆる記録、職員、不動産、システムの情報を入手する権利があります。監査作業は、専門的な監査基準にのっとり行われます。監査項目を選択する際の指針としておもに考慮されるのは、各部門が抱える危険要素です。

什分の一配分評議会は、教会基金じゅうぶんの支出に対して責任を持っており、2002年度の教会基金の支出を承認しました。同評議会は、啓示によって規定されたとおり、大管長会、十二使徒定員会および管理監督会で構成されています。同評議会の指示の下、収入と支出は、教会の予算・財



2002年度統計報告

務部によって管理されました。受領献金ならびに、予算に組み込まれていた支出の管理状況についてはすでに監査と報告を終えています。

監査の結果、教会監査部では、2002年12月31日現在において、教会のすべての資材、献金、基金の支出は、承認された予算指針と定められた教会の方針と手続きに従って運営され、会計処理されているという見解に達しました。

教会とは別に運営されている、教会の関連組織が行う財政活動については、教会監査部は2002年度の監査を行っていません。これらの組織には、デゼルト・マネージメント・コーポレーションとその子会社、およびブリガム・ヤング大学など、教会運営の高等教育機関が含まれています。これらの組織の財務諸表および関連する管理業務は、独立した公認会計事務所から監査を受けています。しかしながら、教会監査部は、各組織の監査委員会によってなされたこれらの監査結果に関する報告が適切に行われたことを確認しました。

以上、謹んで報告いたします。

監査部

実務運営ディレクター

ウェスリー・L・ジョーンズ

大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

兄 弟姉妹の皆さん、大管長会は、2002年12月31日現在の会員数の増加と現況を示す以下のよ
うな記録を発表しました。

教会ユニット数

伝道部	335
ステーク	2,602
地方部	641
ワードと支部の合計	26,143

教会員数

教会員総数	11,721,548
記録上の子供数の増加	81,132
バプテスマを受けた改宗者	283,138

宣教師

専任宣教師数	61,638
--------	--------

神殿

2002年に奉献された神殿数	7
(アリゾナ州スノーフレック、テキサス州ラボック、メキシコ・モンテレー、ブラジル・カンピーナス、パラグアイ・アスンシオン、イリノイ州ノーブー、オランダ・	

ハーグ)

2002年に再奉献された神殿数	2
(ドイツ・フライベルク神殿とユタ州モンテセロ神殿)	
儀式が執行されている神殿数	114

2002年4月以降に他界した著名な教会員

ミニー・ブリース・バートン (元十二使徒定員会補助および七十人定員会会員のセオドア・M・バートン長老夫人)

メルバ・パーカー・ヒル (元七十人定員会会員の故ジョージ・R・ヒル3世長老夫人)

ボニー・リー・アダムソン・コールドウエル (元七十人定員会会員のC・マックス・コールドウエル長老夫人)

ガートルード・ライバーク・ガーフ (元中央扶助協会副会長)

ウォルター・ジョシュア・エルドリッジ・ジュニア (元中央若い男性会長)

メイヨラ・ミルテンバーガー (元中央扶助協会会長および管理会の秘書兼出納係)



言い尽くせない賜物^{たまもの}

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン

もし、(わたしたち)が心を開いて、聖霊の言い尽くせない賜物が持つ清めの影響力を受け入れようとするならば、栄えある、新しい霊的な世界が現れるでしょう。



今 皆様さんとともに出席でき、光栄に思います。わたしは指導者が神聖な聖霊の賜物によって導かれるままに語る、主の御言葉を聞く機会を大切にしています。今日は、このすばらしい賜物について少しお話しようと思います。

皆さんは、太陽が生み出す光とエネルギーが一体どれくらいなのか、考えたことがあるでしょうか。その量はとても理解できるものではありません。とはいえ、わたしたちに注がれる熱と光は、神からの無料の贈り物です。これもまた、天の御父の慈しみを立証しています。¹

太陽の光は宇宙空間を通り抜け、太陽の周りを回転するこの惑星に降り注ぎ、命を与える熱と光で包んでくれます。太陽がなければ、地球上に生命は存在できません。地球は永遠に荒れ果て、冷たく、暗黒に覆われてしまうでしょう。

太陽が生命と光を地球に与えているのと同じように、ある霊的な光が人間の霊に養いを与えています。キリストの光と呼ばれるものです。聖文には、この光は「世に来るすべての人を照らす」とあります。² このように、全人類はその祝福を受けています。キリストの光とは神聖な影響力であって、すべての男女、子供が善と悪を見分けられるようにしてくれます。すべての人が正義を選び、永遠の真理を追い求めるように励ましてくれます。そして、前世で知っていたものの、現世では忘れてしまった真理を再び学べるように、力づけてくれるのです。

キリストの光を聖霊という御方と間違えないようにしなければなりません。キリストの光は決して人ではないからです。その影響力は、聖霊を受ける前に与えられ、受ける備えをさせるものです。キリストの光は、正直な人が「声を聴[き]」³、真実の福音と真実の教会を見だし、やがて聖霊を受けられるように導きます。

聖霊は霊の御方であり、神会の一員であって、はっきり区別できる別個の御方です。⁴ 神の力とキリストの神性、回復された福音の真理を証される証人です。あらゆる国で歴史を通じて、多くの人が、天と交わり福音の真理の光を得ようと熱心に努めてきました。そして、福音の真理を確認する聖霊の影響力を感じてきたのです。

預言者ジョセフ・スミスは次のように説明しています。「聖霊と聖霊の賜物は別です。コルネリオはバプテスマを受ける前に聖霊を受けました。これは彼に福音の

真理を確信させる神の力でした。しかし、コルネリオはバプテスマを受けるまで、聖霊の賜物を受けることはできませんでした。もし彼がこの……儀式を受けなかったとしたら、神の真理を確信させた聖霊は彼から離れて行かれたことでしょう。」⁵

聖霊の賜物は聖霊を常に伴侶とする権利ですが、これを受けられるのは次の条件を満たしたときだけです。すなわち、キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、水に沈めるバプテスマ、そしてメルキセデク神権を賦与された権威ある僕による按手を受けることです。聖霊の賜物は主の教会のふさわしい会員にのみ与えられる、最も尊い賜物なのです。

教義と聖約で、主は聖霊の賜物を「言い尽くせない賜物」と呼んでおられます。⁶ これこそ、証と霊的な賜物の源です。思いを照らし、霊に喜びを満ちし、⁷ すべてのことを教え、忘れた事柄を思い起こさせてくれます。⁸ 聖霊はまた、「なすべきことをすべて……示[し]」⁹ てくださいます。

これに加えて、ジェームズ・E・ファウスト副管長は、聖霊の賜物は「この不安定な世にあって、ほかの何よりも心の平安を保証してくれる」と語りました。¹⁰

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、「神会の御一方から導きを得られるとは、何と大きな祝福でしょうか」と教えています。¹¹ このことの意味を考えてください。神会に属する御方から導きを受ける能力と権利です。無限の知恵、無限の知識、無限の力と交われるのです。

すべての賜物と同じようにこの賜物も、受けた後、活用しなければなりません。神権者の手が頭に置かれ、皆さんを教会の会員として確認したとき、「聖霊を受けなさい」という言葉を聞いたことでしょうか。これは聖霊が無条件に、常に伴侶となるという意味ではありません。聖文には、主の御霊は「ながく人の中にとどまらない」という警告があります。¹² 教会員として確認されるとき、聖霊を伴侶とする「権利」を与えられます。しかし、この権利は従順とふさわしさによって保っていかなければならないものです。この賜物をおろそかにしてはなりません。

聖霊はわたしたちに危険を知らせ、助けを必要とする人々を助けるように靈感を与えてくださいます。トーマス・S・モンソン副管長はこう助言しています。「わたしたちは心を澄ませて待ちます。あの静かな細い声に耳を傾けるのです。御霊が語るとき、賢い人は従います。御霊のささやきに従うのを後回しにはしてはいけません。」¹³

以前、巨大な洞くつを見て回ったことがあります。そのとき、ガイドが一瞬の間、明かりを消して、真^{くらみ}暗闇とは実際どんなものなのか、教えてくれました。驚くべき経験でした。目の前2、3センチのところ^{くらみ}に手を置いてみましたが、まるで見えないのです。幾分ぞっとしました。明かりがついたときには、ほっとしたものです。

光が闇を貫き、その光によって物質的なものが目に見えるようになるのと同じように、聖霊も人を取り巻く霊的な闇を貫き、かつては隠されていた霊的なものはっきり目に見えるようにしてくださいませ。使徒パウロはこう教えています。「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」¹⁴

主の教会の会員の中には、聖霊の賜物にかかわる「特権から程遠い生活をしている」人がいるのではないかと、わたしは心配しています。¹⁵ 人によってはこの世の事柄に心を悩ましており、したがって聖霊の影響力は遮^{ささ}られ、霊的なささやきに気がつきません。わたしたちが住むこの世界は、騒がしく、忙しい所です。忙しいことは必ずしも霊的ではないことを覚えておきましょう。注意していないと、この世の事柄が御霊にかかわる事柄に取って代わってしまいます。

ある人々は霊的に行き詰まり、心が鈍っていますが、それは罪を犯すという選択をしたからです。ただ霊的な自己満足にとどまっているだけで、向上して神と交わろうという望みのない人々もいます。

もし、こうした人々が心を開いて、聖霊の言い尽くせない賜物が持つ清めの影響



力を受け入れようとするならば、栄えある、新しい霊的な世界が現れるでしょう。とうてい想像もできないような展望に目を見張ることでしょう。さらに、御霊にかかわる事柄を自分自身で悟ることができます。それはえり抜きの、かけがえのない事柄であり、魂を広げ、心を和ませ、言葉にならない喜びで満たす力があるのです。

ブリガム・ヤング大管長はある神聖な経験について語りました。殉教した預言者ジョセフ・スミスが示現でヤング大管長に現れ、聖徒たちにもう一つメッセージを携えて来たときのことです。そのメッセージは現代の聖徒たちが以前にも増して必要とするものです。ジョセフはこう言いました。「[必ず]この民に言ってください。主の御霊を保つように。そうすれば正しい道へと導かれるでしょう。注意して、静

かな細い声を拒まないようにしなさい。その声は何をするべきか、どこへ行くべきかを教え、王国の実を結ぶでしょう。兄弟たちにこう言ってください。いつも心を開いて真理に耳を傾け、聖霊の訪れを受けたなら、受け入れる心の用意ができていようと。」¹⁶

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは静かな細い声を拒むでしょうか。聖霊に背くようなことをするでしょうか。家庭に入り込んで来る影響力によって、御霊が追い出されるままにするでしょうか。家庭にどのようなたぐいの娯楽を取り入れるかによって、確かに聖霊の力は左右されます。この世の娯楽の大半は聖霊に逆らうものです。明らかに、暴力や下品な言葉、不道徳にあふれた映画やテレビ番組を見るべきではありません。



皆さんにお勧めします。皆さんそれぞれに、謙虚に祈りの気持ちで深く考え、こう自問してください。「わたしの生活には御霊が伴っているだろうか。わたしは幸福だろうか。御霊に逆らうことや、聖霊が変わらぬ伴侶でなくなるようなことをしていないだろうか。」必要ならば、勇気をもって悔い改めてください。そして、もう一度聖霊を伴侶とする喜びを味わってください。

「聖霊の影響力が家庭にあるだろうか。御霊に逆らうようなことを家族ではしていないだろうか。もっと豊かに聖霊を家庭の中に招くことはできるだろうか。」

家庭をさらにキリストを中心とした場所にする必要があります。神殿で過ごす時間を増やし、娯楽に費やす時間を減らすべきです。家庭での雑音レベルを下げ、この世の雑音が聖霊の静かな細い声をかき消してしまわないようにしなければなりません。親として最大の目標の一つは、聖霊の力と影響力を家庭の中で享受できるようにすることです。祈りをささげ、聖文を研究する必要があります。聖霊を家庭に招くことができるよう、回復の賛美歌を歌うこともできます。家庭の夕べを定期的に開くことも助けとなります。

危険に満ちたこの時代には、生活の中にこの言い尽くせない賜物が必要なのです。ボイド・K・バッカー会長代理はこう語りました。「将来を恐れながら生きる必要はありません。喜びを感じる理由は十分あり、恐れる理由はわずかしかりません。将来がどうであれ、御霊の促しに従うならば安全です。なすべきことを示さ

れるからです。』¹⁷

預言者ジョセフ・スミスは、聖徒は聖霊の賜物とそのほかのあらゆる霊を区別できると教えました。なぜなら、「御霊は心に平安と喜びをもたらし、悪意や憎しみ、争い、そしてすべての邪悪を心から取り去ってくれるからです。そして、人は心の底から善をなし、正義を行い、神の王国を築きたいと願うようになるのです。』¹⁸

以前わたしのある友人が、聖霊の賜物についてどのように知り、理解できるようになったかについて話してくれました。この友人はしばしば祈り、福音が真実であることを知りたいと望んでいました。

自分の信仰には平安を感じていたにもかかわらず、渴望していた確かな知識を得ていませんでした。友人は自分に言い聞かせていました。「わたしはたぶん、他人の信仰に頼って人生を歩んでいかなければならない人間の一人なのだろう」と。

ある朝、聖文について深く考えているときでした。体の中を頭のとっぺんから足のつま先まで、何か沸き上がるものが通り抜けて行ったのです。友人はこう説明しています。「わたしは非常に強い愛と純粋な喜びに浸りました。そのときの気持ちを言い表すとしたら、こう言うほかありません。あまりにも深い喜びに包まれたので、心の中にはほかの感覚が入り込む余地がなくなってしまった、と。」

聖霊が注がれているのを感じているときですら、友人は、もしかするとこういう出来事を想像しているにすぎないのでは、と怪しんでいました。友人はこう続けています。「怪しめば怪しむほど、喜びは

強烈になりました。とうとう涙ながらに、『もう十分です』と言うのがやっとでした。』

わたしの父は少年のころ、バプテスマを受けた日に同じような経験をしています。父はこう述べています。「監督が頭に手を置いて、『聖霊を受けなさい』と言ったとき、わたしは特別な気持ちを感じた。それまで一度も経験したことのない気持ちであった。そうした気持ちが心に入って来て幸福を感じた。そして、わたしの魂に満ちあふれた。』

そのとき以来、そしてその後の人生を通じて、父は常に知っていました。イエス・キリストが生きておられ、生ける預言者によって御自分の教会を導いておられることを。¹⁹

今日、モルモン書を研究したり、宣教師や友人の証を聞いたりするときに聖霊の促しを感じた人が大勢います。そのような皆さんに、主イエス・キリストの使徒として申し上げます。完全な福音が再び地上に回復されました。ジョセフ・スミスは真の預言者であり、神の賜物と力によってモルモン書を翻訳しました。モルモン書を読み、その約束を試してみるよう心からお勧めします。「この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。』²⁰

この教会の会員でない皆さんには、心の底から愛を込めてお勧めします。これ以上、真理に抵抗しないでください。心の中に、天から来る光の宿る場所を取ってください。信仰を持ち、悔い改めて、イエス・キリストの御名によって、罪を赦されるためにバプテスマを受けるのです。そうすれば、皆さんも聖霊の言い尽くせない賜物を受けるでしょう。

天の御父は生きておられます。イエスはキリストです。預言者ジョセフ・スミスを通して、イエス・キリストの福音は完全に回復されました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、現代の預言者、聖見者、啓示者です。イエス・キリストの御名によ

て証します。アーメン。

注

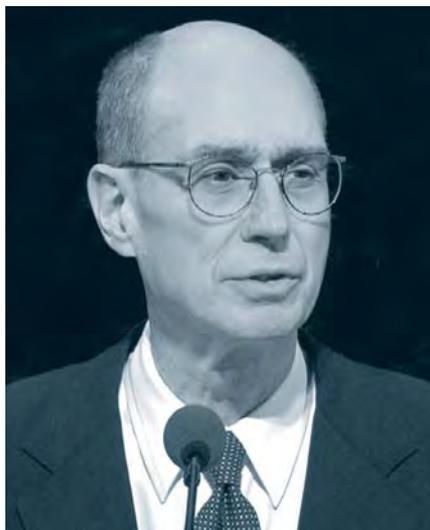
1. NASA (訳注—アメリカ航空宇宙局)の技術者は、次のように推定している。「[太陽が]1日に放出しているエネルギーの総量は、3,830^{がい}兆キロワット〔訳注—兆は京の1万倍。すなわち10の20乗〕であると推定している。これは、1,000億トンのトリニトロトルエン〔訳注—強力な爆薬。おもに軍用・工業用爆薬として用いる〕が1秒ごとに爆発を繰り返した場合に1日に発生するエネルギーに等しい。】(NASA, 宇宙科学事局, “Solar System Exploration”インターネット, <http://solarsystem.nasa.gov/features/planets/sun/sun.html>)
2. ヨハネ1:9。モロナイ7:16; 教義と聖約84:46も参照
3. 教義と聖約84:46
4. 教義と聖約130:22参照
5. *History of The Church*, 第4巻, 555
6. 教義と聖約121:26
7. 教義と聖約11:13参照
8. ヨハネ14:26参照
9. 2ニーファイ32:5
10. 「聖霊の賜—正しい羅針盤」『聖徒の道』1989年7月号, 35参照
11. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 259
12. 創世6:3。2ニーファイ26:11; 教義と聖約1:33; モーセ8:17も参照
13. *Live the Good Life* (1988年), 59
14. 1コリント2:14
15. ブリガム・ヤング, *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィッツォー選 (1954年), 32.
16. *Manuscript History of Brigham Young, 1846–1847年*, エルデン・J・ワトソン編 (1979年), 529
17. 「炎のように分かれた舌」『リアホナ』2000年7月号, 9
18. *Manuscript History of Brigham Young*, 529
19. ジョセフ・L・ワースリン, *Conference Report*, 1956年4月, 12
20. モロナイ10:4

子供および弟子として

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

主は、真の弟子に信頼を置かれます。そして、備えのできた人々を、備えられた僕のもとに送られます。



バプテスマの聖約の下にあるわたしたちは、福音を人々に伝えるという約束を一様に交わしています。¹ 時折、拒まれたり、相手の気分を害したりするのではないかという恐れが、克服し難い障害のように思えるときがあります。しかし、そのような障害を容易に取りのけている会員もいるのです。わたしは旅先で、そうした会員をつぶさに観察してきました。幾つかの例をご紹介します。

土曜日は、世界中で市場がにぎわう日です。ガーナやエクアドル、フィリピン諸島の田舎では、大勢の人が農作物や手工芸品を荷車に積んで町へ売りに出かけます。通りで出会う人たちと語り、客を待つ間は、近くの人と話をして時を過ごします。話の大半は、生活の労苦やどのように貧困から抜け出せるかといった話題で、時には危険についても話します。

通りや市場に集まる人の中にも末日聖徒がいます。末日聖徒が出会う人たちと交わす会話の多くは、どこでも耳にするような一般的なものです。「どこからいらっしゃいましたか。」「お連れの方は息子さんですか。」「お息さんは何人ですか。」しかし、末日聖徒にはある違いがあります。その言葉や表情に、何か際立つものがあります。末日聖徒は、質問の答えや相手本人を心にかけて、注意深く耳を傾けるのです。

会話がしばらく続くと、話題は双方にとって非常に大切な事柄へと移っていきます。幸福や悲しみをもたらすものについて、自分が信じていることを話すのです。そして現世と来世とに抱く希望へと話は発展します。末日聖徒は、その希望が確かなものであることを穏やかに語ります。そして常にではありませんが、時折このように尋ねられるのです。「どうしてそんなに穏やかでいられるのですか。」「あなたの言う確信はどのようにして得られましたか。」

そこで聖徒は静かに答えます。それは、天の御父と御子イエス・キリストが、少年ジョセフ・スミスに御姿を現されたことかもしれません。または、モルモン書に記されている、復活された救い主の愛に満ちた業、すなわち、わたしたちと同じように主に信仰と愛を示した、ごく普通の人々に対する主の業についてかもしれません。

市場や通りで霊的な事柄について話し合う、そのような会話を聞けば、皆さんはこう尋ねることでしょう。「どうすればそんなふうになれるのだろう。自分が抱いているこの気持ちをまだ味わったことのない人々に、より効果的に信仰を伝えるにはど



うしたらよいだらう。」これは会員一人一人に向けられた質問です。また、会員の中で伝道活動を導くよう任された、監督と支部長のだれもが抱く疑問なのです。そしてその答えは、これから訪れようとしている刈り入れの核心となるものです。

わたしは、救い主とその教会についてすばらしい証をする人々に、注意深く、祈りの気持ちで注目してきました。実に忠実な人々です。その模範は霊を鼓舞してくれます。ある謙虚な男性が、小さな支部の支部長に召されました。しかし会員はほとんどいなかったため、どのように支部を運営していけばよいか分かりませんでした。そこで、祈るために森に入り、どうすべきか神に尋ねたのです。答えを受け、この支部長は会員とともに、友人を教会に招待し始めました。1年のうちに、何百人という人々がバプテスマの水に入り、

主の教会にあつて聖徒たちと同じ国籍の者となったのです。

知人の中にはほぼ毎週仕事で出張をする男性がいます。この男性が出張中に会った人を、今日も世界のどこかで宣教師が教えています。別の男性は、宣教師から福音を学びたいと願う人に会えるまで、どれほど多くの人に話しかける必要があってもくじけません。断られた回数ではなく、生活が変わった人々の幸福だけを心に留めているからです。

こうした人々の行動に単一のパターンはありません。共通の手法もありません。だれかに手渡そうと常にモルモン書を持ち歩いている人もいれば、宣教師に紹介できる人を見つける日の目標を設定している人もいます。人生で最も大切なことについて人々に考えさせるために質問を幾つも用意している人もいます。それぞれ

が、何をすべきか分かるように祈っています。そして一人一人が、自分自身と出会う人々に適した、別々の答えを受けているようです。

しかし、似ている点もあります。共通の方法で、自分は何者であるかを理解しているのです。この知識によって、靈感で促されたことを実行できるのです。促されたことを行うには、少なくとも二つの点でこの人々ようになる必要があります。第1に、このような人々は、自分が愛にあふれた天の御父の子供であり、愛されていると感じています。そのため、祈りを通して容易にそして頻繁に、御父に心に向けられるのです。また、御父から直接導きを受けられると信じています。完全な親である御方の子供として、柔和で謙虚な心で従っています。御父がそばにおられるのです。

第2に、復活されたイエス・キリストの弟子であることを喜んで、贖いが現実のものであり、すべての人に必要であることを知っているのです。また、権能を持つ者からバプテスマを施され、聖霊を受けたことにより清められたと感じています。平安を味わい、モーサヤの息子たちのようになっているのです。「モーサヤの息子たちは、救いがすべての造られたものに告げ知らされることを願った。彼らは、だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかったからである。まことに、無窮の苦痛を受ける人がいると考えただけで、彼らは震えおののいた。」²

回復された福音を、しばしば容易に語る人々は、福音が持つ意義を重んじています。その偉大な祝福についてよく思い巡らしています。授かった祝福をいつも心に覚えているからこそ、人にも祝福を受けてほしいと熱心に願うのです。救い主の愛を感じたことがあります。彼らにとって福音は日常に密着したものであり、現実のものなのです。

「愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしめが伴い、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである。わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったか

らである。』³

真の弟子としてそのような愛を感じていても、時折、不安になることがあります。使徒ヨハネはそれをはっきりと理解していました。愛が全うされる時、恐れは消え去るのです。わたしたちは完全な愛という賜物を求めて祈ることができます。わたしたちや出会う人々を救い主が愛しておられ、その愛を感じられるという確信をもって祈ることができるのです。救い主は、わたしたち自身や出会うすべての人を愛しておられます。主はすべての罪の代価を支払われるほど、人々を愛されました。それを信じるのは大切なことです。しかし、それにも増して重要なことは、御子の犠牲をひとときも忘れないよう心を改めることなのです。救い主の愛を感じられるよう祈りなさいという戒めは、約束でもあります。次の言葉に耳を傾けてください。

「したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。慈愛はいつまでも絶えることがないからである。したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

しかし、この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現される時に、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。』⁴

主は、真の弟子に信頼を置かれます。そして、備えのできた人々を、備えられた僕のもとに送られます。だれかに会ったとき、この出会いは偶然ではないと感じた経験が皆さんにもあることでしょう。わ

たしにもあります。

友人の一人は、福音を受け入れる備えのできた人に会えるよう毎日祈っています。そしていつもモルモン書を持ち歩いているのです。最近のことですが、ある短い旅行に出る前の晩、その友人はモルモン書の代わりに「パス・アロング・カード」を持って行くことにしました。しかし翌朝、「モルモン書を持って行きなさい」という霊的な導きを受けたのです。そこでかばんに1冊入れておきました。飛行機に乗ると、顔見知りの女性が隣に座りました。友人は、「この人だろうか」と思い巡らしました。そして帰りの飛行機でもその女性と一緒に、「どうやって福音の話を持ち出したらよいだろうか」と考えました。

ところがその女性の方から話しかけてきたのです。「あなたは教会に什分の一を納めているそうですね。」友人はそのとおりだと答えました。彼女は、自分の集まっている教会に什分の一を納める必要があったが、そうしなかったと言いました。そして、こう尋ねてきたのです。「ところで、モルモン書はどのような本ですか。」友人はそれが聖典で、イエス・キリストについてのもう一つの証であり、預言者ジョセフ・ミスが翻訳したことを説明しました。この女性は興味を持ったようでした。そこで友人はかばんに手を伸ばすと、こう言いました。「わたしは、この本を持って来るよう導きを受けました。たぶんあなたに渡すためだったのでしょう。」

女性はモルモン書を読み始め、別れ際にこう言いました。「二人でこのことについてもっと話す必要がありそうですね。」友人は知る由もなかったのですが、この女性は教会を探していたのです。もちろん神は御存じでした。彼女がこの友人を注意深く見ていて、教会のどんなところが彼をあれほど幸福にしているのだろうかと思っていたことを、神は御存じだったのです。神は、彼女がモルモン書について尋ね、宣教師から喜んで福音を学ぶことも御存じでした。この女性には備えができていました。友人もそうです。皆さんもわたしも備えられるのです。

皆さんのふさわしさと望みは、輝きとな

って面影に表れます。主の教会とその業に奮い立ち、それが表情を輝かせるのです。こうして、四六時中、あらゆる状況で主の弟子となるのです。これを最後に一度だけだれかに福音を伝えようと勇気を振り絞る必要はなくなります。大半の人が回復された福音に興味を示さないという事実も、言動にほとんど影響を及ぼさなくなります。自分の信条を話すことが、生活の一部となるのです。

わたしの父もそのような人でした。父は科学者で、世界各地で聴衆を前に講義をしました。かつて、父が大きな科学の学会で行った講演の記録を読んだことがあります。その中で父は、自分の科学理論を話すに当たって、創造と創造主について触れたのです。聴衆の中には、自分の信仰について話した学者などほとんどいませんでした。わたしは驚きと称賛の気持ちを込めて父に言いました。「お父さん、学会で証をしたんだね。」父は驚いた表情でわたしを見ると、こう言いました。「ほんとうかい？」

父は、自分が勇敢であるときえ感じていませんでした。ただ、真実だと知っていることについて率直に話したけなのです。父の証を拒んだ人たちにも、父が巧みに仕組んで証をしたわけではなく、信条の一端が口をついて出ただけなのだということが分かりました。父はどこにいても同じように振る舞いました。

それは雄々しく効果的に福音を伝えていくすべての人の特質です。愛に満ちた、生ける天の御父の子供として自分をとらえ、イエス・キリストの弟子であることを理解しています。祈るために特別な努力は要しません。自然にそうしているのです。また、救い主を覚えるのに特別な努力は要らないのです。主からの愛、そして主への愛が、常にともにあります。彼らはこのような人々であり、自分自身や周りの人をこのようにとらえているのです。

大きな変化を求められているように思うかもしれませんが、しかし、そのような変化が訪れると確信することができます。会員一人一人のそのような変化は、全世界の教会で起こりつつあります。今は、創



世の時代から預言者によって予見された偉大な時代なのです。回復された福音はすべての国に行き渡るでしょう。救い主は預言者ジョセフ・スミスに次のように語られました。

「わたしは、永遠の福音を携えて天のただ中を飛ぶ天使を遣わした。この天使はすでにある人々に現れて、それを人間にゆだねた。また、彼は地上に住む多くの者に現れるであろう。そして、この福音はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に宣べ伝えられるであろう。」⁵

どのような試練に直面しようとも、神はその試練に上限を設けてくださり、御自身の約束を果たされます。人々ではなく神御自身が、その目的を成就させるために国々や出来事を最終的に管理しておられるのです。すべての国民、そして国々の中に、自分は神の子供であるという絶対的な確信をもって奉仕する改宗者、復活されたキリストの清い弟子となる人々が現れることでしょう。

数年前、日本の宣教師訓練センターで宣教師に話をしました。そのときわたしは、日本に大いなる日が訪れることを約束しました。回復された福音の証を、出会う人々に熱心に語って聞かせる会員が著し

く増えると語ったのです。そのときは、日本で教会に対する称賛が高まることで、福音を伝える勇気が得られるようになるのだらうと思いました。今、その偉大な奇跡、大きな変化が、会員の周りではなく、会員の心の中に起きることを確信しています。

日本をはじめ世界中の会員は、大きな心の変化を経験することで、人々に愛を示し、耳を傾け、語り、証をするようになるでしょう。支部長と監督は、模範によって会員を導くでしょう。魂の刈り入れは大いなるものとなり、それは主の御手によって守られるでしょう。⁶

皆さんがこの奇跡の一部となるには、天の御父を身近に感じるまで、あるいはイエス・キリストの贖いを通じて清められたと確信できるまで、待ってはいけません。生活を改善できると感じている人々に出会う機会を祈り求めてください。そのような人を助けるために、何を必要があるか祈ってください。皆さんの祈りはこたえられます。主が備えられた人々に会うことでしょう。これまでにないことを感じたり、話したりするでしょう。やがて、自分が天の御父に近づいていると感じ、救い主が忠実な証人たちに約束

された清めと救しを感じるのです。そして、主が託された務めを成し遂げたことを知り、主が認めてくださるのを感じることでしよう。主が皆さんを愛し、信頼してくださるからです。

このような時代に生きられることを感謝しています。皆さんとわたしが、栄光に満ちた天の御父から愛されている子供であることに感謝しています。イエスはキリストであり、わたしと皆さんの救い主、そして出会うすべての人の救い主であることを証します。御父と御子は預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されました。神権の鍵は回復され、最後の偉大な集合が始まりました。それは真実なのです。

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 教義と聖約 88:81; モーサヤ18:9参照
2. モーサヤ 28:3
3. 1ヨハネ 4:18-19
4. モロナイ 7:46-48
5. 教義と聖約 133:36-37
6. 教義と聖約 50:41-42参照

求めよ、そうすれば、 与えられるであろう

七十人
クレグ・C・クリステンセン

イエス・キリストに近づくために信仰を行使し、全力を傾けていると、キリストが実際にどのような御方なのかをもっとよく理解できるようになります。



愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしの心にある思いと証を皆さんにお伝えするに当たって、主の御霊の導きのままにお話しできるよう祈っています。

非常に説得力があり深遠な、救い主からの勧めと約束は、「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」¹という簡潔な言葉で表されています。

求めるとは、その過程に祈りや嘆願が含まれますが、祈りや嘆願以上に奥深いものです。1度で終わる事柄ではなく、長い行程が必要です。わたしはよくこの過程を、大自然を横断する旅にたとえます。最終的にどこへ行くかとしているのかは分かっていますが、目的地を目指して歩き続ける一日一日の中に、様々な体験やほんとう

の意味での学習があるのです。

神にかかわる事柄を求めるなら、神の御前にへりくだり、求めているものは神の恵みによって与えられるということを心に留めなければなりません。また、愛にあふれる天の御父から、光と理解を直接授けられるように、思いや祈り、信仰、望みを集中しなければなりません。つまり、全精力を傾ける必要があるのです。

神からの答えを求める過程について説明すると簡単に聞こえますが、実際は個人的な努力が必要です。わたしたちはまず、神に一心に願い求める事柄について心の中でよく思い計り、熟考するようと言われています。² 深く思い巡らすことにより、物事が明確になり、靈感が与えられます。次に、謙虚な祈りを通して、考えや望みを天の御父に素直に打ち明けるようと言われています。キリストの御名によって求めるなら、また求めるものが正しいならば、そして「キリストを信じながら、誠心誠意問うならば」、神が「聖霊の力によって」それが真実であることを明らかにしてくださいと約束されています。わたしたちは聖霊の力によって、「すべてのことの真理を知る」ことができるからです。³

ところで、わたしたちは何を求めるべきでしょうか。

わたしたちは聖文から、「熱心に最善の賜物を求め」るべきであり⁴、知恵と理解を求め、「すべての必要なもの」⁵を用意すべきであると教えられています。また、

人々に奉仕するために自分自身のことは忘れ、「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」⁷を尋ね求めるよう命じられています。

同時に、この世の清くないものを求めることのないようにとも警告されています。⁸ ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこのように述べています。「この世には邪悪がはびこり、人々をそそのかしています。兄弟姉妹、そのようなものを遠ざけてください。取り除いてください。恐ろしい病気と同じように避けてください。それは皆さんを滅ぼす毒です。遠ざけてください。」⁹ アモス書にはこのように記されています。「善を求めよ、悪を求めな。そうすればあなたがたは生きることができる。またあなたがたが言うように、万軍の神、主はあなたがたと共におられる。」¹⁰

わたしたちが、何にも増してまず第一に求めるものは、「神の国と神の義」¹¹です。わたしたちは「唯一の、まことの神……と、[神]がつかわされたイエス・キリストとを知る」¹²を求めます。

「求めよ。そうすれば、与えられるであろう」という招きの最も個人的なものは、救い主の次の言葉に表れています。「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。」¹³

では、救い主を見いだすとは、どのような意味でしょうか。

イエス・キリストに近づくために信仰を行使し、全力を傾けていると、キリストが実際にどのような御方なのかをもっとよく理解できるようになります。キリストを熱心に求めるときに、キリストのたぐいえない愛、完全な生涯と模範、大いなる贖いの犠牲から得られる祝福について、深く揺るぎない証を得ることができます。キリストに近づいて行くと、まことの意味でキリストを見いだし、キリストが地球の創造主であり、人類の贖い主であり、御父の独り子であり、王の王であり、平和の君であることを実感できるようになるのです。

深く求めれば求めるほど、旧約時代の偉大なエホバとして、また新約時代の聖



なるメシヤとして、キリストが果たされた役割の真の価値が理解できるようになります。また、救いと昇栄に関するキリストの永遠のメッセージがさらに深く理解できるようになります。主が今でも、従って来るよう招いておられることや、主の教えが確かであり、過去のいつの時代にも応用できたように、現在にも応用できるということが見いだせます。ゲツセマネとカルバリで起きた出来事の価値をいっそう深く理解できるようになります。キリストは不当に罪を着せられ、刑罰を言い渡されましたが、御自分の命を進んで差し出し、自らの預言の成就として3日目によみがえられました。このかけがえのない贈り物はすべての人に不死を、そして従順で忠実な人には永遠の命をもたらすのです。

主のメッセージが過去も現在も、あらゆる地に住むあらゆる人に向けられたものであることが理解できるようになると、わたしたちは主が古代アメリカ大陸の民を訪れられたという聖文の記録を、大いなる喜びをもって受け入れるようになります。世の救い主、贖い主であるメシヤの使命について証する第2の書、すなわちもう一つの証の書であるモルモン書の出現に歓喜の声を上げるようになるのです。モルモン書を調べ、モルモン書について祈ることによって、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができると分かるよう

になります。¹⁴

主を見いだすことを願い求めるなら、主御自身が天の御父とともに少年預言者ジョセフ・スミスを訪れて待望の「時満ちる神権時代」の幕を開かれた¹⁵ということについて、証を受けることができます。

主を求めるなら、主が御自身の教会、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会を地上に回復されたことや、人が再び主のみもとに戻り主とともに住むために必要な儀式を施す力と権能を、御自身の教会に授けられたことが分かるようになります。

主を求めるなら、主が生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長を通して御自身の教会を引き続き導いておられること、主の教会の組織が「キリストご自身」を「隅のかしら石」¹⁶とし、使徒と預言者という土台の上に建てられていることを見いだすことができます。

主を熱心に求めるなら、主がわたしたちを愛しておられることを感じ、わたしたちの祈りに対して答えを与えてくださることをいっそう明確に理解できるようになります。主の御霊によって「知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ」¹⁷見だし、主の戒めと指示に従って生活したいという望みが増すのです。

主を求めるなら、主が「世の光であり命であられる」¹⁸ことを見いだします。兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは主を求める

とき、まことに主を見だし、主が約束しておられる心の平安を味わいます。わたしはこのことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. マタイ7:7;3 ニーファイ14:7
2. 教義と聖約9:7;モロナイ10:3参照
3. モロナイ10:4-5
4. 教義と聖約46:8
5. 教義と聖約109:7-8
6. ルカ17:33参照
7. 信仰箇条1:13
8. 3ニーファイ20:41;ジョセフ・スミス訳マタイ6:38参照
9. *Teachings of Gordon B. Hinckley*(1997年), 709
10. アモス5:14
11. マタイ6:33
12. ヨハネ17:3
13. 教義と聖約88:63
14. ジョセフ・スミス, *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 194参照
15. エペソ1:10参照
16. エペソ2:20
17. 教義と聖約89:19
18. モーサヤ16:9

命の糧となる言葉

七十人

ジェームズ・M・ダン

人生の真の目的を常に念頭に置いて困難を乗り越えていくとき、現世と来世にわたり祝福を受けます。



この世は言葉に満ちています。その多くは辛辣で非難がましく、皮肉めいたものです。これらは意味のない無益な言葉であり、わたしたちはそうした言葉に耳を傾けたり、真剣にとらえたりはしません。そして時折、このような騒音の中で価値ある言葉を耳にするのです。それは、この大会で聞くような、命の糧となる言葉です。

トーマス・S・モンソン副管長は、1988年4月の大会でこう述べました。「次の靈感あふれる思想を、心に留めておきたいものです。

『神は御父であり
人類は兄弟である。
人生は単なる業ではなく、
使命なのだ。』

(「昇栄への招き」『聖徒の道』、1988年6月号、54参照)

これこそ命の糧となる言葉です。

神は天の御父であり、わたしたちは御父の霊の子供です。神との関係を知ることで、自分はどこから来て、どのような永遠の可能性を持っているのか、さらに理解することができます。また、天の御父を知ることで、どうすれば御父に近づけるのか、どうすれば御父のお喜びになる人生が送れるのかよく知ることができます。地上での生活は、御父がお立てになった幸福の計画の一部です。地上は、わたしたちが信仰によって歩み、経験を積み、従順と贖いの力を通して神のみもとに戻るふさわしさを身に付けるために与えられているのです。

この世界は、異なる土地、文化、人種、言語など、多様性に富んでいます。これは、少なくともある程度、神の意図によるものであると考えるべきです。違いはあってもわたしたちは皆、同じ神の子供であると福音は教えています。人類は一つの家族であり、わたしたちは皆兄弟姉妹なのです。

わたしたちは兄弟姉妹として、この世の善良な父親が皆そうであるように、天の御父が御自分の子供たちを等しく愛しておられるということを知る必要があります。礼節、親切、寛容、救済は、家庭で当然求められる振る舞いを築き上げます。完全に愛に満ちた御父が、互いに悪感情を抱いている子供たちを御覧になったときの落胆ぶりを想像してみてください。

人生とは短いものです。「あなたがたは、しばしの間あらわれて、たちまち消え行く霧にすぎない。」(ヤコブの手紙4:14) 現世におけるこの貴重な時間にすべきことはた

くさんあります。中には、ほかの事柄よりも重要なものがあり、思慮深く決断を下さなければなりません。明らかに間違っているものや、あるいはすばらしいものがあります。しかし、御父の期待に添い、試しの生涯を全うしようとするときに、きわめて高い重要性を持つものがあるのです。

御父が望んでおられることは、単に生計を立てる手段を見いだすことや、地球の美しさやすばらしさに浸ることを超越したものです。それでも主は、はっきりとこうおっしゃっています。「神はこれらのものをすべて人に与えたことを喜んでいて、この目的のためにこれらのものは、思慮分別をもって、度を越さず、貪欲に取ることなく使うように造られたからである。」(教義と聖約59:20)

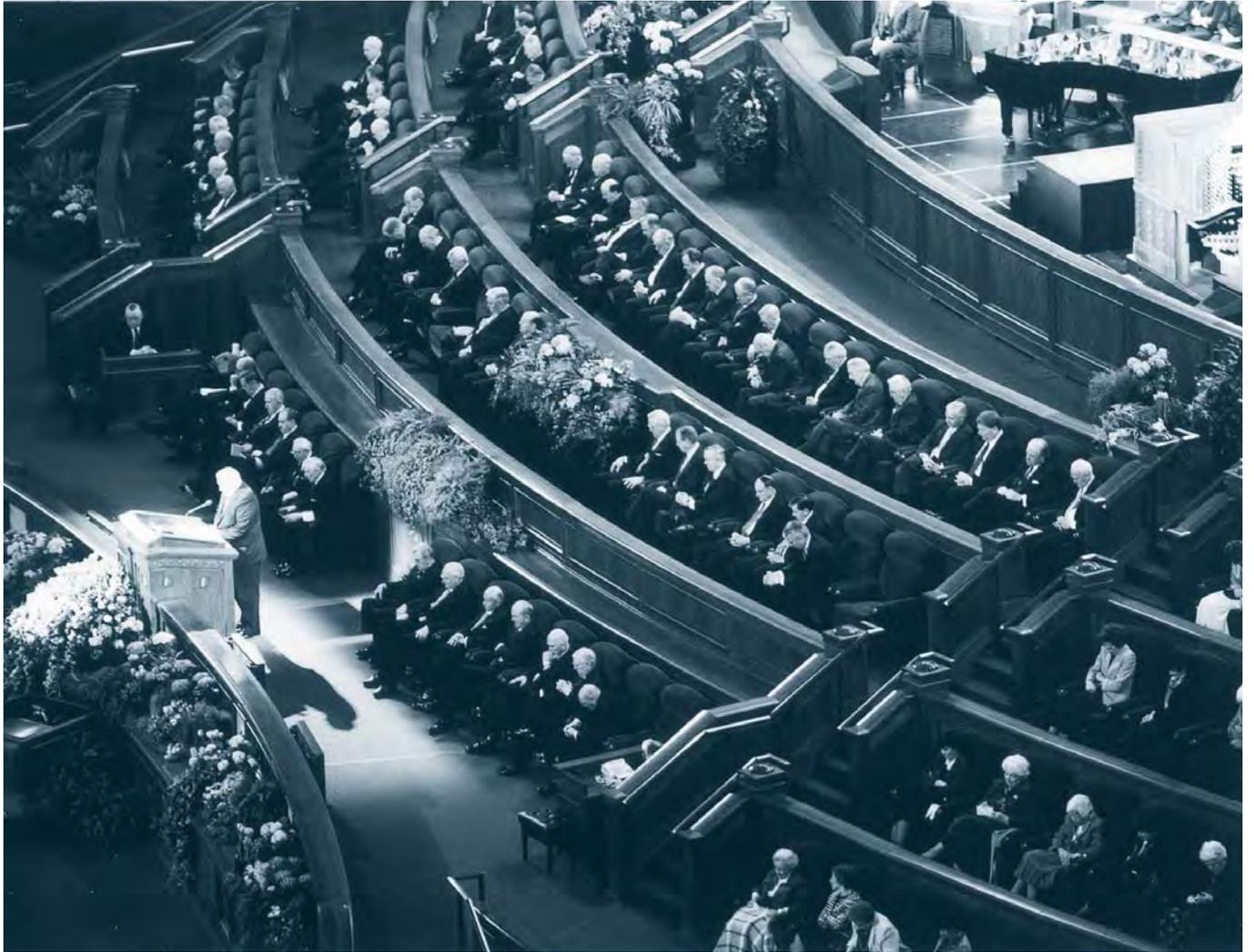
人生の真の目的を常に念頭に置いて困難を乗り越えていくとき、現世と来世にわたり祝福を受けます。戒めに従順になり、聖約を守り、「熱心に善いことに携わ」ることで(教義と聖約58:27)、地上に存在する目的である喜びを得ることができるのです(2ニーファイ2:25参照)。

さらに主はこう約束されました。「しかし、義の業を行う者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受けるということを知っておきなさい。」(教義と聖約59:23)

地上における使命は、この世での職業とはまったく関係がありません。永遠の行く末に備えることと深くかかわってくるのです。

わたしは、福音に従って生活することにより、わたしたちに命をお与えになり、永遠の命へと迎え入れてくださる御父のみもとに帰ることができると証します。

神の子供たちの多くは、まるで明日という日がないかのように、裁きの日が訪れないかのように毎日を送っています。人生を快適さと利益、そして楽しみを追い求めることのためにだけに費やしているのです。ニーファイはそのような人々についてこう言っています。「また、次のように言う者も大勢いる。『明日は死ぬ身なのだから、飲み食いし、楽しみなさい。そうすれば、わたし



大管長会、十二使徒定員会、七十人定員会、管理監督会、および補助組織会長会が、中央幹部の伴侶とともにカンファレンスセンターの壇上に着席している。

たちは幸せだ。』(2ニーファイ28:7)そして次のように結論づけてはその誤りを増大させているのです。『しかし同時に神を畏れなさい。神は少しの罪を犯すことは許してくださる。だから、少しばかり偽りを言い、人の言葉に付け込んで欺き、隣人を陥れる穴を掘りなさい。これは少しも悪いことではない。わたしたちは明日は死ぬ身なのだから、これらのことをすべて行いなさい。たとえわたしたちに罪があるとしても、神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで、結局わたしたちは神の王国に救われる。』(2ニーファイ28:8)

このような誤った考えの結果、この世はけげなくみだらなものであふれているのです。結婚を拒む若い男性。情欲を満たす関係を求めて愚かにも高潔さを手放す若い女性。子供を持つことを意図的に拒否

するか、持つとしても「一粒種」を望む夫婦。家族が冒険や余暇、または高収入を手に入れる妨げだと考えているからです。

しかし一方で、「神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きよう」と日々努力している忠実な兄弟姉妹が世界中に大勢います(教義と聖約84:44)。このような人々は、明らかにされた天の御父の御言葉に従って人生を計画し、生活しているのです。懸命に働いて、よく勉強し、熱心に祈ります。真剣になることと楽しむことの手だてを知っています。そして御言葉に聞き従い、犠牲の律法に従うことの意味と祝福を知っているのです。これらの忠実な兄弟姉妹は人々を助け、尊敬の念を示します。幼い子供たちや高齢者を愛し、世話をします。礼儀正しさと高い道徳心は彼らのしるしであり、家庭や近隣、地域社会では模

範によって人々を導いています。神はこのように人々を愛し、祝福されます。彼らにとって神の御言葉は命の糧であり、「確かであり、果たされないことはない」のです(教義と聖約64:31)。

命の糧となる言葉。多くの場合、それは簡潔で的確なものです。この言葉を通して、わたしたちは神を覚え、正しい道にとどまることができます。そして天の御父とその安息に戻ることができるのです。

次のことを忘れないでください。

「神は御父であり
人類は兄弟である。
人生は単なる業ではなく、
使命なのだ。」

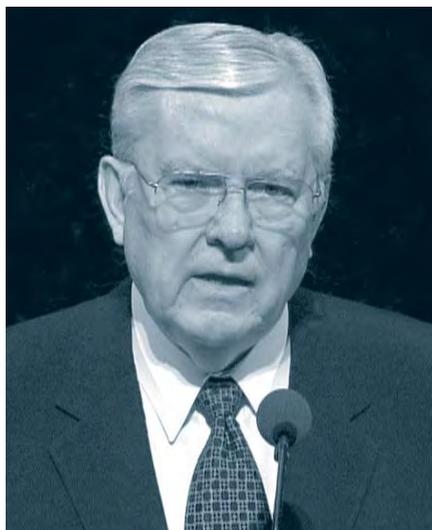
イエス・キリストの御名により、アーメン。

会員伝道のきわめて重要な役割

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

宣教師が、回復のメッセージを受け入れる天の御父の子供たちを見いだす助けをするには、わたしたち自身が備えなければならないのです。



兄 弟姉妹の皆さん、キリスト教徒の世界において、復活祭は主であり救い主であるイエス・キリストの復活に心を傾け喜ぶ時です。この出来事がすべてを永遠に変えました。救い主は、愛に満ちた天の御父のみもとへ戻る道をふさいでいたあらゆる障害を取り去ってくださいました。そして、その代わりに主はこのように求めておられます。「行って、すべての国民〔に〕……父と子と聖霊との名によって……バプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28：19-20)

ヨハネによる福音書には、同様のメッ

セージがより一人一人に向けられたものとして記されています。ガリラヤの湖畔でイエスはペテロに3度尋ねられました。「あなたは……わたしを愛するか。」ペテロの答えは3度とも同じでした。「わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです。」そして、その度に救い主はペテロにこう指示されたのです。「わたしの小羊を養いなさい。……わたしの羊を飼いなさい。……わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ21：15-17)

救い主が熱心に命じられた「〔主〕の羊を養いなさい」という責任（みこころ）は今日でも生きています。いにしへのペテロやその同僚たちのように、現代の主イエス・キリストの使徒にも全世界に福音を伝えるという責任があります。この責任が頭から離れることはまずありません。すべての中央幹部は宣教師としての責任があるのです。

しかし救い主は、使徒だけに語られたものではありません。福音を聞く機会に恵まれたすべての人や、主の教会の会員にも語られたのです。預言者ジョセフ・ミスにお与えになった啓示の中で、主はとても簡潔な言葉で次のようにおっしゃいました。「警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない。」(教義と聖約88：81)

わたしたちは前回の総大会で、主イエス・キリストに仕えるためにさらに努力するよう若い男性に求めました。ふさ

わしく、条件を満たし、霊的な力にあふれる宣教師になるようお願いしたので。不安定な世界情勢の中にあっても、彼らは「教会史上最高の宣教師」となる必要があります(M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号、47参照)。完全になることを期待しているわけではありません。しかし、福音の教師として新たな霊的水準に達するために、熱心に、喜んで、そして献身的に仕える必要があります。回復されたイエス・キリストの福音のメッセージを知り、聖霊の導きにより力を受けて、それを自分の言葉で教える必要があるのです。

すべての宣教師が霊的にさらに成熟するよう、教会では懸命な努力が払われています。この世界中の働きは「基準を高める」または「標準を引き上げる」と言われています。わたしたちはご両親、監督、ステーク会長の皆さんの協力に感謝しています。また教会の忠実な青少年が、進んで主の標準に従っていることに感謝します。この混乱した世界にあって、天の御父に仕えるために備える皆さんが、引き続き祝福されますよう願っています。

宣教師の働きに対してさらなる期待をかけるのと同時に、宣教師の義務を果たすすべての教会員の働きに対しても同様の期待をかける必要があります。兄弟姉妹の皆さん、宣教師がさらに多くの天の御父の子供たちを見だし、バプテスマを施せるよう支え、協力するためには、皆さんの助け（しんぐ）が必要です。皆さんには、主の僕である宣教師を見守り、保護し、励ましていただくなくてはなりません。宣教師の標準が引き上げられるのであれば、わたしたちにも同じことが言えるのです。忠実さがさらに求められます。さらに霊性に磨きをかける必要があります。宣教師が、回復のメッセージを受け入れる天の御父の子供たちを見いだす助けをするには、わたしたち自身が備えなければならないのです。

兄弟姉妹の皆さん、忘れないください。わたしたちは商品の宣伝をしているのでもなければ、何かを売っているので



もありません。数字や発展の度合いでどれかを感じさせようとしているのでもないのです。わたしたちは回復されたイエス・キリストの教会の会員です。主御自身から権限を与えられ、真理を求めすべての人を見だし、養い、主の教会に無事に連れ戻すよう世に送り出されたのです。

そうした永遠の観点から見ると、わたしたちがなすべきことはとても簡単で、明快です。しかし、会員伝道が努力を要する、時には恐ろしい経験であることも承知しています。神から命じられたこの責任のためにできることを3つ提案したいと思います。

第1に、信仰を働かせ、回復されたイエス・キリストの福音を伝える方法を見いだせるよう、個人や家族で祈らなくてはなりません。道が開かれるよう主に祈り求めてください。また、だれかを家に招いて宣教師が教えられるように、祈りをもって家族と目標の日付を設定してください。兄弟姉妹の皆さん、忘れないで

ください、これは主の教会です。絶えず祈り、主の導きを受けてください。心で祈りながら、できるかぎり多くの人と話してください。初めから決めつけてはいけません。よきおとずれをだれからも奪わないでください。すべての人に声をかけ、言うべき言葉を与える約束された御霊の力を信じてください。皆さんの招きに応じるか、拒むかは、相手が決めることです。そのうちに主は、真理を求めている人と合わせてくださるでしょう。主は良い羊飼いです。主は御自身の羊を御存じます。そして羊は、皆さんを通して語られる主の御声が分かります。彼らは主に従うでしょう(ヨハネ10章参照)。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は最近このように述べました。「わたしたちの民が世界中の宣教師のために祈るだけでなく、ワードで働く宣教師を自分が援助できるよう主に助けを求めるとき、すばらしいことが起こるでしょう。」(「伝道活動」『第1回世界指導者訓練集会』2003年1月, 19)

2番目に、指導者は模範によって導く必要があります。このメッセージに関心を持つ人々を見いだせるよう、御霊は皆さんを促し、道を示すでしょう。皆さん一人一人がふさわしさを身に付けていれば、宣教師を熱心に助けるよう会員たちを励ます勇気と霊的な力が与えられます。

何年も前、忠実な改宗者であるジョージ・マクラフリン兄弟が、メイン州ファーミンデールで会員20人の小さな支部の支部長に召されました。マクラフリン兄弟は謙遜な人で、牛乳を運搬するトラックの運転で生計を立てていました。断食と熱心な祈りにより、地域で教会が発展するために、会員とともに何をすればよいのか御霊によって知ったのです。確固とした信仰と、継続した祈り、力強い模範によって、マクラフリン兄弟はどのように福音を伝えたらよいか会員たちに教えました。これはすばらしい話です。この神権時代における最も偉大な伝道の話です。ほんの1年間で、450人の改宗者がこの支部でバプテスマを受けたのです。

翌年もさらに200人の改宗者がバプテスマを受けました。マクラリン支部長はこのように語っています。「支部長としてのわたしの仕事は、〔新しい改宗者に〕モルモンになる方法を教えることでした。教会でお話やレッスンをする方法を教えなければなりませんでした。そして彼らが自分の子供に福音を教える方法も伝えなければなりませんでした。わたしは新会員が強い会員になるよう訓練しました。」とても簡単なことです。

その5年後、メイン州オーガスタステークが組織されました。この新しいステークの指導者は、大半がファーマンデール支部の改宗者でした。どうしてこのような成功が当時見られたのか不思議に思うかもしれませんが、それは、教会を強める必要性が切迫していたからだと言えます。その緊急性が、教会のすべてのユニットにおいて今日も変わらないことを皆さんにお伝えしておきましょう。

大管長会および十二使徒定員会は、伝道活動がワードの中心となるべきであると明言しました。ステーク会長および監督は、会員が心の清い人を見いだし、バプテスマおよびワードやステークでの奉仕に備えられるよう助ける責任と報告義務があります。さらにヒンクレイ大管長はこう述べました。「教会のすべての監督が会員たちに一つのモットーを掲げることが提案したいと思います。それは『ワード発展のために全員で働こう』ということです。」「子羊を見いだし、羊を養う』『リアホナ』1999年7月号、122)

ワシントン州のある監督は祈りの気持ちでこの勧告に従いました。このようにしているのです。ワード評議会では、神権指導者および補助組織の指導者によりワードの伝道が調整されています。宣教師はワード評議会では伝道について話すように招待されています。また会員たちは、宣教師とともに求道者を訪問するよう割り当てられています。さらに会員と宣教師は、あまり活発ではない会員や家族全員が教会員ではない人々とともに訪問しています。昨年、このワードでは46人の新会員がバプテスマと確認の儀式を受け、

その多くが定着しています。新会員や教会に再び活発になった人々には、すでに友人がいます。それは、ワード評議会が監督から指示を受けた神権者および補助組織が、改宗の段階からかかわっているからです(“Ward Council Is Secret of Centralia Ward Success,” *Church News*, 2003年2月1日付, 5参照)。

監督の皆さん、ワード全体が福音を宣言することに携わるようにしてください。主は、さらに多くの改宗者と再び活発になる会員を通して、皆さんとワードの会員を祝福してください。伝道はワード評議会だけの議題ではなく、長老定員会や扶助協会、そのほかの定員会、グループ、補助組織においても議題となる必要があります。特に強調すべき点は、両親が子供たちとともにバプテスマを受けて活発な状態を保つことです。そのためワード伝道主任と監督は、ワード評議会が神権指導者および補助組織指導者の伝道活動を調整する必要があります。こうすることで、改宗者はワードにおいて完全に活発な会員となるのです。

現在、会員は『エンサイン』(*Ensign*) 2003年4月号の付録である『キリストを信じる信仰を見い出す』(*Finding Faith in Christ* [英語]) というDVD (訳注—このDVDは合衆国、カナダ、イギリス、オーストラリア、およびニュージーランドの『エンサイン』購読者のみに配付されています) を用いて、福音を分かち合う特別な機会があります。復活祭の時期に近所の方や友人を夕べに招いて、主イエス・キリストの生涯とその務め、栄えある復活について紹介してください。そして宣教師を招待し、主が預言者ジョセフ・スミスを通してどのように御自身の教会を回復されたか教えてもらうのもよいでしょう。

3番目に、伝道には戦略や作戦は必要ありません。信仰を必要としているのです。主への真の信仰と信頼です。また純粋な愛を必要としています。第1の偉大な戒めはこうです。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』……第2もこれと同様である、



『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』(マタイ22:37, 39)

ですから、家族、友人、隣人、仕事仲間、また人生で出会う人々に福音を分かち合うときに、愛の力によって導かれるようにしてください。多くの人は平安と幸福を味わいたいと願っています。それは人間の自然な望みです。人々は直面している問題への答えを見いだしたいのです。わたしたちが生きる世界において、これはますます確かなものとなっています。

昇進や収入の増加、もっと大きな家や新しい車、またレジャー用品などは、永続する平安と幸福をもたらしてはくれません。幸福は、神を理解し、神がわたしたちの永遠の喜びと平安のために計画をお持ちであると知ることで得られるのです。また幸福は、救い主を知り、愛し、主の教えに調和した生活を送ることで得られます。幸福は、福音の価値観を基とした強い家族と教会のつながりから得られるのです。

このように言う会員もいます。「だれか

の気分を害するかもしれないので、福音を伝えることを恐れています。」経験から分かることは、愛と関心によって伝えるのであれば、気分を害する人はいないということです。「教会から助けられていることに喜びを感じます。」このような言葉と、御霊の導くままに語られた言葉を耳にして、気分を害する人がいるでしょうか。しかし、わたしたちがいかに割り当てをただ果たしているだけといった態度を執り、ほんとうの関心や愛を示さなければ、気分を害してしまうでしょう。兄弟姉妹の皆さん、決して忘れないでください。皆さんもわたしも、人々を主に導く真の教義を知っているのです。イエス・キリストの回復された福音自体に、真実不変の幸福を人に与える力があるのです。それはこれから先、永遠にわたって尊ばれ、大切にされるものなのです。わたしたちは単に人々を教会に加入させているわけではありません。イエス・キリストの完全な回復された福音を伝えているのです。しかし、このメッセージがいかに力強いものであっても、それを人に押しつけたり強要したりすることはできません。ただ心から心へ、魂から魂へ、霊から霊へ伝えることができるのです。善き隣人となり、心を配り、愛を示さなければなりません。互いに関心を示し、手を差し伸べる必要があるのです。それによって、福音を生活の中で輝かせることができます。その輝きが、福音の与える祝福を人々に伝えるのです。

預言者ジョセフ・スミスの勧告に従いましょう。「結局のところ、最も偉大で最も重要な義務は福音を宣べ伝えることです。」(History of the Church, 第2巻, 478)

兄弟姉妹、わたしたちはもっと良い働きをすることができます。そうしなければならぬのです。専任宣教師は、世界中の神のすべての子らに、回復された福音を宣べ伝えています。その働きをさらに推し進めるために、神がわたしたち一人一人に信仰と勇気を与えてくださるようお祈りします。イエス・キリストの御名により、アーメン。

家族の大切さ

十二使徒定員会

L・トム・ペリー

この1年を通して、福音を中心とした家庭を築くことを決意することができるように願っています。逆境という嵐からの避け所となるような家庭を築いてください。



混 乱と不安の世の中にあって、家族を生活の中心とし、最優先させる必要性が今までに増してきています。家族は御父の計画の中心を成すものです。『家族——世界への宣言』には、家族における両親の責任について次のように宣言されています。

「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜った嗣業であり』(詩編127:3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。」¹

最近行われた大管長会との幾つかの集会の中で、大管長会は家族が衰退していることを心配しました。そこで大管長会は、神権役員評議会に、様々な割り当ての中で家族に焦点を当てなければならないと指示しました。〔訳注——神権役員評議会は、十二使徒定員会、七十人会長会、管理監督会の代表が構成する。聖徒を完全な者にするための働きに主眼を置いている。〕

大管長会の要請にこたえるために、すでに多くの計画と働きが実行に移されています。わたしたちはあらゆる手段を使って、主が特別に定められた単位である「家族」が、よりいっそう調和し、愛に満たされ、ともに感化し合えるようにしたいと願っています。

家庭を嵐からの避け所とする必要があります。この嵐は至る所で激しさを増してきており、たとえわずかばかりの透き間であっても、そのまま放置していれば、悪の力が家庭の中に進入して来ます。一つの例をご紹介します。

数年前、娘家族と夕食を共にしました。それは多くの家庭に見られる光景で、小さな子供たちも一緒でした。娘は3歳になる自分の息子に、好き嫌いなく食べさせようとしていました。孫は好きなものばかり食べていて、小さく盛られたサヤインゲンを残していました。あまり好きではなかったのです。万策尽きた母親はフォークを手にとってサヤインゲンを食べさせようとしたのですが、息子は決して口を開こうとしませんでした。そしてこう大声で言ったのです。「ママ、友達は大切にしない



といけないよ。』

それは、その子が数日前にテレビコマーシャルで耳にした言葉でした。宣伝広告やテレビ番組、インターネット、そのほかのメディアは個々の家族にどれほど影響を及ぼしているのでしょうか。

両親である皆さんは、家族を導く必要があることを忘れないでください。

家族の責任を果たせるように、神権指導者や補助組織指導者からだけでなく、教会公式ホームページやテレビ番組からも様々な援助手段が提供されています。

世界の幾つかの地域では、民放テレビ局が放送している家族にとって好ましくない番組の代わりになるものがあります。BYUテレビという放送局があり、家族向けの番組を放映しているのです。福音を教える番組もありますし、親の務めについて教える番組や、家族で楽しめる番組もあります。家族をテーマに構成しているテレビ広告「ホーム・フロント」についても、より質の高いものをもっと頻繁に流していきたいと考えています。

このほかにも、テレビより広い地域を網羅するために教会公式ホームページ、lds.orgがあります。このサイトでは最近、「家庭と家族」のページを新たに加えました〔訳注——このページは英語で掲載さ

れています〕。家族を強めるための聖句に基づいたメッセージや指導者の言葉、また、家族の活動に関するアイデアも載せています。「家庭と家族」の新しいセクションには以下の事柄が掲載されています。

- 家族に焦点を当てた教会指導者の教え
- 家族の活動に関するアイデア
- 有意義で楽しい家庭の夕べを行うためにすぐに役立つヒント。
- 家庭の夕べをより充実させる、夫婦関係を強める、家族をより身近に感じるためのアイデアなどのテーマに関する記事

ホームページが更新される度に、家庭の夕べを計画するための新しいアイデアが掲載されます。この中には「神への信仰」〔訳注——日本語版はありません〕や「神への務め」「成長するわたし」プログラムで行う活動のための提案もあります。

すべての教会員のもとに情報を届ける手段として、教会機関誌があります。教会機関誌は家庭に定期的に届きます。機関誌は家族を強めるための情報を伝えるもう一つの重要な手段だと言えます。『エンサイン』(Ensign)と国際機関誌『リアホナ』3月号に、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長の家庭の夕べに関するメッセージがあることは、たぶん皆さん気づいていらっしゃるでしょう。

『わたしたちは、週に1度〔月曜日の夜に〕教会全体で家庭の夕べというプログラムを行っており、両親が子供たちと一緒に時間を過ごします。この時間には、家族で聖文を研究し、家族の問題について話し合い、家族の活動などを計画します。わたしは躊躇せず^{ちゅうちよ}に申しますが、世界中のすべての家族がこの一つのことを実行するならば、世界中の家族の結束に大きな違いが生まれることでしょう。』(インタビュー、Boston Globe、2000年8月14日付)²

家庭の夕べを奨励するヒンクレイ大管長の言葉に続いて、「召されていると気づかなかった召し」という題の次のような記事が紹介されています〔訳注——この記事は『エンサイン』にだけ掲載されています〕。

「子供がまだ幼かったとき、家庭の夕べはなかなか骨が折れました。夫とわたしは、家庭の夕べを定期的に開くようにとの末日の預言者の勧告を真剣に受け止めました。しかし教会の召しやほかの責任を抱えていたわたしたちは、月曜の夜になるとたいてい、実りある愛にあふれた家庭の夕べを計画するだけの時間と気力がないことに気づくのでした。

ある日曜日に初等協会を訪問しました。分かち合いの時間や音楽の時間では、物

語や視覚教材、そして短いながらも効果的な活動がたくさん用意されていました。そして、子供たちがその一つ一つに目を輝かせている様子に気づいたのです。また、召しのためによく準備している初等協会の指導者や音楽指導者の様子を見ながら夢中になって学びました。わたしはこう思いました。『この指導者たちが十分時間を取って愛をいっぱい込めながら準備したことは間違いないわ。与えられた召しの中で、何てすばらしい働きをしているんでしょ。』

そのとき、次のような思いが頭をよぎりました。『家庭の夕べはあなたの召しの一つです。それどころか、あなたにとって最も重要な召し、つまり母親の務めの一部分です。』わたしはその思いについて深く考えました。『会報の校正や訪問教師の召しを尊んで大いなるものとする時間を割けるのなら、家庭の夕べの召しを尊んで大いなるものとするのも当然できるはずだわ。』³

これを書いた姉妹は、非常にすばらしい考えを紹介してくれました。家族のために設けられたこの特別な夜のために、もっと効果的な計画を立てるよう励ましてくれます。

また、教会機関誌の6月号は、家族をテーマにしたものであることもお知らせしておきます。さらに、1年を通して『リアホナ』『エンサイン』『ニュー・エラ』(New Era)『フレンド』(Friend)に家庭で教えるための資料を掲載する予定です。また、家庭の夕べのための提案や、日常の教える機会に活用できるアイデアが盛り込まれることになっています。これらの記事は、家族で教える際に利用しやすいように書かれています。

こうした機関誌を通して、子供や青少年は、預言者の言葉や人々の模範を通して、両親を愛し敬うことの大切さを教わることができます。両親は、喜びのときにも困難なときにも家族のきずなを強め、維持する方法を学びます。教会機関誌にあるすばらしい御霊は、福音のぬくもりと愛と力強さで家庭を満たしてくれます。

『チャーチニュース』(Church News)も

家族に関するメッセージを広く伝えてくれます。『チャーチニュース』には、家庭を愛と尊敬の念で満たし、福音を実践し、健全な娯楽活動を計画するのに参考になるような記事が盛り込まれています。

教会全体を家族に焦点を当てた資料で満たすなら、もっと堅固ですばらしい家族を築こうとする教会員の支えと励ましとなることでしょう。このことが、永遠の家族を築くための意識的でたゆまぬ努力のきっかけになるようにと望んでいます。豊富にある教会書籍の中からは、効果的なアイデアを選ぶことができます。少なくとも、家族に関する記事を何度も目にするにより、主がこの地上に設立された最も大切な組織に焦点を当てなければならないことを思い起こすことができるでしょう。

主は、時の初めから、家族という組織の重要性を確立してこられました。アダムとエバがエデンの園を追い出されて間もなく、主は二人に次のように語られました。

「聖霊がアダムに降り、〔御父と御子のことを証された。〕」

その日、アダムは神をたたえ、満たされて、地のすべての氏族について預言し始めて言った。『神の御名がたたえられるように。わたしの背きのゆえに、わたしの目は開かれた。わたしはこの世で喜びを受け、再び肉体にあって神にまみえるであろう。』

彼の妻エバは、これらすべてのことを聞き、喜びながら言った。『わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。』

アダムとエバは神の名をたたえ、息子、娘たちにすべてのことを知らせた。』⁴

「ブリガム・ヤング大管長は、わたしたちの家族はまだわたしたちのものではないと述べた。主がわたしたちに家族を託されたのは、家族をどのように扱うかを見るためである。わたしたちが忠実であって初めて家族が永遠に与えられるのである。つまり、この世での行いが、天でも父母になるにふさわしいか否かを決定する

のである。』⁵

教会では、家族がともに過ごせるよう二つの時間を定めてきました。一つ目は安息日をふさわしく過ごすことに基づいています。安息日には通常の集会とともに集い、救い主と預言者の生涯と教えについて学びます。「日曜日には次のような活動も適切と言えます。(1)個人や家族の記録をつける。(2)家族評議会を開く。(3)家族や親戚との関係を培い、維持する。(4)両親と子供との個人面接を行う。(5)親戚や宣教師に手紙を書く。(6)系図作業を行う。(7)親戚や病気の人、孤独な人を訪れる。(8)伝道活動を行う。(9)子供たちに物語を読み聞かせる。(10)教会の賛美歌を歌う。』⁶

二つ目は、月曜の夜です。わたしたちは、よく計画した家庭の夕べで子供たちを毎週教える必要があります。月曜の夜には、家族全員、ほかのどのような活動にも参加すべきではありません。このあらかじめ指定された時間は、家族と一緒に過ごすためにあるのです。

大管長会が、家庭の夕べに特に重点を置いていることは、皆さんご承知のことと思います。1999年10月4日付けの大管長会のメッセージが、最近教会機関誌で繰り返されました。

「全世界の教会員各位

拝啓

月曜の夜は、教会全体で、家庭の夕べの時間として指定されています。会員の皆さんがこの時間を、家族のきずなを強め、家庭で福音を教えるために用いてくださるようお勧めします。

わたしたち大管長会は今年の初め、親である皆さんにこう呼びかけました。子供たちを福音の原則の中で教え育てることに全力を尽くしてくださるようお願いいたします。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。また、親である皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようにもお勧めしました。

可能ならば、月曜日の夜に結婚披露宴やほかの同様の活動を催さないよう、会

員の皆さんに切にお願いします。また実行可能な地域では、会員たちが地域社会や学校の指導者に対して、月曜日の夜に子供や親が外出しなければならない活動をしないよう要請するのもよいでしょう。

月曜の夜は、教会の建物や施設を閉鎖してください。ステーキやワードの活動も計画しないでください。このほかにも家庭の夕べを妨げるようなことは避けてください。』⁷

この1年を通して、福音を中心とした家庭を築くことを決意することができるよう願っています。逆境という嵐からの避け所となるような家庭を築いてください。主が御自身の子供たちに向けられた約束と教えをもう一度思い起こしましょう。

「神の栄光は英知である。言い換えれば、光と真理である。

光と真理はあの悪しき者を捨てる。……

そして、あの邪悪な者が来て、人の子から、不従順によって、また先祖の言い伝えによって、光と真理を取り去る。

しかし、わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。』⁸

この1年、わたしたちが家庭において福音の光と真理を享受できるように願っています。家庭が確かにこの世からの避け所となりますように。イエス・キリストの御名によってへりくだりお祈りします。アーメン。

注

1. 『リアホナ』1998年10月号, 24
2. 「家庭の夕べ」『リアホナ』2003年3月号, 3
3. ジャン・ウィットリー・ハンセン “The Calling I Didn't Know I Had”, *Ensign*, 2003年3月号, 6
4. モーセ5:4-5, 9-12参照
5. 『福音の原則』(手引き, 1997年), 229
6. “Suggestions for Individual and Family Sabbath-Day Activities,” *Ensign*, 1980年3月号, 76
7. 『リアホナ』2003年3月号, 4
8. 教義と聖約93:36, 37, 39-40

神権者として 一歩ずつ成長する

十二使徒定員会会員
デビッド・B・ヘイト

神権は天の御父によって人に委譲された力と権能です。その権能と尊厳はわたしたちの理解を超えるものです。



この満員となったカンファレンスセンターを見渡し、神権者であふれる世界中の建物を思うとき、何とすばらしい光景でしょうか。きっとこれは教会史上最も大きな神権者の集いでしょう。わたしたちは毎年発展を続けていますから、ほんとうにそうなのではないかと思えます。

わたしが初めて神権に接したのは、バプテスマを受けたときでした。アイダホ州オークレーの小さな町にあった灌漑用水路でバプテスマを受けたのです。わたしは友人と一緒にその用水路の土手にいて、胸当ての付いた水着を着ていました。それはオーバーオールに手を加えた水着で、沈まないように足の部分が切り取ってあり、ポケットには穴が開けてありま

した。伸縮性のあるメリヤスやほかの生地のできた水着などは見たことがありませんでした。父は、副監督たちと一緒に第1ワードの集会所から出て来ると、抱えて来たいすを灌漑用水路の岸に置き、こう言いました。「デビッド、こっちにおいて。バプテスマを施そう。」

わたしは用水路に飛び込み、少し震えながら対岸に泳いで行きました。それは9月のことで、少々肌寒く、オーバーオールしか着ていないような少年たちは身震いするわけです。父は用水路の中に入りました。覚えているかぎり、父は靴を脱いだり着替えたりすることなく、普段の服装のままでした。父は手をどこに置けばよいかをわたしに示し、それからバプテスマを施してくれました。わたしは水から上がると、父とともに用水路の土手を這い上がりました。そしていすに座り、頭に手が置かれ、教会の会員に確認されたのです。その後、わたしは用水路に飛び込み、対岸に泳いで行って友人たちのところに戻りました。

これがわたしの神権に関する、まさに初めての経験でした。

神権は人に委譲された神の力と権能であることを思い起こしてください。もう一度申し上げます。神権は人に委譲された神の力と権能なのです。今夜の集会には、アロン神権すなわち小神権を持つ兄弟たちと、メルキゼデク神権すなわち大神権を持つ兄弟たちが集っています。主

と天の御父は、救いの計画を用意するに当たって、人が神権を持つに十分ふさわしくなり、その榮譽にあずかれるようにしてくださいました。そして、主の軍勢に加われるようにして下さったのです。それは、御父の永遠の目的、すなわち全人類の不死不滅と永遠の命をもたらすうえで必要なことでした。心に描いてみてください。何と興味深いことでしょうか。そしてどれほど強力な軍勢が求められたことでしょうか！

バプテスマを受けて数年後、教会での幾つかの義務について理解を深めたわたしは、アロン神権に聖任されました。しかし、バプテスマを施してくれた父は、その間に心臓発作で亡くなっていました。そのため監督がわたしにアロン神権を授け、執事の職に聖任してくれたのです。監督から神権を授けられているとき、すばらしい気持ちになったことを覚えています。これからは幾つかの義務と自らの行動に対する責任を負い、生涯を通じて進歩しながら学ぶべき事柄があると実感したのです。また、今までの自分とは多少異なり、神権を持たない友人や世の中で出会う人々とまったく同じではないのだという、特別な気持ちがしました。今や幾つかの責任があるのです。そして日曜日には、教会の地下にある石炭ストープの周りに座って学ぶ事柄がたくさんあるのです。

土曜日には教会を清掃し、バケツに石炭を満たしました。日曜日の集会に向けて集会所を整えたのです。わたしたちには小神権を持つ者として、ワードの物質的な諸事においてなすべきことがありました。断食献金を集め、監督の代わりに働きました。監督やほかの指導者たちは、アロン神権と執事の職について教えてくれました。そして神権において昇進するにつれて、教師や、もちろん祭司についても教えてくれました。わたしには、これから行われる業について自分の中で理解が深まっていくように思えました。それは興味深いものでした。小さな田舎町の少年にすぎませんでしたが、個人的に幾らかの責任を負っているように思えた

のです。そこには何か非常に重要なものがありました。

11歳のときに父が亡くなり、その葬儀の場で、父がどれほど親切な人物であったか人々の口から聞きました。わたしは非常に胸を打たれました。墓地で棺が墓穴に降ろされ、シャベルに盛られた土や石を棺の上にかけて始めたとき、わたしは立ったままじっとそれを見詰めたが、父はわたしの英雄であったと思いました。そして父を失った今、自分に一体何が起ころうとしているのだろうかと不安になりました。わたしは善良な人々が、神権を行使して正しいことを行っているのを見ました。彼らは墓を掘り、いろいろと世話をしてくれました。一人の男性は、母の手に5ドル紙幣を押し戻していました。母は墓を掘ってくれたことに対して、少しばかりのお金を渡そうとしていたのです。この男性は、お金を母の手に押し戻して言いました。「いいえ、後で必要になるでしょうから、取っておいてください。」

そこでわたしは、今晚ここに集うすべてのアロン神権者とメルキゼデク神権者の皆さんに宣言したいと思います。これらすべてのことを考え合わせると、わたしたちが小神権の中で物質的な雑務を学んでいく様子は、天の御父とその御子の知恵にあって興味深いことではないでしょうか。わたしたちは物質的な義務を受け、そのなすべき事柄を、地味で素朴な方法で学んでいきます。これによって奉仕と主の戒めに従うことを学び、いつの日かあらゆる尊厳と永遠の栄光を伴うメルキゼデク神権を受けるために備えられていくのです。

アロン神権の時期は、人生の中で興味深い期間でした。絶えず新しいことを学び、福音とそのメッセージを世界中に伝えるという責任についての考え方や気持ちを少しずつ深めていきました。その過程の中で、人々と交わることを学びました。時折、周りの人よりも高い標準を持っているために受け入れてもらえないと思うことがあります。行わないことが幾つかあるのです。知恵の言葉を通して、

より健康的な生活を送ることができます。それは、わたしたちの成長を助け、世のほとんどの人が望むような標準と理想、そして生き方を手にすることができるよう助けしてくれるのです。もし皆さんがそのような生活を送るならば、人々はそれに気づき、その信条に感銘を受け、皆さんは周りの人々の生活に影響を与えるようになります。人々が、この世にこれほど悪い影響を与えているたばこやアルコール、マリファナ、そして薬物にふける必要がないことに気づくとき、皆さんがそれを行っていないという事実は、影響力を持つのです。

標準を維持することによって、皆さんは神殿で結婚する資格を得ることができます。ところで、今回は教会の第173回年次総大会です。ついでながら申し上げますと、妻とわたしは結婚して73年になります。ですから、結婚した年に教会では第100回年次大会が開かれていたことになります。わたしは神殿の聖壇を挟んでルビーの手を取り、結び固めの儀式の言葉に耳を傾けていたとき、心に特別な感情が沸き起こったのを覚えています。それは儀式の神聖さからだけではなく、求められている生活を送ることに対する責任感、また妻と子供たち、孫たち、そして後に生まれて来る世代に対する責任感から来るものでした。わたしは、神権と結婚の聖約を尊ぶことに関して、できるかぎり人生において模範を示そうと決意しました。

今宵、神権者として集い、これからこの世で起こる事柄について思いをはせるとき、わたしたち一人一人に託された責任について考えていただきたいと思います。この戦争が終わって物事があるべき状態に戻ったとき、恐らくそこには、現在のわたしたちが気づいていない新しい事柄が待っていることでしょうか。なすべきことは山のようにあります。それを行うには、自分が持つ神権にふさわしくなければなりません。そうすれば教会が前進するに当たって、かつてなかったほど効果的な方法で導くことができるでしょう。何と大いなる日になることでしょうか！



昔、第二次世界大戦中に海軍にいたころ、わたしは真珠湾にあった艦隊の本部に行くよう命じられました。家族がサンフランシスコ湾のトレジャーアイランドまで連れて行ってくれ、そこでパン-アメリカン・クリッパーと呼ばれる古い水上飛行機に乗りました。数週間のうちに太平洋のタラワ島で戦闘が始まろうとしていたため、飛行機には医療支援の準備に向かう高い階級の軍医が数名同乗していました。わたしは自分の階級に伴い、飛行機の尾部で寝袋に入って寝よう割り当てられました。戦争による灯火管制下にあったサンフランシスコ上空を飛びながら、飛行機右舷のエンジンが見えました。太平洋に向かう空は真っ暗で、わたしはその古いパン-アメリカン飛行機の右舷エンジンが炎上しているのではないかと思いました。わたしは眠ることができず、飛行中ずっとそれを見詰めていました。

あの眠れない夜の間、わたしは自分自身の人生について考えました。メルキゼデク神権を持つ者として、与えられた機会を最大限に生かし、責任を成し遂げたのだろうか。また、これから与えられるであろう召しを全うできるように、模範となり、

求められている生活を送るという責任を果たしているだろうか。あの眠れない夜、わたしは自分にできることをすべて行ってきたか考え、自分自身を、また自分の態度を評価しました。教会の割り当てはいつも受け入れていました。しかし、それらを心と勢力と思いを尽くし、また心を込めて果たしていたか思い返しました。そしてメルキゼデク神権を持つ者として受けている責任と祝福、およびこの祝福を受けたすべての人に期待されていることを果たすうえでふさわしく生活しているだろうかと心に問いかけました。

あの眠れない夜を振り返るとき、わたしは今日の主の祝福と、自分がこれまでに得てきたすべての機会を主に感謝する気持ちになります。わたしは常に精いっぱい福音に従った生活をしようと心がけています。求められることはすべて、心と勢力と意思と力を尽くして行おうと務めています。そして、どのような召しを与えられたとしても、それを全うしたいと願っています。いつの日か、どのようなことを求められても、それを行う資格があるようにするためです。

今宵、神権を尊ぶ、神権者である若い

男性の皆さんに申し上げます。求められている生活を送る決意をしてください。世の中で行われている愚かな事柄にかわり合いを持つことなく、皆さんに与えられているものを覚えていてください。もう一度繰り返します。神権は天の御父によって人に委譲された力と権能です。その権能と尊厳はわたしたちの理解を超えるものです。

皆さんにわたしの証をお伝えします。この業は真実です。人生を残りわずかとし、立って福音が真実であると証できることをうれしく思います。バプテスマを受けてから現在まで、全生涯を通じて福音が確かなものであることを目の当たりにしてきたからです。わたしは主を愛しています。天の御父とこの業を愛しています。この業が真実であることを証します。

そしてすべての神権指導者の皆さん、求められている生活を送ってください。わたしたちは異なっています。世の人々に倣うのはよいことではありません。皆さんは神の神権と、大いなる約束と祝福、そして期待を受けているのですから。

この業は真実です。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

伝道の業に備える

七十人
ダリル・H・ガーン

父親と息子が一緒になって、伝道の基本的な事柄に備えることはどれほど大切でしょうか。



最近のステーキ大会で、ある帰還宣教師が伝道に備えるというテーマで話をしました。この兄弟は父親が息子に語る言葉を類比しました。「初めて出場するバスケットボールの試合で、ドリブルとシュートができるようになるのでは遅すぎるよ。」「伝道に出てから善い人格を身に付け、福音を教えられるようになるのでは遅すぎるよ。」この二つを比較させたのです。わたしは自分の人生を振り返り、大きな衝撃を受けました。

子供のころ、わたしのいちばんの望みはバスケットボール選手になることでした。幸い、父は子供の願いをかなえたいと思う人で、よく父と一緒に、家の小さな台所で基本的なパスやドリブルの練習を何時間もしました。そして大学バスケットボールの試合をラジオで聴き、いつか大学のチームに入ることを夢見たもの

です。当時は、伝道に出ることなど心にかけていませんでした。ですから必然的に、伝道の準備はほとんどしなかったのです。父は何年も教会で責任を果たしていなかったのに、わたしの生活が偏らないように、スカウト指導者の責任を引き受けました。父は手引きどおりに活動し、とても熱心だったので、わたしと何人かの友達はいぐルスカウトになりました。今になって分かることですが、スカウトは伝道へのすばらしい備えでした。

わたしはユタ州立大学のバスケットボールチームに入り、子供のころの夢をかなえました。そして大学で2年目を迎えたとき、ある帰還宣教師と友達になったのです。その友人の模範のおかげで、わたしはバスケットボールチームを含め、学校の友人に目を向けるようになりました。そして、最も模範としたい人たちが、皆帰還宣教師であることに気づいたので、すばらしい友人の優しく愛ある指導によって、わたしの望みは変わりました。もちろん、そこに母の祈りと良い模範があったことは言うまでもありません。大学で2年間過ごした後、わたしはカナダ西部伝道部に召されました。

伝道に出て3か月後、アイダホ州出身の新しい宣教師と同僚になりました。そして一緒に伝道するようになって間もなく、とても重要なことに気づきました。わたしは宣教師として教える内容しか理解していませんでしたが、同僚は福音を理解していたのです。バスケットボールと同じくらい伝道にも備えればよかった

とどれほど思ったことでしょうか。同僚はこれまでの人生を、ずっと伝道に備えてきたのです。そして伝道での即戦力を身に付けていました。父親と息子が一緒になって、伝道の基本的な事柄に備えることはどれほど大切でしょうか。

バスケットボールの試合と伝道とは、多くの面で比較できると思います。バスケットボールの試合では、コート上で相手と競技している時間だけではなく、適切な訓練と練習の時間も重要になってきます。また、人の救いに携わる偉大な伝道の業は、2年間に限られたものではありません。専任宣教師の標準に見合うために何年も義にかなった生活をし、備える必要があるのです。

2003年1月11日に行われた世界神権指導者訓練放送の中で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は神権指導者に伝道について教えました。大管長の話を通して、わたしたちは福音を分かち合う個人の責任について考えさせられました。ヒンクレー大管長はこのように述べています。「主イエス・キリストの大使として世界各地で働くために召される人々について、その標準を高めなければならない時が来しました。」（『伝道活動』『第1回世界指導者訓練集会』2003年1月、17）

伝道に出る人の標準を上げることにについて、考えるべき点が二つあります。まず、若い男性と女性を早いうちから備えることです。若い男性と女性のプログラムの変更を通達する手紙の中で、大管長会は次のように述べました。「青少年がこれらの目標に向かって努力するならば、神殿に参入し、主と自分の家族に生涯仕えるうえで必要な技術と特質を身に付けるでしょう。」（大管長会からの手紙、2001年9月28日付）「技術と特質を身に付ける」という大管長会の言葉に留意してください。両親や青少年の指導者として、若い人々がそのような技術や特質を理解できるよう助けなくてはなりません。

二つ目は、個人のふさわしさに関するものです。これは神の戒めを守ることによって得られます。若い男性の中には、戒めを破っても、伝道に出る1年前に監

督に告白すればふさわしくなれると思っている人がいます。罪を犯した人からこのような質問をよくされます。「どのくらい待ったら伝道に出られますか。」覚えていてください。悔い改めは、計画どおりに告白して一定の期間待つこととは違うのです。救い主はこう言われました。「あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲としてわたしにささげなさい。打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来る者に、わたしは……火と聖霊によってバプテスマを授けよう。」(3ニーファイ9:20)

今こそ悔い改める時です。ヒンクレー大管長はこのように述べました。「完全なふさわしさを備えていない人には、胸躍る福音のおとずれを伝えるために世界に出て行くのを、とても許すことはできないのです。」(『第1回世界指導者訓練集会』2003年1月, 17) 大管長会の伝道に関する声明を通して、若い男性と女性から宣教師の資格を奪う背罪があることが分かります(「伝道活動に関する声明, 大管長会および十二使徒定員会」2002年12月11日付参照)。

ジェームズ・E・ファウスト副管長は次のように述べています。「人生には絶対的なものがが必要です。絶対にしてはいけないこと, 越えてはならない一線, 破ってはならない約束, 口にしてはいけない言葉, そして絶対に心に抱いてはいけない思いがあるのです。」(“Integrity, the Mother of Many Virtues,” *Ensign*, 1982年5月号, 48)

伝道に出るための条件は、いっそう厳しくなっています。「専任宣教師として働くうえで必要とされる肉体的, 知的, 情緒的な要求を満たすことのできない人は, 免除されるべきであって, 推薦してはならない。彼らにはほかのふさわしい召しを与える。」(「伝道活動に関する声明, 大管長会および十二使徒定員会」2002年12月11日付) 大管長会によって定められたこの指針に従うことで, 伝道の業にふさわしく, 備えられた専任宣教師の数が増えることでしょう。

スポーツ界において, わたしたちはし



ばしば偉大な選手にあこがれます。そしてそのような選手になろうと技術を磨くのです。霊的な生活の中にも、^{なら}倣うべきすばらしい模範となる人々があります。そして最も偉大な御方は、主であり救い主であるイエス・キリストです。イエス・キリストはトマスが「どうしてその道がわかるでしょう」と尋ねた問いに答えられました(ヨハネ14:5)。

聖文にはこう記されています。「イエスは彼に言われた、『わたしは道である。』』(ヨハネ14:6) ニューファイ第二書にはこのようにあります。「『わたしに従いなさい』……それゆえ、愛する同胞よ、進んで御父の戒めに従わないで、わたしたちはイエスに従うことができるだろうか。」(2ニューファイ31:10)

若い兄弟の皆さん、救い主の「道」に従っている人は大勢います。皆さんが伝道に備えるとき、そのような人々を模範とすることができます。家族や友人、そして教会指導者の中にそのような人を見つけることでしょ。わたしは、救い主に従うことで正しい模範を示してくれた友人たちを、今でも最大の祝福の一つだと感じています。

若い男性の皆さんが義にかなった望みに向かって熱心に努力し、すべてにおいて実りある人生を送れるよう願っています。M・ラッセル・バラード長老が言ったように、皆さんが「教会史上最高の宣教師」となれるよう祈っています(「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号、47)。

ヒンクレー大管長が伝道について最近話したように、「これより偉大な業も、重要な業も」ないことを証します(『第1回世界指導者訓練集会』2003年1月、21)。イエス・キリストの御名により、アーメン。

まさにそのとおりです

管理監督

H・デビッド・バートン

人生の「霊的な」重大イベントに参加する資格を得るためには、目標を達成し、標準を維持する必要があります。



こ んばんは。神の神権を持つ皆さんとともに集まることができ、大変うれしく思います。わたしは、世界に広がる兄弟のきずなに感謝しています。今この場には特別な雰囲気があります。その雰囲気は、これからイエス・キリストの福音の分かりやすくて尊い教えを受けると期待から生じています。

今晚、教会の若い男性の皆さんにお話ししたいと思います。自分は別の年代に属するとお感じの方も、どうぞ遠慮なさらずにお聞きください。

昨年の暮れ、タバナクル合唱団とテンブルスクウェア管弦楽団によるクリスマスコンサートに、ジャーナリストのウォルター・クロンカイト氏が出演しました。「クロンカイト氏は19年間CBSイブニングニュースの総合司会を務め……『全米で最も信頼できる人物』という名声を博するようになりました。』¹ クロンカイト氏はかつて、ど

のような人物として人々の記憶に残りたいかと尋ねられたとき、こう答えました。「最善を尽くした男として覚えられたいですね。」² クロンカイト氏は番組の中で、ニューズリポートを伝え終わると必ず「まさにそのとおりです」と言って締めくくりました。今晚、まさにそのとおり真実の事柄についてお話ししましょう。

先日、あるステーキ大会を訪問したときに、ステーキ会長と話しました。最近の日曜の夜に開かれたファイヤサイドでどんなことが話し合われたか息子に尋ねたのだそうです。まだ若い息子はこう答えました。「『基準を高くすること』さ。」それから父親に向かって、このテーマはもう聞き飽きたと言いました。最近どのクラスでも、どの集会でもこの話ばかりだったからです。ステーキ会長のこの話を聞いてわたしはまずこう思いました。「聖徒たちが預言者の勧告を話し合い、伝え、実践しているとは、すばらしいことだ。」次に、何度も同じことを聞いている若い兄弟の気持ちを考えてみました。最善を尽くそうしているときに、同じことを繰り返し聞かされるのは、きつと嫌なものでしょう。

若いころ、母が決まって言う「デビッド、自分が何か忘れちゃだめよ」という言葉にいつもそっぽを向いていたのを覚えています。友達はいつも母のこの言葉についていろいろ興味深い意見を述べました。父はといえば、ソルトレーク・シティー東13番通りを通る度に、ジョージ・アルバート・スミス大管長の家を指さし、「おまえのことを愛している、生ける神の預言者がここに住んでいるんだよ」と繰り返



し言うものですから、いいかげんにしてほしいと思ったものです。しかし今では、両親がそのように何度も繰り返してくれたことに心から感謝しています。

「基準を高くする」という言葉は、スポーツ界でよく使われる表現で、より高いレベルを達成していくということです(訳注——「基準を高くする」の英語“raising the bar”は元来、高飛びなどのバーの高さを上げていくことを意味する)。スポーツに置き換えれば、前回の総大会でヒンクレー大管長がわたしたちに求めた事柄に従うことがなぜそれほど重要なのか、説明しやすいかもしれません。大管長はこう言いました。「教会の若い男性や若い女性が、バラード長老の提示したチャレンジにこたえるように願っています。わたしたちは、主イエス・キリストの大使として全世界へ出て行く人々のふさわしさと資格について、基準を高くしなければなりません。」³

1年前、ソルトレーク・シティーですばら

しい冬季オリンピック大会が開催されました。オリンピックのたいていの種目では、選手は参加資格を得るために、一定の記録を保持していなければなりません。わたしたちの生活も、オリンピックの出場資格を得るのと似ています。つまり、人生の霊的な重大イベントに参加する資格を得るためには、目標を達成し、標準を維持する必要があります。世界水準のスポーツ選手は、決められた練習を毎日こなしています。競技に必要とされる技能を極めたとき初めて、競技への参加資格を得るのです。まさにそのとおりです。

若い男性の皆さん、もし皆さんが世界水準に達し、神権の儀式、神殿の祝福、宣教師としての奉仕といった、人生で最も重要なイベントに参加する資格を得たいと望むなら、皆さんもまた、毎日、正直、徳、研究、祈りによって備えなければなりません。まさにそのとおりです。

オリンピック選手は競技のルールを十分に理解しています。ルールを無視する

と、厳しい罰則が科せられ、参加資格を剥奪されることもあります。前回のオリンピックでは、運動能力を向上させる薬の使用に関するルールを破り、メダルを上げられた選手がいました。ゴルフには、最も厳しい罰則があります。18ホールはどこか一つでもスコアカードの記入を間違えると、参加資格を剥奪されるのです。容赦なしです。記入ミスで、スコアが上がろうか下がろうか、結果は同じ、参加資格の剥奪なのです。

50年以上も前のあるゴルフトーナメントで、大会役員から「残念ですが、スコアカードの記入が間違っていたので、あなたの出場資格を取り消さなければなりません」と言われたことがあります。そのときの大会役員の声は今でも覚えています。自分からスコアカードにミスがあると告げた結果そう言われたのです。何週間もわたしは自問しました。「なぜ言ってしまったのだろう。ちょっとしたミスにすぎず、スコアの総合計は間違っていなかったの



に。」このときの成績から言えば、上位入賞を果たせたのですが、表彰式では、何も手にすることはできませんでした。まさにそのとおりだったのです。

若い友人の皆さん、ルールは重要です。決定的とさえ言えます。人生においても同様に、ルールを破れば、罰せられ、資格を剥奪されることさえあるのです。天の御父の戒めの中にあるルールに従わないなら、人生の重要な機会に参加する資格は危うくなるでしょう。性的な罪、違法薬物の使用、政府への不服従、虐待などは、重要な機会への参加資格を剥奪される原因になります。どうか、ルールを命綱と理解してください。皆さんを縛る鎖ではありません。強さは従順によって養われます。まさにそのとおりです。

1834年に、預言者ジョセフ・スミスはこう記録しています。「わたしにとって11月ほど忙しい月はこれまでになかった。しかし、わたしの人生は、奉仕と尽きることのない責任に満ちているので、わたしは

このようなルールを設けた。『主から命じられたなら、行いなさい。』⁴

スポーツを職業とする人々がいます。そうした人たちにとって、勝敗の結果は、膨大な金額に換算される可能性があるのです。スポーツ選手は代理人を雇い、事務処理を委託します。代理人や専属トレーナー、コーチ、監督は、成績向上のために選手を支援します。

天の御父は、大切な若人のために、スポーツ選手よりもずっとすばらしい、この上ない支援スタッフをお与えになりました。親は最高の代理人です。皆さんが成功するように助けてくれます。親は皆さんに関心を持っていますが、それだけではありません。皆さんを愛し、すばらしい相談者の役割も果たしてくれるのです。

使徒パウロはコロサイ人への手紙の中でこのように言いました。「子たる者よ、何事についても両親に従いなさい。これが主に喜ばれることである。」(コロサイ3:20)両親だけではありません。皆さんの霊的な能力を高めるためにいる大勢の支援スタッフについて考えてみてください。監督は専属トレーナーとして、皆さんの生活に祝福を与えるために聖なる神権の鍵を用います。セミナー教師、定員会アドバイザー、ホームティーチャーもまた、皆さんの支援スタッフです。彼らは、人生の大試合に皆さんを備えるよう、主が組織された人々です。彼らの言葉に従うなら、皆さんの成績は着実に伸びるでしょう。主が命じられたなら、行いなさい。まさにそのとおりです。

単に上手な選手と偉大な選手との大きな違いは、スポーツ心理学者の言うところの「集中力」があるかないかです。どうしてもよいことには目もくれず、成功のために欠かせないことに全神経を集中する能力のある選手は、成績を伸ばすことができます。集中力は欠かすことのできない重要な要因なのです。

プロゴルファーのアーノルド・パーマーと若いキャディーの会話を聞いたことがあります。このキャディーは、初めてパーマーに付いて回っていたのです。若いキャディーは、パーマーにゴルフクラブを手

渡しながら、ホールまでの距離は165ヤードで、左には小川が隠れていて、右にはラフ、つまり芝生を整えていない場所が遠くまで続いていると付け加えました。非常に穏やかながら、きっぱりとした口調で、パーマーはキャディーに、自分が尋ねたのはホールまでの距離だけだと言いました。また、右や左に何かがあるからと思いい悩んで、集中力を失いたくないとも言いました。

ほんとうに重要な人生の目的を見失わずにいるのはたやすいことではありません。注意をそらすものはたくさんあります。コース左手の小川でつまづいている人もいれば、長く面倒なラフを越えられずにいる人もいます。安全と成功は、重要な機会に的を絞ってフルスイングするときに得られます。つまり、神権の昇進、神殿に参入するふさわしさ、宣教師としての奉仕などです。まさにそのとおりです。

天の御父が、皆さん一人一人を祝福してくださいませように。皆さん一人一人に、イエスがキリストであられることを証します。主は生きておられます。わたしたちへの主の愛は完全な愛です。偉大な預言者に感謝しています。預言者はわたしたちを助け、主が命じられるなら、まさにそれが正しいことであり、行わなければならないと理解させてくれるのです。救い主であり、贖い主であるイエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

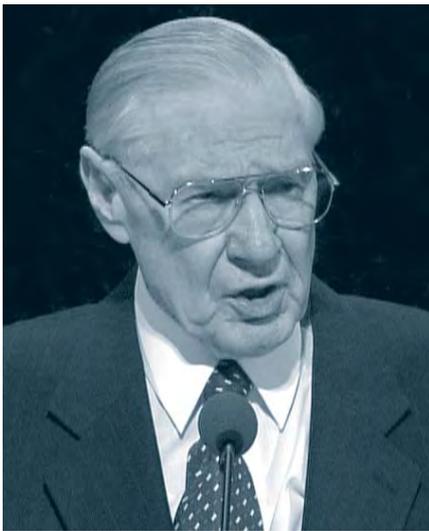
1. "Walter Cronkite: A Lifetime Reporting the News," *Voices from The Smithsonian Associates*, インターネット, <http://www.smithsonianassociates.org/programs/cronkite.cronkite.htm>.
2. キラ・アルピン, "That's the Way It Is... with Walter Cronkite," *Grand Times*, インターネット, <http://www.grandtimes.com/cronkite.html>.
3. 「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号, 57
4. *History of the Church*, 第2巻, 170

悪魔ののど

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

世を本来の姿に押し戻すのを助けてください。わたしたちは風を真っ向から受けて立たなければなりません。不人気になることを覚悟のうえで、「これは正しくない」と率直に言わなければならない時があります。



愛する神権者の皆さん、わたしは今宵、皆さん全員に、しかし特に若い方々にお話します。わたしの目的は将来にある危険について皆さんに知らせ、警告することです。しかし同時に、皆さんを愛しており、次世代を担う皆さんを大いに信頼していることもお伝えしたいと思います。

わたしは若いときにブラジルで伝道しました。すばらしい経験でした。その偉大な国にある世界屈指の驚異がイグアスの滝です。大雨が降る時期におけるその滝の水量は世界最多です。毎分数万トンという水が滝つぼに流れ落ちます。その滝の一部で、水量が最も多い所は「悪魔ののど」と呼ばれています。

水が「悪魔ののど」に勢いよく流れ落ちる場所の少し手前に、大きな岩が幾つかそびえ立っています。何年も前のこと、

無謀な船頭が小舟で乗客を岩場に連れて行き、そこに立って「悪魔ののど」を見下ろすようなことをさせていました。滝の上流の水は普段は穏やかで、流れはゆっくりしており、雰囲気はのどかです。わずかに数フィート先に潜んでいる危険を予告するのは水の轟音だけです。そして突如、予期せぬ流れが崖を落ちる急流に小舟を引き込み、「悪魔ののど」に落としてしまいます。小舟を降りてそのぬれて滑りやすい岩場に立とうとする愚かな人々は、すぐに足場を失い、足もとの渦巻く流れの中にさらわれてしまいます。

自分はほとんどどんなチャレンジにも対応する準備ができていると考える向こう見ずな人々が皆さんの中にいることを、わたしは承知しています。しかし、刺激的な遊覧旅行の中には、必ず「悪魔ののど」に引き込むものがあります。唯一の安全な道は「悪魔ののど」の危険に近づかないことです。ジョージ・アルバート・スミス大管長は力を込めて次のように勧告しています。「境界線を越えて少しでも悪魔の領域に入れば、あなたはもう誘惑者の力に捕らえられる。誘惑者の力が強ければ、もう正しく考えることも推論することもできなくなる。あなたはもはや主の御霊を失っているからである。」¹

若い皆さんの中には、ほかの人を自分の標準にしようとする人々がいるかもしれません。こう言って自己弁護します。「これをしてはならない、あれをしてはならないと、だれが言ったのですか」と。善と悪の相違はあいまいなことが多いの

で、一人一人がどこに線を引くか決めなければなりません。わたしは切にお勧めします。自分の行為が正しいか正しくないか心の中に疑問がわいたら、それを行わないでください。一人一人に道徳的な選択の自由があり、また何が善で何が悪か、何が真実で何が偽りかを聖霊の賜物がはっきりと示してくれます。神の御言葉を教えることは神の預言者の責任ですが、人の行為の善し悪しを細部にわたって述べる責任はありません。わたしたちが注意深く、悪だけでなく悪の様相を呈するものをも避けるように努めるならば、何ものにも動かされず責任ある行動が取れるでしょう。²

悪魔から出る多くのものは魅惑的で、心を引きまします。きらびやかで、人の性質の肉欲的な部分に訴えます。そのメッセージは非常に合理的で、容易に正当化できるように聞こえます。その声はいつも穏やかで、魅惑的です。激しかったり不快であったりすれば、だれも耳を貸さず、だれも心を引かれませんが、サタンがしきりに訴えるメッセージは次のとおりです。「皆がそれをしている。だれかを傷つければ大丈夫。害がないと感じれば、それでいい。それをするのは『かっこいい』ことだ。」サタンは世界の歴史の中で最も有力な模倣者、欺きの主、模造の主、最大の偽造者です。夜の盗人のように、わたしたちの生活に入って来ます。その偽装は完全であるため、サタンやその手法に気づくのは困難です。サタンは羊の衣を着たおおかみです。

世界には二つの大きな対立する力が常に存在してきました。世界が創造される前からそうでした。相対する力とは、善の力と悪の力です。この二つの大きな力の間で、人はそれぞれ葛藤します。簡単に言えば、善いものは神から出て、悪いものは悪魔から出ています。³ 皆さんは善と悪を両立させて真実の幸せを見いだすことはできません。試みた人はいましたが、結局、全員が失敗しました。両立できると思う若い人々は自分自身を欺くだけです。そうはいきません。決してそうなりません。将来も決してそうなら

ないのです。

愛する若い友である皆さん、若い皆さんが学ばなければならないもう一つの偉大な真理があります。それは、すべての事柄に代価があるということです。成功、実現、達成、喜びには支払うべき代価があります。無料のものはありません。成功を得るために必要な代価を払わなければ、失敗の代価を払うことになります。達成して幸せを見いだすには、準備や努力、研究、奉仕が必要です。不従順と準備不足にはひどい値札が付きます。この教会の神権者として払う必要のある代価の一部は、世とは違った生き方をすることです。わたしたちは地上におけるサタンの力を弱めることができる統率力を持つ者であり、その管理者です。わたしは心の底から皆さんに切にお勧めします。世を本来の姿に押し戻すのを助けてください。わたしたちは風を真っ向から受けて立たなければなりません。不人気になることを覚悟のうえで、「これは正しくない」と率直に言わなければならない時があります。

わたしたちは皆、自分が実際に何者か、また世における自分の立場はどうかを知りたいと考えます。若い人々の中には、自分を支えてくれる両親や家族とは違う立場を取ることによって自分を見いだそうとする人々がいます。DNAや指紋が証明するように、神はわたしたち一人一人を世の中のだれとも違うようにお造りになりました。皆さんはすでに固有の存在となっているので、さらに固有の存在になろうとする必要はありません。

若い人々の中には、禁じられている事柄に逆らいたいと思う人々がいます。両親に従うこと、あるいは監督や定員会会長の助言に従うことは「かっこよくない」と考える人々がいます。リチャード・C・エッジリー副監督は、少年時代に経験した無謀で不従順な行いの結果についてこう語っています。

「わたしが少年のとき、我が家の車庫と隣家の車庫は1.5メートルほどしか離れていませんでした。隣家の車庫はとても古く、荒れており、板の一部ははがれていました。わたしは時々、我が家の車庫に上

り、一方の車庫から他方の車庫に飛び移って屋根の上で遊んでいました。『車庫に乘らないように』と、父から言われていましたが、わたしは従いませんでした。あるとき、車庫の上で遊んでいて、我が家の車庫から飛び移ったとき、隣家の車庫の屋根を踏み抜いて落ち、背中と両足をひどく擦りむきました。わたしは不従順であったので、自分がけがしたことを愚かにもだれにも言わないことにしました。家に帰ると、できるかぎり、擦りむいた傷口を洗いました。でも、背中の傷には手が届かず、消毒することもきれいに洗うこともできませんでした。傷が治るまでの数日間、痛みを我慢し、感染を心配し、罪悪感に悩まされました。』⁴

かつてこう述べた人がいます。「世の中で最善の存在の一つが少年である。善い人になるのに、経験は必要ない。必要なのはある種の習慣である。』⁵

皆さんの中には、薬物やアルコール、ボルノグラフィー、不法な性行為をちょっと試してみれば興奮を味わえるという考えに欺かれてきた人々がいるかもしれません。皆さんに警告します。このような誘いは「悪魔ののど」の間近にある岩場と同じように滑りやすく、危険です。皆さんをサタンの領域に引き込むだけです。この種の危険から抜け出すことは困難であり、多少の擦り傷では済まなくなります。

若い皆さんは、注目すべき時期に自分の永遠の行く末を築くために取り組んでいきます。将来、科学の発見や発明は引き続き増加し、多くの人にとって生活はもっと快適で容易になることでしょう。医療科学の分野でも、今はまだ行われていない新しい治療法や矯正法が引き続き発見されるのは疑いのないことです。それと対照的に、世の悪の影響も増大し、もっと多くの人がサタンの欺きや誘いに屈することでしょう。若い皆さんは世の誘惑やわなに抗するために霊的にも道徳的にももっと強くなる必要があります。このような特別な霊たちがこの時代のためにとどめておかれたのは、恐らくこの理由からでしょう。

わたしはまた、将来サタンの反抗がも

っと巧妙で、もっとあからさまになると信じています。ある点でそれはもっと明らかとなる一方で、もっとひどい詭弁と狡猾で覆われることでしょう。あらゆる形の悪を見抜くさらに豊かな霊性と、それに抗するより大きな力が必要になります。

多くの国は現在、テロリズムの脅威に直面しています。戦争は人を肉体上の危害にさらすだけでなく、道徳上の危害にもさらします。戦時に従軍した人々は人生の崩壊を経験してきました。その崩壊は、家庭や家族、また健全な交流や組織された教会の影響から離れたことにより生じるものです。わたしは現在従軍している人々、あるいは従軍する可能性のある人々に警告します。崩壊の落とし穴に気をつけてください。それは人々を「悪魔ののど」のまさに入り口に運んでしまいます。

将来皆さんは様々な状況の中で多くの活動に携わります。必ずしも自分が交わる仲間を選ばません。しかし、自分の標準を選ぶことは可能です。軍隊では、皆さんは部隊に所属し、隊員の結束がその部隊の強さとなります。隣にいる仲間が明日命を救ってくれるかもしれませんが、部隊の隊員に誠実であることが必要です。しかし、自分の道徳の標準を下げなければならないということではありません。いかなる集団の中でも、立ち上がって、「わたしたちが行おうとしていることは正しくない」と言える人が一人、あるいはそれ以上必要です。これを行うには道徳的な勇気を要します。

教会は最近、世界のあらゆる地域で軍務に携わっている教会員のために『福音の原則』の軍人版を再発行しました。現在は英語版しか入手できませんが、将来ほかの言語にも翻訳されます。この優れた資料には、当教会の活動と従軍時のゲームの着用、神権の儀式と祝福、福音の主題に関する教え、またわずかですが賛美歌の選集が載っています。教会は第二次世界大戦時に従軍した人々にも同様の資料を提供しました。わたしは、それが非常に価値のあるものであることを知っています。

状況は絶えず変わっています。麦と毒



ソルトレーク神殿とソルトレーク・シティ中心街のビル群が、カンファレンスセンター西側の広場を歩く人々の後ろにそびえている。

麦のたとえを思い出します。そのたとえの中で、主は言われました。「天国は、良い種を自分の畑にまいておいた人のようなものである。」しかし、その人が眠っている間に、敵が来て、麦の間に毒麦の種をまきました。芽が出て生長すると雑草も生長しました。その人の僕たちはどうして畑に雑草が生えたのか分からなかったので、行って雑草を抜く必要があるかどうか尋ねました。畑の所有者はそうしないように言いました。雑草を抜くときに麦も抜いてしまうかもしれないからです。そして、収穫のときまで麦と雑草が一緒に育つままにしておき、収穫のときに麦を束にして雑草と分けるようにと言いました。⁶

イエスの弟子たちはそのたとえの解き明かしを救い主に求めました。そこで、救い主は答えられました。「良い種をまく者は、人の子である。

畑は世界である。良い種と言うのは御国の子たちで、毒麦は悪い者の子たち

である。

それをまいた敵は悪魔である。……刈る者は御使たちである。

だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終りにもそのとおりになるであろう。」⁷

このたとえはアルマの言葉を確認しています。その言葉を繰り返したいと思います。「善いものは何であろうと神から出、悪いものは何であろうと悪魔から出るからである。」⁸

兄弟の皆さん、わたしたちはチャレンジに満ちた時代に住んでいます。今は家族の責任と神権の責任を果たすためにしっかりと、また堅実に立つべき時です。「風の吹くままに揺れ動く海の波」⁹のように揺れ動いてはなりません。信仰の念をもって進み、「悪魔ののど」に近づきすぎることのほかどんなことをも恐れてはなりません。舵取りをしているゴードン・B・ヒンクレー大管長の勧告と指示に従うならば、強められ、守られます。わたしに

は、大管長が預言者、聖見者、啓示者であるという特別な証があります。大管長は今日の地上における神の代弁者です。主の祝福がわたしたち全員にありますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. *Sharing the Gospel with Others*, ブレ斯顿・ニプレー選(1948年), 43
2. 2ニーファイ2:13, 26参照
3. アルマ5:40参照
4. "Friend to Friend," *The Friend*, 1995年2月号, 6
5. チャールズ・ダッドリー・ワーナー, *Thesaurus of Quotations*, エドモンド・フラー編(1941年), 115
6. マタイ13:24-30参照
7. マタイ13:37-40
8. アルマ5:40
9. ヤコブの手紙1:6

任命された職に しっかりと立つ

第一副管長

トーマス・S・モンソン

道を迷い出た人々に手を差し伸べ、大切な彼らを救い出すことができ、一人も失われることがありませんように。



今 晩、ここカンファレンスセンターと世界の各地で、わたしたち神権者は大きな群れとなって集っています。この群れにはアロン神権者がおり、メルキゼデク神権者がいます。

デビッド・O・マッケイ大管長の副管長を務めたスティーブン・L・リチャーズ長老は次のように宣言しました。「普通、神権は単純に『人に託された神の力』と定義されています。」そして、こう続けています。「この定義は正しいと思いますが、わたしは実際的な目的から、神権を奉仕の観点から定義するのが好きで、よく神権を『奉仕の完全な計画』と呼んでいます。神権は奉仕の道具であって、これを使おうとしない人は失うことがあります。なぜならば、神権をないがしろにする人は『その職にいるに

ふさわしい者と見なされない』と啓示によってはっきりと言われているからです。」¹

わたし自身がアロン神権とメルキゼデク神権の両方を授かったソルトレーク・シティーのパイオニアステークで、わたしたちは聖文に親しむように、特に教義と聖約20, 84, 107の各章に精通するように指導を受けました。この3つの章では神権と教会を管理する方法が教えられています。

今晚わたしは第107章から次の一節を採り上げて強調したいと思います。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」²

ハロルド・B・リー大管長はよくこのように教えました。「人は神権を受けると主の代理人になります。その人は自分の召しを、あたかも主の用向きを受けているかのように考えなければなりません。」³

これらの章では定員会会長の義務が明らかにされており、またわたしたちは自分だけでなく、ほかの人についても責任があるという事実が教えられています。

わたしは現在の教会がかつてないほど強くなっていると固く信じています。青少年が教会活動にどれほど活発かを見ると、彼らは確かに信仰強く、真理に献身する新たな世代であることがよく分かります。けれども、教会の義務を軽んじさせるような事柄に心を向けて、道を迷い出てしまった青少年が一部にいます。この大切な青少年を失うわけにはいきません。

長老に聖任されるべき兄弟たちの中に、教会の集会に出席していない人や、教会の責任を果たしていない人が増えています。この状態は改善できますし、改善しなければなりません。それを行うのはわたしたちです。分担を決めて、直ちに取らなければならない必要があります。

監督会と定員会アドバイザーの指導の下で、手を差し伸べ、救出する権限をアロン神権定員会の会長会に与えることができます。

主はこのように言われました。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。……人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」⁴

途方に暮れるほど大きな課題だと感じることもあるでしょう。わたしたちはいにしへのギデオンの経験から新たな勇気を得ることができます。ギデオンはわずかな手勢を率いて戦いに出ました。相手はミデアン人とアマレク人の連合軍です。武器と人数において圧倒的な力を持つ軍勢を前にして、ギデオンと兵士たちがどのように対処したかを皆さんは覚えておられるでしょう。ミデアン人とアマレク人の連合軍は「いなごのように数多く谷に沿って伏していた。そのらくだは海べの砂のように多くて数えきれなかった」⁵と旧約聖書の士師記には記されています。ギデオンは全能の神に力を願いました。

驚いたことに、主はギデオンにこう言われました。主にとってギデオンの軍勢は数があまりにも多いので、敵を引き渡すことはできない、と。それはイスラエルの民が「わたしは自身の手で自分を救ったのだ」⁶と言う恐れがあったからでした。指示を受けたギデオンは民にこう言うように指示を受けました。「だれでも恐れおののく者は〔ギレアデの山から〕帰れ。……民のうち帰った者は二万二千人あり、残った者は一万人であった。」⁷

主はまた言われました。「民はまだ多い。」⁸主はギデオンに、民を水際に連れて行き、水を飲む様子を観察するよう指示をお与えになりました。水をなめる者とかがんで飲む者がそれぞれグループに分けられました。主はギデオンに言われました。

「わたしは水をなめた300人の者をもって、あなたがたを救い、ミデアンびとをあなたの手におわたそう。残りの民はおのおその家に帰らせなさい。」⁹

ギデオンは自分の軍に戻ると人々にこう言いました。「立てよ、主はミデアンの軍勢をあなたがたの手にわたされる。」¹⁰ それから、300人を3つの隊に分けて、それぞれにラッパと空のつぼを取らせ、つぼの中にたいまつをともしました。そして言いました。

「わたしを見て、わたしのするようにしなさい。わたしが敵陣のはずれに達したとき、あなたがたもわたしのするようにしなさい。」

わたしと共にいる者がみなラッパを吹くと、あなたがたもまたすべての陣営の四方でラッパを吹き、『主のためだ、ギデオンのためだ』と言いなさい。」それから、「わたしに従ってきなさい」という意味の言葉を述べました。正確には「あなたがたもわたしのするようにしなさい」¹¹と言ったのです。

指導者の合図とともにギデオンの軍勢はラッパを吹き、手に携えていたつぼを打ち砕いて、「主のためのつぎ、ギデオンのためのつぎ」と叫びました。この決戦の結果について、聖書には「そして〔ギデオンの軍勢は〕おのおのその持ち場に立ち」、勝利を得たと記録されています。¹²

ホームティーチングは現在実施されている霊の救出計画の一つです。デビッド・O・マッケイ大管長は中央幹部にこの計画を紹介したとき、次のように勧告しました。「ホームティーチングは、御父の子供たちを養い、鼓舞し、助言し、指導するために、最も差し迫った、報いの大きいプログラムの一つである。……それは神聖な奉仕の機会であり、天からの召しである。ホームティーチャーとして、天からの靈感をあらゆる家庭に、人々の心にもたらす務めは、わたしたちの義務である。」¹³

メルキゼデク神権者の力が十分に得られない一部の地域では、ステーキ会長と監督が伝道部長と調整を図って、あまり活発でない会員と、全員が教会員でない家族を訪問するのに専任宣教師の助けを借りることができます。これによって家庭に



伝道精神を再び燃え立たせるだけでなく、具体的に友達を紹介するという理想的な機会を提供できます。

わたしは長年にわたって全世界の多くのステーキを訪問してきました。その中に、必要に迫られて、あるいは義務を果たすために、不安を抱くことをやめ、腕まくりをし、そして主の助けによって行動を起こしたワードとステーキの指導者がいます。大切な兄弟たちがメルキゼデク神権を受けられるように助け、さらにその妻子とともに、エンダウメントと結び固めを受けるため聖なる神殿に参入するよう導いたのです。

幾つかの例を手短に紹介したいと思います。

何年前かに、ソルトレーク・シティーのミルククリークステーキを訪問したとき、大神権を受けるべき状態にあった100人以上の兄弟たちが、その前の年に長老に聖任さ

れたことを知りました。ジェームズ・クレッグ会長に成功の秘訣^{ひけつ}を尋ねました。クレッグ会長は非常に控えめな方で、その誉れを受けようとしませんでした。副会長の一人が明かしてくれました。当時の状況をチャレンジと受け止めたクレッグ会長は、対象となる長老見込み会員一人一人に電話をし、会う約束を取りつけました。クレッグ会長はその面談の中で、主の神殿と神殿で強調されている救いの儀式と聖約について話し、最後にこのような質問をしました。「あなたの愛する奥さんと大切なお子さんたちを主の宮へ連れて行って、永遠の家族になりたいと思いませんか。」彼らは、「はい」と答えました。それから再活発化への働きかけが行われ、目標が達成されました。

1952年に、ローズパーク第3ワードのほとんどの家族で、父親あるいは夫が持つて



いたのはメルキゼデク神権ではなくアロン神権でした。そんなとき、L・ブレント・ゴートス兄弟が監督に召されました。ゴートス監督はあまり活発でなかった一人の兄弟、アーネスト・スキナーに、ワードでアロン神権の教師の職にある29人の兄弟を活発にして、家族とともに神殿へ連れて行くのを手伝ってほしいと言いました。自分もそれほど活発でなかったスキナー兄弟は、初めは気が進みませんでした。ついに、できるだけのことをやってみます、と言いました。こうして、スキナー兄弟は、あまり活発でない成人の教師たちを一人一人訪問して、家庭における神権指導者として、家族にとっての夫、父親として、果たすべき役割を理解できるように助けました。じきに、同じようにあまり活発でない兄弟たちに、その責任への協力を求めました。一人ま

た一人と再び活発になって、家族を神殿へ連れて行きました。

ある日、ワードの書記がスーパーでレジの行列から抜け出して、ある人に声をかけました。それは神殿へ行くグループの中で最後に残った兄弟です。その兄弟は、自分を除いて皆神殿に行ったことを語るうちに、このように言いました。「あのグループの人たちが全員ワードで活発になり、神殿へ行くのを間近で見ました。もし、神殿の中がどれほど美しいか、そして神殿に入ることによってわたしの生活が永遠にどのように変わるかを、想像だけでもすることができたら、わたしが神殿で結び固めを受けるのに、29家族の中で最後になることはなかったでしょうね。」

こうした例のそれぞれに、成功に導いた次の4つの要素が見受けられます。

1. 再活発化のために働きかける機会をワードレベルで追求した。
2. ワードの監督が深くかかわっていた。
3. 適格で、靈感あふれる人がホームティーチャーとして選ばれた。
4. 個人に注意が向けられた。

兄弟の皆さん、ベニヤミン王の勧告を思い起こしてください。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもおおきく、あなたがたの神のために務めるのである……。」¹⁴

わたしたちの助けを必要としている人々を救い出し、いっそう義になつた道を歩めるよう、手を差し伸べてください。正しい道から迷い出ている神権者とその妻子が必要としていることについて、真剣に考えてください。彼らの声にならない心の叫びに耳を傾けてください。

「神の子です、わたしやあなた、
御言葉正しく分かるように。
わたしを助けて導いて、
いつかみもとへ行けるように。」¹⁵

再活発化の業は、怠け者や夢を追う人には向かない仕事です。子供たちは成長し、両親は老いていきます。時間は待っていてくれません。促しを受けたら、そのままにしておくのではなく、行動を起こしてください。すると主は道を開いてくださいます。

忍耐という神聖な徳を求められることがしばしばあります。監督を務めていた時代のある日、わたしは一人の男性を訪問するよう促しを受けました。奥さんはある程度活発で、子供たちも同様でした。しかし、この人はわたしたちの働きかけに対し、まったく反応を示しませんでした。夏の暑い日でした。わたしは、ハロルド・G・ギャラチャー家のドアの網戸をノックしました。ギャラチャー兄弟がいすに座って新聞を読んでいるのが見えました。彼は目を上げようとせずに「どなた」と尋ねました。

「監督です」と答えました。「皆さんとお話しして、ぜひとも家族で教会にいらっしゃるようお勧めに参りました。」

「忙しいからお断りします」とそっけない対応でした。まだ新聞から目を離しません。

耳を傾けてくれたことにお礼を言って、玄関を後にしました。

それから間もなく、ギャラチャー家はカリフォルニアへ引っ越してしまいました。年月が過ぎました。十二使徒定員会の会員として事務室で仕事をしていたある日、秘書の声が聞こえてきました。「ギャラチャー兄弟という方がお話ししたいとおっしゃっています。モンソン長老のワードに昔住んでいらっしゃったそうです。今、ここにいられますが。」

わたしはこう返事しました。「その人に聞いてください。ハロルド・G・ギャラチャーという名で、ウエスト・テンプル・ストリートとフィフス・サウス・ストリートが交差するピッシングプレースに家族と住んでいたかどうか。」

秘書は「ええ、その方です」と言いました。事務室にお通しするように言いました。彼の家族について楽しく語りました。ギャラチャー兄弟はこう話してくれました。「昔、夏の暑い日に、わたしはいすから立ち上がろうともせず、あなたをドアの所で立たせたままにしていたことをおわびに来ました。」教会に活発に集っているかどうかを尋ねました。すると彼は、ほほえみを浮かべながらこう答えました。「今、ワードの第二副監督をしています。教会に誘ってくださったのに、不愉快な態度を執ってしまったことが、度々心に浮かんでいたものですから、何か行動に移そうと決心したのです。」

それからハロルドが亡くなるまで、わたしたちの間には何度も行き来がありました。ギャラチャー夫妻と子供たちは教会で多くの召しを立派に果たしました。最年少のお孫さんは現在専任宣教師として働いています。

わたしはかつて、^{あかし}証の種は必ずしもすぐに根を張り、花を咲かせるわけではないことを知りました。今晚、わたしの話に耳を傾けている大勢の宣教師の皆さんに、その経験を紹介したいと思います。伝道の書にあるように、水の上に投げたパンは時々、多くの日の後でないと戻って来ません。けれども、必ず戻って来ます。

ある晩、かかってきた電話の受話器を

取ると、相手の方がこう尋ねてきました。「あなたは何年も昔に、ニューイングランド伝道部で伝道したモンソン長老という人とかかわりがありますか。」

わたしは思い当たる節がないと言いました。電話の主はレナード・キャンパーデラ兄弟と名乗ってから、昔、モンソン長老とボナー長老という人が家を訪れて、彼と奥さんに証を述べたことを話しました。夫婦は耳を傾けましたが、教えを受け入れるために何か行動を起こすまでには至りませんでした。その後この夫婦はカリフォルニアへ引っ越しました。それから約13年後のことです。再び真理を見いだした二人は、改宗してバプテスマを受けました。そしてキャンパーデラ兄弟は、最初に訪問して彼と奥さんの心にいつまでも残る証をしてくれた二人の宣教師に心からお礼を言いたいので、二人を探す手立てはないだろうかと思ねました。

記録を調べてみました。そして長老たちを見つけました。すでに結婚して子供のいる二人がどれほど驚いたか想像できるでしょうか。わたしは二人に電話をかけて、素晴らしい知らせを伝えました。それはかつての努力の結晶でした。二人はすぐにキャンパーデラ家族を思い出しました。教会に入ったことを彼らが直接お祝いし、歓迎できるように、わたしは会議電話〔訳注——電話サービスの一つで、複数の人が同時に会話できるようにしたもの〕の手配をしました。彼らは語り合い、涙を流しました。しかし、それは喜びの涙でした。

エドウィン・マーカムはこのような詩を詠みました。

わたしたちは兄弟となる運命にある。
一人だけで生きている人はいないからだ。
わたしたちがだれかの人生に
届けたものはすべて
自分に帰って来るのだ。¹⁶

^{こよい}今宵、神権を持つわたしたち全員が、いにしへのギデオンのようにそれぞれの責任をわきまえ、任命された職にしっかりと立ち、またわたしたちの指導者である主イ



エス・キリストと、主の預言者であるゴードン・B・ヒンクレイ大管長に従うことができますようにお祈りします。道を迷い出た人々に手を差し伸べ、大切な彼らを救い出すことができ、一人も失われることがありませんように。

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. Conference Report, 1937年4月, 46
2. 教義と聖約107:99
3. *Stand Ye in Holy Places* (1974年), 255
4. 教義と聖約18:10, 13
5. 士師7:12
6. 同上7:2
7. 同上7:3
8. 同上7:4
9. 同上7:7
10. 同上7:15
11. 同上7:17, 18
12. 同上7:18, 21。6章, 7章も参照
13. *Priesthood Home Teaching Handbook*, 改訂版 (1967年), ii-iii.
14. モーサヤ2:17
15. ナオミ・W・ランドール, 「神の子です」『賛美歌』189番
16. "A Creed," ジェームズ・ダルトン編, *Masterpieces of Religious Verse* (1948年), 464

忠誠を尽くす

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

あなたの内にある最善のものに忠実であってください。神の神権にかかわる聖約に忠実かつ誠実であってください。



この集会と同じような集会は、世界中のどこを探しても見つけることができません。どこに住んでいるか、どのような言語を話しているかにかかわらず、わたしたちは皆、頭に手を置かれて神の神権を受けた者です。小神権すなわちアロン神権を受けている青少年であれ、大神権すなわちメルキゼデク神権を受けている男性であれ、わたしたちはそれぞれ、すばらしく、崇高なもの、神が属性として持っておられるものの本質を授けられています。

繰り返し申しますが、このような集会は世界のどこを探しても見当たりません。わたしたちは、一つの非常に大きな群れとして、兄弟愛のきずなの下、特定の力や権能を授けられている者、全能者の名において語り、行動する特権を与えられている者として集まっています。天の主なる神は、神だけが持つておられる特別なものを人

に授けることをお許しになりました。はたしてわたしたちはその特権を受けるにふさわしいのだろうかと考えることがあります。ほんとうにそのことを認識しているのだろうかと疑わしく感じることがあります。わたしはこの力と権能が無限であることを考えると驚きを覚えます。それは命と死に関連があり、家族と教会に関係し、神御自身と神の永遠の業の持つ偉大にして卓越した属性とかかわりがあるものです。

兄弟たち、わたしは聖なる神権の定員会の一員として皆さんを歓迎いたします。避けることもたじろぐことも許されない責任を各々にお与えになった、生ける神の僕として皆さんを歓迎いたします。

このように皆さんをお迎える気持ちから、わたしは今晚のテーマとして、一つの言葉を様々な面からとらえてお話しすることにしました。それは忠誠という言葉です。

わたしは忠誠という言葉を知ると、自分に対してうそ偽りのないこと、という意味を思い浮かべます。自分の選んだ伴侶に対して絶対的に誠実であるという意味にとらえます。教会とその様々な活動に対して絶対的に献身するという意味が心に浮かんでいきます。永遠の御父である天の神と、御父の愛子でありわたしたちの贖い主である主イエス・キリストに対して完全に誠実であるという意味を考えます。

わたしたちはそれぞれが秘める最善の自分に対して誠実でなければなりません。わたしたちは神の聖なる権能を持つという榮譽を受けた神の息子です。しかしわたしたちが生活しているのは邪悪に満ちた世界です。墮落させようとする力、与え

られている聖なる神権とまったく矛盾することに引き込もうとする力が常に働いています。偽りの父、すなわち天から投げ落とされた狡猾な暁の子は、意志の弱い、警戒心の薄い者たちをそそのかして、自分の道に引き入れ集めるために、常に手段と力を備えています。そのことについて客観的に見てみると興味深いものがあります。ごく最近のことですが、ある映画が年間の最優秀作品に選ばれました。わたしはその映画を見ていませんし、見るつもりもありません。けれども、その映画は性的な描写にあふれており、至る所で神を汚す言葉が使われていると聞いています。

現代の特徴の一つとしてポルノグラフィの氾濫を挙げることができます。だまされて見る多くの人々のおかげで、ポルノグラフィの制作者は巨万の富を手に入れています。知恵の言葉と呼ばれる啓示の最初の部分で主はこのように宣言しておられます。「終わりの時に陰謀を企てる人々の心の中に今あり、また将来もある悪ともくろみのゆえに、わたしはあなたがたに警告を与えており、また、啓示によりこの知恵の言葉を与えることによって、あなたがたにあらかじめ警告するものである。」(教義と聖約89:4)

次に主は、人が口に入れる食べ物について話しておられます。ポルノグラフィにおぼれるときに心の中に取り込んでいるものを、同じ言い回しで当てはめることができます。

兄弟たち、わたしの声の届く範囲にいる成人男性と青少年は一人残らず、品位を落とすとはどのようなことを意味しているかを知っています。道路地図がなくても、ポルノグラフィにおぼれるとどのようなところに行き着くかを知っています。これとは対照的に、主に近く生活することによって、またわたしたちを取り巻く潜在性の薬物常用癖から完全に遠ざかることによって得られるのは、美と平安とすがすがしい気持ちです。

この集会に出席している愛する青少年の皆さん、これは皆さんに向けた言葉です。悪魔が特にねらいをつけているのは皆さんです。サタンは今皆さんをとりこに

できれば、これからの全生涯、皆さんを自分のものにできると知っています。皆さんの体には神聖な目的のために驚くべき力と本能が植え付けられています。しかし使い方を間違えると、未来に向けて自分を築き上げるのではなく、破滅を来すこととなります。

わたしは若人の力に心から感謝しています。けれども、道から迷い出てしまった若人が一部にいることも知っています。失った一人一人はわたしたちの悲しみです。主の王国はあなたを必要としています。王国の一員としてふさわしくあってください。あなたの持っている最善のものに誠実であってください。抵抗力を弱めるようなことに近づかないでください。

成人の皆さんにチャレンジを差し上げます。あなたをのみ込もうとしている下品で低俗な波から逃げてください。世の邪悪から今すぐに避難してください。より善い人になるために誠意を尽くしてください。あなたの持っている最善のものに忠実であってください。神の神権にかかわる聖約に忠実かつ誠実であってください。みだらなことにおぼれてはなりません。うそをついたり、だましたりしてはなりません。不義によって他人を出し抜いていると、一人一人に生来備わっている神聖な部分が失われてしまいます。兄弟の皆さん、わたしたちがそのような状態から脱して、最善の自己に誠実であるよう、わたしは力のかぎり祈っています。

家族関係において誠実であってください。わたしは多くのすばらしい夫婦関係を見てきましたが、同時に最悪の夫婦関係も数多く見てきました。神殿の結び固めの取り消し請求を処理する責任をわたしは毎週果たしています。世界中で、離婚はごく一般的な現象となっています。法律上問題がない国では、男女が簡単に一線を越えて、同居生活を始めています。神殿で結婚した人々の離婚率は非常に低いと申し上げられることを感謝しています。けれども、神殿結婚をした場合であっても、本来あるべき状態から考えれば、はるかに多くの離婚が発生しています。

花嫁と花婿は、互いへの愛を誓いつつ



カンファレンスセンターの窓越しに滝を見る、訪問者。

主の宮に来ます。二人はお互いと主との間で、厳粛で永遠の聖約を交わします。二人の関係は永遠の聖約によって結び固められます。すべての結婚が完全にうまくいくとは、だれも考えていません。けれども、確かに言えることは、主の宮で執り行われるすべての結婚には、お互いに対して誠実であるという聖約が伴っているということです。

幸福な結婚の最大の要因は伴侶の安らぎと幸せに配慮することだとわたしは長い間、感じてきました。口論、別居、離婚、幻滅を引き起こす原因は、ほとんどが自己中心的な言動です。

兄弟の皆さん、主はわたしたちにもう少し良いものを期待しておられます。世の中に見られるよりも、もっと良い状態を期待しておられます。あなたの伴侶を選んだのはあなた自身であることを決して忘れてはなりません。彼女のような人は世界に二人としないと感じたのはあなたでした。彼女と永遠に一緒にいたいと望んだのはあなたです。しかし、あまりにも多くの場合に神殿で経験した気持ちが忘れ去られています。卑しい欲望がその原因となっているのかもしれませんが。褒め言葉に代わってあら探し口をつけて出てきます。どれかの悪いところを見つけようとするれば、何かしら見つけられることでしょう。けれども、良いところだけを見つければ、その長所は伸び、やがて大きな光と

なります。

わたし自身も経験してきました。間もなくヒンクレイ姉妹とわたしは結婚して66年になります。この長い年月、彼女がどのようにわたしのことを我慢してくれたかは分かりません。現在では二人とも年を取りました。けれどもわたしは妻にどれほど感謝していることでしょうか。妻が安らかでいることをどれほど願っていることでしょうか。妻にとつての最善の状態をどれほど願っていることでしょうか。彼女はこれまでずっとすばらしい伴侶でした。すばらしい妻であり、非常にすばらしい母親であり、祖母であり、曾祖母です。

非常に高齢なある男性に、レポーターが長生きの秘訣を尋ねた話を皆さんはもちろん、耳にしたことがあると思います。その男性は、結婚したときに、もし口論になったら一人が家から外へ出て行くことを二人で決めた、と答えました。そして言いました。「皆さん、わたしが長生きできたのは、この長い年月に何度も何度も外へ出て新鮮な空気を吸ったからだだと思います。」

兄弟たち、あなたの伴侶に誠実であってください。互いに対して絶対の忠誠を尽くすことによって結婚生活を神聖なものにしてください。伴侶の中に幸せを見いだしてください。伴侶に、興味のあることを追求し、才能を伸ばし、自分なりの方法で成長し、達成感を味わう機会を与えてください。

ここで、教会に対する忠誠について少しお話ししたいと思います。

無関心が至る所で見られます。「わたしがあれこれについてどう考えるか、自分の人生をどう生きるかについて、教会は指図すべきでない」と言う人たちがいます。

その人たちにお答えします。いいえ、教会はだれに対してもどのように考えるべきだとか、何をすべきだとかと言って指図することはありません。教会は道を示して、すべての会員に福音に従って生活し、そのような生活から祝福を受けるように勧めているだけです。教会はだれに対しても指図するようなことはしません。教会員であることを公言している人々に、勧告し、説得し、促し、忠実であるよう期待しているだけです。

大学生だったとき、わたしは父に言ったことがあります。あることを提唱した中央幹部は、越権行為をしているんじゃないのか、と。父はとても賢明で善良な人でした。父はこう言いました。「大管長はこれまでわたしたちに指示を与えてきた。わたしは大管長を預言者、聖見者、啓示者として支持しているし、大管長の勧告に従うつもりだよ。」

わたしはこれまで45年間この教会の中央評議会に働いてきました。十二使徒補助、十二使徒、副管長として奉仕し、そして大管長としてこれまで8年働いてきました。教会の方針とプログラムを検討する集會に文字どおり何千回と出席してきましたが、集會で主の導きが求められなかったことは一度もありませんでした。また、だれかを傷つけたり抑えつけたりするようなことを、主張しようあるいは実行しようと望んだ人は、出席者の中になだの一人もいませんでした。そのことを証したいと思います。

黙示録は次のように宣言しています。

「わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。」(黙示3:15-16)

愛する兄弟の皆さん、わたしは約束しま

す。わたしは現在の責任にあって働いているかぎり、この主の教会の会員にとって益とならないような方針やプログラム、見解に同意したり、唱導したりすることは絶対にありません。

この業は主の業です。主が設立されました。主が教義を啓示してられました。主がその活動の概要を明らかにしてられました。主が教会の管理組織をお作りになりました。これは主の業であり、主の王国です。主はこうおっしゃいました。「わたしに味方しない者は、わたしに反対する者……である。」(2ニーファイ10:16)

1933年に合衆国で、アルコール飲料の製造と流通販売を禁止する法律を覆そうとする運動がありました。投票で採決を図ることになったとき、ユタ州の1票で採否が決まることになりました。

当時わたしは伝道中で、イギリスのロンドンにいました。新聞の見出しを見ると「ユタ州、禁止法を覆す」と大きな字で書かれていました。

当時、この教会の大管長だったヒーバー・J・グラント大管長は、酒類製造販売禁止法を破棄する案に賛成票を投じないよう教会員に熱心に訴えました。この州の非常に多くの教会員が大管長の勧告を無視したとき、大管長はひどく傷つきました。

わたしは教会に対して絶対の忠誠を尽くすことについてお話するだけで、ここで禁酒法の是非についてお話するつもりはありません。

兄弟たち、教会が下した大切な決定を知ったときに、その方針に自分を合わせてきた多くの末日聖徒のすばらしい信仰に、わたしはどれほど感謝していることでしょうか。特に感謝を表したいのは、そうした忠実な男女の中に、すばらしい経歴を持ち、実績があり、教育があり、大きな影響力を持ち、力のある人々、知性と能力に秀でた人々がいることです。

わたしたちは一人一人が、教会が真実かあるいは偽物かという問題に面と向かわなければなりません。ここに中間地帯はありません。神の教会であり王国であるか、あるいは何でもないかのいずれかです。

愛する兄弟たち、大いなる力と忠節を

示し、偉大な信仰と忠誠を表している皆さんに感謝します。

最後に、永遠の父なる神と、神の愛される御子、主イエス・キリストに対する忠誠についてお話しします。

この教会のすべての会員は、神がわたしたちの永遠の御父であり、神の愛子は贖い主であられることを知る権利を与えられています。救い主は、その知識を得る鍵をお与えになりました。主はこのように言われました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:17)

イスカリオテのユダはその忠誠を銀貨30枚で売ったことにより、大いなる裏切り者として歴史にその名をとどめています(マタイ26:15参照)。

今の時代、神を汚す不敬な言葉で、どれほど多くの人々が、パウロの言葉を借りれば「神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものに」していることでしょうか(ヘブル6:6参照)。

青少年の皆さん、学校や街にどれほど神を汚す言葉が氾濫しているかを知っていると思います。そのような言葉を避けてください。決して口にはなりません。天の神と世の贖い主の名を神聖に保つことによって忠誠を表してください。

主イエス・キリストの御名によって天の御父に祈り、常に、どんな状況にあっても、生活そのものによって忠誠と愛を示してください。

主の方には 誰が立つや
恐れず聞かん 時は至る
特に強き われらの敵
目覚めてあり いざ戦え
(『賛美歌』165番)

愛する兄弟の皆さん、皆さんと家族のうえに天の祝福がありますように。常に正直であり、誠実であって、高潔さと絶対的な忠誠を備えた男性、青少年となることができますように、イエス・キリストの聖なる御名によってお祈りします。アーメン。

「^あれ^の荒野にさまよう 一つの羊」

第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

悲嘆に暮れた両親は、不従順な子供たちを、義にかなって、勤勉に、祈りの気持ちで教えてきました。わたしたちは皆さんに申し上げますが、良い羊飼いが彼らを見守ってください。



愛する兄弟、姉妹、友人の皆さん、わたしの今朝のメッセージが、心を痛めている両親に希望と慰めを与えるものとなればと願っています。義の中で子供を育てるために愛と献身をもって最善を尽くしてきたのに、子供が反抗したり、悪と破滅の道に従って迷い出たため、失望している両親に向けてお話しします。皆さんの感じている深い悲しみについて考えると、わたしはエレミヤの言葉を思い出します。「声がラマで聞える。ラケルがその子らのために嘆くのである。……彼女は彼女の子らのことで慰められるのを願わない。」主はこれに対してありがたい保証を与えられました。「あなたは泣く声をとどめ……よ。あなたのわざに報いがある。

彼らは敵の地から帰ってくる……。」¹

わたしが初めに証しなければならぬのは、この教会の両親に対する主の言葉が、教義と聖約の第68章に、注目すべき指示としてこう記されていることです。「さらにまた、シオンにおいて、または組織されているそのいずれかのステークにおいて、子供を持つ両親がいて、八歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。」² 両親は「その子供たちに祈ることと、主の前をまっすぐに歩むことも教えなければならぬ」³ と指示されています。わたしは父親として、祖父として、曾祖父として、これを主の言葉として受け入れています。そして、イエス・キリストの僕として、両親の皆さんに、できるだけ忠実にこの勧告に従うようお勧めします。

善い親とはどのような人でしょうか。模範と勧告によって子供たちに「祈ることと、主の前をまっすぐに歩むこと」⁴ を教えるために、優しく、祈りをもって、熱心に努めてきた人々です。たとえ不従順な子供や世俗的な子供がいたとしても、これは真実です。子供たちはそれぞれ異なる霊と個性を持ってこの世にやってきました。中には「どのような環境の下であろうと、どのような両親のもとに生まれてこようとも、反抗する……子供がいるのではないのでしょうか。……両親がどうあろうと、両

親の生活に祝福と喜びをもたらす子供もいると思います。」⁵ 成功する両親は、それぞれの家族が抱える事情の中で最善を尽くすために犠牲を払い、苦勞している人々です。

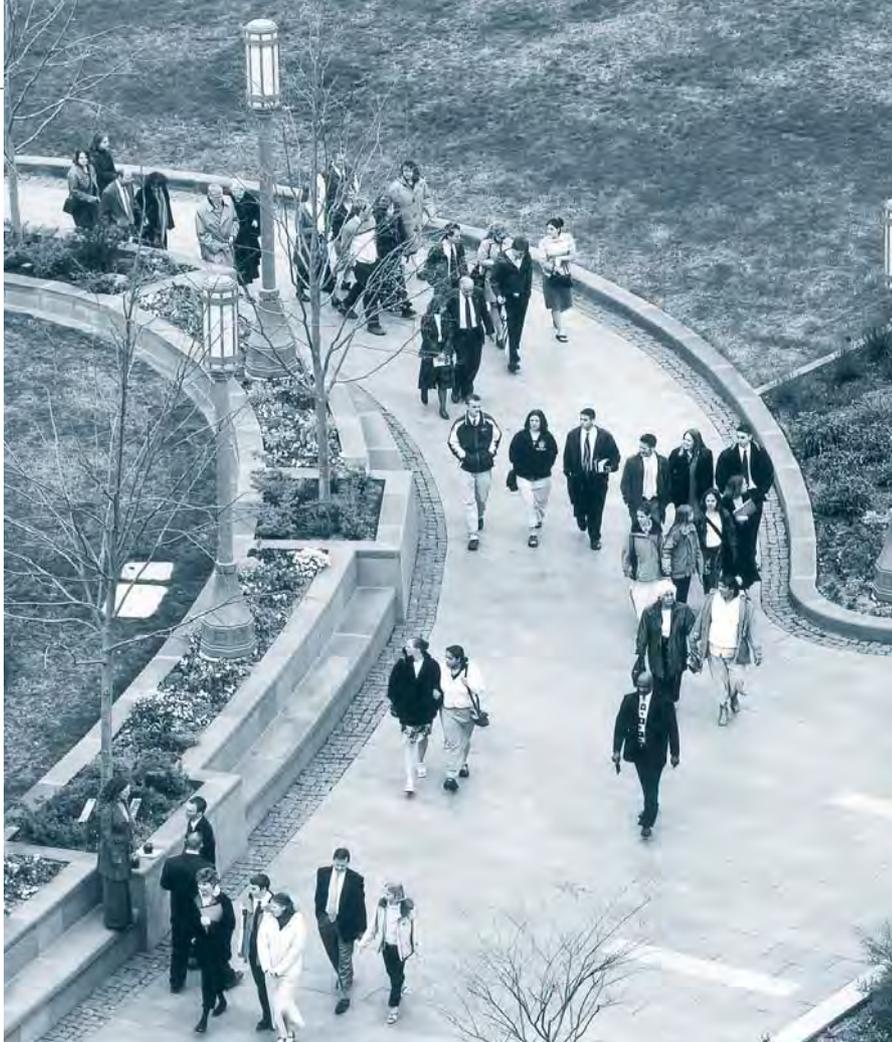
子供に対する親の愛の深さは、計り知れません。それはほかのどんな間柄にもない深い愛です。自分の命さえといません。子供に対する親の愛は絶えることなく、心痛や落胆を乗り越えて続いていくものです。すべての親は、子供が賢明な決断を下すように望み、祈っています。従順で信頼できる子供は、その親にとこしえの誇りと満足を得させます。

しかし、忠実で愛にあふれた親に教えられてきた子供が反抗したり、迷い出たりしたら、どうなるでしょうか。希望はあるのでしょうか。道をそれた子供を持つ親の深い悲しみは、ほとんど癒されることがありません。ダビデ王の三男アブサロムは、兄の一人を殺害し、父親に対する反乱を指揮しました。アブサロムはヨアブに殺されました。アブサロムの死の知らせを聞いたとき、ダビデ王は泣いて悲しみを表しました。「わが子アブサロムよ。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、わたしが代って死ねばよかったのに。アブサロム、わが子よ、わが子よ。」⁶

この父親の愛は、放蕩息子のたとえの中にも表現されています。放蕩に身を持ちくずして財産を使い果たした息子が家に帰って来たとき、父親は肥えた子牛をほふり、放蕩息子が帰って来たことを祝いました。そして、憤慨している忠実な息子に言いました。「このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである。」⁷

わたしはオーソン・F・ホイットニー長老の慰めに満ちた次の言葉を信じ、受け入れています。

「預言者ジョセフ・スミスは次のように宣言しましたが、この宣言により、これ以上ないほどの慰めに満ちた教義を説いています。忠実な両親が受けた永遠の結び固めと、真理の大義における雄々しい奉仕に対して授けられた神の約束は、当人



のみならず、子孫をも救う力があります。中には迷い出る羊がいるかもしれませんが、良い羊飼いの目は彼らに注がれています。囲いに連れ戻そうと差し伸べられている神の御手に、遅かれ早かれ、彼らは気づくでしょう。現世か来世のいずれかで、戻って来るでしょう。正義に対する負債は支払わなければなりません。自分の犯した罪のために苦しみ、つらい道を行くことになるかもしれません。しかし、そのつらい道を通して、罪を悔い改めた放蕩息子のように、最終的には愛と救いに満ちた父親の心と家へ戻るのであれば、つらい経験も無駄にはならないでしょう。軽率で反抗的な子供のために祈り、信仰をもって見守ってください。神の救いを見届けるまで、希望と信頼を捨てないでください。』⁸

この声明にある原則は、しばしば見過ごしにされますが、迷い出た彼らは完全に悔い改め、「自分の犯した罪のために苦しみ」、「正義に対する負債を支払わなければならぬ」ということです。わたしは「現世は人が神にお会いする用意を

する時期である」⁹ ことを知っています。反抗的な子供がこの世で悔い改めることがなければ、結び固めのきずなは、彼らが悔い改めを達成できるように助ける力となり得ないのでしょうか。教義と聖約の中で、わたしたちはこう言われています。「悔い改める死者は、神の宮の儀式に従うことによって贖われるであろう。

彼らは自分の背きの代価を支払い、洗われて清くなった後、その行いに応じて報いを受けるであろう。彼らは救いを受け継ぐ者だからである。』¹⁰

御存じのように、放蕩息子は自分の財産を浪費し、すべて使い果たしたときに父親の家へ戻って来ました。そこで家族には迎え入れられましたが、財産は失いました。¹¹ 憐れみは正義の要求を奪うことではないので、忠実な両親の結び固めの力は、キリストの贖いに、本人の悔い改めという条件が満たされたときのみ、道をそれた子供たちに及びます。悔い改めた反抗的な子供は、救いとそれに伴うすべての祝福を享受しますが、昇栄はそれ以上のことです。昇栄を受けるふさわしさを

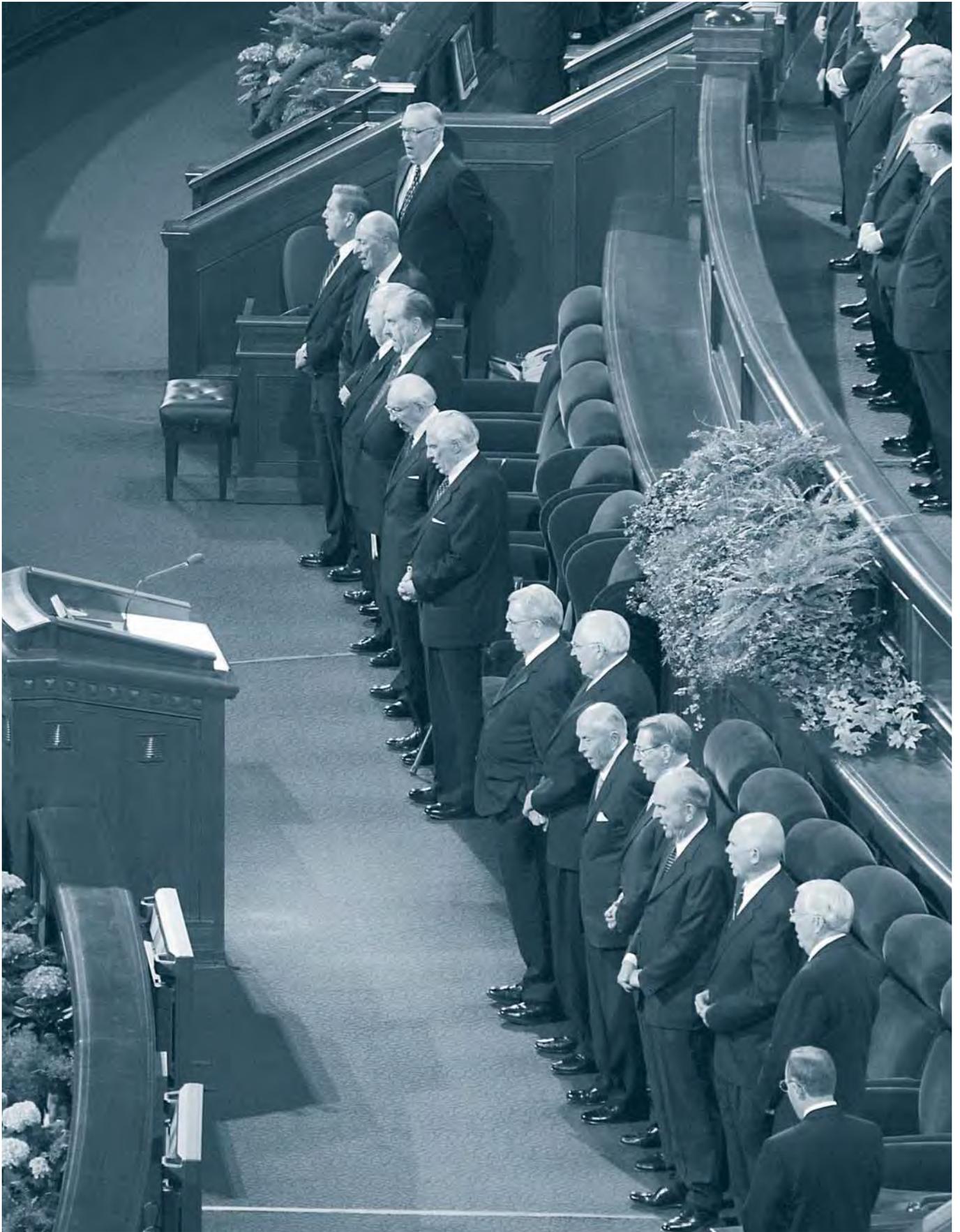
完全に得る必要があります。だれが昇栄するかという質問は、主の憐れみにゆだねなければなりません。

どんなに反抗的で邪悪な罪を犯した人であろうとでも、「悔い改めの力が及ばない」¹² ほど重大な罪を犯してしまった、という人はほとんどいません。裁きもまた、主にゆだねるべきものです。主はこう言われました。「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたにわたしたちは、すべての人を赦すことが求められる。』¹³

義になかった両親の結び固めのきずなが子供との間でいかに持ちこたえるのか、恐らく、この世において完全に理解することはできないでしょう。わたしたちが知らない多くの助けが差し伸べられることによって、それが可能となるのかもしれませんが。¹⁴ わたしは、愛する先祖の影響が幕のかなたからわたしたちに及ぶように、強い家族の力が存在すると信じています。

ハワード・W・ハンター大管長は、このように述べています。「悔い改めは魂が天の家にいたときの状態に戻ろうとする働きであり、両親の途切れることのない細心の心遣いは、神の変換することのない救いを表す、この世で最上のひな型である。」家族は、救い主がその使命を通じて確立しようとされたものの、最も手近な類型ではないでしょうか。¹⁵

人は自分の両親から子育てについて多くのことを学びます。父親に対するわたしの愛は、父が親切で忍耐強く、理解を示してくれたときに大いに深まりました。わたしが家族の車を壊したとき、父は優しく赦してくれました。しかし、息子であるわたしたちは、もしほんとうのことを隠したり、何度も続けて規則を破ったり、特に母に無作法な振る舞いをしたりするならば、厳しい罰を覚悟しなければなりません。父が亡くなってほぼ半世紀になりますが、わたしは今でも、賢明で愛のある助言を求めて父のところへ行けないことを寂しく思います。父の助言に時々疑問を抱いたことがあるのは認めますが、父からの愛に疑いを感じたことは一



起立して歌う大管長会と十二使徒定員会会員(中央), およびそのほかの中央幹部(右上)。

末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会

2003年4月現在



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

七十人会長会



アール・C・
ジェンキー



D・トッド・
クリストファースン



デビッド・E・
ソレンセン



デニス・B・
ノエン



チャールズ・
ディレイエ



ディーター・F・
ウグトドルフ



ラッセル・J・
ベトナム



ソルトレーク神殿の前景。扶助協会の執務ビル付近から西側を撮影。

度ありません。わたしは決して父を失望させようとは思いませんでした。

両親としてできる最善のを行うために大切な要素は、愛をもってしっかりとしたしつけをすることです。もしわたしたちが子供をしつけなければ、わたしたちや子供たちが好まない方法で、社会がそれを行うかもしれません。子供へのしつけの一つは、働くことを教えることです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう言いました。「最も偉大な価値観の一つは……正直に働くという徳にあります。知識は労働を伴わなければ無益であり、労働を伴うときに天才の資質となるのです。」¹⁶

全地に広がるサタンのわなは増え続け、このために子育てはますます難しくなっています。したがって親は、自ら最善を尽くすとともに、教会の組織や活動が提供できる援助を取り入れる必要があります。もし親が一時的であれ不品行のために道を外れるならば、子供たちはその模範に従っても問題ないと感じるかもしれません。

親子関係には、お話ししなければならないもう一つの面があります。親から遠ざかっている子供の皆さんにお願いします。たとえ親がこれまで、本来示すべき模範を示してくれなかったとしても、親に歩み寄ってください。親に批判的な人は、モロナイの賢明な勧告を思い起こすようにしましょう。「不完全なところがあるからということで、わたしを非難してはならない。わたしの父をも、不完全なところがあるからということで非難してはならないし、父よりも前に書き記してきた人々も、非難してはならない。むしろこれまでのわたしたちよりも、あなたがたがもっと賢くなれるようにと、わたしたちの不完全なところをあなたがたに明らかにしてくださった神に、感謝しなさい。」¹⁷

モロナイは1823年に若き預言者ジョセフ・スミスを訪れたとき、エリヤの使命に関する次の聖句を引用しました。「彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。」¹⁸ わたしは、すべての子供たちが最終的に父親と母親に心を向けるように



願っています。

わたしが若いころに知っていたすばらしい夫婦には反抗的な息子がいて、家族から離れて生活していました。しかし、何年か後に家族と和解し、子供たちの中で最も優しく両親を気遣う息子になりました。人は年を取るにつれて、幕のかなたにいる親や祖父母からの引き寄せる力が強くなっていきます。彼らが夢の中に現れてくれるとき、それは甘美な経験です。

子供たちが反抗したり、親の教えと愛から迷い出たりしたという理由で、誠実で忠実な両親が裁かれるとしたら、これほど不公平で冷酷なことはありません。慰めと満足を得させてくれる子供や孫を持つ夫婦は幸いです。わたしたちが思いやらなければならないのは、不従順な子供のためにもがき苦しんでいる、義にかなったふさわしい両親です。友人の一人が、よくこう言いました。「子供の問題をまだ経験したことがなければ、ほんの少し待ちなさい。」自分の子供がある環境でどのように行動するか、確信をもって言える人はいません。わたしの賢明な義理の母は、ほかの子供たちの間違っただけの行いを見るとき、こう言ったものです。「わたしが話している最中にしていないからという理由で、自分の子供ならそれをしなかったとは決して言えないわ。」不従順で反抗的な子

供のために両親が嘆き悲しんでいるとき、わたしたちは同情心を示さなければなりません。「最初に石を投げつける」ようなことをしてはなりません。¹⁹

ある匿名の教会員は、いちばん下の弟が両親に与えた絶え間ない心痛について書いています。弟は薬物に手を出しました。そして自分を抑え正そうとするあらゆる努力に反発しました。人を欺き、けんか腰でした。家出したこの息子は、放蕩息子とは違って、自分の意志で帰っては来ませんでした。その代わりに、警察に捕らえられ、自分の行為の結果に直面させられたのです。両親は2年間、ビルが薬物から完全に立ち直るための治療プログラムを支えました。当時を振り返って、ビルの姉は次のように述べています。「両親は並外れたすばらしい人だと思います。ビルに対する愛が揺らぐことは一度もありませんでした。けれども両親は、ビルが自分自身にしたことや家族の生活に与えた影響には賛成せず、嫌悪感さえ抱いていました。しかし、両親は献身的に働いて、家族があらゆる面でビルを助け、彼が困難な時期を乗り越えてより堅固な地に立てるようにしました。両親は迷い出た一人を愛することによって、キリストの福音をより深く、より細部に至るまで、より広く実践したのです。」²⁰

もし自分の子供が従順で、主の道に関する教えを尊重するなら、高ぶらずに、謙虚に感謝するようにしましょう。悲嘆に暮れた両親は、不従順な子供たちを、義にかなって、勤勉に、祈りの気持ちで教えてきました。わたしたちは皆さんに申し上げますが、良い羊飼いが彼らを見守ってください。神は皆さんの深い悲しみを知って、理解しておられます。希望があります。エレミヤの言葉から慰めを得てください。「あなたのわざに報いがあり、子供たちは「敵の地から帰ってくる」のです。²¹ イエス・キリストの御名によって証し、祈ります。アーメン。

注

1. エレミヤ31：15-16
2. 教義と聖約68：25
3. 教義と聖約68：28
4. 教義と聖約68：28
5. ハワード・W・ハンター「子供を思いやる両親」『聖徒の道』1984年1月号、114
6. サムエル下18：33
7. ルカ15：32
8. Conference Report, 1929年4月、110
9. アルマ34：32
10. 教義と聖約138：58-59
11. ルカ15：11-32参照
12. アロンゾ・A・ヒンクレイ, Conference Report, 1919年10月、161
13. 教義と聖約64：10
14. ジョン・K・カーマック「子供が道から迷い出たとき」『リアホナ』1999年3月号、29-37参照
15. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編(1997年)、32
16. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年)、704
17. モルモン9：31
18. ジョセフ・スミス—歴史1：39
19. ハロルド・B・リー, *Decisions for Successful Living* (1973年)、58
20. "With Love — from the Prodigal's Sister," *Ensign*, 1991年6月号、19
21. エレミヤ31：16

「霊の命……を 心にかけて下さい」

十二使徒定員会
ニール・A・マックスウェル

真に改心した弟子たちはまだ完全ではありませんが、いつの日も、いつの時代でも、どんな退廃と破壊のさなかでも、「霊の命」を求め続けます。



人はだれも、混乱し変転極まりない世界情勢にまったく無関係ではられません。そのような状況にあって直面するのは、現実的でやむことのない苦悩です。すなわち、この世の苦勞を体験する中で、主の言われる「霊の命……を心にかけて[る]」ことを実際に選ぶかどうかという苦悩です(教義と聖約101：37)。外部の出来事とのかかわりがどれほどのものにせよ、この内なる苦悩は平穏な時代にも動乱の時代にも存在します。人がそう理解するにせよ認識するにせよ、これは人がこの世で果たすべき課題であり、どの世代も等しく直面してきたのです。

神の戒めを守ろうと努力するとき、「内なる人は日ごとに新しくされて」いきます

(2コリント4：16)。そうであれば、たとえ時代が悪くても、外の状況がどうであっても、わたしたちは「自分の魂を守る」ことができるはず(箴言19：16)。確かに、放蕩息子^{ほうとう}の例に見られるように、自分の霊を「心にかけて」「守る」という内なる決断を、その他の点では平穏である時代に下す場合もあります。日ごと豚を飼って暮らしていたこの息子に、ようやく「本心に立ちかえ[る]」特別な時が訪れました(ルカ15：17)。その特別な日に自分の住む「遠い所」でほかに何が起こったとしても(ルカ15：13)、この放蕩息子はそれまで生きてきた「道を思[い]」返し(詩篇119：59)、「立って、父のところに戻[ろう]」と固く決心していました(ルカ15：18)。すなわち、内省の後に変化が起こったのです。そうは言っても、故郷へ向かうこの豚飼いの姿が通行人の目を引くことはなかったでしょう。でも実は、永遠にかかわる重要な事柄が彼の身に起こっていたのです。

しかし、ほかの場合には、外と内の葛藤^{かつ}がもっと目に見える形になります。ピラトは表面上単なる地元の騒動にすぎない、ナザレのイエスという男にかかわる事件を裁いていました。「敵視し」合っていたピラトとヘロデが新たに和睦^{わはく}したことは(ルカ23：12)、情報通の間では、疑いもなく重要な政治的ニュースでした。気が進まぬまま、ピラトは扇動された群衆の要求に屈し、イエスではなくバラバを赦^{ゆる}してしまいます。洗っても洗っても汚れた手のまま、ピ



ラトはカイザリヤに戻って行ったようです。しかしキリストはゲツセマネとカルバリに赴き、苦悶を伴うけれども人を自由にする、普遍的な贖いを達成されました。それによって、何十億という人が復活にあずかれるようになったのです。

今日、あちらこちらで、義人と悪人の別を問わず、戦雲が頭上に垂れ込めています。偉大な復活というキリストの輝かしい賜物は万人に等しく、惜しみなく注がれます。白い波頭を見て深海で起こりつつある変動を知るのとは不可能ですが、贖罪の場合も同様でした。地球全体に影響を与え、永遠の重要性を持つ出来事が、小さな庭園と人目につかない丘で起きていたのです。

多くの場合、神の業はひそやかに展開します。例えば、ジョセフ・スミス・シニアの家族がニューイングランドからニューヨーク州北部に引っ越したことに、どんな差し迫った経済的理由があったにせよ、彼らは知らず知らずのうちに、聖なる金版に導かれて行ったのです。この金版はクモラの丘に埋められ、「大地のあるかぎり代々伝わる」「キリストについてのもう一つの証」となる時を待っていました(2ニ

ーファイ25:22)。

ですから、この騒乱の時代にあっても、ひそやかに「霊の命」を心にかけることがやはり最も重要なのです。将来を左右する決定的瞬間になり、時に義にかなった行いを際立たせることがあります。いかなる外的混乱も、内的決心を揺るがす言い訳にはなりません。たとえプレッシャーに簡単に屈する人がいる場合も、そうです。方々で争いが始まっても、聖約を破る必要はありません。例を挙げれば、単に戦争で夫婦が別居を余儀なくされているからといって、姦淫が正当化されることはありません。「あなたは姦淫してはならない」という第7の戒めには、「戦争のときを除いて」という補足事項はないのです(出エジプト20:14参照)。

昔の戦争の時代に、デビッド・O・マッケイ大管長は従軍中の会員に対し、「野蛮な戦争」のさなかでも「道徳的な清さを保つ」ように教えました(Conference Report, 1969年4月, 153)。

国々が互いに敵対して立ち上がっても、その混乱の中で盗みを働いたり偽証したりして、経営者が仲間や株主に敵対すれば、それは第8と第9の戒めの双方を破る

ことであり、正当化されることはありません。そこには容認できる例外規定がないからです(出エジプト20:15-16参照)。

世界情勢が不確かだからといって道徳上の不確かさを正当化できませんし、心を乱す激動が人の罪を覆い隠すことも、すべてを見通す神の目を曇らせることもできません。さらに、戦争に勝利したとしても、自制という個人レベルの戦いで勝利を収める必要性はなくなりません。燃え盛る人の憎しみが、神の子すべてに与えられる神の完全な贖いの愛を弱めることもありません。同様に、現在、人の目を覆っている暗黒の霧も、キリストが世の光であるという現実を変えることはできないのです。

したがって、エリシャとともに山にいたあの若者のようにしましょう。敵の戦車に取り囲まれて初めは恐れをなした若者でしたが、主の憐れみによって目を開かれて「火の馬と火の戦車」を見、「われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多い」ことを確認しました(列王下6:16, 17)。兄弟姉妹の皆さん、霊的な意味で、数におけるこの優勢は今も変わっていません。

人の知性の不足や困惑が、神には驚異的な先見の明があるという事実を変えはしません。そこにはわたしたちが責任を持つ個人の選択が考慮に入られています。人間の様々な騒乱の一日を報告する恐ろしい断片的な声明や速報のただ中であっても、神は過去、現在、未来が常にその前にある永遠の現在に住んでおられます(教義と聖約130:7参照)。主の神聖な決断は確実に実現します。それは主が行おうと決心されたことで行われたいことはないからです(アブラハム3:17参照)。主は初めから終わりを知っておられます(アブラハム2:8参照)。神には「〔御自身の〕業を行う能力」と、その目的をすべて達する能力が十分にあります。わたしたちは選択の自由を誤って使うことが多いため、人の計画はいかに綿密に練られたものでもそうはいきません(2ニーファイ27:20参照)。

神はこう約束しておられます。

「わたしがあなたがたを導いて行く…。」(教義と聖約78:18)

「わたしはあなたがたの中に〔いる。〕」(教義と聖約49:27)

兄弟姉妹の皆さん、神は「苦難のときには、……〔わたしたち〕とともに」いてくださいます(教義と聖約3:8)。生ける預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長から与えられる導きもその一つです。

一方、「霊の命」の決定的瞬間は引き続き、日々の個人的な決断で放縦を選ぶか自制を選ぶかにかかっています。例えば、思いやりと怒り、憐れみと不正、寛大さと意地の悪さのどちらを選ぶかということです。

戦争によって第2の戒めが無効になることはありません。隣人を愛するという戒めに国境はありません。この戒めを守る人に国籍や肌の色の違いはありません。

例えばわたしたちは空腹を経験するかもしれませんが、その場合にはエリヤに最後の食物を与えたやもめの模範に従うことができます(列王上17:8-16参照)。ほんとうにひどい欠乏と貧しさの中にあつて、人と分かち合おうとする姿はいつの時代にも感動的です。わたしの少年時



代に監督を務めたM・サール・マーシュは、若かった大恐慌時代に、炭坑の仕事に何度も応募しました。未成年でも体の大きかったサールは、あきらめずに応募し続けて採用されましたが、何人かの友人は雇われませんでした。どうやら、一日のきつい労働が終わった後で何度も、心の広い若きサールは賃金を友人と均等に分かち合ったようです。それは友人も採用されるまで続けました。サールがその後も羊の群れを心にかける羊飼いであったことは、少しも驚くに当たりません。

「霊の命」について深く考えるとき、自分自身の完全な改心を目指して努力することが助けになります。その訳は福音の種はまず「良い地」、すなわちイエスの定義された「正しい良い心」を持った人々に落ちるからです(ルカ8:15)。その結果、そのような人は「喜んで」「御言を聞いて悟〔り〕」、「実を結び」、「堪え忍び」ます。そして最後には、「義のために飢え乾く」とはどのようなことかを学ぶのです(マタ

イ13:20, 23; ジョセフ・スミス訳マタイ13:21〔英文〕; マタイ5:6)。これが「大きな変化」なのです(モーサヤ5:2)。改心とは基本的に、「生まれながらの人」から「キリストの人」になる変化を指すものです(モーサヤ3:19; ヒラマン3:29。2コリント5:17も参照)。この変化は一朝一夕に起こるものではありません。

改心という継続的な過程によって生まれる結果の一つは、「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つ」ようになることです(モーサヤ5:2)。ですから当然なことに、この過程を経てこのように改心した人たちは「兄弟たちを力づけて」あげられるようになります(ルカ22:32)。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をして」いることによって人を引き上げることができるようになります(1ペテロ3:15)。このような義人はもう一つ、人類のためにきわめて重要な目立たない奉仕を行います。それは、人類全体が大いに必要とする神の祝福を願い求めるために、最低限必要な義人の一人となることです。

真に改心した弟子たちはまだ完全ではありませんが、いつの日も、いつの時代でも、どんな退廃と破壊のさなかでも、「霊の命」を求め続けます。この過程が「御父の業」を果たすということなのです(ルカ2:49。モーセ1:39も参照)。

このような完全な改心はいずれ起こるものと考えられるため、困難な出来事や動乱が実際にはむしろわたしたちを改心の過程に立ち戻らせたり、改心を速めたりする助けとなるかもしれません。

兄弟姉妹の皆さん、不安定でいらだたせる世の煩いの中でも、教えられているように「霊の命」を心にかけるようにしましょう。イエスの栄光に満ちた贖いのおかげで、不滅の霊の命はどんな星の寿命よりも長く、それゆえこの世の出来事はたとえ恐ろしいものでも、ほんのつかの間の出来事にすぎないのです。

これらのことをイエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

聖なる場所

七十人会長会

デニス・B・ノイエンシュバンダー

わたしたちの霊性は、汚れたものや世俗的なものよりも、聖なるものをいかに求め、認識し、畏れ敬うことができるかによって決まるのです。



ピロトが問いました。「あなたは、ユダヤ人の王であるか。」それに答えて、救い主は言われました。「わたしの国はこの世のものではない。」(ヨハネ18:33, 36)このわずかの言葉をもってイエスは、御自分の王国はこの世から独立した、この世とは別のものであると宣言しておられます。救い主の教えと教義と模範は、主を心から信じる人を皆、神の標準に引き上げてくれますが、そのためには目と心をひたすら神の栄光に向けなければなりません(教義と聖約4:5; 88:68参照)。神の栄光はすべての聖なるものを包んでいます。ですから、わたしたちの霊性は、汚れたものや世俗的なものよりも、聖なるものをいかに求め、認識し、畏れ敬うことができるかによって決まるのです。実際、聖なるものがなければ、わたしたちに残されるのはただ、汚れたものと世俗的なものだけなのです。

この世は喧騒に満ちあふれ、唯一確実なことといえば、すべてが不確実であるということぐらいです。しかし、そのようなこの世にも、霊の避け所となり、再生、希望、平安を与えてくれる場所があるはずで、確かにそのような場所があるのです。それは神聖で、聖なる場所です。神にお会いし、主の御霊を感じることでできる場所です。

主は教義と聖約の中で3度、御自分の民にこう勧告されました。「聖なる場所に立ち[なさい。]」(教義と聖約45:32; 87:8; 101:22参照)この世界の現状を見れば、主のこの勧告の重要度はさらに増してきます。破滅的な病気、迫害、戦争は、当然のごとく、わたしたちの日々の生活に入り込んでいます。世界がこのように混迷を極めていながら、主はこう勧告しておられます。「見よ、わたしの思いは、わたしの名を呼び、わたしの永遠の福音に従ってわたしを礼拝する者が皆集まり、聖なる場所に立[つことである。]」(教義と聖約101:22)

神を正しく礼拝するために、これまで常に聖なる場所が必要とされてきました。末日聖徒には、そのような場所として、歴史的に重要な幾つかの場所や、家庭、聖餐会、そして、神殿があります。これらの場所には、わたしたちが畏敬の念を抱く事柄、そして子供たちにも神聖なものとして敬うように教える事柄が、表されているのです。これらの場所に関してわたしたちが抱いている信仰や畏敬の念が、また、そこで行われることやこれまで行われてきたことに対するわたしたちの尊敬の念

が、その場所を神聖にしているのです。礼拝のためにある聖なる場所の重要性は幾ら評価してもしすぎることはありません。

「聖なる場所に立つ」ことによって祝福を得るためには、自分自身で十分に準備する必要があります。聖なる場所はまた、犠牲が要求されるという点でほかに類を見ないものです。M・ラッセル・バラード長老は、こう教えています。「事実、『犠牲』という語には、文字どおり『神聖にする』または『聖くする』という意味があります。」(『犠牲の律法』『リアホナ』2002年3月号、13)神聖にするという意味の“sacred”と犠牲という意味の“sacrifice”は、語源が同じです。神聖なものを得るためには、まず犠牲を払う必要があります。自分で犠牲をささげなければ、だれも神聖なものを得ることができないのです。犠牲こそが神聖なものを神聖たらしめるのです。

多くの人にとって、ニューヨーク州北部にあるスミス家の農場の近くの森は、単に美しく静かな場所ではかりません。しかし、世界中の末日聖徒にとって、そこは神聖な場所です。それはわたしたちが信仰と畏敬の念をもって訪れるからです。また、その森が深遠な犠牲を象徴しているからでもあります。

数か月前、晩秋のある晴れた日に、妻と二人でこの森の中で座っていました。森は実に美しく、わたしたちはこの世を離れた平安を味わいました。しかし、単なる日常生活からの解放とは大きく違っていました。なぜなら、わたしたちが座っていたのは、父なる神と御子イエス・キリストが若き日の預言者ジョセフ・スミスに御姿を現された場所のすぐそばだったからです。信仰と畏敬の念が、そこをただの美しい場所から神聖な空間、きわめて聖なる場所に変わったのです。それは御二方が訪れられたことに対する信仰と畏敬の念、そして、御二方の訪れがあったからこそジョセフ・スミスやわたしたちの先祖が払った犠牲に対する信仰と畏敬の念です。このような深い畏敬の念は、教会歴史にまつわる幾つかの聖なる場所でもわいてきます。これらの聖なる場所は、わたしたちの信仰を鼓舞し、その信仰に忠



実であるように励まし、困難に出遭っても前進する勇気を与えてくれます。

同じようにわたしたちの家庭も、聖なる場所です。いつも静寂に包まれているとは限りませんが、わたしたちは家庭を主の御霊で満たすことができます。大管長会と十二使徒定員会は、『家族——世界への宣言』の中でこのように教えています。

「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。」(『聖徒の道』1998年10月号、24)

確かに、このような家庭には犠牲が求められます。主は預言者ジョセフ・スミスにこう言われました。「あなたの家族は必ず悔い改めて、ある事柄を捨て……なければならぬ。」(教義と聖約93:48)どここの家庭もありとあらゆる活動や娯楽の取捨選択を迫られています。すべてが健全なものではありません。たいていはまったく不要なものです。預言者ジョセフ・スミスの家族がそうしたように、わたしたち

も悔い改めて、家庭の神聖さを保つために、何かを捨てる必要はないでしょうか。わたしたちが築き上げる家庭の神聖さは、そのために喜んで払った犠牲の深さを映し出しているのです。

確かに、聖餐会は単なる集会以上のものです。聖なる場所で過ごす神聖な時間なのです。毎週の聖餐会でわたしたちは、この世で最も憐れみに満ちた犠牲について思いを巡らします。わたしたちが永遠の命を得られるように、独り子を与えてくださった神の愛について深く考えます。聖餐を取るとき、御子を覚え、進んで御子の御名を受け、御子の戒めを守るという意志を示します。ふさわしい状態で聖餐会に出席する人には、定期的な霊の再生が約束されていますが、前提条件として、打ち砕かれた心と悔いる霊を犠牲としてささげるなど、十分な準備が必要です。ごく短い時間ではありますが、この世を離れ、さらに聖なる事柄について考える意志と力を持たなければなりません。この霊の再生がなければ、わたしたちの信仰は簡単に俗世と汚れに征服されてしまいます。

何年も前、まだ息子たちが幼かったと

き、わたしは夕食の時間に、ワードの聖餐会がすばらしかったことについて、またどれほど多くのことを学べたかについて話しました。息子たちのけげんな表情から、次のような言葉が読み取れました。「ぼくたちも一緒にその聖餐会に出席していたのかな。」感じ方に違いが生じたのは、単に、わずかながら成熟度に差があったことと、個人的な準備の差によるものでした。聖餐会では、自分自身の準備の度合いや、教えを受けたいという意志や望みの強さに応じて、霊が再生されるのであり、それ以上に再生されることはないのです。

神殿には「聖きを主にささぐ」という文字が記されています。神殿は、地上のどこにも増して神聖な場所です。神殿は、神が、あらゆる時代のすべての子らを愛しておられることを証しています。神殿の祝福は大きな犠牲と結びついており、それらを切り離すことはできません。神殿の中で行われる儀式を通して、救い主が犠牲となって用意してくださった贖いの祝福を、完全に受けることができます。そのことだけでも、神殿は神聖な場所と言えるでしょう。しかし神殿が神聖であるためには、一人一人の犠牲も必要なのです。わたしたちは時間を犠牲にして先祖を探求し、神殿での責任を果たします。また、この最も聖なる場所に入る資格を得るため、一人一人が最も高いふさわしさの標準に従う努力をしているのです。

神聖で聖なる場所で、わたしたちは霊の避け所、再生、希望、そして、平安を見いだしています。これらを得るには犠牲を払う必要がありますが、そこまでする価値はないと言えるでしょうか。兄弟姉妹の皆さん、だれ一人欠けることなく、日々聖なるものをあがめ、尊ぶことができますように。子供たちにもそう教えることができますように。霊の平安が得られる聖なる場所に立とうではありませんか。

主にして救い主なるイエス・キリスト、まさしく平和と希望の君について証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

「わたしはあなたに話したでしょうか……」

中央若い女性会長
スーザン・W・タナー

永遠の救いの計画において、皆さんが行うべき最も大切でやりがいのあることは、神聖な家庭を築き、愛の中で堅固な家族を育てることです。



今から約3年前、娘の一人が結婚してすぐに、彼女の夫が学ぶ医科大学のある遠い町へと二人で旅立って行きました。生まれ育った安全な巣を飛び立ち、自分自身の家族を築き始めたのです。わたしの心に次のような思いがわいてきました。「必要なすべてのことを娘に教えたかしら。あの子はこの人生で最も大切なことは何か、分かっているだろうか。幸福な家庭を築く準備ができていないかしら。」

去って行く娘を見送りながら、娘の17歳の誕生日にプレゼントした小さな日記帳を思い出しました。日記帳には「わたしはあなたに話したでしょうか……」という題が付いていました。よく娘と夜遅くまで話しながら与えた勧めの言葉を、わたしが

書き留めたものでした。娘夫婦が二人の人生へ旅立って行くとき、その小さな日記に3つの事柄を書き加えたいと思いました。見知らぬ町への引っ越しよりも大切に難しい、人生の転機を迎える助けとなるようにしたかったのです。その転機とは、自分自身の家庭と家族を築き始めることです。家族の大切さを教え証するために、娘と教会のすべての若人に、次の3つの事柄をお伝えしたいと思います。

まず、わたしは……家庭をこの世の影響力から守る安全な避け所、とりでとする方法を話したでしょうか。主の宮に入ったときに自分の目で見えた模範に倣って「祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家……秩序の家……」を建ててください（教義と聖約109:8）。この模範に倣うとき、ますます混乱する世の中であって、家庭に大きな平安がもたらされるでしょう。

あなたのおじいさんとおばあさんたちの家庭を見習ってください。どちらの祖母も「子供たちを光と真理の中で」育ててきました（教義と聖約93:40）。あなたのお父さんの家は学びの家でした。お父さんは、おじいさんのお葬式で、教会の集会で学ぶ福音の原則は、自分の家ですでに学んだことばかりだったと話しました。教会はお父さんの家庭にとって不足を補ってくれる存在だったのです。わたしの生まれ育った家は秩序の家でした。（スケジュールがどんなに詰まっても）家族そろって朝食と夕食を食べることを最優先

しました。食事の時間は単に食べるための時間ではなく、体のみならず霊を養ううえできわめて大切な時間でした。

小さな事柄が幸福な家庭を築きます。例えば、祈りや謝ること、感謝を表すこと、ともに良い本を読むことなどです。笑ったり泣いたりしながら、一緒に裏庭の柵を作ったときのことを覚えていますか。車に乗るときは、けんかにならないようにいつも歌ったのを覚えていますか。家族のだれかが大切な決断をするときや大切なテストを受けるとき、一緒に断食したことを覚えていますか。家族の宣言にこう書かれています。「実りある……家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な……活動の原則にのっとって確立され……ます。」（『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1998年10月号、24）

子供のころから祈ることや聖文を読むことを習慣にしてみましたね。こうした習慣を、これまで学んできた料理や家計のやり繰りの技術と同じように生かしてください。あなたの義になかった願いと家庭管理の能力とによって、家庭をこの世の影響力から守る安全な避け所、とりでとすることができるでしょう。

次に、わたしは……「子供たちは神から賜った嗣業である」ことを話したでしょうか（詩篇127:3）。家族の宣言はこう断言しています。「増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。」（『聖徒の道』1998年10月号、24）天の御父の祝福により、子供たちを授かりますように。世の多くの人々はこの喜びを感じないまま、子供を面倒なものとしか見ません。確かに、親の務めは肉体的にも情緒的にも疲れ、精神的な面で多くが求められる仕事です。母親の務めに対して、だれも良い成績や表彰状をくれないでしょう。時々疑問を感じるかもしれません。「自分は正しいことをしているだろうか。ほんとうにそれほど価値のあることだろうか」と。

でもほんとうに価値のあることなのです。すべての末日の預言者は母親の神聖な役割について証しています。スペン



サー・W・キンボール大管長はこう言いました。「末日聖徒の女性にとって、主が母親の特性と母親たちを、神聖かつこの上ない尊敬を払うべき存在と考慮せられると知るのとは大切なことである。」(“Privileges and Responsibilities of Sisters,” *Ensign*, 1978年11月号, 105) 御霊はこれが真実であることをわたしの心に証しています。

あなたもわたしと同じように、親の務めは大変だけでなく、人生で最も大きな喜びをもたらすことを知るようになるでしょう。喜びを感じるのは、家庭の夕べで5歳の子供が聖文の物語を細かいことまできちんと話せたとき、また子供が毎晩忘れずにモルモン書を読むときです。チアリーダーをしている娘が勇気を出して、新しい振り付けにはふさわしくない動きが入っているとチーム仲間に言えたとき、わたしは喜びを感じます。また、伝道中の娘が福音に対する証を手紙に書いてよこすとき、喜びを感じます。娘が目が見えない女性のために本を読んであげる姿、息子が神殿で奉仕する姿を見るとき、喜び

を感じます。このようなとき、わたしは愛弟子ヨハネと同じように感じます。「わたしの子供たちが真理のうちに歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」(3ヨハネ1:4) わたしはあなたに……心底、母親であることが好きだと話したでしょうか。

最後に、わたしは……愛こそが堅固な家庭を築くうえで基本となる徳であることを話したでしょうか。天の御父はわたしたちの倣うべき模範を示してくださいました。御父はわたしたちを愛し、教え、忍耐し、信頼して選択の自由を与えてくださっています。ヒンクレー大管長は言いました。「愛があれば状況を変えることができます。子供を幼児期に惜しみなく愛し、思春期にもそれを続けるなら、変えることができます。……それから励ましです。褒めるに早く、批判するに遅くしてください。」(「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』1994年1月号, 67) しつけ、その意味は「教えること」ですが、批判と混同されることがあります。子供たちは、どんな年齢の人も同様ですが、あら探しよりも、

愛と励ましによって行動を改めるのです。

知り合いのある若者が10代のころ、長いヒッピー風の髪型をしているとき、その両親は髪型よりも、若者の勤勉さや困った人に親切であることに目を向けるようにしていました。やがて、若者自身が髪を切ると決心しました。そして良い教育を受け、教会で奉仕し、自分自身の家庭でも子供を愛によって正しい行いに導くという模範に従ったのです。

わたしたちは肯定的な方法で教えるだけでなく、自分の時間を家族のために割くことでも愛を示すことができます。少し前、「子供を後回しにする」という題の記事を読みました。ここに出てくる両親は、子供との時間を「事務的な」言葉で扱っているのです。例えば、できれば夜15分とか、遊ぶ予定は通常週に1度ありという具合です(メアリー・エバースタット, *Wall Street Journal*, 1995年5月2日付参照)。そのような親と、内容が濃だけでなく、たっぷりの時間を子供に与えようと決意した母親とを比較してみてください。そのような母親は、愛に満ちた関係を築くに

は絶え間なく常に話し合い、遊び、笑い、働く時間が必要だと気づいているのです。わたしも、両親と子供たちは、お互いの日常的な普通の経験を共にする必要がありますと信じています。ですから、わたしはあなたがもうすぐテストを受けることを知っていますし、あなたはわたしがレッスンの準備をしていることを知っています。わたしはあなたの試合を見に行きますし、あなたは台所で夕飯の支度を手伝ってくれます。わたしたちはそれぞれの人生にとって大切な出演者であり、日々の経験の中で互いに愛を吸収しているのです。

そして、愛は人生の苦難を堪え忍びます。使徒パウロはこう教えています。「愛は寛容であり、……すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。愛はいつまでも絶えることがない。」(1コリント13:4, 7, 8)わたしはある母親がアルコール中毒の息子に、絶えることのない愛を示すのをじっと見ていました。母親は決してあきらめず、息子のために祈り、息子の役に立とうとしました。晩年になり、息子がついに「本心に立ちかえって」立派な仕事をやり続け(ルカ15:17)、機械に関する技術を使って、母親の家を直したのです。

道をそれた子供のために心を痛める家族が多くなります。しかし、「忠実な両親が受けた永遠の結び固め」によって、子供たちが「困りに戻って」来るであろうということに慰めを見いだすことができます(オーソン・F・ホイットニー, Conference Report, 1929年4月, 110で引用)。決してあきらめず、続けて子供を愛し、子供のために祈り、天の御父の見守りを信じて頼らなければなりません。

わたしの娘や教会のすべての若人が人生の新しい転機を迎えるに当たって、これらのことを申し上げます。わたしは証します。永遠の救いの計画において、皆さんが行うべき最も大切でやりがいのあることは、神聖な家庭を築き、愛の中で堅固な家族を育てることです。この家族という単位は社会を祝福し、永遠に存続することでしょう。これをイエス・キリストの御名^{みな}によって証します。アーメン。

不確かで困難な時代に 支えとなる信仰の力

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット

神を信じる信仰と、神が聖なる御霊^{みたま}によって導いてくださると信じる信仰は、
ますます大変な世の中であって皆さんを支えてくれることでしょう。



不確か^不で困難な時代に、確かさを必要としない人がいるでしょうか。自信にあふれていて、人生に安定感を与えてくれる力をまったく必要としない人がいるでしょうか。人がこの世にいる根本的な目的は、成長し、何かを達成することです。したがって、そうした面で進歩する機会となる、試練の時がなければなりません。もし重要な決定をすべて親がするとしたら、一体子供は自立した大人に成長できるでしょうか。天の御父の場合も同じです。御父の幸福の計画が立てられたのは、意欲をかき立てるような目標を得、時には困難をも経験するためです。その中できわめて重要な決定をすることで、この試しの生涯で成長し、進歩し、成功を収めるのです。1 あ

りがたいことに、御父は完全な愛をもって、人が強さと能力とを身に付けながら問題を解決する道を備えてくださいました。これから不確かで困難な時代に支えとなる信仰の力についてお話します。

神がわたしたちに信仰を行使する能力を与えてくださったのは、人生で平安と喜び、目的を見いだせるようになるためです。しかし、信仰の力を用いるには、信仰の基礎がなければなりません。最も堅固な基礎とは、天の御父が人に注がれる愛を信じる信仰であり、幸福の計画を信じる信仰です。そして、イエス・キリストは約束をすべて果たす能力と意思をお持ちであると信じる信仰です。

ある人々は、信仰を理解しておらず、したがって十分に活用していません。またある人は、宗教には、あるいは確固たる信仰によってしか受けられない教えや導きには、合理的な根拠がないと感じています。しかしながら、信仰は幻や魔法ではありません。そうではなく、信仰とは永遠の原則に基づく力なのです。皆さんは、信仰を行使しようと努力したけれども、少しも助けにならなかったと感じていますか。もしそうならば、たぶん信仰の基礎となっている原則を理解もせず従ってもないように思われます。一つの実例を挙げて説明しましょう。

何年も前ですが、原子を作っている粒子の特性を調べたことがあります。このとき使った実験用の原子炉は、その中心



にある穴から高エネルギー粒子が流れてくるものでした。粒子は実験用に仕切った小さな空間に送って測定します。高エネルギー粒子は目に見えませんが、人体に危害を及ぼさないように注意深く取り扱わなければなりません。ある日、実験していると用務員の男性が部屋に入ってきました。そして、嫌悪感をあらわにしながらこう言ったのです。「ここにいるのはみんなうそつきだ。何か偉そうなことをやっているように見せかけているだけだ。だまされやすいぞ。分かっているんだ。目に見えない、聞こえない、味にもおいも分からない、触れもしないものなんか、この世には存在しないのさ。」その態度には、五感では知り得ない大切なものがあることを学ぼうとする姿勢はまったく感じられませんでした。もしこの男性が進んで心を開き、素粒子があることを突き止める方法を理解していたら、その存在を確かめられたでしょう。同じように、信仰が実在することを決して疑ってはいけません。信仰を使うために神が定められた

原則に従えば、信仰の実を集められることでしょう。

その原則は次のとおりです。

● 神を信頼する。どんなに難しい状況でも、必要なときは神が喜んで助けてくださることを信頼する。

● 神の戒めに従って生活し、信頼に足る人物であることを神に示す。

● 御霊の静かな促しに敏感になる。

● 御霊の促しに、勇気をもってこたえる。

● 成長のためにあなたが苦しむのを神がよしとされ、懸命に成長しようとしながらも長期にわたって答えが少しずつしか与えられないときには、忍耐し分別をわきまえる。

行動を起こさせるような信仰は、主を真正面から信頼し、主が喜んで自分の必要にこたえてくださると心から信頼することから生まれます。「主を信頼する者たちを、主が……祝福し、榮えさせられる」からです。² このたゆみない信仰の行使によって、自信は増し、信仰の力を使う能力が増すのです。

モロナイが教えた次の原則を応用することによって、もっと効果的に信仰を使うようになります。「信仰とは待ち望んでいながらまだ見ていないものである…。あなたがたは、自分が見ていないからということで疑ってはならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。」³ ですから、信仰を試す度に、つまり何らかの印象に従ってふさわしい行動をする度に、御霊による確認の証を受けるのです。そしてこうした気持ちは信仰を強めてくれます。この経験を繰り返すにつれて、信仰はさらに強くなります。主は皆さんの必要を御存じです。正直に誠心誠意問うならば、何を行うべきか主が教えてくださり、信仰に基づいて行動する能力が増してくるのです。絶えず信仰を働かせるなら、信仰は皆さんの人生で、活気に満ちた強力な力、精神を高め靈感を与える力になります。自分の理解の限界点へ向かい、やがて明瞭に理解できない不確かな場所に歩いて行くとき、信仰を行使するなら、ほかの方法では得られない答えに導かれるでしょう。わたしはそれが真実であると知っています。そのことを証します。

非常に強い信仰を働かせたとしても、神が望みに応じてすぐに報いてくださるとは限りません。むしろ神は、永遠の計画の中で皆さんにとって最もふさわしい方法でおこたえになるのです。神が皆さんをどれだけ愛しておられるかは、死すべき状態にある間は完全に理解することはできません。ほんとうのところ、もし神の計画をすべて知っていたとしたら、皆さんはその計画に反することを決して願わずに求めはしないでしょう。たとえ感情に動かされても、そうしないことでしょう。真実の信仰を持っていれば、人は理解力と強さを得て、たとえ天の御父の御心が自分の考えと違っていても受け入れることができるのです。神の御心を平安と確信をもって受け入れることができるのは、神の無限の知恵が人の能力を超越していると固く信じているからです。人の能力でできるのは、神が少しずつ明らかにされる計画をその都度完全に把握すること

だけです。

信仰はただボタンを押せば答えが返ってくる、というものではありません。主はこう宣言されました。「すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。」⁴ プリガム・ヤングはこう述べています。「神は、神の民あるいは個人のふさわしさが厳しい試練によって証明されないうちは、並外れた祝福を決してお授けにはならない。」⁵ 個人的なことですが、これまで幾つかの重要な決定を下すときに、力を使い果たし、激しい苦痛を味わい、もがき苦しんだことがあります。そのような苦しみの後に、確信できる答えを得ました。しかし、こうしたつらい経験は人を向上させるものです。神の助けを得ても切り抜けられないような試練を神が人にお与えになることは決してないと知っていれば、心が慰められます。

神は皆さんの信仰を用いて、人格を形成されます。人格とは皆さんの今まさになろうとしている姿を映し出すものです。しっかりした道徳的な人格は、人生の試練と試しの中で常に正しい選択をした結果生まれるものです。信仰を働かせれば、そうした正しい選択ができるように導かれます。はっきり言えば、行いと思ひこそ、人格を決め、将来を決めるものなのです。だからこそ、何かを選択するときには、主の靈感を受ける必要があるのです。ほかの人々が義にかなった選択ができるように励ましてくれることもあります。そのような人々にさえ決断をゆだねてはなりません。主の教えと一致した選択が喜んでできるように、深く考え、祈り、信仰を行使する必要があります。このような選択は、自分が信じる事柄に信頼を置くときに行うことができます。またその信仰に従って行動するならば、信じている事柄が正しいと確認されるのです。人格的な成長を弱めるのではなく、正しい選択を行うために、最低限必要な導きが与えられるのです。そうした導きは、天の御父と救い主に対する信頼を強固なものにしてくれます。

信仰が築く人格的な強さは、緊急な必

要に迫られたときに役に立ちます。このような人格は、大きな困難や誘惑に遭うその瞬間に培われるものではありません。そのような瞬間は、すでに培った信仰を用いなければならない瞬間なのです。人格とは、原則や教義、従順という糸を根気よく紡いでできる織物のようなものです。ヤコブの手紙にこうあります。「信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである。だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。」⁶ 人格の基礎は高潔さです。ふさわしい人格を持つと、御霊の導きに従順にこたえる能力が高まります。義にかなった人格こそ目指すべきものです。それは、所有物や知識、あるいはこの世のいかなる成功よりもずっと大切なものです。義にかなった人格を備えていれば、信頼に値する人になります。義にかなった人格は霊的な強さの基盤となるのです。それは、試練と試しの時にあって、困難できわめて重要な決定を正しく下せるように助けてくれます。圧倒されそうに思える場合でも、力を与えてくれます。わたしは証します。サタンもそのほかいかなる力も、あなたの人格が成長していくのを弱めたり、完全に破壊したりすることはできません。自分自身の不従順による以外には、人格の成長を妨げるものはないのです。

父なる神の計画は驚嘆すべきものです。信仰を行使するなら人格は築かれます。人格が強められれば、信仰を行使する能力は増します。こうして、さらなる確信をもって人生の試練を乗り越えていくことができるのです。そして人格を強めるこの好循環はとどまることを知らず、人格が強まれば強まるほど、信仰を力強く行使していく能力も増していくのです。

「支払った分だけしか手に入らない」という格言は、霊的な報いにも当てはまります。従順、イエス・キリストを信じる信仰、学んだ真理を地道に実践することにおいて、自分が支払った分だけしか手に入れることはできないのです。皆さんが手に入れようとしているのは、人格を築き、能力を高めることです。地上での目的を



立派に成し遂げたという事実、つまり、試しを受けて成長したという事実です。

何が起っても、世の中がどんなに混乱しても、いつでも支えとなる力強い信仰を持つことができます。それは決して変わることはないものです。天の御父の完全な愛は、決して変わることはありません。神の福音の計画は人生に意味をもたらし、幸せを約束します。御父の計画は、単に人がこの地上で決断を下す能力があるということを示すためだけにあるのではなく、信仰に励まされ、従順になることによって正しい決定を下し、その結果として成長するためにあるのです。

自分にはどうすることもできない将来の災難や不確実な事柄に、心を悩ませるのはなぜでしょうか。人格が義にかなっていれば、こうしたものに少しも苦しまなくてよい可能性が増すのです。困難や試しに実際に遭うときは、皆さんの信仰によって解決に導かれるでしょう。心に安らぎがあること、困った問題に遭遇しても答えを見いだせると確信できること、究極的な喜びに満たされること、これらは天の御父と御子イエス・キリストに対する信頼にかかっています。最後には、正義が勝利を取めるのです。神の戒めに忠実に従

うなら、正義は今すぐにでも祝福をもたらします。忘れないでください。尽きることのない、永続する平安と慰めの源は、手の届くところにあるのです。天の御父が皆さんを愛しておられることは、たとえどんな状況にあったとしても、試練や不安、苦難の風がどんなに強く吹き荒れていたとしても、紛れもない事実なのです。この事実は決して変わりません。このような助けを得られるかどうかは、御父への信仰の強さと、御父が確かに喜んで祝福してくださるということに対する信仰の強さにかかっているのです。

わたしは証します。神を信じる信仰と、神が聖なる御霊によって導いてくださると信じる信仰は、ますます大変な世の中であって皆さんを支えてくれることでしょう。また、今お話しした原則を応用するならば、不確かで困難な時代であって、力強い支えとなる信仰を得ることができるようになるでしょう。

皆さんの周りにいる大勢の人は、混乱し、人生の難しい問題の答えを探し求めています。どうかそのような人々に、真理に関する証と信仰の力に関する証を伝えてください。また、今この騒然とした時代であって、神を信じる信仰と、末日聖徒イエス・キリスト教会に完全に回復された神の教えから、生活に祝福を得られるのだということを、周りの人々が理解できるように助けてください。彼らの生活を祝福してくださる主の力について証してください。今申し上げたことを今すぐ実行してください。主が助けてくださることでしよう。皆さんの信仰が皆さんを導き、支えてくれるでしょう。わたしはそのことを知っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 黙示3：19参照
2. ヒラマン12：1。箴言3：5-6も参照
3. エテル12：6，強調付加
4. 黙示3：19
5. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットソー選（1954年），338
6. ヤコブの手紙1：3-4

戦争と平和

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

異なる政府や団体に対してどのような忠誠心を持っていようと、主の民が困難のときにあって互いに友好関係を保つことができるよう、わたしは願っています。



兄 弟姉妹の皆さん、先週の日曜日、書斎に座ってこの場で何を言おうかと考えていたとき、合衆国海兵隊の二等軍曹、ジェームズ・W・カウリーがイラクで戦死したことを知らせる電話を受けました。41歳で、妻と二人の幼い子供を後に残していきました。

20年前、カウリー長老は教会の宣教師として日本で働きました。ほかの多くの人と同様、教会の中で育ち、小学校の年代にはよく遊び、執事として聖餐のパスをし、そして伝道に出るふさわしさを認められて、日本の人々に平和の福音を教えました。帰還後は海兵隊で任務を果たし、結婚し、警察官になり、その後また現役軍務に召集されました。その求めに対し、彼は躊躇することなく応じました。

彼の人生、彼の伝道、彼の軍務、彼の死には、福音という平和と、戦争という暴力の矛盾が表れているように思われます。

そこでわたしは、戦争とわたしたちの教えている福音について少しお話してみたいと思います。このことについては、2001年10月の大会で多少お話ししました。当時この説教台に立ったときには、ちょうどテロリズムとの戦いが始まったところでした。現在の戦争はまさにあの戦いから生まれたものであって、あの戦いの延長です。これから、終結に向かうよう願っています。

この問題についてお話しするに当たって、わたしは聖なる御霊の導きを求めています。大いに祈り、深く考えてきました。わたしたちと信仰を異にする人々を含め、世界中でこの大会に参加している人々にとって非常にデリケートな話題であることは分かっています。

現在の情勢について、世界の国々では意見が分かれてきました。感情は高まりを見せ、賛成や反対のデモが行われてきました。今では世界的な教会となっているわたしたちの教会には、この問題を論じているほとんどの国々に会員がいます。会員たちもそれぞれに意見を持ち、また、不安を抱いてきました。

もちろん戦争は新しいことではありません。武器は変わります。殺傷能力や破壊能力には絶えず磨きがかけてられています。しかし歴史を通じて、基本的に同じ問題について戦いが行われてきました。

黙示録には、神の子らの思いと忠誠心にとってひどい戦いであつたに違いないものについて簡潔に述べられています。読み返す価値のある話です。

「さて、天では戦いが起つた。ミカエル

とその御使^{みつかい}たちが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。

この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」(黙示12:7-9)

イザヤはその大いなる戦いについてさらに語っています(イザヤ14:12-20参照)。現代の啓示はさらなる光を与えており(教義と聖約76:25-29参照)、モーセ書も同様で(4:1-4参照)、そこでは人の選択の自由を滅ぼすサタンの計画が語られています。

わたしたちは時々、オスマン帝国やローマ帝国、ビザンチン帝国、さらに最近では巨大な大英帝国など、過去の偉大な帝国を賛美する傾向があります。しかしそれらには、どれも暗い側面があります。残酷な征服、支配、抑圧、そして人命および金銭面での桁外れの犠牲^{けが}という、残忍で悲劇的な側面です。

イギリスの偉大な随筆家トマス・カーライルは、かつて皮肉を込めて次のように語っています。「神は御自分の驚くべき創造物がこの地上で行っていることを見て笑っておられるに違いない。」(Sartor Resartus[1836年], 182で引用)御自分の子供たちが何世紀にもわたって情け容赦なく滅ぼし合い、自分たちの神聖な生得権を無駄にする様子を天から御覧になって、天の御父は涙を流してこられたとわたしは思います。

歴史を通じて、時々暴君が現れて自らの民を虐げ、世界を脅かしてきました。多くの人々が現在はまだにそのような状況であると判断しており、その結果、高性能で恐怖を覚えるような武器を備えた、大きくて恐るべき軍隊が戦いをしています。

この戦いにはわたしたちの教会の会員が大勢参加しています。テレビや新聞で、わたしたちは戦場へと向かう軍服姿の父親に涙を浮かべてしがみついた子供たちを見てきました。



今週、ある母親から、海兵隊にいる自分の息子について書いた、胸を打つ手紙を受け取りました。彼が中東での戦争に行くのは、これで2度目となります。彼女はこう言っています。初めての派遣のとき、「息子は休暇で帰宅すると、わたしに散歩に行こうと言いました。……わたしの肩に腕を回し、戦争に行くことについて話してくれました。息子は……言いました。『お母さん、ほくはお母さんや家族が自由にいられるように、思いのまま自由に礼拝できるように、行かなければいけないんです。……そしてもし自分の命が求められるなら……それは自分の命をささげる価値のあることなんです。』」今彼は再びその地において、最近家族に次のような手紙を書いています。「ここで自分の国と自分たちの生き方のために働けることを誇りに思っています。……天父がともにいてくださると知っているおかげで、とても安らかな気持ちです。」

ほかにも母親がいます。罪のない一般市民です。恐怖の中で子供たちをしっかりと守り、地が足もとで揺れ、ものすごい破壊力のロケット弾が鋭い音を立てながら暗い空を飛んで来る中、必死に天を見詰めて嘆願しているのです。

この恐ろしい戦いでは犠牲者が出ており、これからさらに出るでしょう。一般市民の抗議は続くと思われます。ほかの

国々の指導者たちは、はっきりと連合軍の戦略を非難しています。

そして質問が出てきます。「この問題に関して教会はどのような立場を取っているのか。」

最初に、わたしたちはイスラム教徒の人々やほかのいかなる信仰の人々にも非難の気持ちを抱いていないことを理解しておいていただきたいと思います。わたしたちは、地上のすべての人々は神の家族の一員であると認識し、そう教えています。そして、神はわたしたちの父ですから、人は互いに家族としての義務を持つ兄弟姉妹なのです。

しかし市民として、わたしたちは全員それぞれの国の指導者から指示を受けます。国の指導者は一般の人より多くの政治的および軍事的な情報を入手することができます。軍隊にいる人々は、それぞれの政府に対して、最高権威の意志を実行する責務を負っています。兵役に就いたときに結んだ契約によって義務を負っており、それに忠実にこたえています。

わたしたちの教義を言い表した信仰簡条の一節には、次のようにあります。「わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じる。」(信仰簡条1:12)

しかし現代の啓示は、わたしたちは「戦争を放棄して、平和を宣言」しなけれ

ばならないと言っています(教義と聖約 98:16)。

民主主義において、わたしたちは戦争を放棄して平和を宣言することができます。反対する機会があります。多くの人々が自由に意見を述べ、力強く述べてきました。それは特権です。合法的に行われるかぎり、権利なのです。しかし、わたしたちは皆、さらに重要なもう一つの責任を心に留めなければなりません。現在の状況において、このもう一つの責任がわたし個人の感情を支配し、わたし個人の忠誠心を促しているものである、と付け加えたいと思います。

ニーファイ人とレーマン人の中で戦争が激しくなったときのことについて、記録には次のように書かれています。「ニーファイ人はもっと良い動機に励まされていた。彼らは……権力のため[に戦ったのでは]なく、自分たちの家と自由と、妻子と、自分たちのすべてのもののために、特に礼拝の儀式と教会のために戦っていた。

彼らは、神に義務を負っていると感じていたことを行っていたのである。」(アルマ43:45, 46)

主はニーファイ人に次のように勧告されました。「血を流してでも自分たちの家族を守りなさい。」(アルマ43:47)

そしてモロナイは「自分の衣を裂いて、その一片を取り、それに『我々の神と宗教、自由、平和、妻子のために』と書いて、竿さおの先にしっかりとくり付けた。

それから、彼は自分のかぶとと胸当てと盾をしっかりと身に着け、よろいを腰にまとい、先端に裂いた衣を付けた竿を取って(彼はそれを自由の旗と呼んだ)、地にひれ伏し、そして……自分の同胞に自由の祝福をとどめてくださるようにと、熱烈に神に祈った。」(アルマ46:12-13)

ほかの文書からも、国家が家族と自由のために独裁政治や脅威、抑圧に対して戦うことが正当とされる、あるいはむしろそうする義務が生じる時や状況があることは明らかです。

最終的には、この教会の会員であるわたしたちは平和の民です。平和の君である贖あがない主、主イエス・キリストに従う者で



す。しかしその主でさえも次のように言われました。「地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである。」(マタイ10:34)

以上のことから、わたしたちは平和を切に望み、平和について教え、平和のために働きますが、同時に、国民でもあり政府の法律に従うべき立場にあることとなります。さらに、自由を愛する民であり、自由が危機にあるときにはいつでもすべてをささげてそれを守ります。わたしは軍服姿の男女が自分たちに課せられた合法的な義務を実行するときに、その政府の代理人として神が彼らに責任を負わせるようなことはなさらないと信じています。さらに、もしわたしたちが悪と抑圧の力との戦いに参加する人々の道を妨げたり遮ったりしようとするなら、神はわたしたちに責任を負わせられることでしょう。

さて、これらの危険な時期にあってわたしたちにできること、しなければならないことはたくさんあります。自分たちの理解

するままにこの状況が持つ様々な側面について意見を述べることはできますが、決して両方の側の様々な国にいる兄弟姉妹に関して、非合法なまたは不適切なことを言ったり行ったりすることのないようにしましょう。政治的な違いによって憎しみや敵意が正当化されることは決してありません。異なる政府や団体に対してどのような忠誠心を持ってしようと、主の民が困難のときにあって互いに友好関係を保つことができるよう、わたしは願っています。

それぞれの政府から兵役に召集されている人々のために祈り、天の守りがあって、無事に愛する人々のもとへ戻ることができるように願い求めましょう。

命を危険にさらしている兄弟姉妹、わたしたちは皆さんのために祈っています。主が皆さんを見守り、皆さんを負傷から守ってくださるよう、また皆さんが家に戻ってこれまでの生活を取り戻すことができるように祈っています。皆さんが砂嵐すなあらしと猛暑の中にいるのは、戦争というゲームが好きだからではないことを知っています。皆さんの決意の強さは、信じるものために命さえも進んでささげる姿で分かります。

わたしたちは、この激しい命がけの戦いの中で命を落とした人々や、これから命を落とすかもしれない人々がいることを知っています。愛する人を失った人々に慰めと祝福を与えられるように全力を尽くす必要があります。嘆き悲しむ人々が、贖い主キリストからのみもたらされる慰めによって慰められますように。主は愛する弟子たちに次のように言われました。

「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。

わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意して行くのだから。……わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。

わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせる



ブリガム・ヤング大学合同聖歌隊の隊員たち。総大会の土曜午後の部会で音楽を担当した。

な、またおじけるな。』(ヨハネ14:1-3, 27)

わたしたちは戦いに終結を、すなわち結果として当事者全員がより良い生活を得られるような終結を見るために、偉大な強さと無限の力を持っておられる主に請います。主は次のように宣言しておられます。「主なるわたしは、上は天で治め、また地の軍勢の中でも治めているからである。」(教義と聖約60:4)

わたしたちは預言者イザヤの預言した栄えある日を望み、祈らなければなりません。その日には人々が「そのつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかって、つるぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない」のです(イザヤ2:4)。

たとえ邪悪な世の中にあっても、わたしたちは天の御父の保護を受けるにふさわしい生活をすることができます。ソドムとゴモラの悪事の中で暮らした義人のようになることができます。アブラハムは義人のために町が災いを免れるよう嘆願しま

した(創世18:20-32参照)。

そして何より、主イエス・キリストの救いをよく理解し、それを心から望み、その救いを世界に宣言することができます。主の贖いの犠牲によって、確かに人生は死の幕を超えて続くのです。従順な者の昇栄をもたらす福音を教えることができます。

たとえ戦争の武器が死のセレナーデを鳴り響かせ、暗闇と憎しみが一部の人々の心を支配しているときでも、そこには確固として、安心と慰めに満ち、どこまでも及ぶ愛をお持ちの、世の贖い主、神の御子の静かな御姿があるのです。わたしたちはパウロとともに宣言します。

「わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」(ローマ

8:38-39)

御父の永遠の計画の中で、この人生はほんの1章にすぎません。そこには戦いと、一見福音に調和しないように思われるものが満ちています。若くして死ぬ人もいます。長生きする人もいます。それはわたしたちには説明できません。しかし、主の贖いの犠牲によってすべての人が生き続けるという知識をもって、また主の計り知れない愛による慰めに満ちた確信をもって受け入れます。

主はこう言われました。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであらう。」(教義と聖約19:23)

兄弟姉妹、わたしたちはそこに信仰を置きます。どのような状況であっても、救い主、贖い主、生ける神の、生ける御子キリストの慰めと平安があるのです。主の聖なる御名、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

よわい 齢を重ねた男女

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

能力だけに目を向けるのではなく、お年寄りの持っている経験に目を向けて、彼らの価値を認めてください。



何年も前のクリスマスイブに、いとこがかわいい5歳の男の子を急性肺炎で失いました。少年の家族は棺の周りに集まって、家族の祈りをささげました。母親が作った子供用の毛布が、幼い少年の足に畳んでかけてありました。

棺を閉じる時間になりました。わたしの母は進み出て、悲しむ母親を腕に抱き、毛布を広げて少年の体を包むのを手伝いました。両親の目に最後に映った少年はまるで、お気に入りの毛布にくるまって眠っているかのように。そのひととき、少年の両親は深い慰めを得ました。母の行為は、齢を重ねた女性のなせる業でした。

妻の父、ウィリアム・W・スミスが亡くなったとき、葬儀のためにブリガムシティに帰りました。セミナーの生徒として知っていた若い兄弟が、深い感情に満ちた様子で棺の横に立っていました。彼が、わたしの義理の父と知り合いであったとは、それまで知

りませんでした。

彼は言いました。「ある夏、スミス兄弟の農場で働きました。スミス兄弟は伝道に出るように励ましてくれましたが、わたしの家には、宣教師を出すだけの余裕がありませんでした。でもスミス兄弟は、伝道について祈るように、伝道に出る決心をしたら、資金は自分が出すと言ってくれました。そしてほんとうにそうしてくれたのです。」

妻も、義理の母もそのことは知りませんでした。しかし、それは確かに、齢を重ねた男性のなせる業だったのです。

わたしたちは10人の子供に恵まれました。子供たちがまだ幼かったころのことです。ある日曜日の朝、妻は聖餐会せいさんに出席していました。いつものように、わたしは日曜日にはホームワードにいませんでした。我が家の子供たちは礼拝堂のほぼ1列を占めていました。

ウォーカー姉妹は、12人の子供を育て上げた、敬愛すべき白髪の老婦人でした。姉妹は数列後ろの席からそっとやって来て、じっとしていない我が家の子供たちの間に腰かけました。集会の後、妻はウォーカー姉妹に感謝を伝えました。

ウォーカー姉妹は言いました。「姉妹、もう手いっぱいなんじゃないですか。」妻はうなずきました。するとウォーカー姉妹は妻の手を優しくなでながらこう言ったのです。「今は忙しきで手いっぱいだけれど、後できっと喜びで心がいっぱいになりますよ。」ウォーカー姉妹の静かな言葉は、何とすばらしい預言だったことでしょう。これこそ、齢を重ねた女性のなせる業なのです。

わたしたちはかつてニューイングランド

伝道部を管理する召しを果たしました。わたしたちのもとで働いていた宣教師の一人が、伝道を終えて結婚し、5人の子供をもうけました。家族で乗る大型車を買って出かけ、帰らぬ人となりました。後に遺体は高架道路の下で発見されました。車は盗まれていました。

彼の家族を助けたくてステーキ会長に申し出たところ、会長はすでに援助しようとしていました。

家族の祖父は言いました。「わたしたちは、自分たちの義務をわきまえています。教会の助けは要りません。自分たちのすべきことは知っています。」それはまさに、齢を重ねた男性の言葉でした。

今日は皆さんに、そして祖父母、つまりおじいさん、おばあさんである方々に向けて、齢を重ねた男女のことについてお話ししたいと思います。自分自身の子供を持たなくても祖父母の役割を果たして下さっている年配の教会員の方にもお話ししたいと思います。

聖文にはこのように書かれています。「老いた者には知恵があり、命の長い者には悟りがある。」(ヨブ12:12)

以前あるステーキの集会で、年配の会員の数が比較的多いことに気づきました。その多くは夫を亡くした姉妹たちでした。わたしはステーキ会長に、この姉妹たちは実にすばらしいですねと言いました。

ステーキ会長はこう答えました。「そうですね。でもあの姉妹たちは教会ではあまり活発ではないのです。」つまり指導者や教師として奉仕していないという意味でした。その言葉には、姉妹たちがまるで重荷であるかのような響きがありました。

わたしは彼の言葉を繰り返しました。「教会では活発ではないのですね。では、福音には活発ですか。」ステーキ会長は最初、その違いがよく理解できないようでした。

人がよく犯す過ちですが、このステーキ会長は、何ができるかという点ばかりに注目して、どのような人物であるかという点を見落としていたのです。彼女たちはかけがえない経験と知恵と靈感の宝庫なのです。

わたしたちは深刻な試練に直面していません。世界的に人口は減少し続けています。

ほとんどの国で出生率が低下し、逆に平均寿命が伸びています。家族の規模は縮小し、故意に子供の数を制限しています。ある国々では、ほんの数年後に、子供の数よりも祖父母の数の方が多くなるでしょう。高齢化は、経済的、社会的、霊的な面に大きな影響を及ぼします。教会の発展にも影響を及ぼすでしょう。

年老いたおじいさん、おばあさんと親しく交わるように、子供たちに教えなければなりません。

大管長会は先日、扶助協会の母親や祖母たちの仲間入りをするよう、大人になりつつある若い女性にお伝えしました(大管長会からの手紙、2003年3月19日付参照)。

中にはしりごみをする若い女性もいます。同世代の仲間と一緒にいることを好むのです。

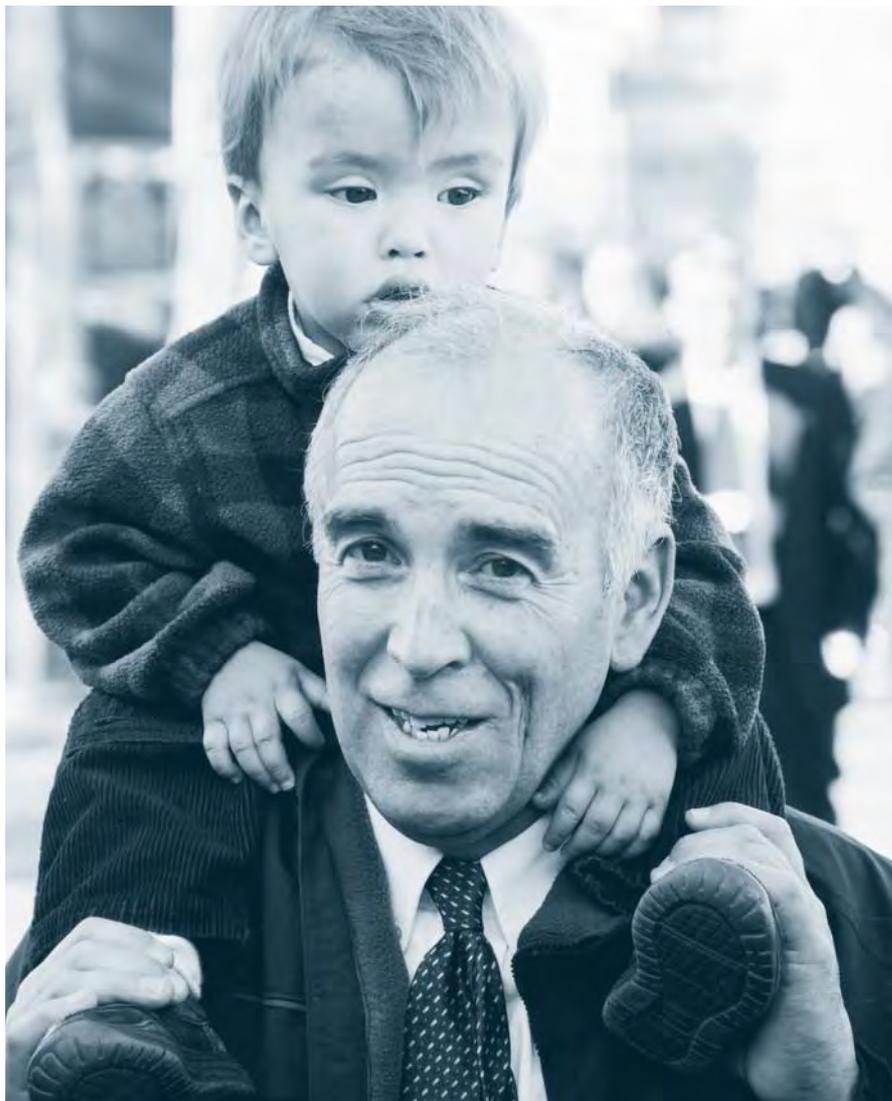
若い女性の皆さん、年上の姉妹たちと交わる機会を逃すような愚かなことはしないでください。年上の姉妹は、皆さんが今楽しんでいることよりもはるかに価値あるものを、もたらしてくれるでしょう。

指導者の皆さん、若い女性が母親や祖母、そして扶助協会の年上の姉妹と親しく交わるよう、指導してください。そうすれば姉妹たちも、神権定員会の若い男性のように、世代を超えた交わりを持つことでしょう。

もし回復の目的を教えていないなら、若い人々にどれほど心配りをしようと、どのようなプログラムをしたとしても、彼らのために何を行ったとしても、十分ではありません。神権の鍵が回復され、結び固めの権能が明らかにされ、神殿が建設されたのは、世代を一つに結ぶためなのです。古代から今日に至るすべての啓示には、「父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる」という、永遠にわたる黄金の糸が通っています(マラキ4:6)。

監督の皆さん、若人やその他の人々について皆さんが大いに心を悩ませている問題は、父親や母親、あるいは祖父母や年配の人々と親しく交わらせることで解決するという御存じですか。

監督が行うカウンセリングの件数が多すぎて困っているなら、ワードの年配の姉妹が、若い既婚の姉妹に良い影響を及ぼ



し、祖母としての役割を果たしてくれるでしょう。年配の兄弟たちは、若い兄弟の祖父の役割を務めるでしょう。年配者には、経験を通して身に付けた落ち着きがあります。このような人々の助けを借りる方法を学んでください。

預言者ジョセフ・スミスは言いました。「重要な問題において物事を進めていく方法として、賢明な人々、経験豊かな年配の人々を自分自身のもとに集めて、あらゆる苦難のときに助言を求めることができます。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, ジョセフ・フィールディング・スミス選[1976年], 299)

わたしたちは若い人々を集めようと努力しますが、いろいろな世代を交わらせようとしていません。年配の会員にできることはたくさんあります。もし教会の中であまり活発ではない年配の会員を見たら、「彼らは福

音に活発だろうか」と自問してみてください。

両親や祖父母の祈りに大きな励ましの力があることを見落とさないでください。「義人の祈りは、大いに力があり、効果のあるものである」ことを忘れないでください(ヤコブの手紙5:16)。

反抗的だった息子アルマは天使に会って倒れました。その天使はこのように語りました。「主は、御自分の民の祈りと、御自分の僕であり、またあなたの父であるアルマの祈りを聞かれた。あなたの父が、あなたが真理の知識に導かれるように、深い信仰をもってあなたのことを祈ってきたからである。したがって、わたしは神の力と権能が存在することをあなたに認めさせるために来た。神の僕たちの祈りが、彼らの信仰に依じてかなえられるためである。」(モーサヤ27:14)

妻とわたしは自分たちの祖父母の、そして父母の死を経験しました。初めは負担

や重荷に感じていた事柄が、後になって振り返ると祝福だったと感ずるようになりました。

妻の父親は自宅で息を引き取りました。義父には常に介護が必要でした。我が家の子供たちは、看護師から寝たきりのおじいさんを世話する方法を教わりました。子供たちが学んだことは子供たち自身にとってもわたしたちにとっても、非常に価値あることでした。義父と親しく交わられたことに、とても感謝しています。

義父が我が家の子供たちに与えた影響を考えると、千倍のお返しを頂いたと感ずるほどです。子供たちにとって、すばらしい経験となりました。それはわたしの少年時代に祖父が自宅で亡くなったときの経験と同じものでした。

能力だけに目を向けるのではなく、お年寄りの持っている経験に目を向けて、彼らの価値を認めてください。

主はどうして常に齢を重ねた者が教会を導くように大管長会と十二使徒定員会を組織されるか不思議に思ったことはありませんか。経験の長さを重んじるこの規範から、若さや肉体的活力よりも知恵と経験が高く評価されていることが分かるのです。

大管長会と十二使徒の平均年齢は現在77歳です。あまり機敏ではありません。人生の盛りを過ぎているかもしれません。しかし主はこのように定められたのです。

前回かその前の大会で、ジョセフ・ワースリン長老は十二使徒の会員に徒競走をチャレンジすると言いました。わたしは一度だけ、「よし、そのチャレンジ、受けて立とう」と思いました。そして96歳のデビッド・ヘイト長老と競走するのが無難ではないかと思いました。しかしよく考えてみると、デビッドは負けまいと、わたしを杖で転ばそうとするかもしれません。それでやめておくことにしたのです。

大管長会と十二使徒の年齢を合計すると、1,161歳になります。これだけあれば驚くほど様々な出来事を経験します。そのうちの430年が、教会の中央幹部として過ごした年月なのです。わたしたちが話すことのほとんどは、だれかが実際に経験しているのです。軍事行動の経験者さえます。

わたしたちは今混乱した時代に生きています。若い人々が今後生きていくうえで、問題は減っていくことはなく、確実に増えていくことでしょう。齢を重ねた人々は、それでも持ちこたえていけるという事実を確かに示しているのです。

わたしたちの子供は結婚し、自分たちの人生を生きるために家を離れました。

一人の子供の家族は、孫たちを古い車に乗せて引越してしまいました。妻は泣きました。わたしはこう言って慰めました。「あの子たちの行く先にも教会があるんだから。料理や子育てで質問があれば、答えてくれるおばあさんがいるだろうし、実際に役立つことを教えてくれるおじいさんもいるだろう。」

おばあさん代わりにしてくれる人は扶助協会にいます。そしておじいさん代わりにしてくれる人は神権定員会にいます。しかし教会の外にもおじいさんやおばあさんになってくれる人はいます。

一人の息子が、遠く離れた州に小さな家を購入しました。息子は土台となっているレンガの角の部分が壊れているのをわたしに見せました。そしてどうすればよかと尋ねたのです。

わたしには分かりませんでしたので、こう言いました。「近くに老夫婦はいないかい。」

息子は答えました。「うん、道を挟んで数軒先に、隠居したご夫婦がいるよ。」

「それなら、そこのご主人に見てもらおうといい。土地の気候も分かっているだろうから。」

息子はそのとおりにし、レンガの破損だけでなく様々な問題を経た年配の男性からアドバイスを受けました。これこそ、代理のおじいさんのなせる業なのです。

「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。」(出エジプト20:12)

使徒パウロは「年老いた女たち」は「若い女たち」を、年老いた男たちは若い男たちを教えるようにと説いています。「[自分]自身を良いわざの模範として示」しながら教えるのです(テス2:1-7参照)。

わたしたちはもはや年老いています。そのうちに幕の向こう側に召されるでしょう。抵抗はしません。長年にわたって学んでき

た有益なことを、家族であるなしを問わず、若い人たちに教えるよう努力するのです。

わたしたちはかつてできていたことができなくなっています。しかし昔より多くのことを経験しています。人生から教訓を得てきました。時にはつらい教訓もありました。だからこそ、若い人たちに勧告したり、間違いを正したり、警告したりできるのです。

齢を重ねた男女には行うべきことと、果たすべき役割が多くあります。隠居して、楽しみを求める生活に入らないでください。場合によっては、それは無益なことで、自分勝手なことでさえあります。皆さんは伝道に出て、解任され、自分は教会での奉仕を終えてしまったと思っているかもしれませんが。しかし福音に活発であることから解任されることなど決してありません。主は言われました。「あなたがたは神に仕えたいと望むならば、その業に召されている。」(教義と聖約4:3)

年を取り、弱くなってからやっと、最も偉大な使命は自分の家族を強め、ほかの人の家族を強め、世代と世代を結ぶことであると分かるのかもしれませんが。

今わたしはまことの原則を教えています。教義を教えています。「この原則は、…啓示の中であなたがたに命じられた教義にかなって[る]」と書かれています(教義と聖約128:7)。

1835年に出版された最初の末日聖徒の賛美歌集には、「主のみ言葉」という賛美歌が収められました。その中にこのような歌詞があります。

人、皆老いて証せん
永久に変わらぬわが愛
髪に霜を置く時に
小羊のごと わが胸に抱かれて
生まれ出でん
(『賛美歌』46番、6節)

回復された福音の証と、贖い主に対する証の炎を赤々と燃やし続けて、皆さんの子供たちが皆さんの信仰の炎で手を暖めることができるようにしてください。それこそ、齢を重ねた男女のすべきことなのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

子供たちのための祈り

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド

親として、わたしたちは生活を常に首尾一貫させなければなりません。しかも、愛と信仰を世代から世代へ、子供一人ずつに受け継いでいかなければならないのです。



復活されたイエスは、信仰篤いニーファイ人の中で1日目の務めを終えるに当たって、集まった人の中で特別な存在に注意を向けられました。大人の視線よりもずっと下の方にいることが多く、ほとんど目に入らないこともある人々です。

神聖な記録には次のように記されています。「イエスは、幼い子供たちを連れて来るように命じられた。……

そして、彼らが地にひざまずくと、……御自分も地にひざまずき、見よ、御父に祈られた。イエスが祈られた事柄を書き記すことはできな[かっ]た。……イエスが御父に話されるの[は]、……大いなる驚くべきことであった。

さて、イエスは御父に祈り終わると、立ち上がられた。……そして、……涙を流され……また、イエスは幼い子供たちを一

人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。

そして、イエスはこれを終えると、また涙を流された。……また、イエスは群衆に語って、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』と言われた。』

このような感動的な瞬間に救い主が抱かれた思いを正確に理解することはできません。しかし、あどけない子供たちの周りで常に荒れ狂っている破壊的な力について、救い主は確かに「心が騒いで」、「心の中で苦悩」されました。子供たちのために祈り、子供たちを祝福することがぜひとも必要であると感じられたのは確かです。

現代に生きるわたしたちも、子供への脅威が世界規模のものであれ、ある地域に限ったものであれ、また個人的なものであれ、子供たちのために祈ります。子供たちが抵抗できないうちに、また敢然と立ち向かう備えができていないうちに、誘惑と罪の大波が子供たちを襲い、あつという間にのみ込んでしまいそうに思えることがあります。現在猛威を振るっている力の少なくとも一部は、個人の力では抑制できないように思えることがしばしばあります。

さて、確かにそのような力の中には、個人の力で抑制できないものがあるかもしれません。しかし、わたしは生ける神に対する信仰により証します。神は抑制する力をお持ちです。神は生きておられます。そして神権の力が幕の両側で働いています。わたしたちは一人ではなく、見捨てられたかのようにおびえる必要もありません。自分

の役割を果たすときに、福音に従った生活を送り、福音の原則を擁護しなければなりません。確かな道、救いをもたらす真理、喜びに満ちた生活を人々に宣言しなければなりません。悔い改める必要があるときにはどのような点でも自ら悔い改め、すべてのことをなし終えたときに、祈る必要があります。すべてこのようにして、ほかの人々に、特にわたしたちの保護を最も必要としている人々、つまり子供たちに、祝福をもたらさなければなりません。親として、わたしたちは生活を常に首尾一貫させなければなりません。しかも、愛と信仰を世代から世代へ、子供一人ずつに受け継いでいかなければならないのです。

子供たちのためにそのような祈りをささげつつ、子供たちが安全であるとはどういうことか、一つの具体的な側面についてお話ししたいと思います。そうするに当たって、親であるなしを問わず教会のすべての成人会員の皆さんに、注意深く、また愛をもってお話ししたいと思います。疑いを抱きがちな人々、心からの献身という言葉にしりごみしてしまう人々、いつも信仰というキャンプ場の隅の方にテントを張りたがる人々にお話ししたいと思います。わたしたちはそのようなすべての人々を愛し、もっと近くにテントを張ってより快適な生活を送っていただきたいと願っているのです。そのようなすべての人々に、どうか気づいていただきたいのです。その生き方の代価は、自分の世代だけで必ずしも払い終えられるとは限りません。悲しいことですが、その生き方に対する代価は、国債を乱発するようなもので、想像をはるかに上回る莫大な負債を、子供や孫に負わせることになりかねないのです。

この教会には、これまで非常に多くの啓示を受けており、また今後与えられる啓示も待っています。それらを研究し、学び、比較し、考慮し、話し合うことは聖文に基づく戒めです。わたしたち皆の目標は、神を信じることで、真にキリストのように生きるとはどのような意味かを知ることです。その目標を旨として、「教えに教え、訓戒に訓戒」³を受けて学んでいきます。そこには強制や心理操作、威嚇や偽善の入る余

地はまったくありません。しかし、この教会の中で疑いを抱いている子供たちを、一人たりとも放っておいてはなりません。両親が主に献身していることについて確信のない子供、主の教会が回復されたことについて確信のない子供、生ける預言者と使徒がいて、今も昔と同じように「主の心……主の思い……主の言葉……救いを得させる神の力」⁴に従って教会を導いているということについて確信のない子供たちを、そのままにしておくわけにはいかないのです。どの預言者も、信仰に関するこのような基本的な事柄について、一つとなることつまり一致することを求めています。彼らはこの点で弁解などしていません。まさに預言者ジョセフ・スミスが用いた言葉が文字どおり意味する完全な一致を求めているのです。⁵ ニール・A・マックスウェル長老が何げない会話の中で語ったことですが、とにかく「紅海が分かたれたまさにその日には、付いて行くことに文句を言う人は一人もいなかったことでしょう。」

親は、まるで恋をもてあそぶように福音に対する疑いや疑念をもてあそび、やがて子供たちと疑いとロマンスが満開になってから驚愕するようであってはなりません。子供たちの信仰や信念が、人間の哲学ややりの文化という急流に押し流される危険があるならば、親であるわたしたちは以前にも増して、安全な場所に錨を下ろし、しっかりした岸に係留していることを家族にはっきり認識させなくてはなりません。崖っぶちまで来て、激しく流れ落ちる滝の轟音の中で弁解したところで何の役にも立たないのです。この教会が真実であり、この教会に神権の鍵が与えられていることを自分はほんとうに知っていた、ただ子供たちが別の考え方を自由を制限したくなかっただけだと。そうです、親は自分のボートをどこに係留させるか知らないで、子供たちが無事に川岸にたどり着くよう期待することなどできないのです。イザヤもかつて不信者について、船の様子を思い描きながら次のように語りました。「あなたの船綱は解けて、帆柱のもとを結びかためることができず、帆を張ることもできない。」⁶

自分には証があると心の中で確信していたとしても、子供の目にはその信仰が見えにくい場合もあることに気づいていない親がいると思います。そこそこに活発で、集会に出席している末日聖徒であっても、福音に誠実に従って生活していなければ、また回復が真実であり、最初の示現から今この瞬間に至るまで神が教会を導いておられるということについて、心からの強い確信を子供たちに伝えていなければ、残念ではありますが、子供たちが集会に出席し活発に見える末日聖徒あるいはそれに類する者になってくれないことがあったとしても、驚くに値しません。

それほど以前のことでありませんが、わたしとホランド姉妹は、信仰を見いだそうと努力していた若者と話す機会がありました。彼はそれまでオカルト信仰を試してみたり、いろいろな東洋の宗教を研究したりしていました。自分の父親は何の信仰も持ち合わせていなかったと言いました。しかし、実のところ、祖父は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だったのです。若者はこう言いました。「祖父はあまり福音を実践していませんでした。教会についてかなり批判的なことばかり言っていました。」教会に疑いを抱いていた祖父がいて、その息子は神の存在を知らずに過ごし、そしてその孫が現在、神がかつてすでに自分の家族にお与えになっていたものを必死になって探し求めているのです！ この物語は、リチャード・L・エバンス長老が与えた次の警告が当てはまるきわめて典型的な例だと言えます。

エバンス長老は次のように語っています。「時として、誤った考えを持つ親がいます。教会の教えに従うことに多少厳密さを欠いてもよいだろう、根本的な事柄であってもいわゆるリベラルな見方をしてもまあよいだろう、つまり少しぐらい甘く寛大になっても大丈夫だろう、教会のことを教えたり集会に出席したりしないときがたまにあってもよいだろう、教会や指導者への批判を家族の前で口に出してもよいだろう、と。親の中には、基本的なことを教える責任を少しおろそかにしても家族の現在や将来に何も影響はないだろうと考えてい

る人がいます。しかし、親が少し道からそれると、子供はその親よりもはるかにそれる傾向があるのです。」⁷

たとえ悪気はなくても、賢く自由でいたいというだけの理由で、子供を(あるいはほかのだれであっても!)信仰や忠実さ、また根本的な信念からそらせることは、どの親にも、またほかのだれにも許されていません。宗教にかかわる事柄において、疑いの精神の方が信じる心よりも高い徳のしるしであるということはありません。また、例えば信仰を求める家族の前で、まるで小説でも扱うように信仰を解体して批評すれば、まさしく単なる解体行為となる可能性があります。そして真の道から逸脱したそのような行為は、ゆっくりとしか影響を及ぼしていかないため、一見何の問題もなさそうなのです。ある専門家が言ったように、「風呂の水の温度を10分に1度ずつ上げていったら、いつ熱いと叫べばいいのか分からなくなってしまふ」⁸のです。

シナイの荒れ野で神聖な幕屋を建てたとき、古代イスラエルの子らは幕屋を支えるひもを固く縛り、そのひもをつなぎ止める杭を強くするよう命じられました。⁹なぜでしょう。人生には嵐が付き物だからです。ですから幕屋を修理し、堅固にし、さらに修理し、より堅固にしなければならぬのです。それでも親の心を引き裂くような選択をする子供もいます。母親と父親が正しいことをすべて行っても、子供が迷い出るといことはあり得ます。選択の自由はそれでも守られています。しかし、そのような苦痛に耐えている中であつても、親にとって慰めとなることがあります。それは、親の皆さんがキリストに対して、キリストの真の教会に対して、また神権の鍵とその鍵を持つ人々に対して、変わらぬ信仰を抱いていたということ、子供たちが知っていたという事実です。そしてもう一つの事実が皆さんに慰めを与えてくれることでしょう。それは、たとえ子供たちがまっすぐで細い道から離れることを選んだとしても、自分の親はその道に堅く立っていたことをよく知っているという事実です。さらに、やがて子供たちが本心に立ち返ったときに、¹⁰ 両親の示した愛に満ちた模範と穩

やかな教えを思い出したときに、まっすぐで細い道に戻って来る可能性ははるかに高いことでしょう。

できるかぎりはっきり目に見える形で福音に従った生活を送ってください。聖約を守って、親が聖約を交わしていることが子供たちに分かるようにしてください。神権の祝福をしてください。そして証をしてください。¹¹ 子供たちが何となく自然に自分たちの信仰を理解するようになるだろうなどと思ひ込まないでください。預言者ニーファイは人生を終えようとするときに、彼らがキリストの記録を書き、キリストの福音への確信を記録したのは、「子孫に……説き勧め」、そして「正しい道」を「子孫に知らせ〔そして信じさせ〕るため」であると語っています。¹²

ニーファイのように、子供たち一人一人がわたしたちを見て何を知るようになったらどうかと自問してはいかがでしょうか。子供たちはわたしたちが聖文を愛していることを知っているのでしょうか。わたしたちが聖文を読み、印を付け、日々聖文に親しんでいることを知っているのでしょうか。たまたまドアを開けたときにわたしたちがひざまずいて祈っているのを見たことがあるのでしょうか。ただ子供たちとともに祈るだけでなく、親の純粋な愛情から子供たちのために祈るのを聞いたことがあるのでしょうか。わたしたちが断食を第一安息日の義務的な困苦以上の重要なものと信じていることを知っているのでしょうか。子供たちの今と未来のために、子供たちには分からないように何度も断食をしたことがあるのを知っているのでしょうか。わたしたちが神殿の中で幸せを感じるの、ほかでもなく、死も地獄も絶つことのできないきずなが家族の間に結ばれるからだということを、子供たちは知っているのでしょうか。地元の指導者や中央幹部を、彼らが不完全であるにもかかわらず愛し支持しているということを知っているのでしょうか。指導者が自分で作ったわけではない正義の標準を守るために自ら求めたわけでもない召しを喜んで引き受けているがゆえに、指導者たちを愛し支持しているということ、子供たちは知っているのでしょうか。わたし



たちが心の底から神を愛していることを知っているのでしょうか。神の独り子の御顔を拝し、その足もとに伏したいと切望していることを知っているのでしょうか。子供たちがこれらのことを知っているように、わたしは祈っています。

兄弟姉妹の皆さん、子供たちは矢と同じように、わたしたちの与える力を使い、わたしたちの指し示す目標に向かって未来に飛んで行きます。わたしたちはその矢が空中に飛んで行くのを不安な思いで見守ります。その矢が手を放れた瞬間からの的を外すように働きかける悪についてすべて承知しています。それにもかかわらず、勇気を奮い、このように思い出すのです。矢の行く先を決める最も大切な要因は、弓を持つ者が安定していて、力があり、揺るぎない確信を持っていることであると。¹³

カール・サンドバーグはかつてこう語りました。「赤子の誕生は、この世が続くべきとの、神の意見の表れである。」¹⁴ その赤子の未来のために、そして皆さんの未来のためにも、強くあってください。信じ続けてください。愛し続け、証をし続けてください。祈り続けてください。その祈りは聞かれ、まったく期待できないと思えるときにこたえられます。神は子供に、そして子供の親に、ほかのだれに与えるよりもいちばん惜しみない援助を与えてくださることでしょう。

「また、イエスは群衆に語って、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』と言われた。

そこで彼らは、……天に目を向けたとき、天が開くのを見た。そして、天使がまるで

火の中にいるかのような有様で……^{ありさま}降^{くだ}って来るのを見た。天使は降って来ると、幼い子供たちを取り囲み、幼い子供たちも火に包まれた。そして、天使は幼い子供たちに恵みを施した。¹⁵

いつもそのようになりますように、子供たちのために心から、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

注

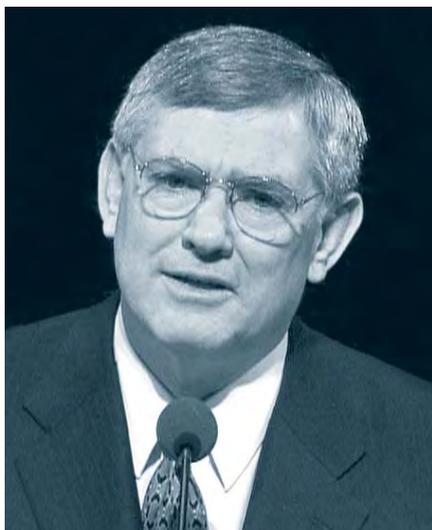
1. 3 ニーファイ17:11, 14-16, 18, 21-23
2. ヨハネ14:6参照
3. 2 ニーファイ28:30
4. 教義と聖約68:4
5. 教義と聖約128:13参照
6. イザヤ33:23
7. Conference Report, 1964年10月, 135-136, 強調付加
8. マーシャル・マクルーハン。ジョン・レオ, "The Proper Place for Commercial," *U.S. News and World Report*, 1989年10月30日付, 71で引用
9. イザヤ54:2; 3 ニーファイ22:2参照
10. ルカ15:17参照
11. ジョセフ・スミス編, *Lectures on Faith* (1985年), 56参照。人間の証に対する親の影響について、明白な声明が記されている。
12. 2 ニーファイ25:23, 26, 28, 強調付加
13. わたしは、カーリール・ギブランの *The Prophet* から、この^{いんげん}隠喩を思いついた。
14. *The Columbia World of Quotations* (1996年), 48047番
15. 3 ニーファイ17:23-24

罪の放つ悪臭を 消し去る

七十人

スペンサー・V・ジョーンズ

愛に満ちた天の御父は、……あなたやわたしが皆、罪を犯し、清くなくなってしまうことをあらかじめ知っておられたため、罪から清める手段を与えてくださいました。それは……実際に効果のある方法です。



良きにつけ悪しきにつけ、わたしたちが下すあらゆる決断には、それぞれ固有の結果が伴います。

わたしは、人から退屈な農村と呼ばれそうな所で育ちました。それはニューメキシコ州のバーデンという人口135人の村でした。少年時代のある夏の夜、いとこや何人かの友達と集まって、何か刺激のあることをしようと、皆で出かけました。だれかが、近所の人にちょっとしたいたずらをしようと言いました。胸の中で良心がそれは悪いことだとささやいていましたが、その気になっているみんなを見ると、逆らう勇氣はありませんでした。

はた迷惑な悪ふざけを終えると、わたしたちは、してやったりと歓声を上げなが

ら暗い田舎道を目散に逃げ出しました。突然、仲間の一人が何かにつまずいて、叫び声を上げました。「いけない、猫をけ飛ばしちゃった。」ほとんど同時に、わたしたちは細かい霧のようなものに包まれているのに気づきました。ひどい悪臭が漂っていました。友達が猫だと思ったのは、実はスカンクでした。自分を守るために液をわたしたちに吹きかけたのです。スカンクが吹きかける悪臭以上に嫌なにおいはありません。わたしたちは強烈なおいに取り囲まれていました。

意気消沈したわたしたちは、両親が惨めな有様ありさまに同情して、少しは慰めてくれるだろうと期待しながら家に帰りました。台所のドアから家に入ると、母はほんの少しにおいをかいだだけで、わたしたちを裏庭へ追いやりました。家から追い出されてしまったのです。やがて母は、わたしたちをきれいにする手立てを講じ始めました。母はわたしたちの服を焼いてしまいました。村中に伝わるあらゆる方法を試してみました。例えば、様々なお風呂に我慢してつかりました。まずトマトジュース、次に牛乳、さらには刺激の強い自家製の苛性ソーダ石けんなどの入ったお風呂です。けれども、においは取れませんでした。父の強力なアフターシェーブローションもその悪臭には勝てませんでした。それからの数日間、わたしたちは庭の木の下で食事を取り、テントの中で寝ました。車に乗るときは、トラックの

荷台にしか乗せてもらえませんでした。

しばらくして、無邪気にもにおいが消えたように考えていたわたしたちは、においに特別に敏感でない女の子たちに話しかけようと思いました。けれども、数メートル以内に近づくことも許してもらえませんでした。それは10代の少年にとって、もろい自尊心が傷つけられるような仕打ちでした。

ところで、罪を犯した結果としてスカンクから液を吹きかけられるようなことはあまり起きないことを、申し上げておかなければなりません。ほとんどの場合に、罪の結果はこれほど直接的でも劇的でもありません。けれども遅かれ早かれ、あらゆる罪に対してその代価を支払うことになります。

時々、罪を犯した人は、その結果を深刻に受け止めないことがあります。わたしたちがかつて女の子に話しかけようとしたときのように、だれにも見破られずに隠しおおせると自分に言い聞かせるかもしれせん。しかし、常に天の御父には、そしてしばしば、霊的に感覚の鋭い指導者や両親、友人には、わたしたちの罪は明らかです。

リチャード・G・スコット長老とともに青少年のファイヤサイドに出席したときのことでした。わたしはほかの出席者と溶け込んでいない青少年が5人いることに気づきました。顔つきや身振りから彼らが霊的に何かの問題を抱えていることが明らかでした。集会が終わってから、気がかりな5人についてスコット長老に話すと、スコット長老はさりげなく言いました。「8人いましたよ。」

イザヤはこのように預言しました。「彼らの顔つきは彼らについて不利な証言をし、彼らの罪があたかもソドムのものであることを表しており、彼らはそれを隠すことができない。」(2ニーファイ13:9。イザヤ3:9も参照)

神は「罪を犯して悔い改めない者は、追い出されなければならない」と言われました(教義と聖約42:28)。いとことわたしがいたずらの結果として家を「追い出された」ように、わたしたちは罪を悔い改めなければ天の御父の家から追い出され



テンブルスクウェアの訪問者センター北館にある「クリスタス」像は、鑑賞する人に救い主の役割と使命について深く考えさせるきっかけとなっている。

ます。

わたしが父のアフターシェーブローションで隠そうとしたように、「わたしたちが自分の罪を覆い隠そうと」するとき、「天は退き去り、主の御霊は深く悲し」みます(教義と聖約121:37)。わたしたちは霊の賜物をなくしてしまいます。主は言われました。「悔い改めない者は、すでに受けている光さえ取り去られる。」(教義と聖約1:33)

人にはそれぞれキリストの光、すなわち良心が与えられていて、善を選ぶようにいつも励ましを受けています。正しい選択は良い結果をもたらします。これに対して、悔い改めを引き延ばし罪を犯し続けることは、スカンクをけ飛ばし続けるようなことです。罪を重ねる度に悪臭はひどくなって、神と愛する人々から次第に遠くへ引き離されてしまいます。わたしたちはやがてレーマンやレムエルのようにになってしまうのです。彼らは誤った選択を続けたために、「心が鈍って」静かな細かい声が聞こえなくなりました(1ニーファイ17:45参照)。

もし、いたずらをしてはならないとささやいた良心に従っていれば、わたしは体中に悪臭を吹きかけられることはなかったでしょう。

ニーファイを通じて救い主は、こう教えておられます。「清くない者は神とともに住むことができないので、あなたがたはとこしえに捨てられるに違いない。」(1ニーファイ10:21)

しかし、愛に満ちた天の御父は、わたしたちに弱点があり、皆さんやわたしが皆、罪を犯し、清くなくなってしまうことをあらかじめ知っておられたため、罪から清める手段を与えてくださいました。それはトマトジュースや牛乳、苛性ソーダの石けんとは違って、実際に効果のある方法です。

天の御父はわたしたちの罪を贖うために、救い主である独り子イエス・キリストを遣わしてくださいました(アルマ22:14参照)。

ゲツセマネの園で完全な従順を示されたキリストは、受けた激しい苦しみについてこう言われました。「神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。」(教義と聖約19:18)それからキリストは「世の罪のために十字架につけられて殺され」ることを甘んじてお受けになりました(1ニーファイ11:33)。

「すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受け」られたのです。「人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいこと[でしょう]か。」(教義と聖約18:11, 13)

救い主は、「人が罪を悔い改めたかどうか」を知る方法を示されました。「すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる」のです(教義と聖約58:43)。それから、驚くべき約束をお与えになりました。「たとえあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。」(イザヤ1:18)

もし、生活の中で何かを正すよう御霊が皆さんの心を刺して痛みを与えているのを感じたら、この原則を理解してください。皆さんはとても大切な存在です。天の御父は、皆さんに神の永遠の家族の一員になってほしいと願っておられます。

わたしは愛を込めて、「悔い改めの日を引き延ばすことのないように」訴えたいと思います(アルマ34:33)。この道を今、歩み始めてください。悔い改めという治療薬を使って、罪の放つ悪臭を消し去ってください。すると、救い主は贖罪を通して、皆さんを洗い清めてくださいます。わたしはこのことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

指示に従う

七十人

D・レックス・ジェレット

みたま
御霊を感じ取れるように思いと心を開けば、主は、主の時と主の方法で、皆さんの人生にとって恵みとなる指示を授けてくださることでしょう。



昔ワード書記として奉仕していたときのことですが、新年度の資料が家に配達されました。膨大な資料の中で書記あての一つの箱が目にとまりました。テープで留めた荷札に太い字でこうタイプしてあります。「何をしてもうまくいかないときは、どうか指示に従ってください。」

わたしは、これは送り先の全員に同じように書かれたものではなく、教会本部でわたしのことを個人的に知っている人が付けたものに違いないと思いました。

当時は笑い話でしたが、あの荷札が教えてくれたことは今でも心に深く刻み込まれています。「何をしてもうまくいかないときは、どうか指示に従ってください。」

この人生では、だれもが多くの問題を経験します。そして、一人一人には選択の自由があって、それが進歩に影響を及ぼします。良い選択をすれば約束の恵み

が得られ、悪い選択をすればいつも望ましくない結果が生じます。

人生は不確実です。わたしたちに与えられている時間はつかの間で、貴重です。今は「神にお会いする用意をする」時期です(アルマ34:32)。わたしたちの体や霊にとって害があると分かっていることを試したり、そうしたものにこだわったりして過ごす無駄な時間はありません。

完全な人はいません。皆、助けが必要です。でも、もし感じる心と聞く耳を持ち、謙虚な態度でいるならば、独りで取り残されることはありません。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。」

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5-6)

では、どのようにして指示を受けるのでしょうか。

第1に、誠実な望みが必要です。

第2に、信仰が必要です。主がわたしたちを御存じで、わたしたちを愛し、祈りにこたえてくださると信じることです。

聖書を読んでいたジョセフ・スミスが目にとまったのがヤコブの手紙第1章5節と6節です。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」

ジョセフは指示に従い、祈りへの答え

を受けました。わたしたちも祈りへの答えを受けることができます。

わたしはこれまで農業を営み、大家族の父親として過ごしてきました。もちろん個人の祈りや家族の祈りは日々の日課でしたが、時々必要に駆られて、夜中に畑に出たり干し草の傍らにひざまずいたりして、天を見上げ、声を出して天の御父に語りかけたことがあります。そしていつも感じたのは御父の温かな心でした。こうしてわたしは、御父は祈りを聞いてくださり、御父の知恵によりわたしにとって最善の答えを与えてくださることを知ったのです。この知識は今も変わりません。

世界中のすべての方、すなわち、希望の必要な方、慰めの必要な方、不幸だと感じておられる方、人生に方向性と目的が必要な方、わたしの愛する友である皆さんにお勧めします。心からお勧めします。頭を垂れ、ひざをかがめてください。皆さんのために御子がささげられた贖いの犠牲とこれまで御子が授けてくださったあらゆる祝福について、皆さん自身の言葉で天の御父に感謝してください。目には涙がにじみ、胸には御霊のぬくもりが感じられることでしょう。

それから、慰めと導きと理解を求めて主に語りかけてください。御霊を感じ取れるように思いと心を開けば、主は、主の時と主の方法で、皆さんの人生にとって恵みとなる指示を授けてくださることでしょう。

聖文には古今の預言者からの指示も含まれています。「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。」(2テモテ3:16)

この神権時代において、主は次のような慰めとなる勧告を授けてくださっています。「あなたがたの敵を恐れてはならない。あなたがたがふさわしいと認められるように、死に至るまでもわたしの聖約の中にとどまるかどうか、あらゆる点であなたがたを試すことを、わたしは心の内に定めたからである……。」(教義と聖約98:14)

以下の指示は、勤勉さと決意、最後ま

で堪え忍ぶ精神が求められるものです。

「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ31:20)

「さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがわたしの命じることを何であろうと努めて行うならば、主なるわたしは、あなたがたからすべての怒りと憤りを解こう。そして、地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはない。」(教義と聖約98:22)

「備えていれば恐れることはない。」(教義と聖約38:30)

わたしたちはこれまで、主の生ける預言者から指示を受けてきました。わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長が今日の主の預言者であることを証します。大管長はこの時代に必要な靈感に満ちた勧告を授けてくれています。

2001年10月の総大会で大管長はこう言いました。

「さて、今日、わたしたちは特別な問題に直面しています。深刻で、痛切かつ困難な問題であり、わたしたちにとって大きな関心事となっています。確かにわたしたちは主を必要としています。……

わたしたちの安全は生活の徳高さにかかっています。わたしたちの強さは義の中に存在しています。神は次のことを明確にされました。すなわち、わたしたちが神を捨てなければ、神はわたしたちを見捨てられないということです。」「(また逢うまで)『リアホナ』2002年1月号、104-105参照)

指示を受けたわたしたちはその指示に従順に聞き従わなければなりません。召された指導者に聞き従わなければなりません。

あるとき救い主は群衆を羊飼いのいない羊の群れにたとえられました(マタイ9:36参照)。この教会のすべての会員には羊飼いがいます。定員会の指導者、監督、



ステーキ会長です。

また主はわたしたちに、聖文を調べて戒めに従うように求めておられます。

主は「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じであ」り(教義と聖約1:37-38)、すべて成就すると約束しておられます。

主はこう宣言されました。「何であろう

と聖霊に感じて語ることは、聖文となり、主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり、救いを得させる神の力となる。」(教義と聖約68:4)

「何をしてもうまくいかないときは、どうか指示に従ってください。」

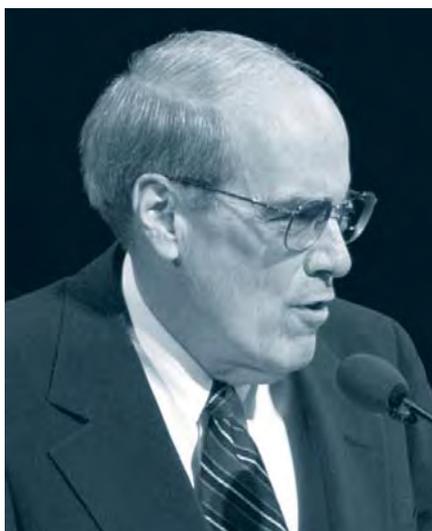
このことを実行できますように。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

永遠の結婚

七十人

F・バートン・ハワード

何かを永續させたいと願うなら、ほかのものとは異なる扱いをしなければならないのです。……それが特別なものとなるのは、特別な扱いをしたから(です)。



何年も前のことです。妻とともにある神殿結婚に参列してから、披露宴でガーデンパーティーに出席しました。知り合いの若い二人が、この世から永遠にわたって結ばれたのです。二人は深く愛し合っており、その出会いは奇跡としか言いようのないものでした。人々の目には、喜びの涙があふれていました。そのすばらしい日の夕暮れ、わたしたちはお祝いを言いに行く人々の列に加わっていました。列の前方には、この家族の親しい友人が並んでいました。この友人は新郎新婦に近づくと、美しく澄み切ったテノールの声で歌を披露したのです。ルツ記の感動的な言葉を歌にしたものでした。「わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。あなたの死なれる所でわたしも死[に]ます。」(ルツ1:

16-17)

わたしたちは深く感動し、二人がこれから幸福な人生を歩むことを再び確信しました。この同じ言葉がわたしたちの家の壁に何年もかけられていたことも、そう確信した理由の一つだったのでしょうか。

悲しいことに、この美しい言葉の重要性は薄れてきています。今日あまりにも多くの結婚生活が破綻しています。利己主義や罪、また自己中心的な考え方が、聖約や献身よりも重視されているのです。

永遠の結婚は創世以前に定められた原則で、死がこの世に入り込む前に設けられました。アダムはエバに、エバはアダムに、墮落の前にエデンの園で神から与えられました。聖典にはこう記されています。「神が人を創造された時、神にかたどって造り、彼らを男と女とに創造された。彼らが創造された時、神は彼らを祝福[された。]」(創世5:1-2, 強調付加)

神の偉大な計画は、神の子供たちを祝福するために立てられました。歴代の預言者は、その計画の完璧で最高の要素について一様に語っています。それは永遠の結婚です。

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう述べました。「結婚の聖約への忠誠は、この世では最上の喜びを、来世では栄光に満ちた報いをもたらします。」(The Teachings of Ezra Taft Benson[1988年]533-534) ハワード・W・ハンター大管長は、日の栄えの結婚を「この上ない福音の儀式」と述べ、「日の栄えの結婚に至るまで[ある人にとっては]幾らか時間を要し、この世の生涯を終えるまでかかることもあ

る。」しかし、ふさわしい人が退けられることはない」と説明しています(Teachings of Howard W. Hunter, クライド・J・ウィリアムズ編[1997年]132, 140)。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、永遠の結婚を「すばらしいもの」と呼び(「神が合わせられたもの」『聖徒の道』1991年7月号, 72参照), 「すべてにまさる貴い賜物」であると述べています(「永遠に続く結婚」『聖徒の道』1974年11月号, 523参照)。

その賜物は壮大で栄光に輝くものですが、何の代価もなしに与えられるわけではありません。それは条件を伴っており、付随する聖約の条件を満たさなければ、取り上げられてしまうこともあるのです。教義と聖約第131章ではこう教えています。「日の栄えの栄光には、3つの天、すなわち3つの階級がある。その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位(すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約)に入らなければならない。」(教義と聖約131:1-2)

聖約は、神聖な約束です。わたしたちが何かを行うと約束するのに対し、神は義務を負われます。結婚の聖約を守る人々に、神は完全な栄光と永遠の命をお与えになります。また、子孫を永遠に増し加えてくださり、日の栄えにおける昇栄と完全な喜びを約束しておられるのです。それについてよく理解していても、祝福を受けるためにわたしたちに課せられている義務について、あまりよく考えないことがあります。少なくとも3つの義務がこの聖約の一部となっていることを、聖典は明らかに述べているように思われます。

第1に、永遠の結婚は永續します。永遠とは、絶えず成長し、向上することです。夫婦は誠実に自分自身の完成に努め、夫婦関係は、意見が分かれたり困難な状況に陥ったりしたからといって、軽率に放棄すべきものではありません。愛は時がたつにつれていっそう強くなり、死後も続きます。そして伴侶と永遠に寄り添うという祝福を受けるのです。問題や相違は消えてなくなるわけではないのですから、解決するよう努めた方がよいのです。永遠とは、悔い改め、赦し、寛容、忍耐、希望、慈愛、



愛、謙遜けんそんを意味します。これらはすべて、永遠の事柄にかかわっています。永遠の結婚を遂げたいと望むなら、こうした徳を身に付け、実行しなくてはなりません。

第2に、永遠の結婚は神により定められたものです。つまり、結婚の聖約を交わす当事者は、神に従って結婚生活を送り、ともに祈り、戒めを守り、欲求や情熱を預言者が教える一定の限度内に抑えるのです。伴侶と対等な関係を保ち、家の中でも外でも誠実で貞潔であることを意味します。神によって定められたということは、一つにはこういうことなのです。

第3に、永遠の結婚は神との協力関係のような状態にあります。神は、神殿で結び固められた人々に命の存続を約束しておられます。産めよ、増えよ、地に満ちよというアダムとエバに与えられた戒めには、創造主と一つになるという意味が込められています。子供たちに福音を教える義務があるのは、彼らも神の子供たちだからです。そのために、家庭の夕べや聖文研究、福音に関する話、奉仕などを行うのです。各人が召しや役割を果たす

うえで、互いに助け合い、支え合う義務があるように思われます。妻が初等協会へ召されたり、夫が監督会へ召されたりしたときに、互いに支え合うことができないなら、神と一つであるとして言えるでしょう。

結婚の聖約には少なくともこれら3つと、恐らくそれ以上の事柄が含まれるでしょう。妻や夫に暴言を吐いたり、身体的な虐待を加えたりする人、また伴侶を侮辱したり、名誉を傷つけたりする人、不正に支配する人は聖約を守っているとは言えません。それは戒めを守ることを怠る人や、指導者を支持しない人にも同じことが言えます。この考えは間違っていないことでしょう。理由なしに召しを断る人や、隣人を軽んじる人、また、この世的な生き方をほほどに取り入れている人も、危険を冒しているのです。聖約の中で自分の義務を守らないならば、神の約束は果たされません。

何よりも、永遠の結婚は、結婚生活がうまくいくよう全力を尽くして初めて達成できるものだと思います。これについてわ

たしが知っていることの大部分は、妻から学びました。結婚してもうすぐ47年になりますが、妻は最初からどのような結婚がしたいか知っていました。

結婚当初、わたしたちは貧しい大学生でした。しかし、妻が結婚に抱いていた思いは、銀食器に表れていました。欧米の習慣に見られるように、妻は結婚したとき、近くのデパートへ行ってお祝いに欲しい物を書き出しました。鍋やフライパン、台所用品などの生活必需品を書く代わりに、妻は別の物を選びました。銀食器です。デザインや数を決め、ナイフ、フォーク、スプーンだけをリストに載せ、ほかには何も選ばなかったのです。タオルやトースター、テレビもなく、ただナイフとフォークとスプーンだけが挙げられていました。

結婚式が済むと、友達や両親の友人から贈り物を頂きました。そして短い新婚旅行に出かけ、帰って来てから贈り物を開けることにしたのです。開けてみて驚きました。ナイフやフォークは1本もなかったのです。それは笑い話となり、わたしたちは結婚生活を始めました。



ロースクール(法科大学院)に通っていたとき、二人の子供を授かりました。経済的な余裕はありませんでした。しかし、妻は選挙期間にアルバイトをしたり、誕生日にお金をもらったりすると、黙って貯金し、少しお金がたまる度に、町へ出かけてフォークかスプーンを買うのでした。十分な数がそろって使えるようになるまでには数年かかりました。やっと4人分の数がそろると、友人を夕食に招待するようになりました。

友人たちが来る前に、台所でよくちよつとした議論をしたものです。使い古した数のそろわないステンレス製の食器を使うか、それとも銀食器を使うか話し合うのです。当時わたしは、ステンレス製の方がいいとよく主張しました。その方が簡単だからです。食事が終わった後、食器洗い機に放り込んでさえおけば完了です。

一方、銀食器は手がかかります。妻は、泥棒に見つけれないようにと、銀食器をベッドの下に隠していました。わたしは銀食器の変色を防ぐために包む布を買うようにせがまれました。1本ずつ別々に包むため、全部出すのは一苦勞でした。使った後は、手で洗い、水滴の跡が残らないようにふきました。そして変色しないように包み、盗まれないように注意深く隠すのです。少しでも変色していると、銀磨きを買いに行かされ、二人で丹念に汚れを落としました。

年を重ねるにつれて、セットを買い足していきました。妻が銀食器を大切に扱う様子を、わたしは驚きのまなざしで見っていました。妻はすぐ怒るようなことは決してありませんでした。しかし、ある日のことです。どうしたものか、子供が銀のフォークを使って、裏庭に穴を掘ろうとしたの

です。すさまじい怒りと、思い出すだけでもぞっとするような厳しい注意の声に、その試みは失敗に終わりました。

妻は教会の夕食会の準備をすることが度々ありましたが、銀食器は決して使いませんでした。また病氣や困っている人たちに何度も食事を用意しましたが、それでも銀食器は用いなかったのです。ピクニックやキャンプでは決して見ませんでしたし、実際、家から持ち出すことは決してありませんでした。そして、時がたつにつれて、食卓でさえ使う回数が減ってきました。友人を招待しても、銀食器を出すにふさわしい客かどうか厳しく評価され、我が家の銀食器の存在を知らない友人もいました。夕食に来て、ステンレス製が出されたのです。

そして、わたしたちは伝道に召されることになりました。ある日家へ帰ると、銀食器をしまうために銀行の貸金庫を借りるよう言われました。妻は銀食器を伝道地へ持って行きたくなかったのです。しかし、置いて行くことも、手放すことも望みませんでした。

長い間、わたしは妻が、少々度が過ぎるのではないかと思っていました。しかしある日、気づいたのです。わたしにはようやく分かりかけてきたことを、妻は長いこと知っていたのです。何かを永續させたいと願うなら、ほかのものとは異なる扱いをしなければならぬのです。傷が付かないように覆い、守らなければなりません。決して乱雑に扱ったり、雨風にさらしたりしてはならないのです。ほかのものと同等の扱いをしてはなりません。変色してきたなら、新品のような輝きが出るまで、愛情を込めて磨かなくてはならないのです。それが特別なものとなるのは、特別な扱いをしたからであり、時がたつにつれて、そのすばらしさは増し、価値は高まるのです。

永遠の結婚もまさにそのようなものです。特別な扱いをする必要があるのです。わたしたちが永遠の結婚をこの上なく貴重なものと見なすよう、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

すべてについて 感謝をささげる

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス

すべてのことについて感謝をささげるなら、苦難や逆境を人生の目的に照らしてとらえることができます。



モルモン書に記されている霊的および物質的な逆境の時期にあって、神の民が「あらゆる苦難に耐え」ていたとき、主は「すべてのことについて感謝をささげるよう」お命じになりました(モーサヤ26:38-39)。その教えを現代に当てはめたいと思います。

I.

神の子らは、いつのときも感謝をささげるよう命じられてきました。その例は、旧約および新約聖書の至る所にあります。使徒パウロは次のように書いています。「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。」(1テサロニケ5:18) 預言者アルマはこう

教えています。「朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。」(アルマ37:37) そして現代の啓示の中で、主はこう宣言しておられます。「すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう。また、この世のものも百倍……加えられるであろう。」(教義と聖約78:19)

II.

感謝すべきことはとても多くあります。まず何より、救い主イエス・キリストに感謝しています。御父の計画の下で、主は世界を創造されました。また、御自分の預言者を通して、救いの計画をそれに伴う戒めや儀式とともに明らかにされました。道を教え示すために、死すべき世に來られました。そして、わたしたちの罪のために苦しみ、悔い改めを条件として代価を支払われたのです。人が皆再び生きるように、御自分の命を捨て、死に打ち勝ち、墓からよみがえられました。主は世の光であり命です。ベニヤミン王が教えているように、たとえ「[わたしたち]を造り、[わたしたち]を守[って]くださった神に、……全身全霊の力を尽くして一切の感謝と賛美をささげたとしても、……[また]全身全霊を尽くして仕えたとしても、それでもなお、[わたしたち]はふつつかな僕」なのです(モーサヤ2:20-21)。

わたしたちは真理が明らかにされていることに感謝します。真理は、すべてを測る基準となるものです。聖書が教えてい

るように、主は「聖徒たちをととのえ[る]」ために、使徒や預言者を与えてくださいました(エペソ4:12参照)。「わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風(おしえ)に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがな[い]」ように、使徒や預言者を通じて明らかにされている真理を用います(エペソ4:14)。あらゆる苦難を考察し、あらゆる新しい主張や発見を評価するときに、明らかにされている真理と照らし合わせる人は、「吹きまわされ[る]」必要がなく、揺るがずに安らかでいることができます。神は天におられ、神の約束は確かです。「心配することはない。」世の終わりに先立つ滅亡について、主はそう言っておられます。「これらすべてのことが起こるとき、あなたがたは、与えられた約束が果たされることが分かるからである。」(教義と聖約45:35) この混沌とした時代(こんとん)にあって、何という揺るぎない教えでしょうか!

わたしたちは戒めに感謝します。戒めは落とし穴を避けるための指示であり、祝福への招待状です。戒めは道しるべであって、この世における幸福と来るべき世における永遠の命への道を示してくれます。

III.

この8か月間、わたしはフィリピンで福音の祝福(あかし)について数多くの証を聞いてきました。あるワードの礼拝堂の奉獻式で、フィリピン人の監督が、10年ほど前に出会った福音のメッセージに感謝を述べていました。監督は、過去の利己的で不節制な、乱暴行為が当たり前だった生活から福音によって救い出され、善い夫、善い父親になるまでのいきさつを話しました。また、自分の一(いち)を納めることで得られた祝福について証しました。

ある指導者会では、弁護士で地域社会の指導者でもあるステーキの副会長が次のように言いました。「わたしは全世界の人々に、わたしの人生で最も大いなる出来事は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になったことであると躊躇なく宣言できます。教会員になって……わたしと

家族の人生は大きく変わりました。さらに多くのことを学んで生活に応用すべきだと感じています。この教会は確かに不思議な驚くべき業です。」

このような証を見聞きするのに、必ずしもフィリピンまで行く必要はありません。福音のメッセージを受け入れて従う人がいるなら、どこでもはっきりとそのような証を目にすることができるのです。それでも、オークス姉妹とわたしは、フィリピンに住み、そこで働く機会に心から感謝しています。この新しい環境で、何千人ものすばらしい会員と出会い、異なった視点から福音を理解するようになりました。

教会が発展段階にある国々において、わたしたちは教会を確立することの重要性を学んでいます。すなわち、教えてバプテスマを施すだけでなく、愛し、召しあるいは聖任し、また神の善い言葉で養って新会員が定着できるようにするのです。また、福音の戒めや聖約に反するような伝統的な考え方を放棄するよう会員にチャレンジすることの重要性を学んできました。それは会員とその子孫が「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族[となり]……使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられ……キリスト・イエスご自身[を]隅のかしら石」とするためです(エペソ2:19-20)。

以上を行う人々は、世界中で同じ戒め、聖約、儀式、祝福を共有する福音の文化に加わるのです。そのような人々は心に「大きな変化」を経験し、「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つようになり」ます(モーサヤ5:2)。神の面影が「顔に……刻まれ」るのです(アルマ5:19)。キリストに従うこのような人々は、福音と教会が確立されているあらゆる地にいます。フィリピンにはこのような人々が大勢おり、わたしたちは、さらに多くの人に呼びかけるために働いています。そのために、すでに力強い基盤のある地域から広げていくようにしています。つまり献身的な会員が十分にいる所に焦点を当てて教えているのです。この熱心な会員たちは、新会員が福音の要求することや与えてくれるものを懸命に

学ぶ中で、友達付き合いや指導、模範、および必要な援助の手を差し伸べています。

IV.

わたしたちは啓示に感謝しています。啓示は、苦難にさえも感謝すべきであると教えています。苦難を通して、人は神に心を向け、神の望まれるような者になる備えをする機会が与えられるのです。主は預言者モロナイに「わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える」と教えられました。そしてこのように約束しておられます。「もし彼らが……へりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12:27)。末日聖徒がミズーリ州で迫害を受けていたさなかに、主は同様に教え、約束をお与えになりました。「まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。恐れてはならない。心に慰めを得なさい。まことに、いつも喜び、すべてのことについて感謝しなさい。……また、あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために……働く[であろう。]」(教義と聖約98:1, 3)そしてリバティーの監獄において、主は苦難の中にあるジョセフ・スミスにこう言われました。「息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」(教義と聖約122:7)ブリガム・ヤングはこれを理解していました。このように語っています。「人生のいかなる境遇、いかなる体験も、それを学習の機会とし、それを基に成長しようとするすべての人にとって、役に立たないものは何一つありません。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』[1997年]197参照)

だれかが言ったように、20年の経験で円熟するのと、1年の短い経験を20回繰り返すことには大きな違いがあります。もし主の教えと約束を理解するなら、逆境から学び成長するでしょう。

メルキゼデク神権と扶助協会の教科課程である『歴代大管長の教え』には、現代の預言者の靈感による教えが数多く収録されています。ここに収められている永

遠の教義と原則は、神の知恵と導きの泉です。ワードや支部の賢明な教師は、自分自身のテーマと知恵ではなく、この靈感による教えに焦点を当て、現状や問題に応用させるのです。

例えば、現在使用しているジョン・テラー大管長のテキストには、苦難に感謝することについての管長の言葉が記されています。「わたしたちは苦難によって多くの事柄を学んできました。わたしたちはそれを苦難と呼びますが、わたしは経験という学校と呼びます。……わたしはこれらを、聖文にあるように、火によって7度清められた金のようになることができるよう、神の聖徒を清めるための試練であるという以外の見方をしたことはありません。」(『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』[2001年]202-203)ジョン・テラー大管長のような開拓者は、預言者が殺害されるのを目撃し、信仰のゆえに長期にわたる迫害と想像を絶する苦難を経験しました。しかし、神をほめたたえて感謝したのです。試練と、試練に立ち向かう勇敢で靈感あふれる行動によって、信仰と霊性が強められました。苦難を通して、神の望まれるような者となり、今日わたしたちの生活に祝福をもたらしている大いなる業の土台を据えたのです。

わたしたちは開拓者のように、逆境があることを神に感謝し、逆境に立ち向かうための導きを祈り求めなければなりません。そのような態度と信仰、従順によって、神から与えられている約束を実現していくのです。すべてが計画の一部なのです。

わたしは演劇や映画の『屋根の上のバイオリン弾き』が大好きです。その中で、ユダヤ人の父親が「もし金持ちであったなら」という歌を歌います。その印象的な祈りは、次の訴えるような問いで結ばれます。

獅子と小羊をお造りになった主よ、
あなたはわたしに、
今の自分を受け入れるよう
お命じになった。
広大な永遠の計画が
台なしになるのでしょうか、
もし金持ちであったなら。



(シェルドン・ハーニック作詞〔1964年〕)

そうです、テレビエ、台なしになるでしょう。今の自分と、死すべき世の旅のために神が与えてくださった環境に感謝しましょう。

かつて預言者リーハイは、この真理を息子ヤコブに教えました。

「あなたは、幼いとき、あなたの兄たちが乱暴なためにひどい苦難を味わい、つらい思いをした。

しかしながら、荒れ野で最初に生まれたわたしの子ヤコブよ、あなたは神の偉大さを知っている。神はあなたの苦難を聖別して、あなたの益としてくださる。」(2ニーフアイ2:1-2)

わたしの母はこの聖句を愛し、その原則に従って生活しました。母は、結婚後わずか11年で人生最大の苦難を迎えました。わたしたち子供の父親である、夫を

亡くしたのです。それは母の人生を変え、一人で生計を立てて3人の幼い子供を養うという、大きな苦難となりました。それでも、母はよく、主がその苦難を聖別して益としてくださると言っていました。夫の死によって、母は才能を伸ばし、働く以外にありませんでした。そして、一見悲劇に思えるこの苦難がなければ決して到達し得なかった人物になりました。母は霊の巨人であって、強く、3人の子供がその墓石に刻んだ、愛を込めた賛辞にまったくふさわしい人でした。「彼女の信仰はすべてを力づけた。」

逆境の祝福は周りの人々にも及びます。夫を亡くした母親に育てられ、若いうちから熱心に働くことを学ばなければならなかったことは、わたしたちにとって祝福でした。相対的な貧しさやきつい仕事は、富と時間を持って余すほどの災難ではあり

ません。また逆境の中で力は鍛えられ、先の見えない状況の中で信仰ははぐくまれます。

V.

すべてのことについて感謝をささげるなら、苦難や逆境を人生の目的に照らしてとらえることができます。この世に送られてきたのは試しを受けるためです。すべての事物には反対のものがなければなりません。反対のものや困難に立ち向かうことで、また人にもそうするよう教えることで学び成長するのが目的なのです。愛する同僚ニール・A・マックスウェル長老は、高潔な模範を示しています。マックスウェル長老の勇気、癌という苦難を受け入れる従順な態度、そして忠実で休むことのないその奉仕は、何千もの人々を慰め、何百万もの人々に永遠の原則を教



えてきました。長老の模範から、主が苦難を聖別して益とされるだけでなく、苦難を用いて無数の人生を祝福なさることが分かります。

イエスはこの教訓を、弟子たちとともに一人の盲人と会った際にお教えになっています。弟子たちは「この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」と尋ねました。するとイエスは、どち

らでもないとお答えになりました。男が生まれつき盲人であったのは、「ただ神のみわざが、彼の上に現れるため」だったのです(ヨハネ9:2-3)。

もし霊性というレンズを通して人生を見るなら、神の業がその子らの逆境によって推し進められている例を数多く見ることができます。わたしはよく、マニラにあるアメリカ戦没者記念墓地を訪れます。わたしにとって、そこは神聖な場所です。

そこには第二次世界大戦中、太平洋諸国で命を落とした兵士、船員、パイロットが1万7,000人以上埋葬されています。また同じく命を落とし、遺体を収容されることのなかった3万6,000人以上の軍人も記念しています。兵士たちの名前と出身地が刻まれている美しい記念碑に添って歩くと、忠実な末日聖徒と思われる名前もたくさん目に入ります。

非常に多くのふさわしくすばらしい会員が戦時中に命を失い、愛する人々がどれほど苦しんだか深く考えながら、教義と聖約第138章に記されているジョセフ・F・スミス大管長の大いなる啓示について考えました。大管長は、死すべき世に住んでいた間にイエスの証に忠実であった、非常に多くの義にかなった者の霊を見ました(12節)。それらの霊は、組織されて使者として任じられ、「力と権能をま^{くらやみ}とっ[て]……、暗闇の中にいる者たち……のもとへ行って福音の光を伝えるように……命じられた。このようにして、福音が死者に宣べ伝えられた」のです(30節)。この啓示について深く考え、戦争で倒れた何百万という人々を思い起こすとき、わたしは主の計画に喜びを感じます。多くの義にかなった者が命を失うという悲しい出来事は、こうした義人が、ともに命を落とした無数の戦友に福音を宣べ伝える義の使者となることで祝福へと変わるのです。

神が祝福の機会を与え、自分や周りの人々の逆境を通して祝福を与えてくださるという原則を理解すると、主が「すべてのことについて、主なるあなたの神に感謝」するよう何度も繰り返し命じておられる理由を理解することができます(教義と聖約59:7)。

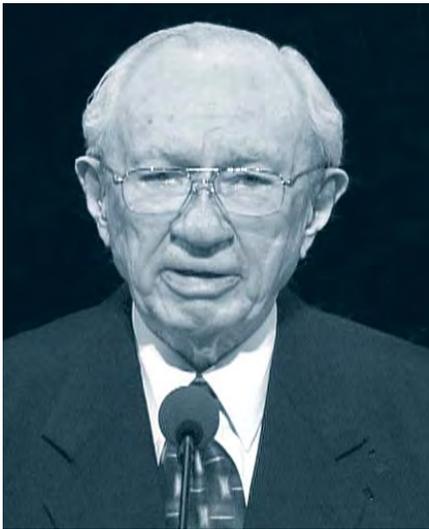
わたしたちが祝福されて、これまでお話ししてきた教義と戒めの持つ真理と目的を理解できるように願っています。また、すべてのことについて感謝をささげられる忠実さと強さを持つことができるようお祈りします。わたしたちが感謝をささげる救い主、贖い主、創造主であるイエス・キリストについて証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

閉会に当たり

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

皆さん一人一人に切にお願いしたいことがあります。それは、もっと主に近く生活し、もっと頻繁に、いっそうの信仰を込めて、主と交わろうと努めることです。



って御父であり神である御方との関係を保っていきたい、という望みが強められました。

この末日聖徒の偉大な集いを閉じるに当たり、皆さん一人一人に切にお願いしたいことがあります。それは、もっと主に近く生活し、もっと頻繁に、いっそうの信仰を込めて、主と交わろうと努めることです。

父親と母親の皆さん、子供のために祈ってください。子供たちが世の悪から守

られるよう祈ってください。子供たちが信仰と知識を培えるように祈りましょう。子供たち自身と人々の益となる善良な生活を送れるよう祈ってください。夫は妻のために祈りましょう。妻への感謝を主に表し、妻のために主に嘆願するのです。妻は夫のために祈ってください。夫たちの多くは、問題が山積し、複雑に絡み合った非常に険しい道を歩んでいます。夫が義になかった行いをするとときに導きと祝福、守りと靈感を受けられるよう、全能者にお願いしてください。

地に平和があるように祈りましょう。そして宇宙を治める全能者が御手を伸ばして人々に御霊を感じさせてくださり、国々がお互いに怒りを抱かなくなるように祈ってください。天候のために祈ってください。洪水の地域もあれば、干ばつの地域もあります。地が潤うようにという十分な祈りが天に届けば、主は義人のために祈りを聞き届けてくださると、わたしは確信しています。

愛する兄弟姉妹の皆さん、間もなく大会が終わろうとしています。このすばらしい大会にわたしたち皆はどれほど深く感謝すべきでしょうか。何の妨げも受けることなく、平安のうちとともに集うことができました。主のすばらしい祝福について何度も思いをこめました。福音の中で享受しているこの上ない祝福への感謝が大いに深まりました。話者の証を聞いてみると、わたしたち自身の真理に対する証に再び火がともされ、明るく燃える炎となりました。この偉大な大会に参加したすべての人が善なるものに感化され、一人一人がこの2日間の経験によってより善い人となれたことでしょう。わたし自身について言えば、主をさらに身近に感じるようになりました。皆さんも同じであってほしいと思います。主の戒めに従い、主の教えに添った生活を、祈りを通じて主と交わり、それに



聖約を確固として守る

中央若い女性会長
スーザン・W・タナー

**キリストを確固として信じるということには、聖約を守ることが含まれます。…
…これらを行うとき、……霊は高められ、心は愛で満たされます。**

1969年のことですが、わたしは南アメリカにいました。アルゼンチンから飛行機に乗り、チリのサンティアゴに着きました。アンデス山脈は乾燥していて、雪がありませんでした。草原は乾燥し切っていました。チリは壊滅的な干ばつに見舞われていたのです。

人々は恵みの雨が降るように懇願していました。

そのときの訪問で新しい建物を二つ奉献しました。どちらの奉献式でもわたしたちは、地上に雨を降らせてくださるよう主に願い求めました。わたしは奉献式に出席している多くの人たちの証を感じました。彼らには、もう雨をやませてくださいと主に願うほどまでに、天が開かれ雨が豊かに降り注ぐようになるという証があったのです。

人生の困難な道を歩むとき、知恵と理解力を求めて祈ってください。もし皆さんが愚かで軽率な行いをしようと決意しても、主はそれをお止めにはなりません。しかし、主の知恵を求め、心に与えられる導きに従うなら、皆さんは必ずや祝福を受けるでしょう。

よく祈る民になりましょう。「主の薫陶と訓戒によって」、子供たちを育てましょう(エノス1:1)。皆さんが受けるに値する天の祝福を受けられますように。申命記にはこう記されています。「イスラエルよ、今、あなたの神、主があなたに求められる事はなんであるか。ただこれだけである。すなわちあなたの神、主を恐れ、そのすべての道に歩んで、彼を愛し、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に仕えることである。」(申命10:12)

愛する兄弟姉妹の皆さん、固く信じてください。「イスラエルを見守る者はまどろみもせず、眠ることも[なさいません。]」(フェリックス・メンデルスゾーン「エリヤ」)

天の祝福が皆さんのうえに注がれるようへりくだり祈るとともに、皆さん一人一人にわたしの愛をお伝えします。皆さんの大きな親切と、全能者の業を推し進めるに当たって示してくださる偉大な忠実さ、行動力に感謝します。主イエス・キリストの御名によって、アーメン。



つ い半年前にこの召しを受けて以来、わたしは愛する姉妹の皆さんに、深い、神からの愛を感じています。世界中の若い女性の皆さんに知っていただきたいのは、皆さんが愛されているということです。わたしだけでなく、皆さんのご両親や指導者も、そして、とりわけ天の御父も皆さんを愛していらっしゃいます。

この愛を感じるのが難しいときもあります。すべてにおいて成功しているように見える、一人の若い女性がいました。彼女は選挙で生徒会の役員に選ばれ、聖歌隊のオーディションに合格し、高校のダンスパーティーでいちばん美しい女の子に選ばれました。そんな彼女が、ある日学校から帰り、ベッドに泣き崩れているのを見て、母親が訳を聞いてみると、彼女は不意にこう言ったそうです。「わたしは自分がだめな人間に思えるの。だれもわたし

のことなんて好きじゃないわ。何の才能もないし、授業にはついていけないし、それに、わたしは醜いんだもの。」彼女がそのような不安や孤独感、至らなさを感じているとは、だれも思いも寄らなかったでしょう。でも、ほとんどの10代の若者は、時にこのように感じるものです。

さらにはっきりと目に見える苦難を受けている若人もいます。例えば、わたしの知っている、ある若い女性の母親は、末期癌患者です。両親が離婚した若い女性もいます。週末、友達全員が飲みみに出かけている間、たった一人で家に残る若い女性もいます。事故で障害が残った若い女性もいます。父親が軍務に就いている若い女性もいます。道をそれた兄弟を心配する、心優しい姉妹もいます。

このような多種多様な、途方もない問題を抱える若人の助けとなるのは何でしょうか。今晚の大会の中心でもある、今年のミューチャルのテーマは、その答えを与えてくれます。「あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。」(2ニーファイ31:20)わたしはこの聖句が大好きです。わたしたちが人生のチャレンジにどのように立ち向かえばよいかを教えてください。希望と愛を胸に進むとき、希望と愛を感じることもできるのです。

キリストを確固として信じるということには、聖約を守ることが含まれます。毎週、わたしたちは「御子の御名を受け」「いつも御子を覚え」「御子が与えてくださった戒めを守る」というバプテスマの聖約を新



たにします(教義と聖約20:77)。これらを行うとき、わたしたちはキリストを確固として信じることができ、霊は高められ、心は愛で満たされます。つまり、聖約を守るとき、希望と愛を感じるのです。

わたしの友人、ここではリンジーと呼ぶことにしますが、彼女は希望を必要としていました。彼女は御霊や愛とは程遠い家庭に住んでいました。友人は乱れた生活をしており、若い女性の指導者たちは、彼女を心底助けようとはしていませんでした。しかし彼女は心の奥底で、たとえ困難な状況にあっても、主は自分を愛してくださっていると感じました。いつも主を覚えることに集中しました。友達が悪いことをしていても、彼女はそれに加わらないようにしました。生活の中で主の御霊を感じたいと思った彼女は、自分の部屋で天の御父に祈るようになりました。善い人になりたい、主の戒めを守りたいという願いが彼女の心の中にわいてきました。知識もあまりなく、友達や家族からの助けもない中にあっても、彼女はバプテスマの聖約を守ろうと努力しました。正しいことを続けていきたいという希望を感じました。そして、天の御父の愛を感じました。

わたしたちを「たなごころに……彫り刻ん」でくださった主は、わたしたちを忘れることはないと言われました(イザヤ

49:16)。そして、主を心に刻み込んだわたしたちも、主を忘れないと約束したのです。

初期の聖徒たちは、ミズーリにおける苦難の中でこれを学びました。主は聖徒たちに、次のように勧告されました。「忍耐強く主を待ち望みなさい。あなたがたの祈りは……主の耳に達して……いるからである。……」

それゆえ、主は、祈りはかなえられるという不変の聖約をもって、あなたがたに約束を与える。また、あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために……働く……。」(教義と聖約98:2-3)。この約束は彼らの苦難を取り除きはしませんでした。彼らを慰め、将来への希望を与えてくれました。

同じように、アブラハムも神の約束を固く信じて、確固として進みました。わたしは、息子イサクを犠牲としてささげるためにモリヤ山へと歩いたアブラハムについて読む度に、その胸中を思い、胸が締め付けられます。わたしたちは聖書からその結果を知っていますが、彼自身はその試練の先に何が待っているかを知りませんでした。先に何が待っているかを知らないまま、歩んだのです。それでも、彼の心は堅固でした。主が自分を祝福してくださるという約束を信じて生きていま

た。いかに張り詰めた思いを抱いていたとしても、キリストを確固として信じながら進むのを躊躇することはありませんでした。

ミズーリの聖徒たちのように、リンジーはどんなひどい状況にあっても、主は自分をお見捨てにならないと知っていました。主の愛は堅固なものでした。「あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために……働く」という、主の愛の「不変の聖約」(教義と聖約98:3)に慰めを得ていました。アブラハムと同様、彼女の道は険しいものでしたが、それでも、前進し続けました。そんな中で、彼女は助けを見いだしました。一人の特別な教会の指導者が彼女を愛し、導いてくれたのです。彼女はさらに天の御父に近づき、そして、ある若者と出会いました。彼は彼女を愛し、福音をよく教えてくれました。やがて二人は結婚しました。

彼女が昔から待ち望んできた多くの祝福が、ついに彼女に注がれました。家庭に御霊を招き、その中で義になつた子供たちを育てることが自分にもできると知りました。以前は孤独で、見過ごしにされていた彼女が、今は愛に包まれています。これは、忍耐強く主を待ち望みながら前進を続けたからこそ起こったことです。キリストを確固として信じることによ

ってリンジーに希望がもたらされたように、人生のチャレンジにあって、もがき苦しむわたしたちにも、同じことが起こるのです。今晚聖歌隊が歌う賛美歌の歌詞は、わたしたちに、主のみもとに来るようにと励ましを与えてくれます。

「何が起ころうとも、
どのような脅威に責められようとも、
主はわたしの砦である。
敵からの避け所なのである。
意気消沈した者よ、主に来れ。
罪を犯し、目がくらんだ者よ、
疲れ果て、休息を求める者よ、
主に来れ。主に来れ。」(“Come Unto Him”『賛美歌』[英文] 114番)

聖約を守ることによって、歩み続ける希望を与えられるだけでなく、わたしたちの心も変えられます。主はエレミヤ書でこう教えておられます。「……わたしが……立てる契約はこれである。……わたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にするす。」(エレミヤ31:33) 聖約はわたしたちの心を広げ、「神とすべての人[への]愛」を感じさせてくれます(2ニーファイ31:20)。わたしたちが聖約を守るとき、希望と愛を感じるということを忘れないでください。

イエスは山上の垂訓の中で、愛、赦し、哀れみといった徳をお教えになりました。主の弟子として主の御名と特質を身に受けるようにと教えられました。これによって、わたしたちの心が変わられ、ほかの人々との関係はより良いものとなります。マービン・J・アシュトン長老はこう言いました。「わたしたちが心からイエス・キリストの教えに帰依し、イエスに従おうと心に決めるなら、素晴らしいことが起こります。すなわち、わたしたちの心が同胞の幸福に向けられ、人に接するときには忍耐と親切、寛容さが増[す]のです。」「[舌は鋭い剣となる]『聖徒の道』1992年7月号, 22)

皆さんが家庭で家族に接するとき、今以上にキリストを確固として信じていただきたいと思います。主の御名と特質を



身に受けると約束するということは、もっと穏やかな言葉で話し、もっと親切に振る舞い、兄弟姉妹に対してもっと思いやりを持ち、両親に対してもっと感謝を表し、彼らを助けることを意味しています。

昔、家族旅行に出かけたとき、息子がこの模範を示してくれました。長旅の後、ようやく目的地である美しいお城に到着しましたが、下の娘が疲れて機嫌が悪くなりました。はるばる来たというのに、車を降りてお城まで短いハイキングをするのは嫌だと言いつ張るのです。家族はみんないららしていました。でも、14歳の息子は、優しく妹を背負い、お城まで連れて行ってくれたのです。ぴりぴりした雰囲気は和らぎました。彼の静かな愛の行いは、お城の情景にも増して、わたしたちの思い出の中に今も生きています。

家族に対して、良い態度で接するというのは、時に最も難しいことと言えます。たゆまずに「進む」努力が求められます。でも、皆さんが聖約を守るとき、永遠に結ばれている人々をさらに深く愛することを学びます。その後、その愛の輪をほかの人々にも広げていくことができるのです。

昔、短期間でしたが、わたしたち家族はブラジルに住んでいました。帰国する2週間前のことですが、わたしたちは交通事故に遭いました。聖餐会の後、土砂降りの雨の中を家に帰る途中、近所の交差点に入りました。止まっていた車の陰から急に別の車が飛び出してきて、わたしたちの車の横にぶつかってきたのです。幸い、どちらもけが人はありませんでした

が、車は両方ともひどくへこんでいました。夫のジョンが相手と話すために車から出て行くとき、わたしは、自分たちは悪くないのだからと、彼に言い続けました。間もなく彼は車に戻って来ると、ゆっくりとわたしたちの住んでいた小さな家に向かいました。タイヤが回る度に、金属のこすれる音がしました。相手の車も後ろからついて来ました。ジョンはただ、「後で説明するよ」と言っただけでした。

家に着くと、ジョンは非常用のお金を入れている封筒を持って来て、相手に、車の修理代として渡しました。彼らはうれしそうに帰って行きました。わたしは驚きました。それから、ジョンが家族全員を集め、申し訳なさそうに事の次第を説明してくれました。「この事故がうちのせいじゃなかったのは分かっているよ。でも、相手の家族と話し合っていたとき、自分は1時間前、天のお父様のように行動すると、主に聖約したのだということしか頭に浮かんでこなかったんだ。もし主がわたしの立場にいたら、相手の家族に同情し、彼らを助けるためにあらゆることをされたらと思うんだよ。」何と模範的な夫であり父親でしょう！彼は自分の交わした聖約を覚えていました。キリストのような愛をもって行動することによって、彼は人々の心を和らげたのです。

わたしは皆さんに証します。日々聖約を思い起こすとき、希望と愛を感じます。キリストを確固として信じることによって、心に完全な希望の輝きと、神とすべての人への愛がもたらされます。

「天のお父様は何を望んでおられるでしょうか。
聖文には何と書いてあるでしょうか。
信仰と希望を持ち、
イエスのように生きなさい。
人を助けなさい。」(“He Sent His Son,” Children’s Songbook, 34–35)

わたしたち一人一人がキリストのみもとに来て希望を頂き、主の愛の模範に倣うことができますように、イエス・キリストの御名によって、アーメン。

明るき希望あり

中央若い女性第一副会長
ジュリー・B・ベック

皆さんも毎朝起きて、明るい希望を抱(く)ことができます。なぜなら皆さんには救い主がおられるからです。



わ たしたちの初孫が生まれる数日前、その子の両親は、生まれてくる子供は男の子かしら、それとも女の子かしらと考えていました。次の日曜日、教会で二人は「明るき希望あり」（「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番）という歌詞を歌いました。二人はふとひらめき、顔を見合わせて言いました。「女の子だ！」そして赤ちゃんが生まれると、二人はその子に、希望という意味のホープと名付けました。

まさしくふさわしい名前を付けられたホープは、今5歳です。毎朝起きると、新しい冒険に胸を躍らせます。今年から学校に通っていますが、学びたいことがたくさんあります。目には明るい希望が輝いています（2ニーファイ31：20参照）。

ここ数週間でわたしは多くの若い女性に会いました。皆さんの才能、問題、将来の夢について話を聞きました。今でも

皆さんの顔が思い浮かびます。6か月前に教会に入ったばかりの若い女性のうれしそうな顔。バス停で一人待っている、寂しそうな顔も思い出します。家族の中で自分だけが教会員の少女です。「わたしは神殿参入にふさわしくなれるのでしょうか」と尋ねてきた若い女性の心配そうな顔も思い出します。そしてセミナーのために早起きをした若い女性の眠そうな顔。人生に胸を躍らせている人もいれば、試練や将来のことで心を悩ましている人もいます。皆さんとお話をしながら、皆さんの目には明るい希望が輝いているだろうかと思って見ていました。

わたしは時々、若い女性の皆さんは、自分が天の御父の娘であり、御父から愛されていることを覚えているかしらと考えることがあります。バプテスマを受けたとき、皆さんは救い主の模範に従い、天の家に帰る道に入りました。ニーファイはこう言っています。「あなたがたは、永遠の命に至る細くて狭い道にすることになる。まことに、あなたがたはその門から入っている。」（2ニーファイ31：18）皆さんはすでにその道を歩んでいるので、ただその道にとどまっていればよいのです。そしてその道にとどまるためには、希望を持たなくてはなりません。皆さんの前にあって皆さんを照らす明るい希望が必要なのです。

モルモンは「あなたがたは何を望めばよいのであろうか」と問いかけています。モルモンの答えには3つの偉大な希望が含まれています。「あなたがたは、キリストの贖罪とキリストの復活の力によ

て永遠の命によみがえることを望まなければならない。」（モロナイ7：41）

皆さんはバプテスマを受けたとき、キリストの贖罪という希望を胸に抱くようになりました。これは3つの偉大な希望の最初の一つです。ふさわしい状態で聖餐を受ける度に、皆さんは初心に返り、少しずつよい自分になる機会を得ます。それは自分の中の古い、ふさわしくない部分を捨て、新しい生活をやり直すようなものです。

実際に古い生活を捨てた若い女性二人と話したことがあります。二人は聖約を交わした神の娘の標準に合わない服を持っていましたが、地面に深く穴を掘り、その穴に慎みに欠ける服を入れ、埋めたのです。

罪を捨てる、つまり悔い改めて生活を変えらば、皆さんは救い主に対してさらに大きな希望と信仰を抱けるようになります。より善い人になろうと努力するときに、両親や監督に助けを求めてください。悔い改めて、聖餐を受けるのにふさわしくなれば、「新しいのちに生きる」ことができるのです（ローマ6：4）。キリストの贖いのおかげで、皆さんには明るい希望があります。皆さんはすでにバプテスマを受けているので、永遠の命へ至る道をすでに歩んでいるのです。ですから、ただその道にとどまっています。

二つ目の偉大な希望は復活です。救い主イエス・キリストを通して、皆さんは全員復活すると約束されています。そしてこの世の人生が終わっても、ずっと生き続けるということを、皆さんは知っています。

めいのケイティーはたくさんの才能に恵まれ、将来の計画をいろいろと思い描く20歳の大学生でした。4年前、ケイティーは自動車事故で亡くなりました。わたしたち家族は今でも彼女がいないことを寂しく思います。でも再会できると知っているのも、ケイティーのことで心を悩ますことはありません。ケイティーの財布の中には、先祖の代わりにバプテスマを受けるために監督からもらった神殿



推薦状が入っていました。ケイティーはふさわしさを身に付けていました。亡くなる少し前に、このように書き留めています。「もし今日がわたしにとって地上における最後の日となるならば、これがわたしの遺言です。一日一日を意味のあるものにしてください。……主に近くいてください。聖文、福音に関する知識をできるだけ得てください。例えば、主の創造の業……などの知識です。自分をささげてください。……そしていつもキリストの模範と贖いを心に留め、主のようになる努力をしてください。」ケイティーは永遠の命に至る道に入り、その道にとどまっていた。

キリストのおかげで、皆さんには明るい希望があります。皆さんは、病气、死、貧しさといったような困難についてひど

く心配する必要はありません。主が皆さんを見守ってくださるからです。皆さんの責任は戒めを守り、キリストの言葉をよく味わい、天の家に帰る道にとどまることです。

贖いと復活に対する希望に加えて、皆さんには3つ目の偉大な希望、つまり永遠の命という希望があります。皆さんには救い主がいらっしゃるので、この世を超えた未来への計画を立てることができます。戒めを守り続けるなら、永遠の命が約束されているのです。研究し、学ぶことにより準備をすることもできます。また、「すべての良い書物に通じ、……言語と……民族に通じるように」なることにより、備えることもできます（教義と聖約90：15）。皆さんが理解しているように、「わたしたちがこの世において

得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる」のです（教義と聖約130：18）。恵まれたことに、母は人生を通して神に会う備えをするという模範を示してくれました。母はこの世の人生において創造し、学び、仕えるという原則を理解していました。母には次のモットーがありました。「とてもできないと思えるような課題を歓迎しなさい。あなたを成長させてくれるのだから。」母の冒険に満ちた人生をかいつまんでお話ししましょう。母は若いころ、未開のユインタ山脈で暮らしていました。母の父親がそこで仕事をしていました。母は高い木を切ったり、魚釣りをしたり、野外キャンプをしたりすることを学びました。冬の間は町の学校に通い、バスケットボール部でプレーし、トランペット

確固として力強く進む

中央若い女性第二副会長
イレイン・S・ダルトン

将来の姿を心に描くことで、力強く進むことができます。聖霊は、皆さんが確固として立てるように助けを与えてくださいます。また救い主に対する証を通して、皆さんは完全な希望の輝きをもって進むことができます。

を演奏しました。その後大学に進学し、看護婦になりました。結婚後、母は父とブラジルへ伝道に行き、そこでポルトガル語が話せるようになりました。いろいろな国へ赴き、何千もの人々に福音を宣べ伝えました。母は日々聖文を学び、数冊の家族歴史の本を著し、神殿で奉仕し、62人の孫の近況を常に把握しています。さらに午前中に600個のドーナツを作ることができます。

母は生涯、確固とした信仰をもって救い主の道にとどまってきました(2ニーファイ31:19参照)。毎朝起きて、新たな冒険に胸を躍らせるのです。母にとって、この人生はとてもおもしろく、まだまだ学ぶことがあるのです。

皆さんには救い主がおられるので、創造し、奉仕し、学ぶために生きる幸せな永遠の命についても信じています。皆さんはすでにまっすぐで細い道を歩んでいます。そして、明るい希望があります。

数年前、わたしは気高い97歳の祖母とともにいました。体が弱く、目もほとんど見えない祖母が、背中を丸めて車いすに座りながら、静かに自分の人生について語りました。わたしはこのように言いました。「この世は悪に満ちているわ。誘惑も試練も多い。ふさわしさを保ちながら、天父のみもとへ帰るなんてことができるのかしら。」祖母はゆっくりと体を起こし、背筋を伸ばし、堂々と言いました。「もちろん！ 何が何でも帰らなくては！ そのためにここにいるでしょう！」おばあちゃん、希望について教えてくれてありがとう。

ケイティーやわたしの母や5歳のホープのように、皆さんも毎朝起きて、明るい希望を抱きながら、新しい冒険に胸を躍らせることができます。なぜなら皆さんには救い主がおられるからです。そして主の教会である末日聖徒イエス・キリスト教会でバプテスマを受けました。ですから皆さんはただその道にとどまり、天の家に帰るといふ明るい希望を抱いて前進すればよいのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。



デンマーク、コペンハーゲンの港には、クリスティーナという名の若い女性のブロンズ像があります。クリスティーナはシオンの聖徒の群れに加わるという願いを込めて、海のかなたを見詰めながら立っているのです。向かい風が激しく吹きつけていますが、クリスティーナは顔を背けません。非常に困難ではあっても、自分が正しいと信じる目標に向かって、確固として力強く進んでいるのです。わたしはこの像が好きです。なぜなら、クリスティーナは、わたしの高祖母の姿を象徴しているように思えるからです。高祖母は、強い反対に遭いながらも教会に入る道を選んだデンマーク人です。高祖母の勇気と証に感謝しています。当時の彼女の選択は、わたしの永遠の行く末に影響を与えるにとどまらず、子孫全体の行く末を決めることになったのです。

ニーファイはモルモン書の中で、わたし

たちに力強く進むよう呼びかけました(2ニーファイ31:20)。それは単なる勧告以上のものでした。力強く進まなければならぬと言ったのです。ニーファイは恐らくクリスティーナのように、確固とした個人の選択が子孫に影響を与えることを理解していたのでしょ。エルサレムに帰って、ラバンの版を持ち帰るように父親から言われたとき、ニーファイはこのように言いました。「まことに、これらの記録を手に入れるのは、神の知恵です。そうすれば、先祖の言葉を子孫に残すことができる……のです。」(1ニーファイ3:19; 強調付加)まだ結婚について何の見通しもなかったにもかかわらず、ニーファイは将来自分が持つ家族について考えていました。荒れ野には、ニーファイの家族以外だれもいなかったことを思い出してください。ニーファイは天の家に帰る方法を見通していたばかりでなく、現世で必要とするものをすでに心に抱いていたのです。

救い主は、皆さんの将来の姿を心に描いておられ、わたしたちがそれをかみ見、理解できるように助けてくださいます。皆さんは、主の愛娘なのです。主は皆さん一人一人を御存じであり、皆さんの人生のために計画を用意しておられるのです。そして皆さんがふさわしい生活をするなら、主の御霊がいつもともにあることを約束してくださっています。

デンマークの埠頭で、クリスティーナに激しく吹きつける向かい風のように、皆さん一人一人がこの世の試練に立ち向かう時が来るでしょう。「力強く進む」とは、立ち向かうことを意味します。聖文には、前



に歩く、前に動く、あるいはただ単に前進するとは書かれていません。力強く進むと記されているのです。力強く進むためには、どこに向かって歩いているのかを知る必要があります。聖霊は、皆さんが確固として立てるように助けを与えてくださいます。また救い主に対する証を通して、皆さんは完全な希望の輝きをもって進むことができるのです。

数年前、夫とわたしはボストンマラソンへの出場資格を得ました。大会前夜、レースを完走したときの姿をイメージするために、ボストンの市街地、ゴールの1マイル(約1.6キロ)手前辺りを訪れました。夜の静けさの中で、わたしたちはランニングシューズに履き替え、その1マイルを走りました。フィニッシュラインを越えたとき、わたしたちは両手を高く上げ、まるでレースに勝利したかのように振る舞いました。そして観客席の数千人の観衆が声援を送ってくれている様子を想像してみたのです。翌日、大会に出場しました。26.2マイル(41.3キロ)の道のりは過酷です。心臓

破りの丘という名にふさわしい登り坂が続き、その坂道を走っている間中、わたしはあのフィニッシュラインのことを心に描き続けました。そして前夜、フィニッシュラインを通過して勝利したときの気持ちを抱き続けたのです。ゴールでの自分の姿を想像することで、ニューイングランド特有の雨と大風の中でマラソンを完走することができました。

将来への姿を思い描くことは、力強く進むうえで大きな助けとなります。少し時間を取って、1年後、2年後、あるいは5年後の自分がどこにいるか想像してみてください。それから、その目標に向かって準備を始めるのです。何の準備もなしにマラソンに参加する人はいません。毎日練習し、26.2マイルを走り抜くための持久力と忍耐力を少しずつ養い続けるのです。人生も同じです。祈りと聖文の研究を毎日続けることで、目標に到達するための助けが得られます。日々の選択が、子孫に影響を及ぼすのです。

メリッサはセミナーを通して、自分が

なりたいと思う若い女性について心に描くことができました。メリッサは教会の会員ではありませんでしたが、友人と一緒にセミナーに参加したのです。そして18歳になったとき宣教師から学びました。メリッサは、教えられたことが真実であるとともに理解していたのです。メリッサのパプテスマ会は御霊にあふれた素晴らしいものでした。友人や家族だけでなく、メリッサの将来の家族もその場にいるかのように感じられたのです。監督は、メリッサの将来の家族が「お母さん、ありがとう」と言っている声が聞こえるようだと述べました。

メリッサと同じように、皆さんもパプテスマの聖約を交わしています。聖約を守ることで、聖霊の導きを得ることができます。聖霊は皆さんを守り、強めてくださいます。また、「あなたがたがなすべきことをすべて」^{たまたもの}教えてくださるのです(2ニーファイ32:5)。この賜物によって、皆さんはこの世のものとは異なった存在となるのです。

標準を守るときに、皆さんがいろいろな抵抗を受けることを知っています。テネシー州とアーカンソー州の若い女性たちが、信仰のゆえに自分たちの直面した試練について話してくれました。ハイチで会った若い女性もまた、聖約を交わした若い女性にとってふさわしくない活動に参加するよう日々プレッシャーを受けています。けれども、若い女性たちの目には、福音による希望の輝きがあります。彼女たちは聖霊の「静かな細い声」に耳を傾け(列王上19:12)、その促しに従い、確固として立っているのです。

聖霊は、皆さんが将来について決断するときにも導いてくださいます。わたしの知っているもう一人の若い女性は、背の高いハンサムな若い男性と交際していました。彼は高校のバスケットボールチームの花形選手で、3年生の学年委員長でした。お互いの将来について話し合ったとき、この若い女性は、ずっと以前から帰還宣教師と神殿で結婚することに決めていると伝えました。この男性は伝道を計画していなかったため、そのことについて何も触れませんでした。次の年のクリスマスに、彼女は

この若い男性から小さなプレゼントを受け取りました。包みを開くと、中にはこの男性の伝道の召しを知らせる神の預言者からの手紙があったのです。彼女の義に満ちた影響力によって、この男性は重大な決意をすることができました。

皆さんも、周りにいる若い男性に「もう少し高き道を目指し、もう少し良い人間にな[る]」よう感化することができます(ゴードン・B・ヒンクレー「すばらしい生き方を求めて」『リアホナ』1999年9月号、8)。若い男性が栄光ある伝道のために備え、伝道に出るよう助けることができます。また、彼らが道徳的な清さを保ち、誇りをもって神権を行使することができるよう助けられるのです。皆さんの義にかなった力は、若い男性の人生のみならず、その子孫の人生に至るまで永遠にわたって影響を及ぼします。

娘のエミは15歳のとき、ある決心をしました。ある朝わたしは、エミがモルモン書のアルマ書第48章を開いたままにしているのに気づきました。エミは司令官モロナイを描写する聖句に印を付けていました。「モロナイは屈強で勢いのある人であり、完全な理解力を備えた人であり、……確固としてキリストを信じた人であ[った。]」(11, 13節)

余白にはエミの書き込みがありました。「わたしはモロナイのような男性と結婚したい。」7年後にそれは実現したのです。聖文を読み、聖霊の促しに耳を傾ける中で、エミは将来の伴侶^{ほんりよ}に対する展望を得たのです。また、救い主と「偉大な幸福の計画」について理解するようになりました(アルマ42:8)。

聖文を読むとき、皆さんは救い主が世の光や命以上の御方であることを理解するようになるでしょう。救い主は唯一の希望の光です。救い主を通して、皆さんは天の御父とともに暮らすという希望を持つことができます。救い主を通して、皆さんは悔い改め、確固として進むうえで妨げとなるものを克服することができるのです。救い主を通して、向かい風が激しく吹きすさぶときでさえ確固として進む強さと勇氣を得ることができるのです。



中央若い女性集会の開始前、カンファレンスセンターに入場するために並ぶ若い女性とその指導者たち。

皆さんはクリスティーナのように、埠頭に立って困難な選択に直面する必要はないかもしれません。またマラソンコースの急な坂道を確固として進むこともないと思います。けれども、永遠にわたって影響を及ぼすような選択に直面することでしょう。将来の姿を心に描くことで、力強く進むことができます。聖霊は、皆さんが確固として立てるように助けを与えてください。また救い主に対する証を通して、皆さんは完全な希望の輝きをもって進むことができます。

行く手には急な上り坂があるかもしれませんが、主であり救い主である

イエス・キリストは、一歩一歩ともに歩むと約束してくださいました。現在ほど、確固として力強く進むことが重要となる時代はありません。

ニーファイとともにわたしはこう申し上げます。「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、……力強く進まなければならない。そして、……力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、……御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ31:20; 強調付加) イエス・キリストの御名によって、アーメン。

義にかなった 神の娘の持つ徳

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

皆さん(が)すでに身に付けている徳を高めるよう、またさらに多くの徳を伸ばす決意をするようお勧めします。



愛する若い女性の皆さん、皆さんが善を成し遂げる大いなる可能性を秘めていることを考えると、わたしは皆さんの前に立っているだけで圧倒されそうです。皆さんのお母さん、おばさん、おばあさんがかつてそうであったように、皆さんは未来の教会と世界にとってなくてはならない存在です。皆さんは今抱いている最高の夢や期待をはるかに超えた幸福を手にすることができます。

わたしたちは今晚、特に恵まれてゴードン・B・ヒンクレイ大管長、トーマス・S・モンソン副管長、さらに中央幹部の出席を得て、この集會に臨んでいます。キリストを確固として信じることにすばらしいメッセージを与えてくれたタナー姉妹、ベ

ック姉妹、ダルトン姉妹に感謝しています。若い女性の聖歌隊が発表してくれた音楽はほんとうにすばらしいものでした。

大管長会は2003年3月19日付けで神権指導者に手紙を書き送り、成人女性へと成長する過程において様々なチャレンジに遭遇している若い女性を助けてくださるようお願いしました。これはとても大切なことです。またこの手紙では、こうした転換期を迎えているヤングアダルトの女性たちを強める責任はおもに両親にあるものの、監督会、若い女性と扶助協会の指導者も協力すべきことが強調されています。

愛する若い姉妹の皆さん、わたしは教会の責任で世界各地を巡り、皆さんのようにすばらしい若い女性に出会い、揺るぎない信仰を目にする度に感動を覚えました。皆さんが神の義にかなった娘として「力強く進[む]」ならば、未来に「完全な希望の輝き」と、果てしない喜びが待ち受けていることを躊躇なく申し上げることができます。¹皆さんは徳高き若い女性であり、偉大な約束を受けている女性です。すでに身に付けている徳を高めるよう、またさらに多くの徳を伸ばす決意をするようお勧めします。

今晚、お話ししたいと考えているのはそれらの徳についてです。多くの人は徳の意味を十分に理解していません。一般的には純潔であること、道徳的に清いことと理解されていますが、完全な意味での徳には、人格を形成するうえで助けに

なるあらゆる義の特質が含まれます。ニューファンドランドのある博物館には1813年に作られた古い刺しゅう見本が取められています。その布には様々なステッチで次のような文字が記されています。「徳とは心の最も美しい部分であり、人を彩る最も気高い飾りである。徳は我々の感覚が間違いを犯すときに、理性を呼び覚ましてくれる防具であり、道案内である。」

最高の自分になろうと努め、幸福を追求するに当たって、皆さんが身に付けられる10の徳を提案したいと思います。

1. 信仰

信仰の徳を第1に挙げるのは、それが最も大切だからです。預言者ジョセフ・スミスは、主イエス・キリストを信じる信仰は「あらゆる義の基盤」²であると教えました。若くて魅力的な女性である皆さんに約束します。もし戒めを守るよう努力しているならば、皆さんの信仰はずっと増し加えられていきます。信仰を行使していると、快活で、楽観的で、慈愛にあふれ、勇気のある人になります。なぜなら、信仰はこれらすべての徳を伸ばしてくれるものだからです。

2. 正直

大学でバレーボールのチームに入っている一人の若い女性が、友達のみきと一緒にいる公式戦に出場していたときのことを次のように話してくれました。

「その試合は接戦でした。……[相手チームの]グレイシーはアタックラインに向かって走って、ジャンプすると、ありったけの力を込めてボールをたたきました。……審判は、ボールがエンドラインを超えたことを合図しました。そこで主審は指を立てて、[わたしたちのチームに]得点が入ったことを告げました。わたしたちがハイファイブ(訳注——スポーツ選手などが見事なプレーをしたときの喜びを表すためにお互いに手を挙げて手のひらをパチンと打ち合わせることを)をしていると、みきはブロックしたときにボールに触れたことを主審に手で合図していました。みきはボールに触れたことを認めていたの

です。審判はというと、……ラインアウトを主張しました。[つまり]だれもボールにタッチしなかったと言うのです。

物静かで内気なムキが取った行動は、かつて目にしたことのないほど誠実で正直なものでした。グレーシー・シュートは心から感動して、試合後にムキと話をしました。……ムキは後にモルモン書をグレーシーに渡しました。グレーシーが読んだかどうか、わたしには分かりません。……けれども、ムキがその模範によって、わたしたち全員だけでなく、グレーシーの心にもタッチしたことは確かです。』³

自分に対して正直でなければ、ほかの人に正直であることはできません。

3. 貞節

『家族——世界への宣言』の中に次のような一節があります。「生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。』⁴ さらに主はモルモン書の中でこのように言われました。「主なる神であるわたしは、婦人たちの貞節を喜ばしく思う。』⁵ 結婚関係にない人と肉体的な関係を持つ者は、罪悪感を抱くとともに心と体に深い傷を負うことでしょう。主が定められたきずなによらずに性的な関係を持つ男女は、かわりのある人々に深刻な苦悩、恥辱、不名誉、不幸をもたらしています。

これに対して、主の御心に従って神殿結婚のきずなの中でこれらの神聖な賜物たまものを行使する人々は、最大の喜びと幸せをもたらしてくれます。わたしたちは家族と子孫を持つことによって神と共同の創造者となるのです。結婚するまで純潔を保ち、さらに結婚後も貞潔を守ることは、あらゆる人にとって自分を大切にすることと幸福への聖なるパスポートとなります。N・エルドン・タナー副管長はすばらしい助言を与えています。それを紹介したいと思います。「人気者になるより、尊敬される人になろうと努める方が、人生においていっそう前進し、成長できることを、いつも覚えていてください。』⁶ パンフレット『若人の強さのために』にも性的な純潔について優れた勧告が記されています。



4. 謙遜

謙遜さは心の平静を得させてくれます。例えば、だれかから褒められたら、感謝して受け止めてください。しかし、それによって高慢になってはなりません。あなたが若い女性は多くのことを学んできました。けれども学ぶことはもっとたくさんあります。謙遜な人は素直に教えを聞きます。主はこのように約束しておられます。「わたしの御霊みたまは、へりくだって悔いる者を照らすために、……世に送られている。』⁷ わたしの好きな言葉の一つにこのような言葉があります。「『わたしは知りません』と言えるようになりなさい。適切なときにこの言葉を言えるようになると、あなたは頻繁にこの言葉を口にしていて自分に気づくことでしょう。』⁸

5. 鍛錬

目標を達成し、生来与えられている長所を伸ばすには、自分を鍛える強さを持つていなければなりません。若いときに築かれる鍛錬の習慣は、その後の人生においてどのような人物となるかを決定する要素となります。鍛錬によって築かれる人格は、復活の時にあなたとともにみがえります。』⁹

労働の原則は鍛錬の領域に含まれます。ところで、愛する若い姉妹の皆さん、わたしは皆さんよりもかなり長い間生きてきました。けれども、わたしの祖父の時代にも、勤勉に働いた人と、怠惰によって働こうとしない人の両方に、ただ横になって眠っていたいと思わせるような事柄がありました。彼らはそれを労働と呼びました。

6. 公平

人々との交わりにおいて、公平であり、思いやりのある行動を取る必要があります。

す。救い主は巨額の借金を抱えていた悪い僕しもべのたとえをお話しになりました。主人は僕の借金を許しました。けれども、その僕は出て行って、はるかに少ない額のお金を貸していた同僚の僕を獄に入れました。主人は、自分が受けたように哀れみを示さなかった僕をしかって、同僚の僕と同じように獄に入れてしまいました。』¹⁰

もし皆さんが人に公平であるなら、人はあなたに公平であろうとすることでしょう。この原則を教えていた日曜学校のある教師の話聞いたことがあります。彼女は、生徒にこう言いました。「わたしたちが地上にいるのは、ほかの人を助けるためであることを忘れないでください。」すると一人の姉妹が尋ねました。「では、ほかの人は何のために地上にいるのですか。」

7. 節制

知恵の言葉の精神には、主から特に禁じられているものを除いて、あらゆる面で節制することが含まれます。服装や髪型、化粧、振る舞い、話、音楽において極端にならないようにすることは良いことです。極端に走ると一部の人たちの関心を集めるかもしれませんが、ほんとうに関心を持ってもらいたい人々には背を向けられてしまうことが多いのです。

わたしは若いころに友達と一緒に遊園地へ行って、「空飛ぶ円盤」というアトラクションに乗ったことがありました。お皿を逆さにしたような形で、回転しながら進みます。円盤の回転が早まると遠心力によってはじき飛ばされてしまうため、ほとんどの人は円盤の中心に行こうとします。縁にいる人は中心に近い友達にしがみつきます。すると二人ともはじき飛ばされてしまうのです。間もなくわたしは、遠心力は中心部分にはそれほど作用しないことに気づきました。そして中心に寄って



たため、円盤が回転している間も飛ばされずに済みました。けれども、端にいる人にしがみつかれると危ない目に遭います。こうして、中心に近くいれば安全であることを学んだのです。

8. 清さ

何年前かに、わたしはハワード・W・ハンター大管長とファウスト姉妹とともに、エルサレムで海外研修プログラムに参加しているブリガム・ヤング大学の学生を訪れました。学生たちは、キブツというイスラエルの簡易宿泊所に寝泊りしていました。二人の学生が泊まっている宿舎の扉にはこのような紙がありました。「清潔さよりも、まず信心深さを大切にする人であれば、この浄罪界に歓迎します。」

ヒンクレー大管長は次のようなすばらしい勧告を与えています。「服装や態度の面でも清くあってください。……わたしたちの生活しているこの時代は、服装の面でも態度の面でも、だらしのない時代になってきました。わたしは皆さんが何を着るかということにはそれほど関心がありません。しかし、それが清潔かどうかということに対しては、大いに関心を持っています。……自分が清く汚れていないことを、いつも確認してください。」¹¹ 皆さんと教会は、外見の清潔さと身繕いによってその一部を判断されることを忘れないようにしましょう。

9. 勇気

かけがえのない若い女性である皆さん

は勇気を必要としていることでしょうか。仲間からの圧力に屈しない勇気、誘惑に抵抗する勇気、あざけりや仲間外れに耐える勇気、そして真理を擁護する勇気です。人生のチャレンジに立ち向かう勇気も必要としていることでしょうか。クロスカントリーの選手だった一人の若い女性はこのように記しています。「レースの途中、あきらめて、やめてしまおうとする誘惑にかられることもしばしばです。今年の最初のレースで、力が入らず、棄権しようと考えたときに、賛美歌『主のみ言葉は』の3節の歌詞が心の中に広がってきました。この言葉によって、わたしはレースを最後まで走り抜くことができました。」¹²

恐るな、われは汝が神
常に汝と共にあり
助け与え、
強くして
わが正しき力をもて
汝れを支え、励まさん。¹³

10. 上品さ

教義と聖約の中で、わたしたちは「恵み〔すなわち、上品さ〕において、成長しなければならない」¹⁴ と言われています。上品さとは神から授けられる一つの徳です。親切であって、善を行く姿勢です。これは人々を魅了する特質であり、たしなみであり、感じのよい優雅な外見を意味します。¹⁵ 人を魅了する力とは個人の持つ気高さから来るものであって、自分を

大切にする気持ちが生む内面的な美しさです。「表情はあなたが身に付けることのできる最も大切なものです。」わたしの知っているあるすばらしい独身男性は、未来の妻に見いだそうと考えている特質を一覧表にしています。その中で第1に挙げているのは快活さです。

わたしたちは善良な女性が及ぼす影響力を過小評価する傾向があります。多くの場合にそれは注目を浴びにくいものですが、途方もなく大きな結果を招きます。一人の女性が国家全体を大きく変えることもあり得るのです。聖典から二つの例を引用したいと思います。一つは悪い例でもう一つは良い例です。

エテル書に登場するヤレドの美しい娘は、魅惑的な踊りを踊って、エーキシに自分と結婚したいと思わせるようにしました。エーキシは結婚する条件に、娘の祖父オメル王を殺すことを要求されました。娘の父が王となるためでした。ヤレドの娘から強く求められたエーキシは、誓いによって団結を図る秘密結社を作りました。これがもとでヤレド人の国家は崩壊しました。¹⁶

これに対して、旧約聖書に登場するユダヤ人女性エステルは民を救いました。ユダヤ人が囚われの身にあったとき、エステルはアハシュエロス王と結婚しました。王はすべてのユダヤ人を殺す勅令に署名しました。エステルのいとこであるモルデカイは、自分の民のために王に執り成しをするようエステルに求め、次のように言いました。「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう。」¹⁷ エステルは命の危険を覚悟で、自分の民を救ってくれるよう王に嘆願しました。王は嘆願を聞き入れ、民は救われました。一人の女性はその国民に対してさえも大きな変化を起こすことができるのです。

わたしたちは様々なチャレンジに取り囲まれた時代に生きています。皆さんの霊はこの末日まで取っておかれたと、わたしは確信しています。それは、皆さんがエステルのように、「このような時のため」に地球に来るようにです。皆さんにとって

てんぶ あい ひかり 天父の愛の光

ちゅうおうしやうとうきやうかいだいに ふくかいちやう
中央初等協会第二副会長
ゲール・M・クレグ

最も大切で永遠の大いなる業は、義にかなった影響を人々に及ぼすことだと思います。神聖で女性らしい心の美しさと洞察力は、物静かな中に秘められた強さ、優しさ、気高さ、魅力、上品さ、創造性、感性、輝き、霊性の中で表されることでしよう。これらの高尚な女性の賜物を伸ばしてください。皆さんが神のはしめとして人々に奉仕するときに、それらの賜物は圧倒的な力をもって人々を引きつけることでしよう。

これらの徳を実行するならば、皆さんは「キリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進」むことができることを証します。¹⁸ イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 2ニーファイ31：20参照
2. *Lectures on Faith*, (1985年), 1
3. ミッシェル・ルイスから寄せられた個人的な手紙, 1996年8月12日付
4. 『リアホナ』1998年10月号, 24
5. モルモン書ヤコブ2：28
6. N・エルドン・タナー「最も大いなる誉れ——女性の役割」『聖徒の道』1974年6月号, 280
7. 教義と聖約136：33
8. Rumsfeld's Rules, *Parade Magazine*, 2001年11月18日付, 9
9. 教義と聖約130：18参照
10. マタイ18：23-34
11. ゴードン・B・ヒンクレー「わたしは清く、汚れがありません」『聖徒の道』1996年7月号, 58-59
12. "Feedback", *New Era*, 1990年8月号, 3
13. 『賛美歌』45番
14. 教義と聖約50：40
15. Merriam-Webster's College Dictionary, 第10版, (2000年), 'Grace'の項, 504
16. エテル8：8-21, ヒラマン6：28参照
17. エステル4：14
18. 2ニーファイ31：20

てんぶ ひと きも し
天父は、すべての人の気持ちを知っておられます。天父は、だれが、どんなふうに愛してもらおう必要があるかお分かりなのです。



わたしの家族はわたしが9才の時に引っ越しをしました。新しい家では、まだ完成していない地下室が、わたしと妹の寝室でした。ねつけない時には、まだ出来上がっていないかべが人のかげに見えて、こわい夢をよく見たものです。時どき夜中にねむったまま起き上がって、家中を歩き回り、気がつくとおかしな所にいたりしました。

そんなある晩、またねむったまま歩きました。目が覚めると、とてもこわくなりました。「助けて」とさけぼうとしましたが、声が出ません。周りとはとても暗く、手を見ようとして目の前に近づけても見えないほどでした。突然、電気がついて、自分がどこにいるのか分かりました。お母さんが物音を聞いて、地下室に来てくれたのです。そして、わたしがベッドにいないので、どこにいるのかと思って、電気をつけてくれたのです。

電気のおかげで、すぐに自分がどこにいるのか分かりました。そして、お母さんがわたしのことを愛してくれていることも分かりましたし、安心できるベッドがどこにあるのかも分かりました。かげがこわいので「電気を消さないで」とお母さんに言いました。お母さんは電気をつけたままにしてくれました。お母さんがわたしのことをとても愛してくれて、地下室まで来て電気をつけてくれたことをうれしく思いました。

今日、子供たちが「主の愛を感じます」と歌ってくれた時、地下室の電気とはちがう光を感じるようになりました（「信仰持って主に従おう」『リアホナ』2003年2月号, フレンド16）。この光を感じるために、わたしたちは毎週教会に行って、初等協会の歌や賛美歌を歌うのです。時には、同じ歌を何度もくり返して歌うこともあります。よく知っている歌の言葉から、ある時突然、心が光と愛で満たされることがあります。それはまるで自分が何者なのかを思い出しているのに似ています。なぜかという、わたしたちは天父の子供ですから、まるで天父が、降りて来て子供たちのために明るい電気をつけてくださったかのように感じるのです。

教会で感じる明るい気持ちは、お母さんが地下室に電気をつけてくれた時にわたしが感じた愛と安心と、よく似ています。

レイチェル・リーメン先生という女の子の医者さんが、フットボールが上手だったハンサムな若者の話をしてくれました。この若者は、天父の光から感じる事ができ



るあの光を失っていました。若者は少し前までは幸せでした。友達も多く、じょうぶな体をしていました。でもある時がなくなり、足をひぎのところから切り取らなければならなくなりました。フットボールもできなくなり、みんなから注目されなくなった若者の心には、いかりがこみあげてきました。暗い気持ちになり、どうしたらいいか分からなくなり、何のために生きているのか分からなくなりました。

リーメン先生は若者に、「自分の体を絵にえがいてごらんさない」と言いました。若者は花びんをえがきました。そして黒いクレヨンで、大きなひびを入れました。若者は自分の体は壊れた花びんのように、もう役に立たないと思っていたのです。けれども、ほんとうは、そんなことはないのです。若者は、なくなった足に取り付け「義足」を作ってもらいましたが、心は暗く、体が動きませんでした。

それから、若者は同じように苦しんでいる人たちと話してみました。若者はその人たちの気持ちがよく分かりました。そして、その人たちの心を明るくしてあげるために、頑張るようになりました。すると、若者の心に光がさし込み、体が動くようになりました。

ある時、若者は同じような病気の娘に会いました。娘は暗く悲しい気持ちでし

た。病院へ若者が最初に訪ねて来た時も、若者と目を合わせたくなくて、目を閉じたまま横になっていました。若者は娘の心を開こうと頑張りました。ラジオをつけたり、笑い話をしたり、最後には「義足」を外して床に置き、音楽に合わせて指を鳴らしながらピョンピョン飛び回りました。娘は驚いて目を開け、初めて若者を見ました。そして大笑いしながら言いました。「あなたがおどれるのなら、わたしは歌えるかもね。」二人は友達になり、心配事を話し合ったり、希望が持てるように励まし合ったりしました。

最近、若者がリーメン先生のところに来ました。若者は、前に描いたひびの入った花びんの絵を見て言いました。「あの絵は、まだ出来上がっていません。」若者は、黄色いクレヨンで、ひび割れた所から飛び出してくる光の線を紙のはしまで何本もえがきました。そして花びんのひびを指さして言いました。「ここからね、光が出てくるんですよ。」(『キッチンテーブル・ウィズダム』[1996年], 114-118参照)その絵はきつと、暗く悲しい経験を通して、神様の光を感じるようになったということを表しているのだと思います。

わたしが地下室を歩き回り、目が覚めてこわくなったあの晩、そばにはずっと妹がいました。妹は暗くても平気でした

が、わたしには明かりを見つげるために助けてくれる人が必要でした。

だれもが助けを必要とする時があります。だれ一人として全く同じことで困っている人はいませんが、すばらしいことに、天父は、すべての人の気持ちを知っておられるのです。天父は、だれが、どんなふうに愛してもらう必要があるかお分かりなのです。天父の愛は、お父さんやお母さん、先生、友達を通して感じることもあります。聖霊の声を通して感じることもあります。歌や、だっこや、聖文や、おいのりから感じることもあります。わたしたちは天父の子供なので、必要な時にはいつでも天父が光で包んでくださるのです。

天父はわたしたちを愛しておられます。「常に心の中に神の愛を持[つことにより]」(アルマ13:29参照)、大変なことも自信をもって頑張れるのです。わたしは今お話ししながら、天父の愛を感じています。みなさんが、今神様の愛についてのあかしを聞いてどんな気持ちになったかを忘れないでほしいと思います。そして、天父の愛の光が感じられるところに、いつもいるようにしてください。

すべての子供たちが天父の愛を感じ、その愛を大切にできますよう、イエス・キリストのみ名によっておいのりします。アーメン。

いつでも、どこにいても 天父にいのりすることができます

ちゅうおうしやうしやうきやうかいだいいちふくかいちやう
中央初等協会第一副会長
シドニー・S・レイノルズ

わたしたちはいつでも、どこにいても天父にいのりすることができます。わたしはそのことを知っています。そして、そのことに心から感謝しています。



小さな兄弟姉妹の皆さん、一番最近、おいのりの答えを受けた時のことを思い出せますか。それは何かをなくした時でしたか。こわかった時ですか。みなさんや愛する人が病気だった時かもしれませんね。わたしも、そのような時においのりをしたことがあります。

最近のいつの時、みなさんはどこにいましたか。わたしはいろいろな場所でのってきました。海辺や山、教会や運動場で、また、家や飛行機、病院の中でもおいのりました。いつでも、どこにいても天父にいのりすることができます。天父はわたしのいのりを聞いてくださることを、知って

います。

二人の子供の話をしましょう。6才ぐらいの男の子と7才になったばかりの女の子の話です。ある暑い夏の日、二人はお父さんと一緒に、おじさんの古いジープでドライブに出かけました。1時間半ぐらいたった時、ジープがおかしな音を立て始めました。次の町のガソリンスタンドで止まった時、ジープは全く動かなくなってしまいました。スタンドの人は「直せませうよ」と言って、車の部品を売っている店へ歩いて行く道を教えてくれました。店に着くと、見るものがたくさんあったので、二人はお父さんが店長さんと店の奥に入っていくのに気づきませんでした。お父さんの姿が見えなくなってあわてた二人は、店の外を見回して、お父さんと同じような帽子をかぶった人が通りを歩いているのを見つけました。ちょうど角を曲がろうとしていたその人の後を、「お父さん！お父さん！」とさげびながら追いかけてきました。

その人がお父さんではないと気づいた時には、二人は迷子になっていました。お店を見つけることもできませんし、自分たちがどこにいるかも分かりません。町には知っている人はだれもいません。女の子はこっちの道へ行きたいと言い、男の子はあっちの道に行こうと言いました。どうしたらお父さんや、せめてジープを

見つけられるでしょう。女の子は「おいのりしなきゃ」と言いました。男の子は、人前でいのりするのははずかしかったのですが、いのりました。いのり終わると、二人は同じ方向に歩き始めました。そしてガソリンスタンドを見つけ、ジープの後ろの席にもぐり込んで待ちました。二人にはとても長い時間に思いましたが、やがてお父さんがもどって来ました。お父さんも二人をすぐに見つけられるようにのっていたのです。

聖典には、いのりがこたえられた話がたくさんありますが、みなさんは覚えていませんか。ニーファイは船の造り方やどこで食べ物を採ればよいかを教わりました。ダニエルはライオンから守られるようにいのりました。エノスは、自分の罪がゆるされるように一日中、日が暮れるまでいのりました。ハンナは子供をさずかるようにいのりました。おいのりについてのお話の中でわたしが一番好きなのは、あることを知りたいと思った少年の話です。少年は、どの教会に入ったらいいか知りたと思いました。友達や家族は、入る教会を見つけていましたが、かれは、どの教会が正しいか分かりませんでした。まだ14才でした。

ある日、この少年ジョセフ・スミスが聖書を読んでいると、そこにはこう書いてありました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずおしみなくすべての人にあたる神に、願ひ求めるがよい。そうすれば、あたえられるであろう。」(ヤコブの手紙1:5)この聖句はジョセフの心に力強くせまってきました。それまで声に出してのいつたことはありませんでしたが、ジョセフはどうしても答えが必要でしたし、その聖句を信じていました。けんそんになって家の近くの森に入り、ひざまずいていのり始めました。とても大切ないのりだったので、暗闇の力はこの強い農家の少年を打ちのめそうと力をふるいました。ジョセフは神の助けを求めてさげびました。すると、光が降りてきて、暗闇は消え去りました。ジョセフは光の中に二人のお方が立っておられるのを見



ました。そのうちのお一人が、もう一人のお方を指して、「これはわたしの愛する子である。かれに聞きなさい」と言われました（ジョセフ・スミス—歴史1：17）。このお二方は父なる神とそのおん子イエス・キリストでした。

このお話しについて考える時、わたしは自分の子供たちのことを考えます。子供たちは全員、アメリカ以外の国で伝道したので、外国語を学ばなければなりません。人びとに話すために新しい言葉で覚えた話の一つが、ジョセフ・スミスのいのりの話でした。なぜ、それを覚えたのでしょうか。天父とイエスが、福音とキリストの教会を地上にもう一度回復する預言者としてジョセフ・スミスを選ばれたことを、教えていた相手の人に知ってもらう必要があったからです。そして、ジョセフ・スミスのいのりがこたえられたのと同じように、だれでも天父にいのり、答えを受けられるということを知ってもらう必要

があったからです。天父はみなさんのいのりにもこたえてくださいます。わたしたちはいつでも、どこにいても天父にいのることができます。わたしはそのことを知っています。そして、そのことに心から感謝しています。

片手の指の数だけあかしをします。

1. 神はわたしたちの天の父であり、わたしたちを愛しておられます。わたしはそのことを知っています。

2. イエス・キリストは天父のおん子であられ、救い主、あがない主です。

3. ジョセフ・スミスは神の預言者であり、神の賜物と力によってモルモン書をほんやく翻訳しました。

4. 末日聖徒イエス・キリスト教会は、今日、地上における主の教会です。

5. ゴードン・B・ヒンクレー大管長は生ける預言者です。

イエス・キリストのみ名によって、アーメン。



主に従う方法を 知っていることを示す

ちゅうおうしよとうきょうかいちよう
中央初等協会会長
コリーン・K・メンラブ

まいにち しんこう しゆ したが ほうほう し
毎日、わたしたちには、イエスのようになり、信仰をもって主に従う方法を知っていることを示す機会があたえられます。



あ い 愛する初等協会の子供たち、今年わたしたちは初等協会設立125周年をお祝いします。初等協会は、子供たちが喜んでイエス・キリストの福音を学び、実践するのを助けるために、神の預言者が設立しました。初等協会は大切です。今年はお祝いをするすばらしい年になるでしょう。でも、一番大切なのは、みなさんの両親、指導者、先生たちが、みなさんを大切に思っていることです。みなさんを愛しています。今のみなさんを見たり、将来のみなさんについて考えたりすることは、大きな喜びです。みなさんは神の子供です。愛に満ちた天父は、いのりを聞いてこたえてくださいます。いつかみなさんがみもとへ帰り、天父と一緒に住むのにふさわしくなるよ

う望んでおられます。それを知っていれば、この世と永遠の未来の生活を、明るい希望をもって計画することができます。将来を考えるとき、明日よりもずっと先に目を向けてください。聖文、末日の預言者たちの教え、そして初等協会の歌も、みなさんが持っている永遠の可能性を理解し、実現するのを助けてくれます。イエス・キリストは、天父のみもとへ帰るためにふさわしく生きる方法について、模範を示してくださいました。みなさんは一人一人、イエス・キリストについて学び、信仰をもって主に従う機会をあたえられます。

わたしたちはバプテスマの聖約をかかわして守り、聖霊を受けて、その声に耳をかたむけることによって、主に従う方法を知っていることを示します。また、ふさわしい状態で聖餐を取り、イエスを思い出す時もそうです。もう一つ、主に従う方法を知っていることを示す方法についてお話したいと思います。それは、いましめを守ることです。

主は、はっきりとこのように言われました。「まことに、まことに、あなたがたに言う。以上がわたしの福音である。あなたがたは、わたしの教会で行わなければならないことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもなさい。」¹ わたしは初等協会の歌「イエス様のように」² が大好きです。この歌を歌うときに感じる気持ちが好きです。毎日、わ

たしたちには、イエスのようになり、信仰をもって主に従う方法を知っていることを示す機会があたえられます。

10才のジョンは水泳チームに入った時、土曜日の大会には出られるけど、日曜日には出られない、とコーチに言いました。シーズン最後の大会で、ジョンのリレーが日曜日に行われることになりました。前もって決心することについて、家庭の夕べでレッスンを聞いたのを覚えていたので、正しいことをするのはさほど難しくありませんでした。ジョンはこう言いました。「ぼくは水泳チームに入る前に、日曜日には泳がないと決心したんだ。だから、リレーに出られないとコーチに言うのは難しくなかった。コーチにおこられると思ったけど、コーチはその年の終わりの食事会の時、……標準を決めて、それを守ったぼくのことをほこりに思っている、とチームのみんなに言ってくれたんだ。」³ ジョンは安息日をきよく保ち、イエスの教えに従う模範となることによって、主に従う方法を知っていることを示したのです。皆さんも安息日をきよく保つ時、主に従う方法を知っていることを示しているのです。

11才の時わたしがしたような経験を、みなさんもしたことがあるでしょう。わたしはある友達を尊敬していました。いろいろなことを知っているように思ったからです。ある日、その友達から「たばこを吸ってみない？」ときそわれました。「吸い方を教えてあげるから。1回くらい吸ったって、何ともないわ」と言って、わたしにしつこくすすめてきました。友達をおこせたくなかったのですが、「たばこは絶対に吸わない」と小さい時から決心していたので、断るのは難しくはありませんでした。知恵の言葉に従うことによって、主に従う方法を知っていることを示してください。

ケイトリンは6才の時、ダンスの発表会に、もう少しつつまみ深い衣装を着てもよいか先生にたずねました。だめだと言われた時、どうすべきか分かりました。イエスが望まれることをしなくてはいけないので、発表会には出られないと先生に言ったのです。「とてもつらい決心だったけど、後でいい気持ちがしたわ」⁴ とケイト



リンは言っています。つつしみ深い服装をすることによって、肉体への敬意を示すことができます。このようにして、いましめを守り、救い主に従う方法を知っていることを示すのです。

たがいに愛し合うといういましめに従うことによって、主に従う方法を知っていることを示すことができます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように言っています。「わたしたちはみな、神のむすこ、むすめです。そのことを知る時に、わたしたちの内に大きな力が宿ります。……このような知識があり、それが生活にえいきょうすることを知っている人は、決していやしい価値のないことはしないでしよう。」⁵ イエスはわたしたちのとなり人を自分自身のように愛しなさいとおっしゃり、このすばらしい教えを、サマリヤ人のたとえを使って説明なさいました。サマリヤ人は、ほかの人がだれも助けようとしなかった時に、親切であわれみ深い行いをしたのです。救い主は、「あなたも行って同じようにしなさい」⁶とおっしゃって、互いに愛し合い、善い行いをするようにお教えになりました。それは自分とはちがう標準を持つ人にも当てはまります。自分とちがうからといって、さげたり、

不親切にしてもいいことにはならないのです。

8才のチェルシーの友達はある少年が好きではないと言いました。少年が教会員ではないからです。チェルシーはどうしたと思いますか。みなさんだったら、どうしますか。チェルシーは友達にこう言いました。「あの子が教会員でなくてもかまわないわ。それに、いい子よ。」⁷ほかの人に親切に、そして優しくしてあげるとき、救い主に従う方法を知っていることを示していることになります。

自分の家族に親切にすることについてはどうでしょう。親切にするのが一番大切で、時どき一番難しいのは、自分の家の中であり、自分の親や兄弟に対してです。むすこのミッチが10才の時、家族の手伝いをしたりしました。楽しくできる時には、特にそうでした。だれも見えていない時に、首にひもで鈴をぶら下げて、ベルボーイになったつもりで家事を手伝ってくれました。家事がもう終わっていることに家族が気づくと、ミッチはただこう言うのでした。「きつとベルボーイがやったんだよ。」ミッチはわたしたち家族をほんとうによく助けてくれて、同時に楽しみと喜びをあたえてくれました。

これまでお話した少年少女たちは、安息日をきよく保つ、知恵の言葉を守る、つつしみ深い服装をする、友達や家族に親切にするなどの行いにより、主に従う方法を知っていることを示しました。みなさんも、いましめを守ることに、それを示すことができます。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることは、福音のすべての祝福を受ける機会をあたえられている、ということの意味します。毎日、みなさんは自信をもって言うことができます。

「わたしは神の子供です。

天父がわたしを愛しておられることを知っています。わたしも天父を愛しています。

わたしはいつでも、どこにいても天父にいのりすることができます。

イエス・キリストに従うことをいつも覚えるようにしています。」

信仰をもってイエス・キリストに従うことにより、主に従う方法を知っていることを示そうと、今日決心してください。天父のみもとへ帰る道はたやすい道ではありません。救い主に従うには、毎日続ける勇気が必要です。そのように決心する時、今だけでなく永遠にわたって、平安と幸福を得られることをあかしします。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。

注

- 3ニーフアイ27:21
- 『子供の歌集』40
- ジョン・S・ニーザートン, "Sticking to Standards," *Friend*, 2000年5月号, 47
- ケイトリン・マクグラス, "A Modest Choice," *Friend*, 2000年5月号, 巻末
- ゴードン・B・ヒンクレー「大管長会メッセージ——神がわたしたちにくださったのはおくる霊ではなく」『聖徒の道』1985年2, 3月号, 21
- ルカ10:37
- チェルシア・M・ブライアント, "Creating Kindness," *Friend*, 2000年3月号, 35参照

みなさんは神の子です

だいかんちょう
大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

あひ ちい ともだち わす ほんとう かみ こ
愛する小さなお友達のみなさん、忘れないでください。みなさんは本当に神の子
なのです。……神はみなさんを愛し、祝福と助けをあたえたいと願っておられます。



あ い ちい ともだち しょうねんしょうじょ
愛する小さなお友達、少年少女
のみなさん、初等協会の125
回目のお誕生日をみなさんと
一緒にお祝いできてうれしいです。
今まで、このような小さな少年少女た
ちとの集会はなかったと思います。わた
しは今、ソルトレーク・シティーにある大
きなカンファレンスセンターから話してい
ます。ここには、子供たちやご両親、先生
たちが2万1,000人いらっしゃいます。そし
て世界中の会場にもお祝いのために大勢
の人が集まってくださっています。わたし
の言葉はたくさんの国の言葉に翻訳され
ます。わたしたちはいろいろな国に住ん
でいます。国の旗もちがいますね。でも、
同じことが一つあります。みんなが
まつじつせいと きょうかい かいいん
末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だ
いこうことです。そして、世界中のたくさん
の会場にみなさんが集まっているという
ことは、教会が設立以来これまですばら

しい発展をとげてきたしるしです。

初等協会は初めからあったわけでは
ありません。教会ができてから最初の48
年間、子供たちの組織はありませんでした。
オーレリア・スペンサー・ロジャーズ
というすばらしい女の人がありました。オー
レリアは「男の子をきたえて立派な大人
にする」組織が必要だと考えました。

オーレリアの提案はその時の大管長、
ジョン・テラーに届きました。テラー
大管長は、「男の子のためになるのなら、
女の子のためにもなるはずだ。歌を歌う
時もその方がずっといい」と考えました。
こうして125年前、224人の少年少女が集
まって初めての初等協会が開かれ、
「従順と神への信仰、いのり、約束を守る
こと、お行儀をよくすること」を教わりました
(ダニエル・H・ラドロー編、『モルモニズ
ム百科事典』、全5巻〔1992年〕第3巻、
1146で引用)。

初等協会はこのような小さな集まりが
きっかけで、世界中に広まりました。今で
は100万人近くのお友達が集っています。

これはすばらしいことです。若い男性
や女性、それに大人が学ぶ組織があるよ
うに、少年少女のための組織が必要だ
からです。

今、話してくれた3人のしまいが世界中
の初等協会を導いています。このしまい
たちには合わせて23人のおおさんがいま
すから、みなさんが関心を持っている事
がらについてよく知っています。

みなさんにはすばらしい先生がいてよ
かったですね。先生たちはみなさんを愛
して、毎週日曜日にみなさんと会っ

て主の方法で福音を教えてあげたいと思
っています。

アーテル・リックスという兄弟が、靈感
を受けた初等協会の先生について話して
くれました。アーテルが5、6才のころの
話です。ある夜、リックス兄弟の家族は
食卓を囲んで自分の一いましめについ
て話していました。家族はリックス兄弟に、
「自分の一とは収入の10分の1で、主を愛
する人が主にささげるものだよ」と教えま
した。

リックス兄弟は主を愛していましたか
ら、主に自分の一を納めたいと思いまし
た。そこで、自分の貯金箱を持って来る
と、ためていたわずかなお金から10分の
1を取り出しました。リックス兄弟はこう
言っています。「わたしは……家の中でか
ぎのかかるたった一つの部屋に入りました。
おふろです。そして、浴そうのそば
にひざまずき、3、4枚の硬貨を持った手
を上を挙げて、『神様、お受け取りくださ
い』と言いました。[きっと神様が現れて、
お金を受け取ってくださいと思ったので
す。]でも、何度お願いしても、[神様が現
れてくださいません。]『神様はなぜわたし
の自分の一を受け取ってくださらないの
だろう。』いのりを終えて立ち上がった
わたしは、自分がふさわしくない者のよう
に思え、その経験をだれにも話しません
でした。……

それから何日かたった日、初等協会の
先生がこう言いました。『今日はレッスンの
内容とちがうことを話した方がいいとい
う靈感を受けました。』おどろいたことに、
自分の一をどう納めるかを教えてくれた
のです。[神様のしもべであるかんとくさ
んにわたすのです。]でも、わたしが学ん
だのは、自分の一の納め方よりもはるかに
大切なこと、つまり、神様がわたしのい
のりを聞いて、そのいのりにこたえてくだ
さること、主がわたしを愛してくださり、
大切に思ってくださいというこ
です。また、後になってもう一つ分かってき
たことがあります。それは、初等協会の
先生がその日、みたまに導かれて教えてく
れたということです。

わたしにとってはとても感動的な体験



だったので、それから30年以上もの間、だれにも話せませんでした。60年たった今でもみなみだなしには話せません。残念なのは、あのすばらしい初等協会の先生に、神様が先生を通して幼いわたしに語られたことを伝えられなかったことです。」「いのりの答え」『聖徒の道』1988年5月号, 28参照)

わたしも幼い時に初等協会に行きました。そのころの初等協会は火曜日の午後、学校を終えてからでした。放課後のおそい時間ですから、つかれていましたし、おなかもすいていました。でも、先生たちはとても優しくしてくれました。よくクッキーを持って来て食べさせてくれたものです。でも、もっと大切なことは、ためになる、楽しいレッスンをしてくれたことです。イエス様とその偉大な愛、そして、わたしたちのいのりを聞いてくださる永遠の父なる神についてです。

また、少年ジョセフが森に行っているのをささげたと、それにこたえて天父とおん子イエス・キリストがみ姿を現され

たことも学びました。教会の歴史や、教会を強めるために非常に熱心に働いてきた勇敢で忠実な男女、少年少女についても学びました。また、どんな時もたがいに親切にし、助け合うことも教わりました。家でのお手伝いがどんなに大切か学んだのも初等協会でのことです。礼儀作法も教わりました。

今、初等協会は日曜日に行われています。多くの点でその方がいいと思います。学校がないのでつかれていないからです。わたしはみなさんが「初等協会の時間は長い」と感じていることを知っています。でも、先生たちはよく準備してくれています。いいレッスンだけでなく楽しい活動もあります。

それに、すてきな初等協会の歌があります。わたしが子供のころに歌った歌にこのようなものがありました。

「神よ光を、かがやかし
従うために、教えたまえ
福音人に、伝えるため

「信仰の光、道照らす」
（「神の光受け」『賛美歌』191番）

この美しい歌の歌詞は、わたしが子供のころ、学校の先生だったマチルダ・W・カフーンしまいが書きました。

今、みなさんにはこの美しい『子供の歌集』があります。みなさんのために書かれた曲がたくさんあります。今日、この中からいくつか歌いました。また、みんなで歌った歌の中には、次の歌のように、初等協会のために書かれたものが教会全体で歌われるようになったものもあります。それほど美しい歌です。そして、偉大な、すばらしい真理について語っています。

「神の子です、わたしやあなた
あふれるめぐみに感謝します
わたしを助けて導いて
いつかみもとへ行けるように」
（「神の子です」『賛美歌』189番）

何とすばらしい曲ではないでしょうか。何と偉大な真理を教えてくださいませんか。みなさんにはお父さんがいます。みなさんのお母さんにとって、愛するはんりよです。お父さんを愛し、お父さんによく従ってください。でも、もう一人のお父さんがいます。天のお父様ですね。この世のお父さんがみなさんの肉体上の父親であるように、天父はみなさんの霊の父です。天父を愛し、そのおっしゃることに従うことは、この世のお父さんに従うのと同じように大切なことです。

わたしたちはこの世のお父さんと話します。この世のお父さんは親しい友達であり、守り手であり、食べ物や服、家をあたえてくれる人です。でも、わたしたちは天父にもいのりを通して話します。どうぞ、朝と夜、ひざまずいて天父と話してください。朝は、よくねむれたこと、暖かく快適で愛にあふれた家があることを感謝しましょう。そして、守りと祝福と導きが一日中あるようにお願いしてください。お父さんやお母さん、兄弟やしまい、それに病気の人や困っている人のためにいのりましょう。教会の宣教師のこともいのりてください。

夜はねむる前にひざまずき、その日受けた祝福に感謝してください。両親や先生に感謝しましょう。よくねむることができるよう、そして、すべての人、特に困っている人や食べる物やねる場所のない人に、祝福があるようにいのりてください。

これは大変なことではありません。毎日、数分間、天父と話をするのです。そうすると、自分が神の子であることが分かります。

自分が神の子であることがはっきり分かる、神がみなさんに大いに期待しておられることもわかってきます。それは、神の教えに従うこと、そして神のおん子であるイエス・キリストの教えに従うことです。また、ほかの人に優しく親切にすることも求められます。みなさんが下品な言葉を使うと、主は悲しまれます。不正直であれば、それがどんな小さなことでも、主は悲しまれます。ほんのわずかで



も、みなさんが不正やぬすみを働いたら、主は悲しまれます。いのりの中でみなさんが不幸な人のことを思いやると、主はお喜びになります。そんなみなさんを主は見守り、導き、守ってくださいます。学校でも初等協会でも祝福をあたえてくださいます。家庭の中でも祝福して下さるので、みなさんは両親に従う良い子になれます。兄弟げんかをせず、よくお手伝いをする子供になれます。

このようにして、教会にあって強い若者に、そして、すばらしい社会にあって善い大人に成長していくのです。

この世に生きたすべての人は、主イエスさえも、かつてはみなさんのように子供でした。みな、それぞれが模範としてまねたパターンのおりに成長していきました。その教えが良いものであれば、すばらしい大人になることができます。

愛する小さなお友達の皆さん、忘れないでください。みなさんは本当に神の子なのです。神からその性質を受け継ぎました。神はみなさんを愛し、祝福と助け

をあたえたいと願っておられます。天父がみなさんを祝福されますように。皆さんにほほえみかけられますように。みなさんが主の道を歩み、主の教えに従うことができますように。学校でたとえ周りの人がどうであろうと、決してきたない言葉を使わないでいられますように。いつも神にいのりしてください。愛するおん子イエス・キリストのお名前を通していのりしてください。一人一人が常に信仰をもって主に従うことを決心できますように。幸せな生活が送れますように。なぜなら、みなさんは神の子であり、神の愛と祝福を受けるにふさわしく、その資格があるからです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを決して忘れなでください。主がみなさんを祝福されますように。わたしはみなさんを心から愛しています。イエス・キリストの神聖な名名によって、アーメン。

指導者の言葉

教会の子供たちのために——2003年4月5、6日に開かれた
第173回年次総大会のお話から

大 管長 ゴードン・B・ヒンクレー
——イエス・キリストの福音は
平和への道です。福音に従い、
福音を生活に取り入れる限り、その程度
に応じて、わたしたちは祝福を受け、繁栄
を手に入れます。これはえあるわざにたずさ
わることは何とすばらしいことでしょうか。
わたしたちにあたえられている偉大な
機会を喜びとしましょう。喜びをもって
奉仕しましょう。

第一副管長 トーマス・S・モンソン
——人生で出遭う試練を乗り越えなければ、
願っただけではなく、十分な準備が必要
です。準備は骨の折れるものですが、
進歩するには絶対に必要なものです。

未来に向かってわたしたちが旅をする
道は、永遠の世界につながる穏やかな
大通りではありません。むしろ、道にはい
くつもの分かれ道や曲がり角があるでしょ
うし、思ってもいなかった段差も当然ある
はずで。ですから毎日、愛にあふれ、わ
たしたち一人一人の人生での成功を望ん
でおられる天父にいのらなければならな
いのです。

第二副管長 ジェームズ・E・ファウ
スト——善と悪のちがいはあまいなこと
が多いので、一人一人がどこに線を引く
か決めなければなりません。わたしは心
からおすすめます。自分の行いが正し
いか正しくないかの中に疑問がわいた
ら、それを行わないでください。一人一人
に道徳的な選択の自由があり、また何が善
いことで何が悪いことか、何が真実で何が
いつわりかを聖霊の賜物がはっきりと示し
てくれます。

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネル
ソン——いのりを通して、神に愛を表すこ
とができます。神はいのりをととても簡単な
ものとしてくださいました。いつでも神に
いのりすることができます。特別な機械はいり
ません。電池を充電する必要すらなく、
毎月使用料をはらうわけでもありません。
……

いのりは声を出さずにささげることもで
きます。心の中でのいりすることができます。
特に、言葉が考えのさまたげとなってしまう
時はそうです。……

いのりを終える時には、「イエス・キリス
トのみ名によっておいのりします。アーメン」
と言います。ほかの人がいのりを聞い
ている時には、「わたしもそのようにおい
のりします」という意味で、声に出して「ア
ーメン」と言います。

十二使徒定員会 ダリン・H・オーク
ス——わたしたちは開拓者のように、
逆境があることを神に感謝し、逆境に立
ち向かうための導きをいのり求めなけれ

ばなりません。そのような態度と信仰、
従順によって、神からあたえられている
約束を実現していくのです。すべてが
計画の一部なのです。

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワー
スリン——聖霊はれいのお方であり、
神会の一員であって、神とイエス・キリス
トとはっきり区別できる、別のお方です。
聖霊は、神の力をあかしされる証人です。
聖霊はまた、キリストが神に似たお方であ
ることや、回復された福音が真実であるこ
とをあかしされます。……

教会員として確認される時、聖霊をい
つも感じられるようになる「権利」をあ
たえられます。しかし、この権利は従順とふ
さわしさによって保っていかねばならな
いものです。この賜物をおろそかにしては
なりません。

七十人会長会 デニス・B・ノイエ
ンシュバンダー——確かに、聖餐会はた
だの集会以上のものです。神聖な場所
で過ごす神聖な時間なのです。毎週の
聖餐会でわたしたちは、この世で最も憐れ
みに満ちたぎせいについて思いをめぐら
します。わたしたちが永遠の命を受けら
れるように独り子をあたえてくださった、神
の愛について深く考えます。聖餐を取る
時、おん子を覚え、進んでおん子のみ名
を受け、おん子のいましめを守るとい
う意志を示します。



わたしたちの時代のための教え、 2003年度

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権と扶助協会の集会は、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間となっています。大管長会は毎年、これらの集会で使用するために、10のテーマを指定の資料とともに決定します。以下は2003年度のためのテーマと資料です。残り2回分のテーマは、ステークまたは地方部の会長会によって選定されます。

第4日曜日の話し合いは、定員会または扶助協会の会員の必要と状況に合わせて、指定の資料の一つ、または二つを中心にして行うとよいでしょう。教師は必ずしもすべての資料を使用する必要はありません。指導者と教師は、それらの集會を、講義や発表の場ではなく、話し合いの場とするように勧められています。指導者と教師は、定員会または扶助協会の会員が話し合った原則を実践するよう鼓舞していくにはどうしたらよいか、検討してください。定員会やクラスでの話し合いを準備し、指揮するための提案は、『教師、その大いなる召し』(36123300)と『教師ガイドブック』(34595300)に掲載されています。

1. イエス・キリストの贖いを通して得られる希望

マタイ27:11-61; ルカ22:39-46; ヨハネ20:1-22; アルマ34:8-18; 42章; 教義と聖約19:1-20
ジェームズ・E・ファウスト「贖い—最も大いなる希望」『リアホナ』2002年1月号, 19-22

ダリン・H・オークス「生活の中の福音」『リアホナ』2002年7月号, 36-39

ジョセフ・B・ワースリン「わたしについてきなさい」『リアホナ』2002年7月号, 15-18

「贖罪」『福音の原則』第12章

2. 什分の一とささげ物の目的

マラキ3:8-12; 教義と聖約64:23; 119:1-4; 120:1

ゴードン・B・ヒンクレー「信仰によって歩む」『リアホナ』2002年7月号, 80-82

ジェフリー・R・ホランド「潤った園のように」『リアホナ』2002年1月号, 37-39

「什分の一とささげ物」『福音の原則』第32章

3. 祈り

マタイ6:9-13; 7:7; アルマ7:23; 教義と聖約93:49

トーマス・S・モンソン「彼らは祈り、出て行くのです」『リアホナ』2002年7月号, 54-57

ジェームズ・E・ファウスト「祈りという命綱」『リアホナ』2002年7月号, 62-69

ヘンリー・B・アイリング「祈り」『リアホナ』2002年1月号, 16-19

「個人と家族の祈り」『末日聖徒の女性B』第34課

4. 元気を出しなさい

ヨハネ14:27; 16:33; ニューファイ4:16-35; 10:23; 教義と聖約78:17-22

ゴードン・B・ヒンクレー「キリストに頼る」『リアホナ』2002年7月号, 101-102

トーマス・S・モンソン「今がその時である」『リアホナ』2002年1月号, 68-71

M・ラッセル・バラード「王国にかかわる平和をもたらす事柄」『リアホナ』2002年7月号, 98-101

「イエス・キリストを信じる信仰」『福音の原則』第18課

5. 隣人を愛し、強める

マタイ22:35-40; ルカ22:31-32; モーサヤ23:15; 教義と聖約88:123-125; 108:7

ゴードン・B・ヒンクレー「手を差し伸べ、引き上げる」『リアホナ』2002年1月号, 60-67



ボイド・K・バッカー「子どもたち」『リアホナ』2002年7月号, 7-10

M・ラッセル・バラード「包容の教義」『リアホナ』2002年1月号, 40-43

「愛と慈善奉仕」『末日聖徒の女性A』第8課

6. 信仰によって歩む

ヘブル11章; アルマ32:16-23; エテル12:4-22, 27

ゴードン・B・ヒンクレー「信仰によって歩む」『リアホナ』2002年7月号, 80-82

デビッド・B・ヘイト「わたしたちの預言者の信仰」『リアホナ』2002年1月号, 24-27

ラッセル・M・ネルソン「堅固な土台」『リアホナ』2002年7月号, 83-86

「イエス・キリストを信じる信仰」『末日聖徒の女性A』第1課

7. 主のために最善を尽くす

マタイ25:14-30; モーサヤ3:19; 5:12-13; 教義と聖約76:50-70

ジェームズ・E・ファウスト「何か大きな事」『リアホナ』2002年1月号, 53-56

ニール・A・マックスウェル「あなたがたの行うことを神聖にしなさい」『リアホナ』2002年7月号, 39-42

ジョセフ・B・ワースリン「一歩ずつ」『リアホナ』2002年1月号, 27-30

「神の王国を築く」『神権の義務と祝福B』第35課

8. 容易に怒らない

ルカ15:11-32; 1コリント12:1-27; 2ニーファイ26:24-28; 3ニーファイ11:28-30

トーマス・S・モンソン「隠れたくさび」『リアホナ』2002年7月号, 19-22

ジェフリー・R・ホランド「もう一人の放蕩息子」『リアホナ』2002年7月号, 69-72

「赦しを受ける」『神権の義務と祝福B』第33課

9. 新会員を強める

マタイ25:31-46; ルカ15章; モーサヤ2:17

リチャード・G・スコット「真の改心がもたらす幸福」『リアホナ』2002年7月号, 26-28

ヘンリー・B・アイリング「真の友」『リアホナ』2002年7月号, 29-32

「フェロウシップ—神権にかかわる責任」『神権の義務と祝福B』第10課

10. 御霊によって生活する

創世37:39-45

L・トム・ベリ—「神の霊を持つ人になる」『リアホナ』2002年7月号, 42-45

ロバート・D・ヘイルズ「闇を出て、驚くべき主の光の中へ」『リアホナ』2002年7月号, 77-80

「聖霊の賜物」『末日聖徒の女性A』第4課

『アロン神権1』用リソースガイド

2003年度用、第25課—第49課

以下は『アロン神権1』第25課から第49課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、クリスマスのための特別なレッスンは掲載されていません。クリスマス(12月21日)のための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主しよくさういの贖罪あかしと復活、生涯と使命に焦点を絞った大会説教や教会機関誌の記事、賛美歌を活用することを検討してみてください。

第25課—**救**し

ボイド・K・バックー「主の御手」『リアホナ』2001年7月号、25-28
ジェイ・E・ジェンセン「どのように悔い改めたらよいか知っていますか?」『リアホナ』2002年4月号、14-17
リチャード・C・エッジリー「見よ、この人だ」『リアホナ』2000年1月号、49-51

「主の犠牲に感謝する」『リアホナ』2001年6月号、26-27

第26課—安息日に正しいことを行う

トーマス・S・モンソン「最高の自分になる」『リアホナ』2000年1月号、21-24
H・オールドリッジ・ギレスピー「安息日を神聖に保つことによってもたらされる祝福」『リアホナ』2001年1月号、93-94
カレン・F・チャーチ「安息日の家族の時間」『リアホナ』2000年4月号、48

第27課—**敬**虔

ジェームズ・E・ファウスト「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊ぶ」『リアホナ』2001年7月号、53-56
L・トム・ベリー「敬虔さ」『リアホナ』2002年3月号、フレンド、2-3

第28課—女性を尊ぶ

スペンサー・W・キンボール「結婚によって一つとなる」『リアホナ』2002年10月号、36-41

ジェームズ・E・ファウスト「女性であること—最高の榮譽」『リアホナ』2000年7月号、115-118

マーガレット・D・ナドール「女性であることの喜び」『リアホナ』2001年1

月号、17-19

第29課—永遠の家族

ラッセル・M・ネルソン「あなたの家を整えなさい」『リアホナ』2002年1月号、80-83
シェリー・L・デュー「人が独りでいるのは良くない」『リアホナ』2002年1月号、13-15

アルフォンソ・カストロ・ベスケズ「永遠の家族が欲しいのです」『リアホナ』2000年8月号、26-28

第30課—救いの計画

ジェフリー・R・ホランド「伝道活動と贖罪しよくさうい」『リアホナ』2001年10月号、26-32
クリストフェル・ゴールデン・ジュニア「わたしたちの御父の計画」『リアホナ』2002年1月号、33-35

ジェイ・E・ジェンセン「常に永遠の視野に立って考える」『リアホナ』2000年7月号、32-33

L・アルデン・ポーター「わたしたちの行く末」『リアホナ』2000年1月号、77-79

第31課—祈りと断食を続けて行う

ジェームズ・E・ファウスト「祈りという命綱」『リアホナ』2002年7月号、62-69

ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法」『リアホナ』2001年7月号、88-91
ボーン・J・フェザーストーン「天につながる道」『リアホナ』2000年1月号、15-18

第32課—**什**分の一

ジェフリー・R・ホランド「潤った園のように」『リアホナ』2002年1月号、37-39

アール・C・ティンギー「什分の一

の律法」『リアホナ』2002年7月号、10-12

グロリア・オラベ「受け入れる余地がないほどの祝福を」『リアホナ』2001年4月号、26-28

第33課—聖典の学習

ボイド・K・バックー「モルモン書—イエス・キリストについてのもう一つの証あかし」『リアホナ』2002年1月号、71-74

ラッセル・M・ネルソン「聖文の導きに従って生活する」『リアホナ』2001年1月号、19-22

トリシャ・スワンソン・デートン「自らの戦いに勝つ」『リアホナ』2001年8月号、26-28

第34課—**従**順

リチャード・G・スコット「正しかれ」『リアホナ』2001年3月号、10-17

ロバート・D・ヘイルズ「名誉の帰還」『リアホナ』2001年11月号、10-15

スペンサー・J・コンディー「絶えず善を行う性質」『リアホナ』2001年6月号、14-21

グレン・L・ベイス「列車に乗り続ける」『リアホナ』2002年3月号、26-27

第35課—**聖**餐

ボイド・K・バックー「洗われて清くなる」『聖徒の道』1997年7月号、9-12

デビッド・B・ヘイト「ナザレのイエス」『聖徒の道』1994年7月号、80-83

ピーター・B・ガードナー「言葉以上に」『リアホナ』2002年2月号、28-29

ウェイン・B・リン「聖餐のパスは卒業?」『リアホナ』2001年5月号、8-9

第36課—**証**

ジェームズ・E・ファウスト「深まる証」『リアホナ』2001年1月号、69-71

ジョセフ・B・ワースリン「純粋な証」『リアホナ』2001年1月号、27-30

リチャード・G・スコット「強い証の持つ力」『リアホナ』2002年1月号、100-103

第37課—アロン神権

トーマス・S・モンソン「道を備える」『リアホナ』2001年2月号、2-7

ロバート・D・ヘイルズ「神への務めを果たす」『リアホナ』2002年1月号、43-46

ジョン・H・グローバーク「神権の力」『リアホナ』2001年7月号、51-53

第38課—アロン神権者として召しを尊んで大いなるものとする

トーマス・S・モンソン「主に仕える召し」『リアホナ』2001年1月号、57-60

スペンサー・J・コンディー「同胞に大きな利益をもたらす」『リアホナ』2002年7月号、48-50

H・デビッド・パートン「神権を尊ぶ」『リアホナ』2000年7月号、46-48

第39課—模範による伝道

トーマス・S・モンソン「小さいわらべに導かれ」『リアホナ』2002年6月号、2-9

ダリン・H・オークス「福音を分かち合う」『リアホナ』2002年1月号、7-10

ピーター・アルングワ「5周」『リアホナ』2000年9月号、46-47

第40課—主の宮

ジェームズ・E・ファウスト「主の山に登るべき者はだれか」『リアホナ』2001年8月号、2-5

ジェフリー・R・ホランド「窓辺に降り立つ鳩のように」『リアホナ』2000年7月号、90-93

タロー・M・ツァソン「主がわたしたちの目を開かれるとき」『リアホナ』2000年6月号、30-31

第41課—道徳的に清い生活

トーマス・S・モンソン「魔の運び屋—ボルノグラフィー」『リアホナ』2001年11月号、2-6

ボイド・K・バックー「霊の[わに]」『リアホナ』2002年10月号、8-11

ニール・A・マックスウェル「第7の戒め—盾」『リアホナ』2002年1月号、90-93

「前方に危険あり! ボルノグラフィーの落とし穴を避ける」『リアホナ』2002年10月号、12-17

第42課—正直

ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30-41

ゴードン・スウェンセン「名誉の拳手」『リアホナ』2001年3月号, 8-9

第43課——聖典研究のための資料
ボイド・K・パッカー「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証」『リアホナ』2002年1月号, 71-74

ラッセル・M・ネルソン「聖文の導きに従って生活する」『リアホナ』2001年1月号, 19-22

「聖文研究のための提案」『リアホナ』2001年9月号, 29

第44課——より良いホームティーチャーになる

ヘンリー・B・アイリング「『わたしと一緒に目をさましていなさい』」『リアホナ』2001年7月号, 44-47

ジョン・L・ハウター「後輩同僚」『リアホナ』2001年11月号, 28-30

マルコルム・W・ワトソン「最後までホームティーチングを行う」『リアホナ』2000年9月号, 43-44

第45課——神聖な創造の力

ボイド・K・パッカー「あなたがたは神の宮である」『リアホナ』2001年1月号, 85-88

ジェフリー・R・ホランド「個人の清さ」『リアホナ』2000年10月号, 40-43

デビッド・E・ソレンセン「毒蛇と戯れてはならない」『リアホナ』2001年7月号, 48-50

第46課——決断

ジェームズ・E・ファウスト「自分を何者であると考えていますか——青少年へのメッセージ」『リアホナ』

2001年6月号, 2-7

シャロン・G・ラーセン「日の栄えへの導き」『リアホナ』2001年7月号, 104-106

第47課——奉獻と犠牲

ニール・A・マックスウェル「あなたがたの行うことを神聖にきなさい」『リアホナ』2002年7月号, 39-42

M・ラッセル・バラード「犠牲の律法」『リアホナ』2002年3月号, 10-20

キャロル・B・トーマス「犠牲——永遠の投資」『リアホナ』2001年7月号, 77-79

キャメロン・マッコイ「迷いを捨てて」『リアホナ』2001年3月号, 34-37

第48課——バプテスマを施す権能

ボイド・K・パッカー「炎のように分かれた舌」『リアホナ』2000年7月号, 7-10

ロバート・D・ヘイルズ「バプテスマの聖約——王国にあって王国のものとなる」『リアホナ』2001年1月号, 6-9

セルジオ・アロヨ「ダビッドに先導されて」『リアホナ』2001年4月号, 28-29

第49課——賢明な時間管理

ニール・A・マックスウェル「賢明に秩序正しく」『リアホナ』2001年12月号, 18-23

ダリン・H・オークス「的を絞ることと優先順位」『リアホナ』2001年7月号, 99-102

ジョセフ・B・ワースリン「人生という旅の中で学んだ教訓」『リアホナ』2001年5月号, 34-43

『若い女性1』用リソースガイド

2003年度用, 第25課—第48課

以下は『若い女性1』第25課から第48課のレッスンを補足するための参考資料であり, 同レッスンに代わるものではありません。レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには, クリスマスのための特別なレッスンは掲載されていません。クリスマス(12月21日)のための特別なレッスンを教えたい場合は, 救い主の贖罪と復活, 生涯と使命に焦点を絞った大会説教や教会機関誌の記事, 賛美歌を活用することを検討してみてください。

第25課——安息日

トーマス・S・モンソン「最高の自分になる」『リアホナ』2000年1月号, 21-24

H・オールドリッジ・ギレスピー「安息日を神聖に保つことによってもたらされる祝福」『リアホナ』2001年1月号, 93-94

カレン・F・チャーチ「安息日の家族の時間」『リアホナ』2000年4月号, 48

第26課——証

ジェームズ・E・ファウスト「深まる証」『リアホナ』2001年1月号, 69-71

ジョセフ・B・ワースリン「純粋な証」『リアホナ』2001年1月号, 27-30

リチャード・G・スコット「強い証の持つ力」『リアホナ』2002年1月号, 100-103

第27課——聖文の研究

ボイド・K・パッカー「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証」『リアホナ』2002年1月号, 71-74

ラッセル・M・ネルソン「聖文の導きに従って生活する」『リアホナ』2001年1月号, 19-22

トリシャ・スワンソン・デートン「自らの戦いに勝つ」『リアホナ』2001年8月号, 26-28

第28課——罪を退ける

ジェームズ・E・ファウスト「わたしには起こるはずがない」『リアホナ』2002年7月号, 51-54

ニール・A・マックスウェル「世の誘いと誘惑」『リアホナ』2001年1月号, 43-46

ダリン・H・オークス「主に望まれる

者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 40-43

ダリン・リスゴー「誘惑との戦い」『リアホナ』2001年11月号, 7

第29課——キリストの再臨

ゴードン・B・ヒンクレイ「時の流れの頂で」『リアホナ』2000年1月号, 87-89

ゴードン・B・ヒンクレイ「わたしたちが生きている時代」『リアホナ』2002年1月号, 83-86

ラッセル・M・ネルソン「わたしたちの主キリストなるイエス」『リアホナ』2000年4月号, 4-19

第30課——奉仕

L・トム・ベリー「仕えることを学ぶ」『リアホナ』2002年5月号, 10-19

デビッド・B・ヘイト「感謝と奉仕」『リアホナ』2001年7月号, 85-88

ロジャー・テリー「これらの最も小さい者」『リアホナ』2000年12月号, 18-24

黄 錫華「できるかぎり奉仕する」『リアホナ』2001年8月号, 44-45

第31課——グループ活動——賢明なデートの基本

ゴードン・B・ヒンクレイ「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30-41

ララ・バンガーター「わたしの夢見る人」『リアホナ』2002年2月号, 46-47

第32課——清い生活を送るための自己訓練

ジェームズ・E・ファウスト「内なる敵」『リアホナ』2001年1月号, 54-57

ボイド・K・パッカー「霊の『わに』」『リアホナ』2002年10月号, 8-11



ジェフリー・R・ホランド「個人の清さ」『リアホナ』2000年10月号、40-43

第33課——メディアの悪影響を避ける

トーマス・S・モンソン「魔の運び屋——ポルノグラフィー」『リアホナ』2001年11月号、2-6

デビッド・E・ソレンセン「毒蛇と戯れてはならない」『リアホナ』2001年7月号、48-50

「前方に危険あり! ポルノグラフィーの落とし穴を避ける」『リアホナ』2002年10月号、12-17

第34課——清い思い

「人格を形作るもの——デビッド・O・マッケイ大管長による『靈感に満ちた教え』」『リアホナ』2001年9月号、40-41

リチャード・G・スコット「知識と強さを得て、賢明に用いる」『リアホナ』2002年8月号、12-19

「世に勝つ」『リアホナ』2000年9月号、26-27

第35課——圧力に耐えて正しい生活を送る

ニール・A・マックスウェル「人気と原則」『聖徒の道』1996年8月号、14-19

L・ライオネル・ケンドリック「苦闘の中から生まれる強さ」『リアホナ』2002年3月号、28-35

リチャード・C・エッジリー「サタンのスナイプ袋」『リアホナ』2001年1月号、52-53

シャロン・G・ラーセン「聖なる場所に立つ」『リアホナ』2002年7月号、103-105

第36課——徳高い生活における真理の重要性

ゴードン・B・ヒンクレー「真理の柱」『リアホナ』2002年5月号、2-8

トーマス・S・モンソン「模範になきなさい」『リアホナ』2002年1月号、115-118

ジェームズ・E・ファウスト「豊かな命を求めろ」『リアホナ』2000年11月号、2-6

第37課——大切な体の管理

ボイド・K・バックー「あなたがた



は神の宮である」『リアホナ』2001年1月号、85-88

ニール・A・マックスウェル「賢明に秩序正しく」『リアホナ』2001年12月号、18-23

M・ラッセル・バラード「『彼の言葉を受け入れなければならない』」『リアホナ』2001年7月号、79-82

第38課——栄養と知恵の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー「実生活の中のゴリアテに打ち勝つ」『リアホナ』2002年、2月号、2-6

ジュニ・ウィルダソン「溶け込めなかったわたし」『リアホナ』2001年11月号、31

ブラッド・ウィルコックス「危険な質問」『リアホナ』2000年5月号、32-35

第39課——薬物の乱用

ゴードン・B・ヒンクレー「祝福された時代」『聖徒の道』1995年9月号、2-7

ダリン・H・オークス「罪と苦しみ」『聖徒の道』1994年4月号、26-32

ジェニファー・パリー「協調する」『リアホナ』2000年3月号、11-12

コリーン・ホイットリー「『だれも傷つけてはいないよ』」『リアホナ』2000年3月号、40-42

(訳注——「第40課——家庭での健康管理」のための補足資料はありません。)

第41課——成し遂げる能力

ジョセフ・B・ワースリン「人生という旅の中で学んだ教訓」『リアホナ』2001年5月号、34-43

ジョン・B・デイクソン「試練のときに」『リアホナ』2002年5月号、28-31

メアリー・エレン・スムート「確固として、揺るぎなく」『リアホナ』2002年1月号、106-108

第42課——勇気

ゴードン・B・ヒンクレー「確信をもって生活する」『リアホナ』2001年9月号、2-7

ジェームズ・E・ファウスト「恐れることはない」『リアホナ』2002年10月号、2-7

ジェフリー・R・ホランド「確信を放棄してはいけない」『リアホナ』2000年6月号、34-42

マリア・バトリシア・ロハス・V「かつての夢に代わる新しい夢」『リアホナ』2001年9月号、45-46

第43課——正しい生活

リチャード・G・スコット「正しかれ」『リアホナ』2001年3月号、10-17

ロバート・D・ヘイルズ「名誉の帰還」『リアホナ』2001年11月号、10-15

スペンサー・J・コンデー「絶えず善を行う性質」『リアホナ』2001年6月号、14-21

グレン・L・ベイス「列車に乗り続ける」『リアホナ』2002年3月号、26-27

第44課——時間の上手な使い方

ニール・A・マックスウェル「賢明に秩序正しく」『リアホナ』2001年12月号、18-23

ダリン・H・オークス「的を絞ることと優先順位」『リアホナ』2001年7月号、99-102

ジョセフ・B・ワースリン「人生という旅の中で学んだ教訓」『リアホナ』2001年5月号、34-43

第45課——勤労の価値

ジェームズ・E・ファウスト「失われた地平線」『リアホナ』1999年8月号、2-6

L・トム・ベリー「自立」『聖徒の道』1992年1月号、71-73

第46課——教育の目的と価値

ゴードン・B・ヒンクレー「『永代教育基金』」『リアホナ』2001年7月号、60-67

「『分かりやすく簡明な真理』若い男性と若い女性、6つのBに従う」『リアホナ』2002年9月号、16-21

アン・イェルビントン・リンチ「翼」『リアホナ』2000年2月号、26-29

第47課——才能を伸ばす

ジェームズ・E・ファウスト「生活にバランスを」『リアホナ』2000年3月号、2-7

キャロル・B・トーマス「霊性という才能を伸ばす」『リアホナ』2001年7月号、106-108

メリッサ・D・トンブソン、ジャナ・ニールセン「才能を見いだし、伸ばす」『リアホナ』1999年5月号、40-41

第48課——短期目標

ゴードン・B・ヒンクレー「人生の責務」『リアホナ』1999年5月号、2-7

ジェームズ・E・ファウスト「『何か大きな事』」『リアホナ』2002年1月号、53-56

ジョセフ・B・ワースリン「一歩ずつ」『リアホナ』2002年1月号、27-30

中央補助組織会長会

日曜学校



第一副会長
ジョン・H・グローバーク



会長
メルリル・J・ベイトマン



第二副会長
バル・R・クリステンセン

若い男性



第一副会長
グレン・L・ベイス



会長
F・メルビン・ハモンド



第二副会長
スペンサー・J・コンディ

扶助協会



第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ



会長
ボニー・D・パーキン



第二副会長
アン・C・ビングラー

若い女性



第一副会長
ジュリー・B・ベック



会長
スーザン・W・タナー



第二副会長
イレイン・S・ダルトン

初等協会



第一副会長
シンドニー・S・レイノルズ



会長
コリーン・K・メンズ



第二副会長
ゲール・M・クレック

チャーチ・ニュース

七十人が新たに召される。 指導者たち、戦争と平和について語る

第173回年次総大会土曜の午後の部会において、大管長会は七十人会長会と中央日曜学校会長会の指導者の異動を発表した。また、一人の中央幹部が七十人第一定員会に召され、5人の新しい中央幹部と37人の地域幹部七十人が召された。

七十人のセシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老は、このほどユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学の学長に任命された。それに伴い、七十人会長会の一員から解任となり、さらに、中央日曜学校会長会の責任も解任となった。

七十人のメルリル・J・ベイトマン長老が七十人会長会の一員ならびに中央日曜学校会長として召された。ジョン・H・グローバーク長老とバル・R・クリステンセン長老は引き続き、それぞれ中央日曜学校会長会の第一副会長と第二副会長を務めることになった。

1995年以来七十人第二定員会の会員だったブルース・D・ポーター長老は、七十人第一定員会の会員として召された。七十人第二定員会の会員として新たに召された中央幹部は以下のとおりである。マービン・B・アーノルド長老、シャリー・D・クリステンセン長老、クレイト・W・マスク・ジュニア長老、ウィリアム・W・パームリー長老、W・ダグラス・シャムウェイ長老。

また、地域幹部七十人とし

て37人が支持を受けた。ブラジルから4人、メキシコから2人、ナイジェリアから2人、合衆国から12人、そのほかアルゼンチン、オーストラリア、ボリビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、香港、インドネシア、イタリア、パナマ、フィリピン、サモア、スペイン、スイス、台湾、トンガ、ベネズエラから各1人である（氏名については本号の「教会役員会の支持」23参照）。

北アメリカ南東地域で地域幹部七十人を務めてきたJ・デブリン・コーニッシュ長老は、伝道部長の召しを果たすため地域幹部七十人を解任された。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長をはじめとする教会指導者は、総大会において、現在世界中の関心を集めている戦争とそれに関する論争について触れ、あらゆる立場の人々に慰めと導きと教えの言葉を語りかけた。

「この問題に関して教会はどのような立場を取っているのか」という質問に対して、ヒンクレー大管長は次の点を教会員に明らかにした。「わたしたちはイスラム教徒の人々やほかのいかなる信仰の人々にも非難の気持ちを抱いていないことを理解しておいていただきたいと思います。わたしたちは、地上のすべての人々は神の家族の一員であると認識し、そう教えています。」

ヒンクレー大管長は教会員に対して、自国の法律を支持し、政府に従うことによって信

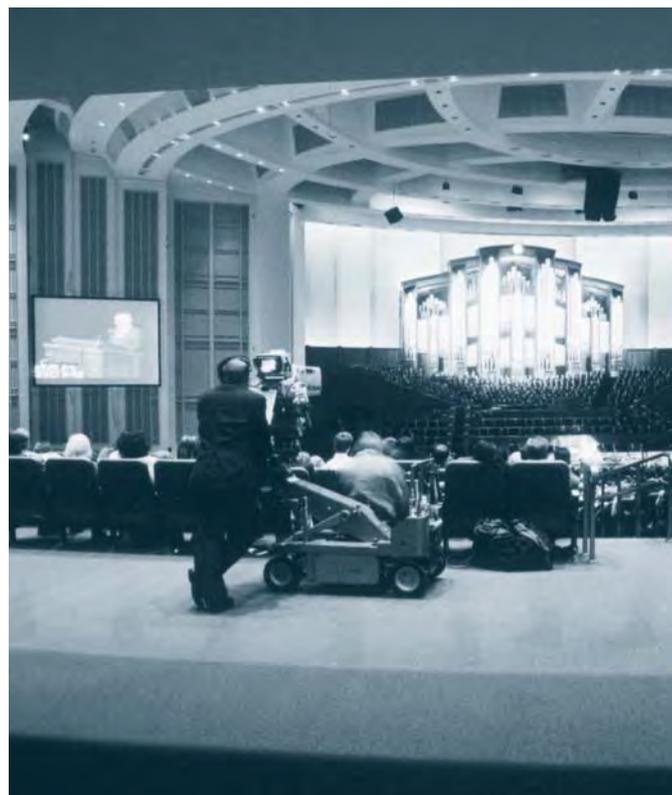
仰箇条第12条を守るよう要請した。大管長はさらに次のような警告を与えた。「決して両方の側の様々な国にいる兄弟姉妹に関して、非合法なまたは不適切なことを言ったり行ったりすることのないようにしましょう。」

最後に、戦争に巻き込まれている人々のために祈るよう、また救い主を仰ぎ見るよう聖徒に勧告して次のように語った。「最終的には、この教会の会員であるわたしたちは平和の民です。平和の君である贖い主、主イエス・キリストに従う者です。」

土曜の午前の説教において、ヒンクレー大管長は教会が引き続き発展していることを報告した。それによると、教会は毎年約400の礼拝堂を新し

く建設しており、「地の至る所に神殿を建て」続けている。大管長はさらに、永代教育基金から支援を受けている青年男女はこれまで約8,000人に上ること、その訓練と教育によって彼らの収入は平均して4.5倍に増えていることを報告した。

教会は総大会の直前に、SARS（重症急性呼吸器症候群）ウイルスに関してさらに評価が定まるまで香港に宣教師を派遣しないことを発表した。現在香港で働いている宣教師の安全と健康は最優先事項となっており、入念な調査がなされている。香港のアジア地域会長会と地域医療アドバイザーは毎日会議を開いて新たな情報を確認し、宣教師に適切な予防措置を講じるよう伝道部長に適宜指示を与えている。



七十人 マービン・B・アーノルド長老



もし人に製品ラベルがはられているとしたら、新たに七十人第二定員会に加わった54歳のマービン・ベニオン・アーノルド長老には「ユタ州グレンジャー製の手作り」と書かれたラベルがはられていることでしょう。

1948年7月19日にソルトレーク・シティーで生まれたアーノルド長老は、ソルトレーク盆地の西側に位置する農村地区で育ちました。「鶏を1,000羽飼っていました。」長老はその当時に振り返ります。「それに牛が1頭いて、わたしたち子供は乳搾りをしなければなりません。てんさいも山ほど掘りました。」アーノルド長老の両親ジョン・エベレット・ソルセン・アーノルドとジャスミン・ベニオン・アーノルド夫妻は、5人の息子と2人の娘を育て上げ、勤労の貴さ、授かっている恵みに対する感謝、そして家族と福音への愛を教えました。「わたしは教会の教義が大好きになりました」とアーノルド長老は語っています。「そしてモルモン書が大好きです。」

どのようにして証^{あかし}を得たかとい

う質問に、アーノルド長老は次のように答えます。「証は少しずつ強くなっていきました。人生において人から受ける影響というのは、ごく幼少のころから始まるものです。人々の助けによって証は自分の中でしっかりと根付いていくのです。」アーノルド長老は、かかわりのあった教師と神権指導者の名前をほとんど皆、挙げることができます。また、どのような影響を受けたか説明することもできます。

アーノルド長老は、メキシコ北部で専任宣教師として働きました。その後、プリガム・ヤング大学に通い、ビジネスで学士号を、行政学で修士号を取得しました。1971年には、アイダホ州アイダホフォールズ神殿でデボナ・クレスと結婚しました。アーノルド長老は姉妹のことを「福音に関する非常に強い証を持ったすばらしい女性」という言葉で表現しています。アーノルド夫妻には、6人の子供と4人の孫がいます。夫妻の言葉を借りれば、家族は「人生の喜び」です。

アーノルド長老は土地開発、後には銀行経営に従事しました。また、1985年から1988年まで、コスタリカ、パナマ、およびサンブラス諸島で伝道部長として働きました。そして最近まで、伝道管理部の研修および現地指導ディレクターを務めていました。

アーノルド長老は新たな召しに組み込むに当たり、人生に何よりも大きな祝福を与えてくださった御方への愛を表しました。「救い主は生きておられます！ 救い主を心から愛しています。」□

七十人

シャーリー・D・クリステンセン長老



1980年5月18日の朝のことを、シャーリー・デーデン・クリステンセン長老はひととき鮮明に記憶しています。それは美しく晴れ渡った春の日でした。しかし正午までにはワシントン州ロイヤルシティー上空は一面真暗になり、かつて青々としていた野原や果樹園は灰に覆われてしまいました。ロイヤルシティーから西へ240キロの位置にあるセントヘレンズ山が噴火したのです。

それから数日間、クリステンセン長老はある恐ろしい光景を目の当たりにしました。りんご園にあるりんごの木から、たくさんの大切な実が灰の重みで落下していったのです。

クリステンセン長老は果樹園の経営上、壊滅的な打撃を受けることになるだろうと思いました。

しかし、残ったりんごは上質のものばかりでした。実の減少が、かえって収穫には好都合だったのです。「主は確かに作物を守ってくださいました。」クリステンセン長老はこう語っています。「結果的に、その年はそれま

でにない指折りの豊作でした。」クリステンセン長老は、そのような祝福があったのは、家族で忠実に仕分の一を納め、主の戒めに従いたいという望みを持っていたからであると語ります。またこの経験から、逆境が時折思いも寄らない方法で祝福に転じるといことも学びました。

七十人第二定員会に新たに加わった64歳のクリステンセン長老は、1939年1月8日、アイダホ州プレストンでリグランド・クリステンセン、ブランシュ・ネーフ・クリステンセン夫妻の間に生まれました。アイダホ州とワシントン州で育ち、ブリガム・ヤング大学在学中にジェニエル・ジョンソンと出会いました。二人は1962年6月23日にユタ州マンタイ神殿で結婚し、6人の子供が健在です。

クリステンセン長老は1959年から1961年までウルグアイで伝道し、そこで預言者ジョセフ・スミスに対する強い証はくみましました。長老は次のように語っています。「伝道に出る前も、もちろん最初の示現について話すことはできました。しかし、祈りの気持ちで人々にこの出来事について教えるときに、預言者ジョセフと回復された福音に対する証が確固としたものとなりました。自分の教えていることは真実だと分かったのです。」

1999年から2002年まで、クリステンセン長老はアルゼンチン・レシステンシア伝道部の部長として働きました。また、神殿儀式執行者、支部長、監督、およびステーキ会長会の一員としても働きました。□

七十人

クレート・W・マスク・ジュニア長老



偶然で起きることは何もないと、クレート・W・マスク・ジュニア長老は知っています。

テキサス州エルパソで子供時代を送っていたマスク長老は、教会員ではなかった父親のクレート・ホイラー・マスク・シニアが第二次世界大戦に出征するのを見送りましたが、それはつらい経験でした。

そのとき母親のマーバ・ゴンサレス・マスクから、心を込めて祈るように教えられました。マスク長老はこのように述べています。「わたしたち家族は父が教会に入るよう、そして無事に生還するように祈りました。少年だったわたしは母の傍らで祈りながら、神がそこにいらっしゃるという事実をまさに知ったのです。」

マスク長老は母方の祖父母とともに多くの時間を過ごしました。マスク長老は思い出を次のように語っています。「祖母はひざに乗っているわたしにモルモン書の物語をよく聞かせてくれました。祖父はメキシコへ伝道に行った話をよくしてくれました。それがわたしの人生を方向づ

けたのです。」

マスク長老の父親は教会に入り、無事に生還しました。そのとき以来、マスク長老の証は確かなものとなりました。

マスク長老はその後中央アメリカで伝道しました。帰還する直前に、何人かの宣教師に関する報告書を書くように割り当てられました。マスク長老はこのように述べています。「ある姉妹はあらゆる意味で大変すばらしく、彼女のような人こそわたしがいつか結婚したい相手であると気づいたので。」

マスク長老は兵役後、ブリガム・ヤング大学に籍を置き、そこであのかの姉妹宣教師、ポーラ・キャロル・ガンズ姉妹と再会しました。二人は1965年、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿で結婚し、6人の子供を育てました。

マスク長老は英語とスペイン語で学士号を修得し、教会教育システムに30年間勤務しました。これまで伝道部長、監督、副監督、ステーキ日曜学校会長、高等評議員、支部長を務めてきました。

現在60歳のマスク長老は1942年8月20日生まれです。この度受けた七十人第二定員会会員の召しについてマスク長老は、これまで経験してきた必然の出来事と同じように、自分の人生を変えるものになるであろうと認識しています。マスク姉妹はこのように語っています。「これまで経験してきた出来事はすべて、この召しを受けるために夫を備えてきました。」□

七十人

ウィリアム・W・パームリー長老



ウィリアム・W・パームリー長老のこの数か月の生活は、長老のこの数十年の人生を集約しています。心臓外科医でもあり、またカリフォルニア州立大学サンフランシスコ校医学部教授でもあった長老と、妻のシャナ・ニールセン・パームリー姉妹は、退職して二人で伝道に出ることに決め、その準備をしていました。パームリー長老が七十人第二定員会に召されたのは、そのようなときだったのです。このとき、パームリー長老が生涯かけて築いてきた証の真の力が明らかに became 明らかになりました。

パームリー姉妹は、パームリー長老とつきあいのある人々についてこのように語りました。「皆、夫が誠実で、家族を愛していることを知っています。夫が神様を愛していることは、一目瞭然なんです。」

人があまり引退しない職業を引退した67歳のパームリー長老は、医学を離れる理由を人に話す機会が非常に多くありました。長老は最近学会

で出会った男性について話してくれました。パームリー長老は出席者に医学界を離れる理由を語りました。翌日その男性に言われました。「妻もわたしも、あなたが言ったことを考えて眠れませんでした。もっとその伝道について教えてください。」パームリー長老が詳しく説明すると、その男性はただ一言こう言いました。「わたしたちも一緒に行っていいですか。」

七十人に召されたパームリー長老は、喜んで奉仕したいと望んでいます。外科医、夫、父親、祖父、そして教会員として奉仕の人生を送ってきた人にとって、このような感情を抱くのはごく普通のことです。

パームリー長老はこのように述べています。「ベニヤミン王が語ったように、これが地上にいる目的です。わたしたちが互いのために務めるのは、神のために務めることなのです。」

パームリー長老夫妻は1961年ソルトレーク神殿で結婚しました。二人は4人の子供と8人の孫に恵まれています。パームリー長老は1936年1月22日、トーマス・ジェンソン・パームリーとラバーン・ワッツ・パームリー夫妻の息子として、ソルトレーク・シティで生まれました。北西部諸州伝道部で伝道し、これまで監督、ステーキ会長、地区代表、地域幹部七十人として仕えてきました。□

七十人

W・ダグラス・シャムウェイ長老



ウィルフォード・ダグラス・シャムウェイ長老に、あなたにとって家族とは何ですかと尋ねると、即座に「忠誠心」という答えが返ってきます。家業にいそむるときも、娘が祖母を最期まで看病したときも、長老がボリビアで伝道部の部長を務められるよう8人の子供が助け合ったときも、シャムウェイ長老の家庭には、常に家族と福音への忠誠心がありました。七十人第二定員会の召しを受けたときにも、家族は直ちに、これまでと変わらず協力する気持ちを示しました。

「家族の支えがなければ、妻とわたしは決してこの召しを受けることができなかつたでしょう」とシャムウェイ長老は言います。

現在62歳のシャムウェイ長老は、1940年5月8日、ウィルフォード・ジェニングス・シャムウェイ、メーベル・ホワイティング・シャムウェイ夫妻の間に生まれました。そして、生まれ育ったアリゾナ州セントジョーンズで、デキシー・アン・ジャービス姉妹と出会いました。互いの両親が親しい友人同士だったので、二人は高校

時代に気軽にデートをしました。シャムウェイ長老がウルグアイでの伝道を終えて帰って来ると、デキシー姉妹の両親は、家族ぐるみでつきあいのあるシャムウェイ長老とデートするよう娘に勧めました。姉妹は両親の助言に従い、やがて二人は1963年にアリゾナ州メサ神殿で結婚しました。現在、8人の子供と20人の孫がいます。

一家は最近アリゾナ州イガーから、ショーローの近くに引っ越しました。ショーローでシャムウェイ家族は、ホテル業と洗車業を営んでいます。昨年の夏、恐ろしい山火事が地域を襲いました。シャムウェイ長老によれば、テレビのアナウンサーが「翌朝には山火事がショーローに広がるだろう」との予想を、3夜続けて伝えたそうです。しかし、山火事がショーローの町に燃え広がることはありませんでした。アナウンサーは最後にこう言いました。「これまで見たことのない大きな力が働いたようです。」アナウンサーには、その力が何なのか説明できませんでした。

「山火事が燃え広がっていたら、今こうしてここに座していることもなかったでしょうね。」シャムウェイ長老はそう言います。「この辺りは無残な焼け跡になっていたでしょう。」

こうして、シャムウェイ長老の家族と家業は救われました。シャムウェイ長老は新しい奉仕の機会に感謝し、こう言っています。「イエス・キリストの福音を宣べ伝えることは、特権だと感じています。」□



「1858年、南への大移動」 グレン・S・ホプキンソン画

合衆国政府がジョンストン軍をソルトレーク・シティに派兵したとき、プリガム・ヤング大酋長は3万人の聖徒をユタ盆地南部に移動させた。

1858年7月1日までには、政府と教会の危機的状況は回避され、聖徒たちは自分たちの家に戻り始めた。



「この偉大な大会に参加したすべての人が善なるものに感化され、一人一人がこの2日間の経験によってより善い人となれたことでしょう。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、総大会最後の部会でこのように語った。「皆さん一人一人に切にお願いしたいことがあります。それは、もっと主に近く生活し、もっと頻繁に、いっそうの信仰を込めて、主と交わろうと努めることです。」

第173回年次総大会報告
2003年4月5-6日

